# 永井豪 Go Nagai

# 世紀末悪魔事典



原作/永井豪&ダイナミックプロ　構成/草野真一

永井豪 世紀末 悪魔事典

原作／永井豪&ダイナミックプロ
構成／草野真一

講談社

9784063300710
1920979014008
ISBN4-06-330071-4
C0979 ¥1400E (0)
講談社 定価：本体1400円(税別)



MAOH DANTE
DEVILMAN
SYUTENDOJI
SUSANO OH
DEVILMAN LADY
VIOLENCE JACK

# 永井豪
# 世紀末 悪魔事典

原作/永井豪&ダイナミックプロ　構成/草野真一

# 永井豪インタビュー

# 『レディー』では、神との戦いを描くことになると思います

## 『魔王ダンテ』

——永井先生が悪魔をお描きになったのは、『魔王ダンテ』が最初ですが、「主人公が悪魔」という設定はどのようにお考えになられたのですか。

**永井**　悪魔を題材にしたものを描こう、という考えはあまりなかったんです。ぼくはゴジラが好きだったんで、ゴジラみたいな怪物が大暴れする話を描きたかった。ゴジラもそうですが、それまでマンガにでてきた怪物は、ぜんぶ人間の側から見た怪物として描かれていました。逆に怪物の感情になって、怪物から見た人間を描いたら面白いだろうな、とその怪物を主人公にして、悪魔に仕立ててみたんです。

　そのあたりで悪魔について調べたりしたんですが、悪魔って、知れば知るほど、かわいそうな存在なんですよ。敗残者ですね。「権力に虐げられた者達だったのかもしれないな」という気がしてきて、そういう大手をふってる権力に対する反逆みたいな色合いがでたところで終わってしまいましたけれども……。

——子供の頃に読まれたダンテの『神曲』から発想されたということですが。

**永井**　そうですね。でも、『神曲』にショックを受けたといっても、ダンテの思想から、というよりは、むしろギュスターヴ・ドレの挿絵からの、ビジュアルなショックなんです。大人になってから読み返してみると、ダンテという人も結構エゴの強い人じゃないかなあという気がしますね。かなり偏った宗教観を持ってますし。

——『ハレンチ学園』騒動の影響[2]については？

**永井**　当時は本当に、「なんで？」っていうぐらいたたかれたんです。作品評はともかくとして、しまいには人格攻撃とか家庭環境攻撃になってくる。でも、ぼくは名前が悪口だろうがなんだろうがどんどん書け、みたいに思っていました。そういう意味では、いくら書かれても落ち込まなかったけど、ストレスはかなりたまっていたんだと思います。だからストーリーマンガを描けるようになって、そこでドッと破壊願望がでてきたんです。担当者がびっくりしてましたよ、「豪さんは人間を許せなくなってるんじゃないですか」って。そこですごく反省してね、「そうか、人間を許してもいいんだ」と思って、すごく気が楽になったことがあるんです。『デビルマン』の頃には、自分の毒も、割と整理されているんだけど、『ダンテ』ではモロでてきましたね。

——掲載誌の休刊で、『魔王ダンテ』は未完に終わりましたが、ストーリーはどのへんまでできていたんでしょうか。

**永井**　ぼくの中では、ある程度の構想はできていたんです。主人公の一家は神の一族で、妹は神の能力をもっていること。それから、ゼノンの「アダムとイブ[3]に気をつけろ」というのは、アダムとイブというのは神に造られたという伝説ですから、「神」が造った人造人間かロボットみたいなものを考えていたんです。最終的には、主人公の妹が「神」＝「人間の魂」を集めてしまう能力をもっていて、なにかのきっかけでそれが目覚めてしまう、というのを考えていたんです。巨大な「神」が出現してダンテと戦う、それが最終戦争ですね。

　でも、あのころは研究不足のまま突っ走っちゃったから、もっとちゃんと描きなおしたいな、と思っているんですけど。矛盾点もいっぱいあるし……。なにしろあの作品は、伏線ばっかり

●1　「〈悪魔に味方したくなるのは〉昔みた『天地創造』という映画に出てくる神様が、権力者とか支配者のようなひどい神様だったことが影響してるのかもしれません」（『永井豪のヴィンテージ漫画館』）

●2　「ダンテという怪物が、人間を全滅させようとするのは、ぼくが（『ハレンチ学園』事件によって）人間社会に対して不信感を持っていたからかもしれない」（「悪魔のミカタ、ダンテ」中公文庫『魔王ダンテ』2巻あとがき）

●3　魔獣ゼノンは「アダムとイヴに気をつけろ」と言い残して死ぬ。



で終わっちゃったから（笑）。

## 『デビルマン』

――『デビルマン』は、アニメーションの企画が先行していたんですよね？

**永井**　そうです。『魔王ダンテ』を読んでくれていた東映動画のプロデューサーから、主人公が悪魔という設定は面白いから、そのまま生かしてテレビ向けにヒーロー的なキャラクターを作ってくれないか、というオファーがきたんです。ちょうど、『ダンテ』が終わってすぐぐらいで、こっちも「もっと描きたいな」と思っていたところだったんで、「よく来てくれました！」って感じで（笑）。さっそく企画書とキャラクターのスケッチを提出したんですが、「主人公がいないじゃないか、敵の親分ばっかりだ」といわれてしまった。まあ、こっちも「こんなのテレビになるはずないんじゃないかな」とは思っていたんですけどね（笑）。それで、なんとかアメリカンヒーローのようなものを作れないかといわれて、作ったのがデビルマンなんです。

――アニメのデビルマンはマンガとずいぶんデザインが違いますけど、アニメのデザイン[4]も先生が？

**永井**　そうですね。ただ、やっぱり「セルだと、こうでないと動かせません」とかいわれちゃうと、そういうもんか、と納得しちゃって、どんどん自分のイメージとは違っていっちゃうんです。パンツをはかされちゃったりとか（笑）。

　ひととおりテレビシリーズの設定が決まって、今度は、原作マンガがあったほうがいい、ということではじまったのが、当時「少年マガジン」に連載された『デビルマン』です。

――不動明と飛鳥了の対立というのは、はじめから考えていたんですか？

**永井**　飛鳥了は、不動明を神体験に導く[5]ための案内役のつもりだったんです。だから、明がデビルマンになったら、死んでもらうつもりでいました。ところが、彼は死ななかったし、描いていくうちに彼がどんどん重要な影を落としていっちゃう。こいつはサタンじゃないか、と思いはじめたのは、ようやく3巻目がでたころです。まさか、あんな大破壊をする男だとは、思

●4
「デビルマンの顔は悪魔的なイメージのある動物、コウモリを人の顔にはりつけてデザインしたものです」（『永井豪のヴィンテージ漫画館』）

●5
左のシーンで飛鳥了は死ぬはずだった。生き残った理由を作者はこう解説する。「翌週になったら気分が変わったんです。明が悪魔になったあとの事後談があった方がいいし、了が死んじゃうと悪魔になった明が話す相手もいなくなっちゃう」（『永井豪のヴィンテージ漫画館』）






永井豪インタビュー

っていませんでした。

――サタンが両性具有というのは？　デビルマンとサタンの間には、友情以上のものが感じられますが。

**永井**　そうですね。読者からも、これは結局、恋愛ものじゃないんですかって質問がきたことがある。だから、そのとおりですって答えた（笑）。それで人類が滅亡しちゃうんだから、ずいぶん迷惑な恋愛ですよね（笑）。美樹ちゃんが死ぬときには、さすがに「ああ弱ったな、死んじゃうよ」と思ったんですけれど、結局、彼女はデビルマンとサタンとの愛の犠牲者だったんじゃないかと思います。

## 『手天童子』

**永井**　『手天童子』はねえ……プライベートなところで、精神的にとても落ち込むことがあった時期の作品なんです。その……恋愛関係とかで（笑）。いろいろ、そういうゴタゴタが影響している作品だと思います。気持ちがそういう状態だから、最初はSFファンタジーでおおらかな活劇物にしようと思ったんですが、鬼に引っ張られたというのもあるし、そういった日常のことも影響したんじゃないかと思いますけど、内へ内へストーリーが入っていっちゃったんです。

　で、自分でもどうしようもなくって、その辺はしようがないなと思いつつやっていったんですけど、そのうち、どんどんトランス状態[6]になっていっちゃって。それと、過去に自分は鬼となんか関わり[7]があるんじゃないかな、と思わざるをえない事態が起きてきたんです。夢でうなされちゃって。なにしろ毎晩夢に鬼が出てきて脅かしますから。そのたびごとに、朝消耗しきってふらふら起きながら、「今の鬼描くぞ！」って（笑）。もう取り殺されるかなと思いながらも、鬼に返事しなくちゃという感じで、本当、鬼と格闘しているようなもんでしたね。

　『手天童子』描き出すとね、背中がビッと張りつめるようになるんですよね。神経張りつめるような感じで、痛くなっちゃうんですよ。それで必ず体調崩して、すぐ下痢になっちゃうし、微熱が出たりするし。でも原稿が自分の手を離れると、急に治っちゃうんです。

●6
「キャラクターが強い生命力をもってしまってストーリーをドンドン作者の思わくとちがう方向に引っぱっていってしまうんです」（『永井豪のヴィンテージ漫画館』）
『デビルマン』などは、「ドラッグをやってるに違いない」と思った人もあるそうだ。当然、永井氏は否定しているが、同時に「そう思わせるものがあったかもしれない」と発言されている。

●7
飛驒金山の念興寺に鬼のどくろを取材にいった際、永井豪氏を見舞った怪事は、氏自身多くのエッセイやインタビューで取り上げている。（→P67）

後半どんどん事態がひどくなっていって、鬼の夢も、僕のまわりのアシスタントもみんな見だして。あるアシスタントなんか特にひどくって、歯が痛くなったり、体調もおかしくなっちゃったりしたみたいで、「昨日は角の5本ある鬼の夢を見た」とかいってね。「おい、俺は角5本のは見てないぞ」って(笑)。みんな連載やめましょうというのを、「もうちょっと、もうちょっと」って、だましだまし。

最終回の時、喫茶店でネームやってたら、涙がドーッと出てきてね、止まんなくなって困りました。自分に前世があるとしてですけど、もしかしたら、なにか自分に関わりのあるストーリーだったのかも知れないな、って思いましたね。

——連載終了当時、ファンの間では、永井作品のなかで、奇跡的にきれいにまとまった、ということで話題になったらしいですが。

**永井**　タネ明かしをすれば、あの作品は、終わりのところからはじまっているんです。手天童子とは何者か、なぜそういう存在が生まれてきたのか、というところから。その謎の解明のために、未来で身体の分析をする必要があった。

一見、大きな世界に見えますけど、あれはとても小さな世界なんです。ひとりの人間の心の中の世界で、愛憎が具象化していく。ぼくの作品は、外側へ外側へ向かうものが多いけど、これは内へ内へ入っていく。その意味では、とても特殊な作品ですね。

## 『凄ノ王』

——『凄ノ王』で講談社漫画賞を受賞されていますね。

**永井**　それまでも、『デビルマン』や『手天童子』で最終候補に残っていたんです●8。ただ、ぼくの作品は激しいから、そのへんがネックになって受賞にまで至らなかった。

受賞が決まったときには、取材でロスにいました。ホテルに国際電話が入ったもんですから、締め切りのことかと心配しながら電話にでたら「おめでとう」って(笑)。たぶん、賞をもらったのは連載から1年もたってない頃だったと思いますね。

●8 当時の選者の選評を見ると、「この作品は永井作品のベストではない」といった発言が目立つ。(→P128)





話の発端こそ学園ものですけれども、ぼくは当初から、神話を描いてやるんだ、というつもりでいました。伝説って不思議なもので、最初、すごく悪役に書かれている須佐之男命（スサノオノミコト）が、改心したとたんにヒーローになっていたりする。素材としてとても面白いな、と思ったんです。善悪の両極にふれるキャラクターを作れるんじゃないかと思いました。

――「ストーリーを最大限にスケールアップしたところで、未完のまま終わらせたい、という計画があった」と発言[9]されていますが、それは当初からあったんですか？

**永井**　あったと思います。人間である作者がコントロールできないほどのスケールになってこそ、「神話」が成り立つと思いましたから。

ところが、やはり読者には、そういう作者の勝手な思いこみは通じないんですね（笑）。読者からも、続きはどうなったんだ、という投書がたくさんあったそうです。当時、角川書店の社長だった角川春樹氏にも、『凄ノ王』の続きが読みたい、雑誌も用意するから、といわれて、タイトルも『凄ノ王伝説』と改めて描きはじめたんですが、ストーリーも構成も難解になってしまいました。結局、2巻ぶん描いて連載は終了することになったんです。

――あのレイプシーンは、当時としてはかなりショッキングだったと思いますが、そのリアクションはどうだったんでしょう？

**永井**　編集部に怒りの電話がたくさんきたらしいですね。でも、それによって人がどれだけ傷つくかを描くためのレイプシーンなんだから、途中でゴチャゴチャいわずに、最後まで作品を見てくれ、と思っていました。復讐によって主人公も傷ついていく、ということが、作品を通してのひとつのテーマだったわけですから。

## 『デビルマンレディー』

――作品発案のきっかけはどういったものだったんですか？

**永井**　デビルマンが女だったら、美しく色っぽく描けるかな？　と思って落書きしてたら、それを「モーニング」の編集長さんが見て、これをぜひ描いてくれといわれてはじまったんです。

最近の日本は、凶悪犯罪や猟奇殺人が後を絶たないですよね。社会の歪み（ひずみ）が原因なのか、それとも、人間が変わってきているのか？　そう考えたとき、この作品のテーマは決まりました。

人間が悪魔のような凶悪な獣に変化していく未来が待っていて、全人類が獣になっていくなか、人間であり続けようとする者にどんな戦いが待っているか？　しかも、主人公が女性だとしたら、どんな過酷な生き方や戦いを強いられるのか？　そう考えて作ったのがこの作品です。

最初は『デビルマン』とは関係のない、まったく別のストーリーにするつもりでいたんです。ところが、ファンの方から「明はいつでるんですか」という質問がたくさんくるので「しようがないな」とサービス精神を発揮して、不動明をだしました（笑）。でも、明をだした当初はこれから先どうやったら『デビルマン』につながっていくのか、自分でもよくわからなくて心配していたんですよ（笑）。今はうまくつながったんで、ホッとしてますけど。

――今後はどういうふうに展開していくんでしょう？

**永井**　『デビルマン』の時に描き残したことに挑戦していかざるを得ないのかな、と思っています。つまり、『デビルマン』では「神」というものについて描けなかったんで、それを描いていくことになるでしょう。最終的には、神との戦いにもっていきたいと考えています。

## 『バイオレンスジャック』

**永井**　『デビルマン』が終わって、クタクタだったもんで、今度はもっと楽なもの描こうと思ってたんですけど、ちょっと休んだら、あれよりスゴいの描きたくなってしまって（笑）、もっと長編で、設定の大きなものを作りたい、と思ったんです。白土三平さんや黒澤映画なんかの影響で、「時代劇」がやりたいっていうのがありまして、編集部にそう言ったら、「時代劇はねえ……」なんていわれて。僕に時代劇のイメージがないっていうのもあったんでしょうね。それでやらしてもらえないもんですから、これはしようがないってことで、近未来の地震で荒野になった世界のアクションをやろう、っていうことになりました。

最終的には戦国時代を再現しようと思っていたんですが、再現する前に「週刊少年マガジン」

●9　「凄ノ王　果てしなき旅」（講談社『超完全完結版　凄ノ王』第一巻あとがき）

# CONTENTS





で連載が終わってしまいまして。ちょうど石油ショックにぶつかっちゃって、ページが思いっきり減らされちゃったんです。あの当時22～23枚くらいの予定の連載が、14～15枚くらいに減ってしまった(笑)。やっぱりジャックが出てくるとなれば、見開きでドカーンと、というのがありますからね。こういう絵が欲しいなあとなると、縮められなくて。でもそうすると、何やってるのか読者の方がわかんなくなっちゃう（笑)。

しかも編集長に逆らって、子供の首を斬ったり[10]してましたから(笑)。強引にそんなことやってたら、「マガジン」の連載切られちゃったんですけど（笑)。

――ストーリーは、最終的に『デビルマン』とつながりますね。

**永井**　終了間際に、やっぱりジャックの正体をはっきりさせなきゃ、ということで一生懸命考えたんです。はじめは全然考えてなかったんで(笑)。で、デビルマン[11]にすれば自分でも納得がいくと考えて、後半になってからようやく伏線を張りはじめました。一時期『凄ノ王』にもっていこうかな、という考えもあったんですが、もう一度作品のスタートを思い出すと、やっぱり『デビルマン』で世界を滅ぼしてしまった、その罪の意識みたいなものが『ジャック』を描かせていたんです。荒廃した世界を再生する物語を描こうとしていたんですね。そうすると『デビルマン』との関わりを作品の中でどうしても表現しなければいけないんじゃないかという気がしたんです。

石川賢は最後まで反対していましたね。彼はジャックのキャラクターがすごく好きだったもんですから、デビルマンといっしょにして欲しくなかったんだと思います。それでも強引にやっちゃったんですけど（笑)。

飛鳥了を人犬という無惨な姿で登場させたのも、無意識だったんですが、もう一度考え直してみると、世界を滅ぼした後悔と悲しみから、最低の環境に身をおいたのではないか、という考えに至ったんです。それでも復活したらやっぱり不動明と戦っちゃうんですけど(笑)。彼らはお互い強く惹かれあいながらも、戦ってしまう関係にあるんです。あれは結局、ぼく自身の葛藤の反映なのかもしれませんね。

---

●10
ジャックは、ヤクザ外道会に人質にとられた少女の首を、ヤクザの首と一緒にはねる。詳細はP169。

●11
『"ジャック"というネーミングから、トランプをイメージし、キング、クイーンと出してみて、『そうだ、トランプにはダイヤ、ハート、スペード、クラブと四種類あるのだから、大人のジャックに、女のジャック、子供のジャック、青年ジャックを加えていけば面白い!』と考えた。

さて、トランプにはもう一枚の絵札がある。ジョーカーだ。これはいわば謎のカードだ。別なものに姿を変えられるこのジョーカーを、うまくストーリーに潜ませておければ、面白いことになるのでは。そして、ジョーカーが本当の姿を現したとき、物語が完結に向かうことになれば最高なんだとか、僕は漠然と考えていた』（豪華愛蔵版『バイオレンスジャック』講談社コミックスあとがきより）

# 魔王の章

## 魔王ダンテ




魔王の戦慄の記憶とは、悪魔とは、神とはなにか。四半世紀以上の時を費やし神・悪魔・人間の三概念を思考しつづける永井豪の、出発点が『魔王ダンテ』である。

掲載誌「週刊ぼくらマガジン」の巻頭特集「史上最強のひみつ」も完全再録、史上最強の悪魔の実態にせまる！

# CONTENTS

## Column



## Topic



## Break time



## キャラクターINDEX

# 『魔王ダンテ』作品解説

## 俺を殺せ、と少年は叫んだ

俺を殺せ——そう叫びながら、少年は戦車の砲弾を浴び、十字砲火の雨にさらされた。人間であったはずの自分、平和な毎日をいとなみ、人間としての生を生きていけるはずだった自分は、いつの間にか醜怪な悪魔に姿を変えている。いったい、なにが自分の身に起こったのか？ それはわからない。しかし、自分のからだが悪魔に変わったこと、それはまぎれもない事実なのだ。

醜悪な自分の姿、人類の敵としてのおのれの姿は、この世から消え去るべきものだ。だから少年は、砲火にからだをさらし、ナパーム弾の雨にみずからをゆだねた。しかし、醜怪な魔獣のからだは、軍隊の攻撃をものともしない。あまりに過剰で、あまりに強大な力を、自分はもってしまっている。だから、少年は叫んだのだ。

「きさまらが俺を消せないなら、俺がきさまらを消してやる！」

破壊は、破壊のための破壊だった。ブッ壊したいから壊す。殺したいから殺す。それだけだ。

破壊と殺戮は、陶酔をもたらし、快楽をもたらした。少年は破壊衝動に導かれるまま、戦車を踏みつけ、戦闘機を叩き壊し、ビルを蹴り倒した。——涙を流しながら。

なぜ、涙がでるのだろう？ みにくい悪魔になってしまった自分が悲しいからか？ もちろん、それもあった。だが、それだけではない。からだのふるえが止まらないからだ。体中を煮えくりかえって流れていく血が、おさまろうとはしないからだ。

「きさまらにおれが殺せるか！ わははははっ、おればけものだぞ！ 悪魔だぞ！」

## 『魔王ダンテ』の破壊衝動

『魔王ダンテ』は一九七一年、「少年マガジン」の兄弟雑誌、「週刊ぼくらマガジン」誌上で連載が開始された。雑誌の休刊によって作品は未完に終わったが、この作品がマンガ家・永井豪にもたらしたものは、はかりしれないほど大きかった。

そのひとつは、いうまでもなく『デビルマン』をうみだす直接のきっかけとなったことである。この作品がTVプロデューサーの目に触れ、アニメ化の話が持ち込まれなければ、悪魔のヒーロー・デビルマンは生まれなかったし、啓示に満ちたコミック作品も描かれなかった。だが、この作品がふくむ意味は、それだけではない。

『デビルマン』の不動明は、戦闘の喜びに自分をゆだねながらも、そこに正義をもっている。「人類を守るため」という大義名分をもっている。もちろん『デビルマン』とは、それが次第に瓦解していくドラマでもあるのだが、すくなくとも悪魔と合体した当初は、明はそれをしっかりともっていた。

しかし、宇津木涼はそうではない。彼ははじめから、自分が悪魔になるなどとは、思ってもみなかったのである。ダンテ＝イスカリオテのユダに食われそうになったときでさえ、そこにあるのは危機意識だけで、まさか自分の肉体がとつぜん豹変するとは思っていなかった。

だから、悪魔になった宇津木が行う破壊は、ほとんど無意識のものだ。背後からいきなり殴られるように、とつぜん襲ってきたものだ。理性による計算も準備もないまま、宇津木は破壊衝動に身をゆだねなければならなかった。

『デビルマン』『凄ノ王』『マジンサーガ』……のちの永井作品の主人公たちはみな、宇津木涼と同じように、破壊と殺戮の快楽に身をゆだねる。最新作『デビルマンレディー』では、その快楽が直接、セックスと近似するものとして、描かれている。ただ、これらの作品の主人公たちが宇津木涼と決定的に異なるのは、かならずそこに理性による反省があることだ。破壊してしまったことへの、後悔と悔恨があることだ（『デビルマン』における悔恨は、むしろ飛鳥了のものとして描かれている）。

だが、宇津木涼にはそれがない。彼には、暴走する自分を反省する余裕がない。彼の行った破壊と殺戮は、それだけ無意識の、衝動に突き動かされたものだったのである。そしてそれは、作者にとっても、同じだったのだ。

「『デビルマン』の頃には、自分の毒も、割と整理されているんだけど、『ダンテ』ではモロでてきましたね。」（本書P3）

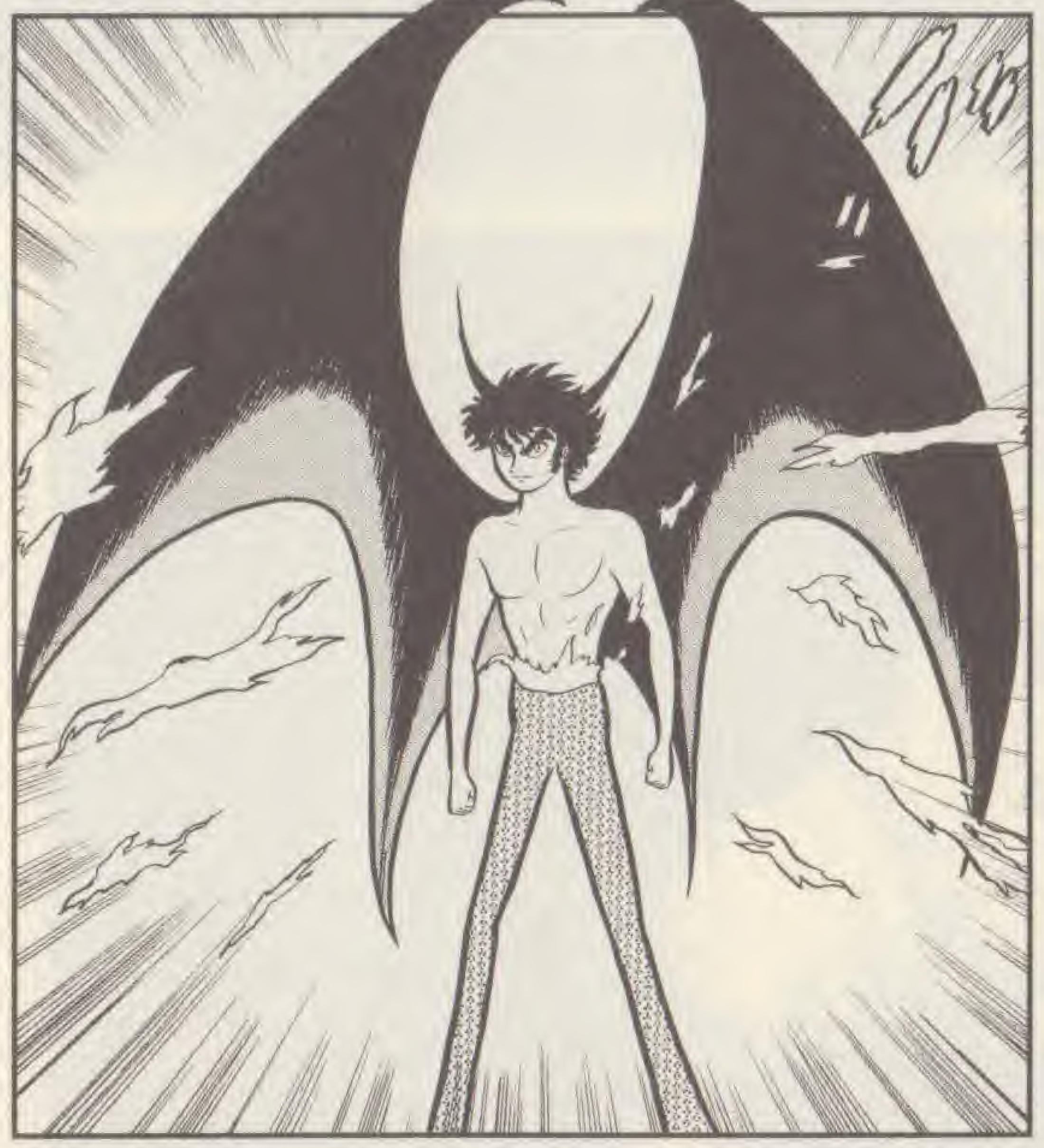
『魔王ダンテ』は中途で終わってしまったせいもあって、『デビルマン』の前身作品としてみられているところが多い。もちろん、それは事実なんだけれど、しかしそれだけでやりすごすのはあまりにもったいない。

壊したい、殺したい、というナマの破壊衝動。それはたしかに、あなたの底に眠っている。そしてそれは、自分を壊したい、というマゾヒスティックな欲求とも、確実にパラレルだ。

宇津木涼は、たしかにあなたの中にいる。『ダンテ』を読む者は、それを意識せずにはいられないはずだ。

## 悪魔の力をもつ少年

『魔王ダンテ』をアニメにしよう、というのがアニメ版『デビルマン』の企画のはじまり。おそらく、TVプロデューサーの目にとまったのは宇津木涼のこの姿ではなかったろうか。のちのデビルマンにきわめて近い姿。





## 魔王ダンテの誕生

神に対する憎悪と戦う意志をもった人間と、肉食恐竜と翼竜。さらにあらゆる兵器を搭載した戦闘機が合体したとき、最強の悪魔・ダンテが誕生した。合体の触媒となったのはエネルギーのかたまり＝神である。

## 悪魔軍団の結成

神＝人間に虐げられてきた地球の先住人類・悪魔が集結しはじめる。それは、合体能力によってほかの生命体の様々な能力をとりいれた、シティー・ソドムの民だった。ゴモラの市民は、悪魔崇拝者(サタニスト)となった。

## 自衛官の記憶




### 神曲の怪物

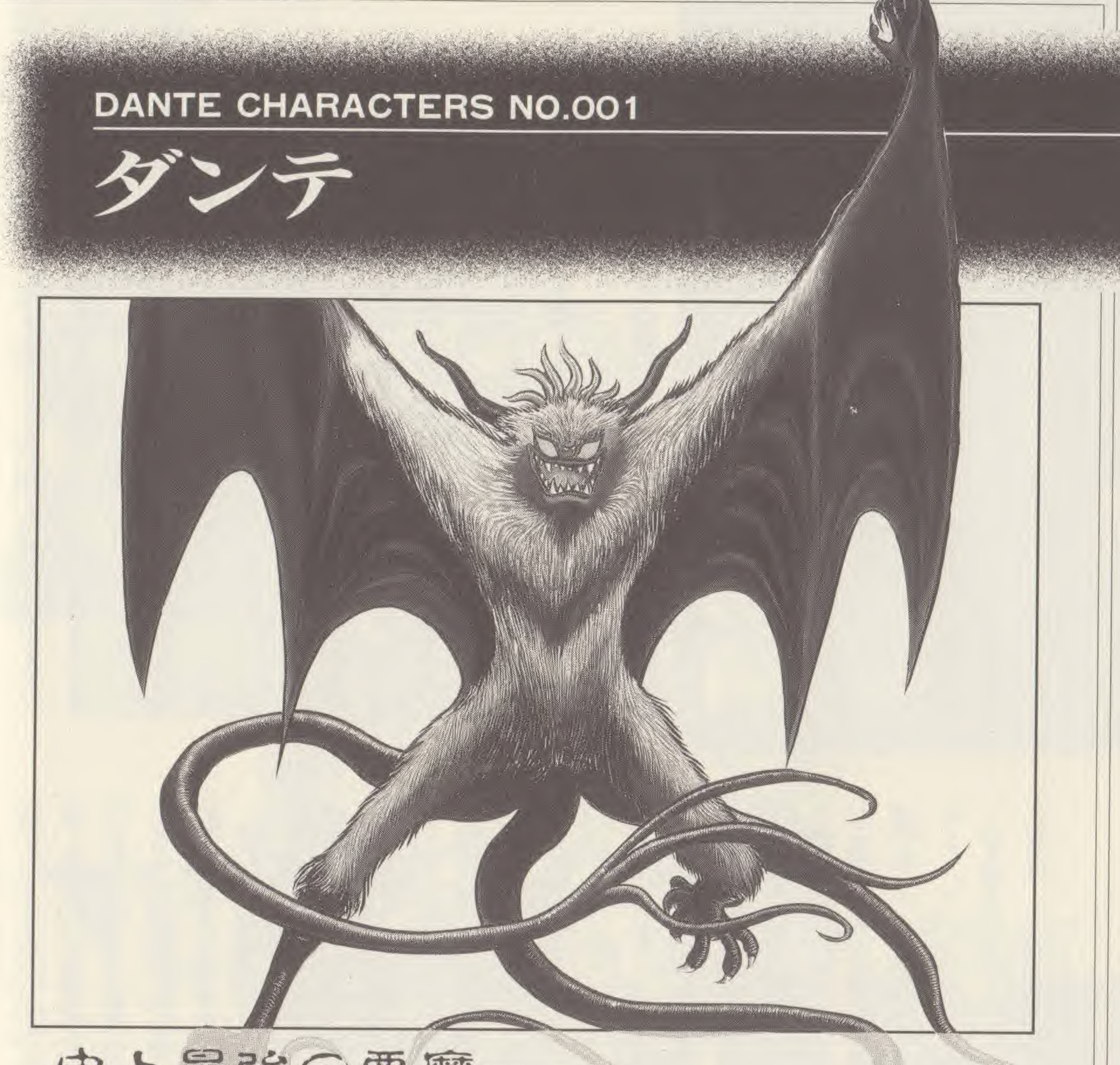
名古屋を襲撃したダンテを見ながら、自衛官はいう。「小さい頃見た物語の挿絵に出ていた怪物に似ている」と。いうまでもなくこれはダンテの『神曲』のことであり、小さい頃それを見たのは作者・永井豪そのひとだった。






DANTE CHARACTERS NO.001

# ダンテ



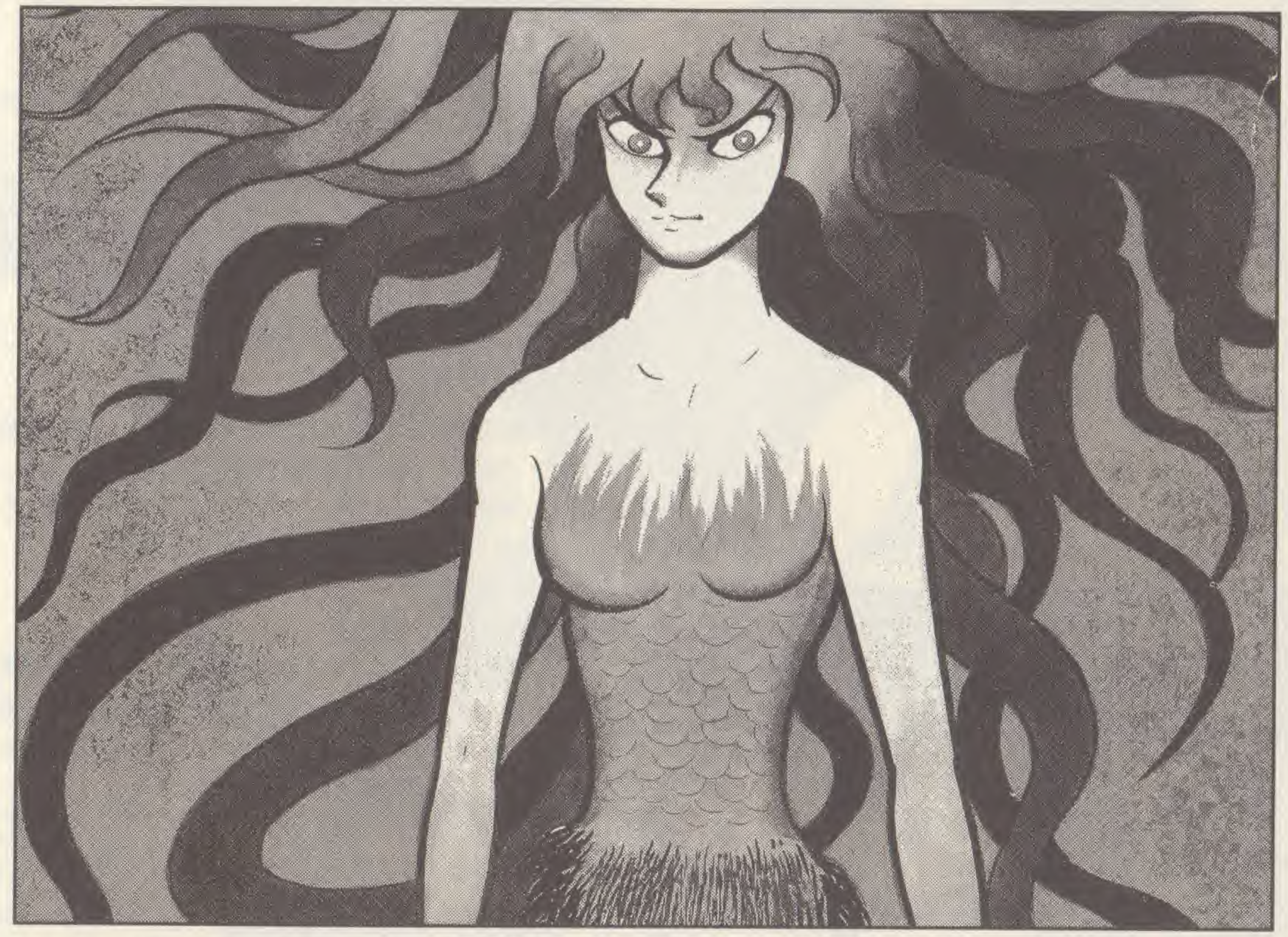
## 史上最強の悪魔

「ぼくらマガジン」に掲載された巻頭特集「史上最強のひみつ」（本書P24）によれば、ダンテは「なんでもとかす強烈な熱線をだす複眼」をもち、「戦車をもひきさく」足の爪をもち、「昆虫のような口は鋼鉄もかみくだいてしまう」とある。「はりがねのような毛におおわれたからだ」はロケット弾も平気で、「先端が三つにわかれた3本のしっぽ」は、大蛇のように人を絞め殺す。宇津木涼の不幸は、そのような「史上最強の悪魔」の意識をのっとってしまったことにあった。宇津木は「俺を殺せ」と叫んだが、彼は死ぬことも許されない。悪魔の肉体を流れる血と生命力は、彼をそう簡単に死なせてはくれなかった。

やがて、神と悪魔と人間の謎を知るにいたり、宇津木は自分の役目を知る。悪魔軍団を結成して、人間どもの手から地球を取り戻すこと。それが魔王としての彼の役目であり、紀元前百万年以来の宿願なのだ。

DANTE CHARACTERS NO.002

# メドッサ



## 真実を見せる者

大柴壮介による悪魔狩り＝悪魔とおぼしき人物へのリンチは、宇津木に人間への懐疑をもたせた。「悪魔がどうなろうと人間のおれには関係ないはずなのに」宇津木の心は痛む。「ゆるしてくれ、人間のおれはたすけるわけにはいかないんだ」そううつぶやく彼は、罪深い人間の一員だった。みんなが悪魔をリンチしているとき、その輪からはずれれば、自分が悪魔の烙印を押されてしまう。宇津木の胸が痛むのは、彼が悪魔だからではなくて、人間として繊細だからである。人間の「正義」の上に、ふんぞりかえっていられないからである。

メドッサはそこに悪魔としてあらわれ、宇津木に真実を開示した。あの残虐な人間たちは人間ではなく、むしろ醜い姿になった悪魔こそ人間であるのだ、と。メドッサは宇津木にとって、知恵の木の実を食べさせる誘惑者＝真実を見せる者だった。





DANTE CHARACTERS NO.003

# ゼノン



## 悪魔を裏切った悪魔

悪魔を裏切り、百の悪魔をしたがえて神と契約をかわした魔獣ゼノン。その動機は、虐げられ、呪われ続けてきた悪魔の地位回復だった。ゼノンは神と戦うよりも、隷属することで悪魔に平和をもたらそうとしたのである。

神のしもべとしてダンテと戦い、敗れたゼノンは、「悪魔軍団をつくってくれ」と頼んで死んでいく。その後も彼は、宇津木涼の夢のなかにあらわれることによって、悪魔軍団の結成を訴え続けた。

『魔王ダンテ』において、夢は重要な意味をもっている。ダンテ=イスカリオテのユダはかなり早い時期から宇津木に悪魔の世界を知らせ、やがて起こることを示唆しつづけた。そしてこのゼノンも、夢で遺言を告げつづける。夢とは、日常世界における異世界への扉であり、現実の裏側にある悪魔たちのメッセージは、夢によってこそ伝えられるのだ。

COLUMN

# 悪魔の事典I

昔からイギリス人は霊的現象が大好きな民族だ。悪魔憑きが出たといってはエクソシストを呼び、上流階級では盛んに降霊会を行い、ポルターガイストにはマスコミが殺到する。

## ●ソドムとゴモラ

どちらも旧約聖書に出てくる有名な背徳の町で、男も女も信仰心を失い、淫蕩な遊びにふけった。特に、同性愛や獣姦などの行為が神の怒りを買って、天から降りそそぐ火で滅びた。

この神の火は強力な光をともなっていたということから、小説ではよく核兵器説を持ち出してくることが多い。二つの町は死海の辺りにあったというが、現在のところ、遺跡のようなものは発見されていない。

## ●サタニスト

俗にいう悪魔崇拝者のことで、実態は明らかでない。合法的な例としては、アメリカのカリフォルニアに「サタンバイブル」という宗教団体がある。

サタニストはしばしば反キリスト者と混同されがちだが、イエスを否定することと悪魔崇拝は別である。具体的な儀式などについては、黒ミサやサバトの項を参照していただきたい。

## ●アモンとニケ

悪魔の軍団の隊長であるアモンは、地獄の侯爵という肩書をもっている。企業でいうなら課長クラスの悪魔だ。その姿は大きな梟（ふくろう）のように不気味で、牙をむく狼のように猛々しい。また、尾の部分は身をくねらす蛇になっている。

別の資料によれば、ソロモン王が魔術によって操ったという72の悪魔の中に、[illegible]とともにアモンの名があり、こちらは魔王に[illegible]する格式をもっていて、「厳格な調停者」の能力を有している。

もっとも、ベールゼブブとかアスタロトといった支配者クラスの大物に比べたら、やはり中堅どころの域を出ていない。

永井豪氏の『デビルマン』は、この悪魔アモンと不動明が合体することで誕生する。ちなみに、『新デビルマン』の中で、アモンの昔の恋人として登場するニケは、ギリシャ神話で勝利を擬人化した女神だ。

元はタイタン族の娘だったが、父親や姉妹に逆らってオリンポスの神々に味方した。以来、ゼウスや戦の女神アテナと行動を共にするようになった。スニーカーで有名なナイキは、このニケの英語読みである。

## ●メドゥーサ

ギリシャ神話に登場するゴーゴン三姉妹の一人で、髪の毛がすべて蛇になっている恐ろしい怪物。ゼウスの隠し子である英雄ペルセウスは、このメドゥーサを退治するために、戦いの女神アテナの力を借りなければならなかった。

何しろメドゥーサはその目を見た者を、たちどころに石に変える能力をもっている。結局、ペルセウスは女神に授かった作戦で、メドゥーサの首を斬り落とすことに成功した。

ちなみに、メドゥーサの血は不死の力をもっているが、自らは二度と生き返ることはなかった。その代わり、冥界を新しい住処（すみか）にして、亡者たちを脅かすようになったという。懲りない女である。

## ●降霊術

古代の魔術によって霊を召喚するオカルティズム（隠秘学）



参考資料／『イギリスの霧の中――心霊体験紀行』中央文庫　三浦清宏　『悪魔学大全』青土社　ロッセル・ホープ・ロビンズ　[illegible]也＝訳　『天使の世界』青土社　マルコム・ゴドウィン　大瀧啓裕＝訳　『悪魔の履歴書』原書房　ピーター・スタンフォード　[illegible]＝訳　『悪魔の系譜』青土社　J・B・ラッセル　大瀧啓裕＝訳　『悪魔の歴史』青土社　ホール・ケーラス　船木裕＝訳　『[illegible]』新紀元社　真野隆也　『魔術への旅』新紀元社　真野隆也　『超常科学謎学事典』小学館　秘教科学研究会　『魔法事典』新紀元社　[illegible]＝監修　『天使』新紀元社　真野隆也



DANTE CHARACTERS NO.004

# 神





### 人間こそ神

ソドムとゴモラの市民の肉体を手に入れることに失敗した神は、類人猿の肉体に入り、進化して人間となった。すなわち、人間の魂とは、分裂した神なのである。現在、人間たちは、自分が神であることを忘れている。





### 侵略者たち

神のソドム攻撃は、残虐をきわめた。しかし神にとって、それは良策ではなかったのだ。ソドムの人間が変身能力をもちいて悪魔となったからである。これを知った神はゴモラ侵略には、豪雨と洪水をもちいた。





### 宇宙に輝く赤い妖火

肉体をもたない精神エネルギーのかたまり。宇宙の闇のなか、毒々しく燃え立つ赤い妖火。それが神である。

神とは、宇宙からの侵略者だった。緑に包まれた都市ソドムとゴモラで平和に暮らす市民を襲う暴力だった。すさまじい観念動力（テレキネシス）が、瞬く間に平和な都市を破壊した。彼らの望むもの――それは肉体である。精神エネルギーだけで肉体をもたない神は、精神の入れ物を欲していたのだ。

と区別して、降霊術を中心にした霊能力の研究をスピリチュアリズム（心霊主義）という。わかりやすくいえば、心霊現象に対して、科学的、哲学的、宗教的なアプローチを試みることだ。

オーソドックスな降霊術の実験は、19世紀後半、イギリスの上流階級で盛んに行われていた。たいていは、数人から10人程度がテーブルを囲んで座り、互いが手をつないで能力を高め、霊が降りてくるのを待つ。

その際、メッセージを受け取るアンテナ役の霊能者（霊媒）が一人はいなければならない。メッセージの受け取り方は、日本のコックリさんのように、文字盤（ウィジャ盤）を動かすタイプから、「お筆先」のような自動書記タイプまであった。

自動書記は本人の意思と無関係に、文章がつづられていく心霊現象で、霊能者がトランス状態で起こることが多い。降霊は部屋を暗く静かにすることが、絶対的な条件である。

だが、暗くすることで、インチキがやりやすくなったのも事実だ。中には、降霊に否定的な組織が送り込んだスパイもいたという。

日本人は霊界というと、すぐにあの世を思い浮かべるが、エーテル界やアストラル界など、もっと高次元の意識体とコンタクトし、人類の未来を予言した降霊（交霊）の記録も多い。

戦前、大本教の出口王仁三郎（1871〜1948）が霊界から届く予言を口述した『霊界物語』は、全81巻で原稿用紙10万枚にもおよぶ大作である。王仁三郎の場合、意識を保った状態で交霊する感応霊媒で、巫子のような入神霊媒よりも難しい。

近年の交霊活動でいえば、ニューエイジ運動の中で盛んになったチャネリングがある。チャネラーは古典タイプの霊媒と違って、自分から宇宙的な意識体に呼びかけて、信頼関係を築くことからはじめる。

そのため、定期的なコンタクトを可能にした。世界でもっとも有名な宇宙的レベルの意識体バシャールは、チャネラーのダリル・アンカ氏をはじめ、数多くの人がコンタクトに成功している。

## ●黒魔術の王

20世紀最大の魔人、アレイスタ・クローリー（1875〜1947）は、わずか12歳で黒魔術に傾倒し、ケンブリッジ大学を卒業したときには、当時のヨーロッパで勢力を誇った「黄金の暁」教団に参加していた。

クローリーは守護天使エイワスの降霊に成功し、一気に魔術的予言書『法の書』を書き上げると、その後は世界中を回って魔術を研究したり、ロンドンに自前の黒魔術結社「A∴A∴」をつくったりした。

降霊術の形を借りた召喚法で数々の悪魔を呼び出したクローリーは自分こそ『ヨハネの黙示録』に出てくる偽のメシアであることを宣言した。

同年代の文豪モームの小説には、クローリーをモデルにした魔術師が出てくるというが、日本でもユリ・ゲラーが登場するまでは、もっとも有名な超能力者の一人だった。



クローリーは黒魔術について、カソリックの組織から追放になった司祭が行うものと語っているが、必ずしも反キリスト的なものばかりではない。古代ユダヤ教の秘儀であるカバラは、あらゆる西洋魔術の基礎をつくったともいえる。

例えば、ローゼンクロイツの組織した「薔薇十字団」、クローリーがはじめに所属した「黄金の暁」教団、中世の石工組合が母体の「フリーメーソン」など、みんな何らかの形でカバラの影響を受けている。

もう一つ、カバラと並んで近代の黒魔術に、なくてはならない要素が錬金術である。古代エジプトで誕生し、カバラやイスラムの考え方を取り込みながら、中世のヨーロッパで全盛期を迎えた錬金術。本来は人工的に黄金をつくりだす科学系の学問だが、実際は魔術も行っていて、ホムンクルスや植物の精などの人造悪魔の製作に功績があった。



## ●ポルターガイスト

ドイツ語で騒々しい幽霊を意味したポルターガイストは、食器や家具が宙を飛んだり、原因不明のラップ音が聞こえたりする心霊現象。なぜか、子供や女性のいる家庭で多発する。

ラップ音とは物理学的に説明不可能な打音で、ポルターガイスト出現の前兆として聞こえることが多く、これによって霊との交信も可能だという。

芥川賞作家で明治大学工学部教授の三浦清宏氏は、『イギリスの霧の中へ——心霊体験紀行』（中公文庫）の中で、ロンドンのポルターガイスト事件について詳しく述べている。

1978年、世界でもっとも権威ある心霊現象の研究機関「SPR」の国際シンポジウムに出席するため、三浦氏はロンドンのケンブリッジ大学に向かった。そして、シンポジウムの2日目の議題に上がったのが、当時のイギリス世論を二分したエンフィールド事件である。

前年8月31日の夜、ロンドンの北に位置するエンフィールド地区の公営住宅で、その歴史的な心霊現象はスタートした。最初は、誰もいない寝室の中から、大きな家具を引きずるような音が聞こえてくるだけだった。

やがて、耳障りのよくないラップ音や家具の空中浮遊が始まり、果ては11歳の少女に悪霊が乗り移って、訳のわからない言葉を吐くまでにエスカレートしていった。SPRの調査班はマスコミと前後し、9月12日には同家を訪問。そして、幸いなことにラップ音や食器が空中を飛ぶ様子をテープに収録している。

さらに、根気よくエンフィールドに通った結果、少女の口を通じて霊との交信に成功した。

このポルターガイスト現象を科学的に解明すべく、その後、10年近い調査が続いたが、未だにすべてが謎のままである。

## ●悪魔憑き

キリスト教が日々の生活にまで色濃く反映していた時代のヨーロッパでは、悪魔が取り憑く[illegible]多くの人がかかった。そのため、町の教会には悪魔を祓うエクソシストがいて、連絡を受けると聖水や十字架を振りかざして戦った。今でもカソリック教会には悪魔祓いの専門家がいる。

ちなみに、中世の人々が悪魔憑きとしたケースの中には、その後の研究で歴とした病気であることが判明したものもあった。

その一つが、ヨーロッパでは古くから舞踏病の名で語られてきたトゥーレット症候群だ。突拍子もない行動をとったり、言ってはいけないことを、無意識のうちに口にするトゥーレット症候群は、神経伝達物質の異常が原因で起こる病気だ。



例えば、脳から腕に向かって、[illegible]に、途中の神経伝達物質がおかしいため、逆に踊ってしまえと伝わっていく。現在は、薬による治療法（神経伝達物質の補充）が確立しているが、つい百年ほど前までは、悪魔の仕業とかたく信じられていた。

映画『エクソシスト』の中で、悪魔に取り憑かれた少女がエクソシストを口汚く罵るシーンがあるが、今ならトゥーレット症候群の診断を受けるのは間違いない。この病気は欧米人に多く、日本人で因子をもつ者は少ないとされてきたが、最近、ごく稀に軽度の患者が見つかるようになった。すべて病気かどうかは別にして、悪魔憑きは迷信が生んだ悲劇である。　（石塚勝美）

Topic

## 完全再録
# 魔王ダンテ
# 史上最強のひみつ




「週刊ぼくらマガジン」は、'71年５月にその幕を閉じる。同誌が、終幕近き５月17日号に咲かせた巻頭カラーの毒の花、それが「史上最強のひみつ」だ。神の勢力と戦う悪魔の奮闘を、ご堪能いただきたい。





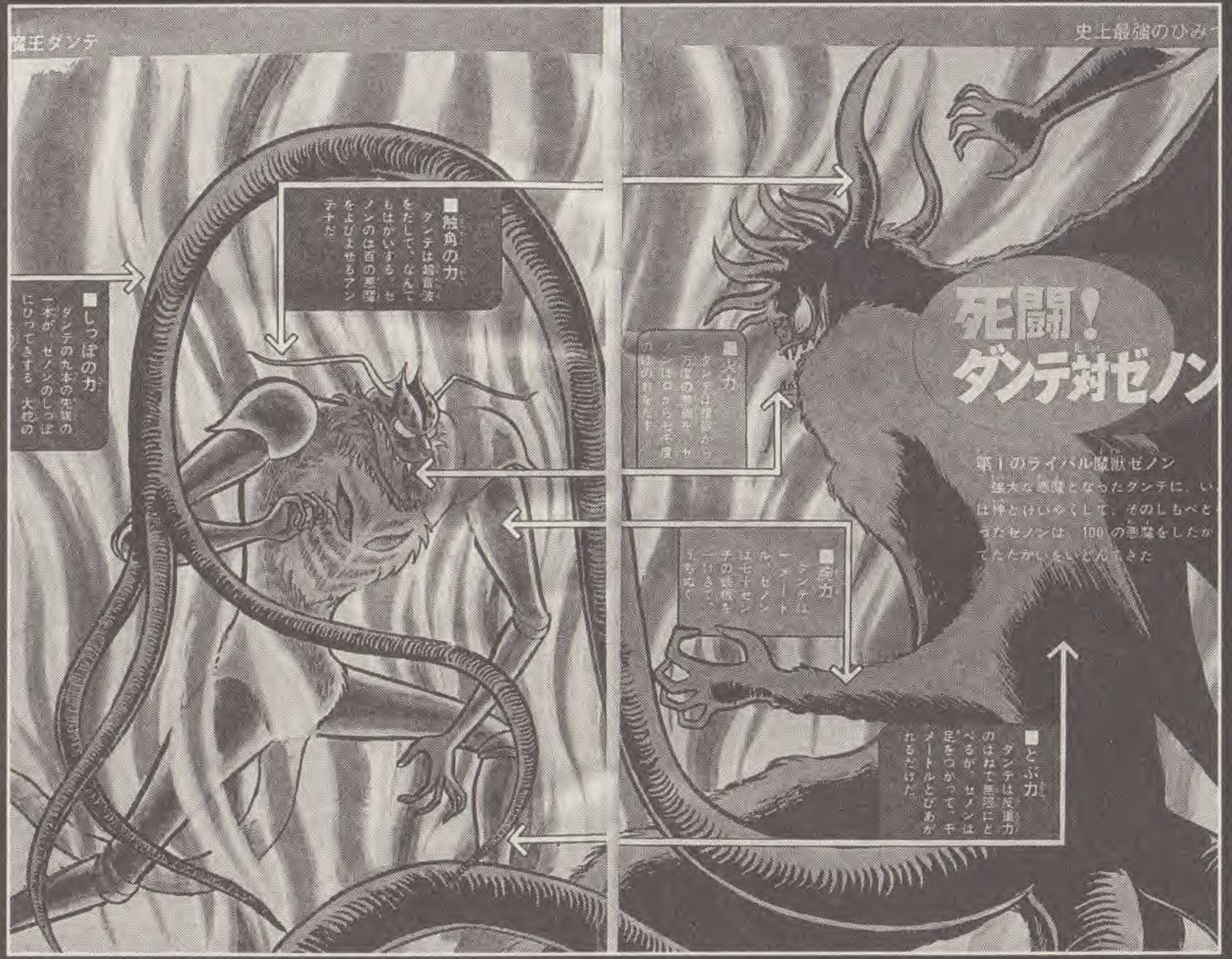








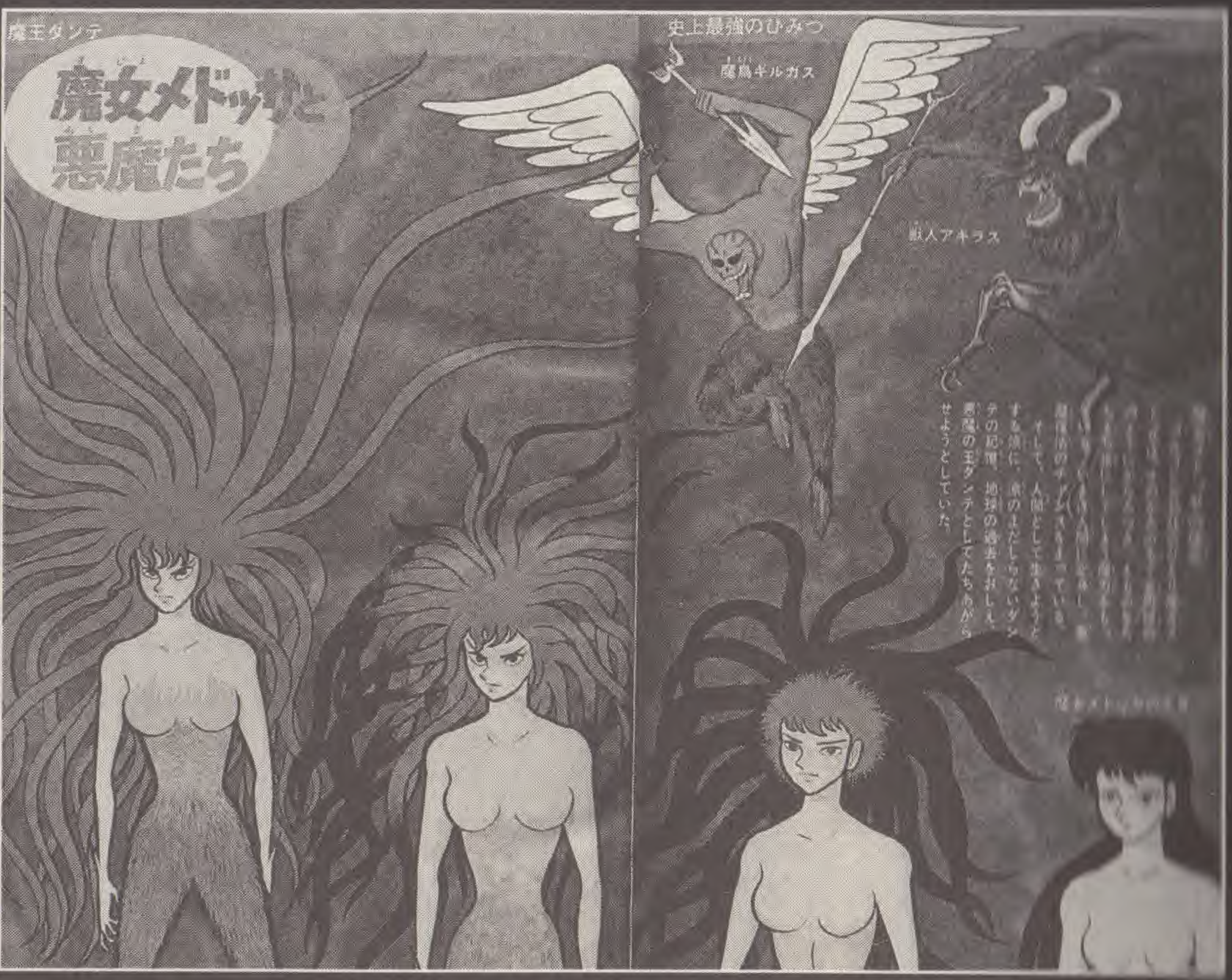
完全再録『魔王ダンテ』史上最強のひみつ

















# 悪魔の章 I

## デビルマン



人類をデーモンの魔の手から救うため、悪魔の肉体を手に入れた不動明――執筆から四半世紀、『デビルマン』はいまだ人々を告発し、啓示を与え続けている。
『デビルマンレディー』で復活したキャラクターたちの変遷を加味しつつ、『デビルマン』の魅力を解剖する。



# 『ハレンチ学園』騒動記

**今からちょうど30年前、連載の是非をめぐって日本の世論を二分した伝説のエッチ漫画があった。日本コミック史にさん然と輝く『ハレンチ学園』の功罪を再検証する。**

ボイン（決して巨乳ではない）の柳生十兵衛に、エッチな山岸八十八、しっぽ付き毛皮のヒゲゴジラ、ふんどし一丁は丸ゴシ、下半身に拳銃のマカロニ、ちょっと可愛いパラソル先生……。

'68年末から「少年ジャンプ」で連載が始まった『ハレンチ学園』は、破天荒なキャラの魅力で、半年も経たないうちに超人気漫画に成長した。ところが、スカートめくりや教師VS生徒の抗争シーンが、PTAや教育関係者の神経を逆なでし、大きな社会問題に発展していった。

いくら30年前とはいえ、別にスカートめくりがタブーだったわけではない。事実、'69年は丸善石油のCM「オー、モーレツ！」が大ウケして、小川ローザのパンチラを見るため、大人も子供もテレビに釘づけになった。だが、特に批判の声は聞こえてこなかった。

PTAが怒りの手を挙げた真の原因は（ハレンチ教師をバカにすることで）、まだ聖職者と信じられていた先生の権威が失墜することであり、もう一つは『ハレンチ学園』によって、永井豪＝性の解放者というイメージが定着しつつあったことだ。

学校での性教育を認めたくないPTAにとって、『ハレンチ学園』は非常に危険な漫画と映った。テレビや雑誌を舞台に、性の解放を説く擁護派と、連載中止を求めるPTAの間で激論が飛び交う。当時のスタッフの一人で、後に名物編集長になった西村繁男氏は、「戦後の漫画史上特筆すべき衝撃的な出来事」と、その著書の中で「ハレンチ学園」について語っている。

こんな大人たちのくだらない騒ぎをよそに、児島美ゆきが十兵衛を演じたテレビ版（テレビ東京系）は高視聴率を記録する。



勢いに乗って、日活が映画の製作を決定。第一作の『青春喜劇 ハレンチ学園』は立ち見が出るほどで、1年半の間に3本もの続編（『ハレンチ学園 身体検査の巻』『ハレンチ学園 タックルキッスの巻』『新ハレンチ学園』）が作られた。

さすがに成人指定ではなかったが、同時上映が和田アキ子の『女番長 野良猫ロック』などでは、親に連れていってもらえずに、クヤシイ思いをした子供たちも多かった。確かに当時の男の子にとって、『ハレンチ学園』の十兵衛や『あばしり一家』の菊の助は、性の問題に関心をもつきっかけだった。

ちなみに、『70年代マンガ大百科』（宝島社）という本の中に、500人の読者が選ぶ「このマンガがエロだった」という企画ページがある。

このベスト10には、第1位の『けっこう仮面』を筆頭に、3位の『キューティハニー』、4位の『イヤハヤ南友』、7位の『ハレンチ学園』、10位の『あばしり一家』と、永井豪の作品が5本もランクインした。

もし、'70年代に永井豪がいなかったら、「ハレンチ学園」が一石を投じなかったら、日本の性教育は確実に数年は遅くなっていた。

（石塚勝美）

参考資料／「さらば わが青春の「少年ジャンプ」飛鳥新社 西村繁男 『昭和マンガのヒーローたち』講談社 河合隼雄 作田啓一 多田道太郎 津金沢聡広 鶴見俊輔 『70年代マンガ大百科』宝島社 『1970年大百科』JICC出版 『昭和30年→60年 ぼくらの大年表』JICC出版

# 『デビルマン』作品解説



## アニメ版の『デビルマン』

アニメ版『デビルマン』は、『魔王ダンテ』が直接の起因となって企画され、一九七二年に放映が開始されている。

それは、コミックの『デビルマン』に比べ、じつに単純な設定をもっていた。デーモン族の勇者・デビルマン（アニメ版にはアモンという名前は使われず、はじめからデビルマンと呼ばれていた）は、世界征服のため人間の世界に潜入するべく、少年・不動明を殺し、その肉体を手に入れる。このとき、元々の不動明の意思はまったくなくなっているのだ。だから、肉親をなくして牧村邸の居候となり、「よーよーミキちゃんよー」と声をかける不動明、あれはホントは不動明じゃなく、デーモンのデビルマンなのである。じゃあデビルマンはなんで人間を攻撃しないの、ということになるが、そのへんもきわめて単純だった。デビルマンは美樹ちゃんに会ったとたん、ひとめ惚れしちゃって頭があがらないからである。つまり、アニメのデビルマンは、美樹ちゃんを守るため、「裏切り者の名を受けて」デーモンの侵略を食い止め、人間世界を守ろうとするのだ。デビルマンが毎週毎週くりひろげた過酷な戦いは、ひとえに「惚れた女を守るため」だったのである。

## 悪魔人間の誕生

コミック作品の『デビルマン』は、アニメ放映に先行して「少年マガジン」に連載されはじめた。おそらく、不動明が牧村家にご厄介になっている、という設定は、アニメ版と歩調を合わせるため、作り出されたものだろう。

ご存じのとおり、この作品はアニメ版とはまったく異なった黙示録的なものになったが、その要因のひとつに、掲載誌「少年マガジン」の性格がある。

『デビルマン』が掲載される少し前まで、「マガジン」は、子供対象でなく、団塊世代の大学生を対象に編集されていた。"全学連も億万長者も！　年齢をこえて読まれる少年マガジン"というコピーが、堂々と新年号を飾ったりしていたのだ。それも次第に改められ、対象年齢を引き下げにかかっていたのが『デビルマン』の頃だが、まだまだ読者の年齢層は高かった。

[illegible] 飛鳥了というキャラクターが登場する。さらに、なにより大きな変更は、デビルマンが「悪魔の肉体をもった」人間として生まれたことだった。不動明は「悪魔人間」であって、断じて「デーモン族の裏切り者」ではなかったのである。

## 境界に立たされた人間の物語

デビルマンは悪魔でもなく、人間でもない。悪魔と人間との境界に立つ、矛盾に満ちた存在だった。

矛盾はいつでも、無矛盾であろうとする。不動明もまた、境界の上で、人間であろうとつとめた。自分は悪魔ではなく、人間なのだ。そう考え続けた。それは、人間とはなにか、人間とはどうあるべきか、ということを、自分自身に向かって不断に問い続けることを意味した。

しかし、そう問い続けること、それ自身がすでに、人間ではないからできることだったのだ。彼の中で育まれた人間像は、だからある意味、理想化されていた（飛鳥了はそのことを、「ひよわな人間の気持ちなどわかるまい」といって指摘している）。彼が人間に期待すること、こうあって欲しいと思っていることは、次々に裏切られていく。

「人の命を守るため」彼は悪魔と合体したはずだった。

[illegible] 一方、飛鳥了は、サタン両性具有の自分に気づいていた。自分は、男と女の境界に立つ者であること、デーモンの長として人類を滅亡させようと願いながら、女として不動明を愛してしまったこと。そしてそれが、滅亡させようとしていた人間のみならず、自分の同胞であるデーモンさえも、滅亡させてしまうこと。すべてを無に帰してしまうこと。彼はおそらく、自分をサタンだと認めたときから、それを知っていただろう。知っていながら、どうすることもできなかったのだ。

『デビルマン』の二人の主人公は、それぞれ境界に立たされ、矛盾にひきさかれている。そこには、ぼくらが一生かかっても体験しきれないほどの、どす黒い絶望が、うずたかく重なっている。

『デビルマン』のもつ黒い絶望。それは「人間」を告発する。人間はこのままでいいのか、人間はまちがってはいないか、と。それはほかでもない、ぼくら自身の喉笛に、つきつけられているのだ。



DEVILMAN CHARACTERS NO.001

# デビルマン




## 悪魔の体を得た少年

悪魔の肉体を手に入れたその日から、少年は敵を求めはじめる。自分をヒリヒリした闘争の場においてくれる強い敵、少年はそれを欲していた。だから、残忍で美しい悪魔シレーヌの出現は、少年にとって悦びでさえあったのだ。腕をもがれ、返り血をいっぱいに浴び、痛みと戦慄の中にいながらも、少年は悦楽さえ感じていた。そこには、すべてがあったのだ。生命の躍動、血のたぎり、そして正義。

だが――少年はやがて絶望する。自分が正義だと信じていたものは、正義だったのか。自分は人間を守るため悪魔と戦ってきたが、人間もまた悪魔ではないのか。恋人の死を目撃したとき、少年はもう、あらゆる正義を失っていた。あるのはただ、「戦う」ことだけだった。

少年の前には、かけがえのない友が立っていた。信頼すべき友。その友こそ、最後にして最大の敵だった。








## 明と了、最後の邂逅

「きみはどこから見てもデーモンなんだよ」親友・飛鳥了はそういい捨てた。デビルマンは人間だ、人間でなければならないと明は信じてきた。しかし、その姿はもはや人間のものではない。自分は悪魔の姿をしている。それこそが現実なのだ。

だが、明は悪魔にはならなかった。愛する恋人、彼女は悪魔ではない。彼女を守るために、自分は人間でなければならない。そう考えたからである。

## [illegible]

明はデビルマン軍団を率い、特捜隊本部を襲撃した。「悪魔狩り」と称して人間同士の争いを激化させ、人々に疑心暗鬼の種子を植え付けたのは、ほかならぬ特捜隊だったからだ。特捜隊さえたたけば、という気持ちが明にはあった。だが、それは対症療法にすぎず、何の解決ももたらさない。すでに、牧村邸の付近住民＝一般市民が、悪魔狩りを実行し、美樹を殺していたのである。恋人の死と人間への幻滅は、不動明に絶望をもたらす。



DEVILMAN CHARACTERS NO.002

# ゲルマー＆アグウェル




## ゲルマー

ゲルマーの登場シーンは、強姦、しかも獣によるそれをほうふつさせる。掲載誌が少年週刊誌で、なおかつ時代背景もあって、これはここまでのものなのだが、だからこそかき立てられるエロスがたしかにある。






## アグウェル

おそらく、デーモンの異界性をもっとも如実に体現しているのが、このアグウェルだろう。伸縮自在で壁や床に溶け込むその能力、天井にはりついて恨みごとをいいながら死ぬその姿、気味悪さ満点だ。



## シレーヌのしもべ

ゲルマーとアグウェルは、週刊連載時には、あっけなく1エピソード（1週）でまとめて倒されてしまう、いかにもザコという扱いであった（美樹ちゃんは3週間もつづけてお風呂に入っているのに、だ）。

ゲルマーは「水のエネルギーをかりなければなにひとつできない無能力者め」と明になじられているけれど、その登場シーンにおいて、『デビルマン』のエロティシズムをふんだんに感じさせてくれるデーモンだった。







## 『デビルマンゴースト』

現世でただひとり戦うデビルマンレディー＝ジュンを助けるため、霊体のまま戦う明。頭はスカルのフィギュア、胴体はジュンのお手製。デビルマンゴーストはジュンを、陰ながら支援する存在だ。

## 『デビルマン・イン・ザ・ダーク』

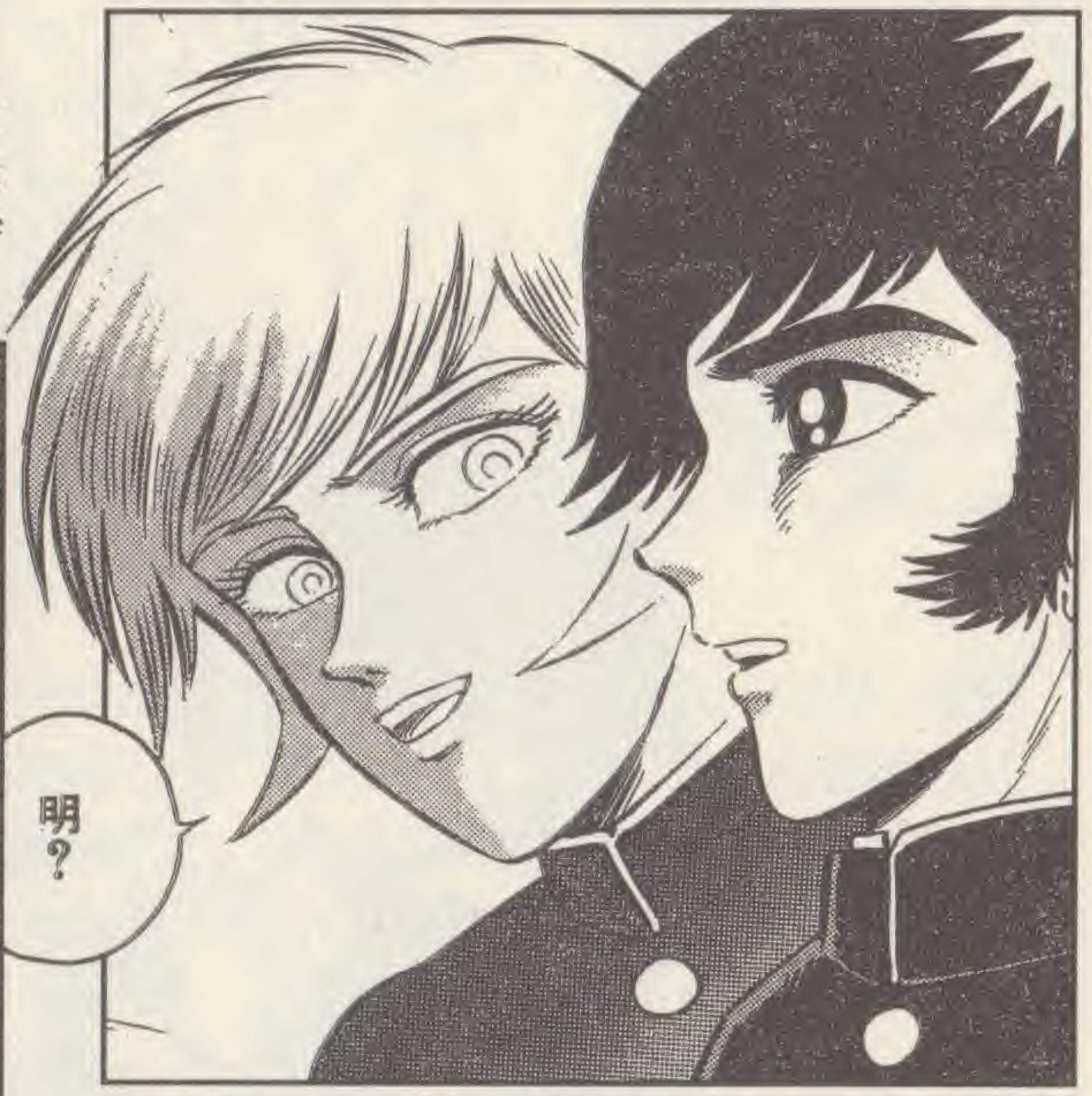
地獄にも街がある。地獄をさすらう者・不動明は、ここでもシレーヌと戦っている。これで合計3回目。もちろん時間的には、石になったシレーヌが描かれた『レディー』よりこちらが先。




## 『デビルマンレディー』の明

『レディー』における明は、もう少年ではなくなっている。地獄に落ちてきた不動ジュンを助け、はげまし、導く者だ。最終戦争の経験は、意識を少年のままにはしておかなかったのだろう。ジュンと愛しあっちゃうし。






## 『ネオ・デビルマン』

『デビルマン』連載終了から四半世紀、謎がひとつあかされた。明と了が親友であったのは、了が明をマインドコントロールして「親友である」と認識させたためだった。

DEVILMAN CHARACTERS NO.003

# シレーヌ



## 愛の支配

デーモンは合体能力をもっている。ほかの生物、あるいは無生物と合体して、その能力を取り入れることができる。相手が無生物、あるいは自我意識をもたない生物ならいい。だが、相手が自我をもつ場合、合体とはひとつの賭けである。つまり、合体後どちらの意識が肉体を支配するのか、それは合体してみないとわからないのだ。

シレーヌとカイムの合体もそうであった。カイムの意識が肉体を支配すれば、カイム・シレーヌは最強の戦士として復活する。しかし、瀕死のシレーヌの意識が支配するなら、それは瀕死であることに変わりない。

カイムは、生き延びるつもりはなかった。愛する女戦士のために、自分の命を捧げたいと思っただけだった。合体後のカイム・シレーヌは、だからエロティシズムに溢れている。合体部の形状や、流れるシレーヌの血が、死を賭した愛の崇高さを訴えている。







## デビルマンとシレーヌの死闘

シレーヌの爪にとらえられた者は、あらゆる能力を封じられる。不動明もデビルマンに変身できない。シレーヌは明に百地獄の刑罰を受けさせるべく、明を連れ去った。飛鳥了の助けが入らなければ、さしものデビルマンも死んでいただろう。

血で血を洗うシレーヌとデビルマンの激闘は、「デーモンの生命力」を強く感じさせる。腕がもげても、頭を砕かれても戦い続ける二人は、なぜかひどく美しい。

## [illegible]シレーヌ

不動明がデビルマン[illegible]最初に[illegible]撃したのはシレーヌだった。シレーヌはアモンを愛しており、デビルマンへのたび重なる挑戦は、アモンを求めるがゆえの挑戦だったのだ。『デビルマンレディー』における地獄のシレーヌはそれに気づき、自分を醜いとなじり、石となる。石の彫像となったシレーヌの前、カイムは号泣した。カイムだけは、真実を知っていたのだ。知っていながらシレーヌの力となっていたのである。



DEVILMAN CHARACTERS NO.004

# ジンメン



## 「人間」の批判者

ジンメンは食べた人間の顔をそのまま甲羅に浮き上がらせ、それを人質にとって戦う。甲羅に浮かび上がった顔は死んでいるが意識はあり、悪魔に食われた悲しみや苦しみを訴える。ジンメン自身は大した力をもっていないのだが、「人間の心をもつ」デビルマンにとって、戦いづらい敵ではある。

ジンメンは卑怯で姑息で許せないヤツだ——誰もがそう思う。しかし、同時にジンメンは、人間のエゴイズムを逆手にとり、それを批判する存在でもある。「人間の感覚じゃ生き物を食うことは悪いことじゃない、そーだろう、従順でおとなしいウシ・ブタを平気で食ってるからなー」。ジンメンは、「殺す」ことを悪としながら「食う」ことには目をつぶる人間の欺瞞をあばきたてる。卑怯で姑息なのはデーモンであるジンメンだけじゃない、人間だって立派に卑怯で姑息なのだ。







## 復活ジンメン

『デビルマンレディー』の地獄で復活したジンメンは、背中の人質をつかった攻撃のほか、腹部の顔から光線をだして爆撃機のような攻撃をしたり、体を高速回転させながら飛んだりと、パワーアップしている。

地獄でふたたびジンメンと相まみえたデビルマンは、腹部の顔をひきちぎり、触角からの光線でジンメンを粉々に砕く。サッちゃんをふくめた甲羅の人たちは、ここにきて解放され、天に召された。

## [illegible]

『デビルマンレディー』の中で、[illegible]は、ジンメンについてこう述べている。

「ジンメンは人のエネルギーを利用してどこまでもでかくなる。人の世でいえば企業……会社のようなものかもしれない。人のエネルギーを吸い取って巨大化するのは同じだろ……新鮮なエネルギーをもって入社する新入社員も、いずれボロボロのエネルギー切れで定年退職するだろ。つまり、人もデーモンも似たもの同士というわけさ」

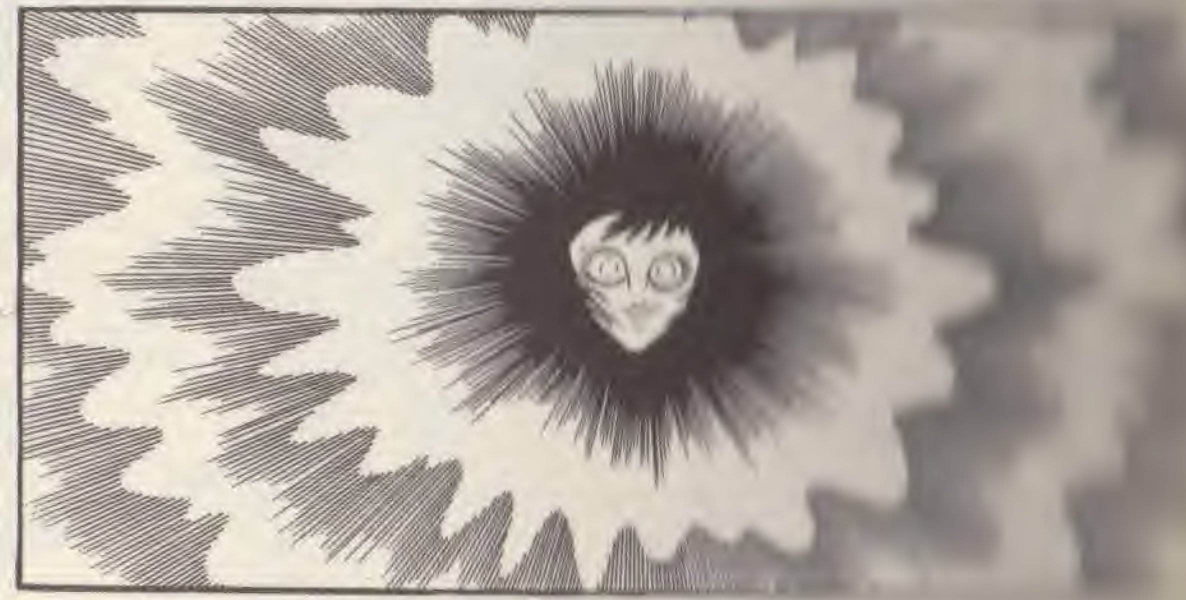


### 溶けるデビルマン・2

精神とは、人間が内部にかかえた広大な宇宙だ。その構造を知り、その組成をかえてやれば、人は簡単に狂気におちいっていく。「溶けるデビルマン」はそれをたった1コマだけで暗示した。





### 溶けるデビルマン・1

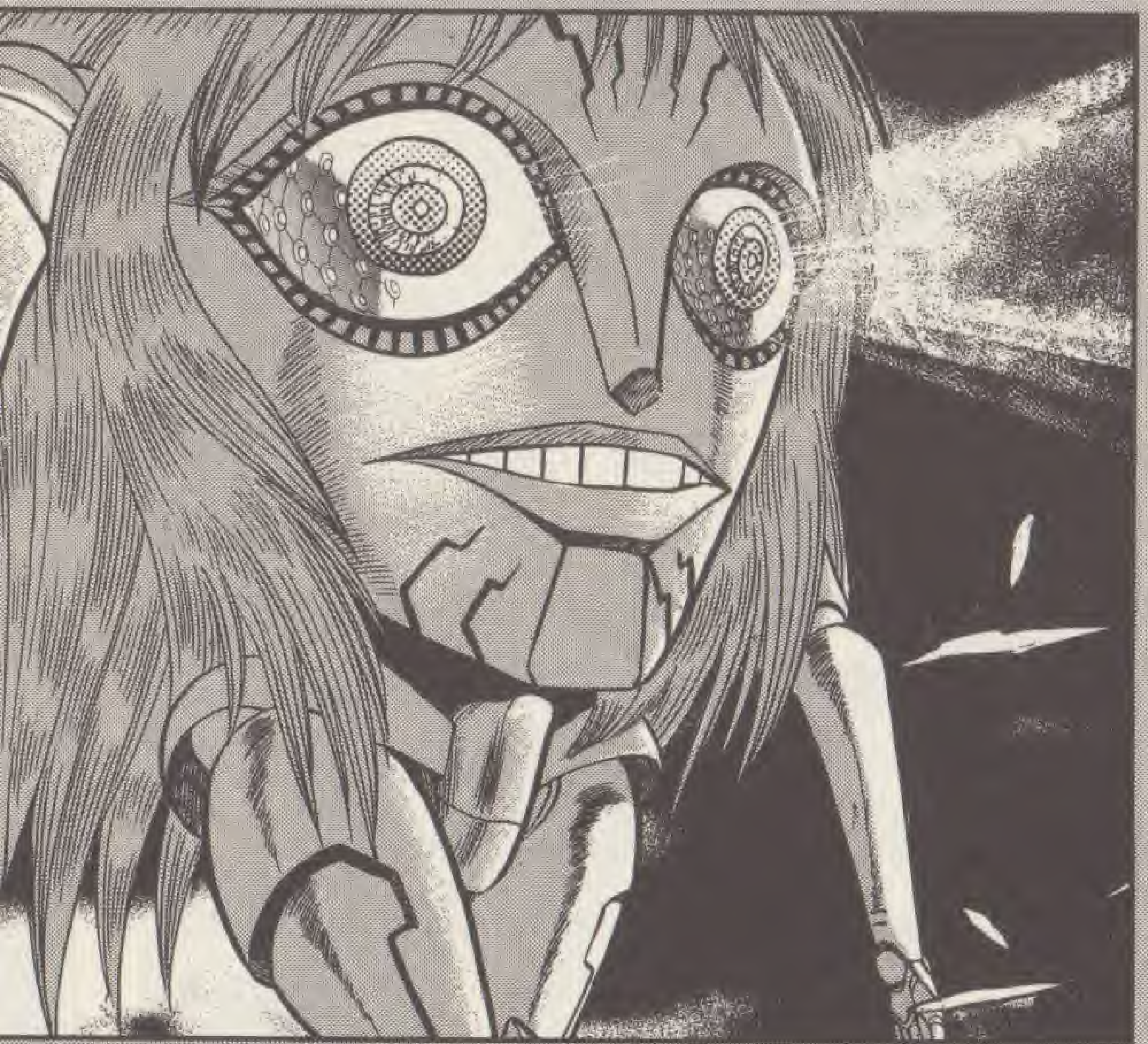
サイコジェニーの精神攻撃。ねじれ、ゆがみ、どろどろに溶けるデビルマンの内部で、具体的に何が起きているのかは明らかにされないが、だからこそ精神的な恐怖を感じる。精神の深淵に落ち込む感覚。

### すべてを知った飛鳥了

無数のデーモンが、飛鳥了に襲いかかる。[illegible]恐怖にわななく飛鳥了だが、悪魔たちは攻撃をしかけない。サイコジェニーは無数のデーモンのリーダーとしていう。「お迎えにまいりました！」



## 『マジンサーガ』のサイコジェニー



### サイコジェニーがZと戦う

ブロッケン伯爵の作った機械生体獣、サイコジェニー。もちろん兜甲児＝マジンガーZが精神攻撃に弱いと知り、そこをつくためのマシンビーストだ。戦いの結末は未だ、描かれてはいない。

DEVILMAN CHARACTERS NO.005

# サイコジェニー



## 物語を動かす者

『デビルマン』本編において、サイコジェニーが登場するのは、たった2回だけである。

1度めは、デーモン総攻撃の際。サイコジェニーはデビルマンを精神攻撃によって瀕死にまでおいつめる。彼女（彼？）はいう、「なみはずれた強い肉体をもつおまえもサイコジェニーの精神攻撃の前には赤子どうぜん」そう、サイコジェニーはデビルマンを「赤子どうぜん」に扱うことのできた、ほとんど唯一のデーモンなのである。

2度めは、ふたたび飛鳥邸にもどった了を、「お迎えに」きたとき。飛鳥了がサタンとしての記憶を捨て、自分を人間だと思いこんでいたのも、ふたたびサタンとしての記憶を取り戻すのも、すべてサイコジェニーの催眠能力によるものだった。

『デビルマン』の物語は、ほとんどが飛鳥了の頭脳のなかで「考えられた」こととして進んでいくが、それを可能にしたのは、サイコジェニーの能力なのである。



## 神話のはじまり

すべての生物が死に絶えたあと、神の軍団がのぼってくる。人間もデーモンもデビルマンもいなくなった。生き残ったのは飛鳥了、ただひとりである。

飛鳥了は不動明を愛していた。欲していたのだ。だが、明を自分のものにするためには、明を殺さねばならなかった。美しい神の軍団は祝福のようでもあるけれど、飛鳥了にとっては絶望でしかない。彼はこの後、悔恨から『バイオレンスジャック』の物語をつむぐ者となる。




## [illegible]

[illegible]
結局、関東を無に帰そうとした『バイオレンスジャック』よみがえった不動明はそれを阻止しようとする。

せっかく生まれた人々を、無意味に殺してはならない——それは、『デビルマン』ラストシーンの了のモノローグそのままだ。ジャックは、同じ過ち(あやま)を犯そうとしているサタンを止めるために動いたのである。

DEVILMAN CHARACTERS NO.006

# サタン

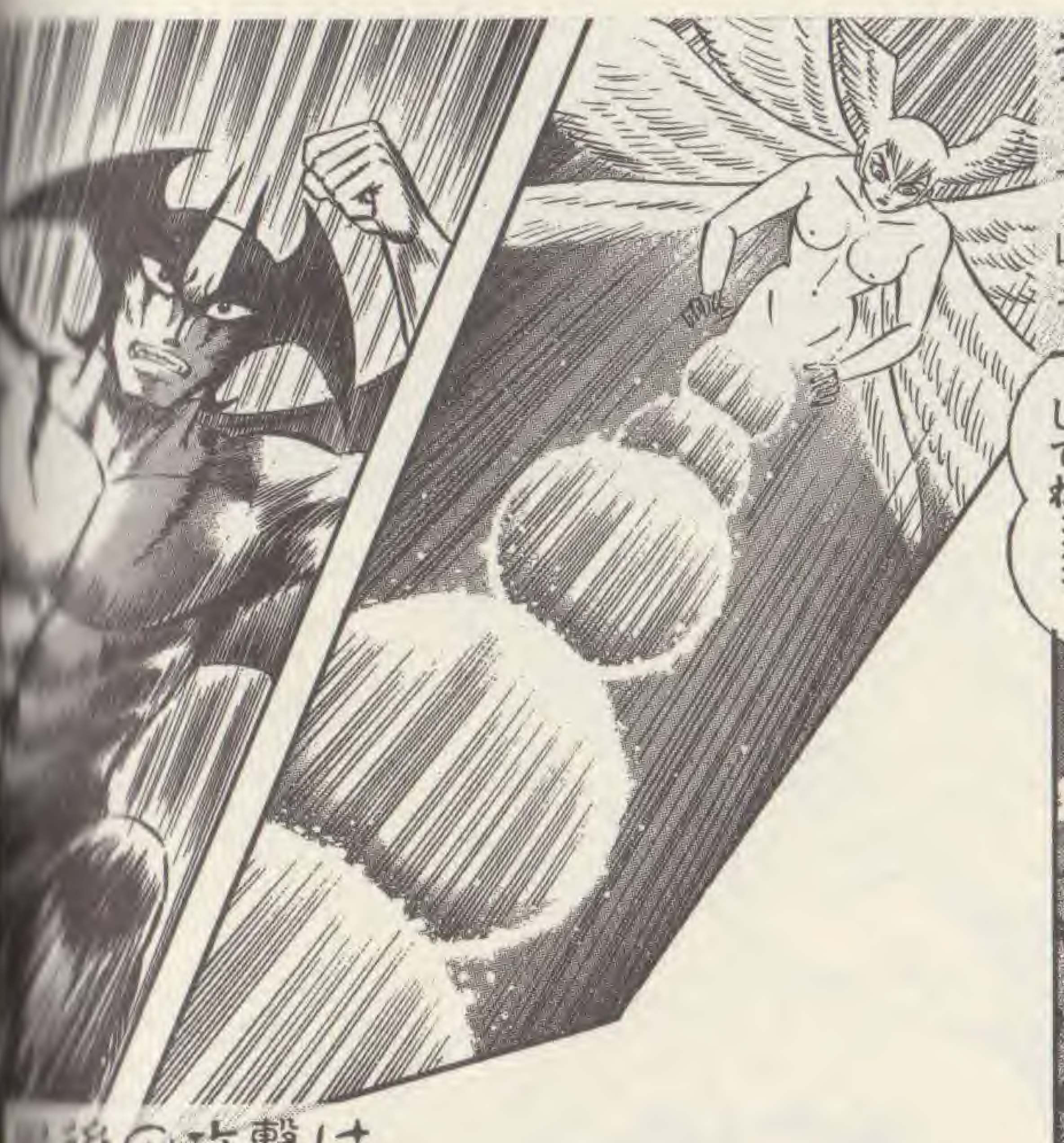



## サタンにも不可能なこと

『デビルマン』の物語は、ただひとつの例外を除いては、サタン＝飛鳥了の思惑どおりに進んでいく。不動明が悪魔と合体してデビルマンになること。魔王ゼノンが宣戦布告をして、悪魔の無差別合体がはじまること。人間が猜疑心にかられるまま、滅亡への道をたどること。これらはすべて、サタンが意識的に、あるいは無意識に、進行させたことだった。

ただひとつの例外——それは、不動明がデーモンの仲間になり、デーモンの時代に生きようとはしなかったことである。やがてくる最終戦争は、おそらく不動明さえいなければ、起こらなかった。すべてを思いのままにすることのできる悪魔の長サタンも、ただ一人の人間の心だけは、思いのままにできなかったのだ。

相手を不特定多数の集合とみれば、いかようにもできる能力をもつ者も、相手をひとつの個性として認識した場合、どうしようもない。二者はまったく別物なのだ。



### 登山する了と明

『ネオ・デビルマン』より。明と了が親友になったのは、了の能力によるものだが、それ以降は二人でいっしょに山登りに行くなど、行動をともにすることも多かったようだ。二人は地球の美しさに感動する。




### 最後の攻撃は

『デビルマン』において、上半身のみになった明は描かれたが、それが誰の、いかなる攻撃かはわからなかった。デビルマンを攻撃したのは、サタンだったのだ。『ネオ・デビルマン』でわかった新事実。

## Link これを読んでから死ね！

## 『オモライくん』



オモライくんは何ももっていない。所有欲がないからだ。だが、そうであるがゆえに、町のあらゆるものを、自分のものにできている。彼が笑顔を絶やすことがないのは、すべてをもっているからだ。美しい。

「きれいはきたない、きたないはきれい」とはシェークスピア『マクベス』のエピグラムだけど、それを地でいってる作品がこれだ。『デビルマン』連載スタートの、つい1週間前まで、「少年マガジン」誌上をアカや糞尿で汚し、雑誌に彩りを与えていた作品。それが『オモライくん』である。

オモライくんは無為自然の乞食少年で、とにかく汚い。「あらう」という動詞を知らないぐらいで、体はアカでふくれているし、ほっかむりをとると辺りがフケで埋もれてしまう。

彼は小学校に通ってるわけだけど、教室のみんなは、オモライくんとかかわりをもたない。汚いから。でも、敬して遠ざけてる雰囲気もある。逆に、彼を「問題児」というカテゴリーに分類して、「問題」を解決しようとするのが先生たち。結果、先生はバタバタ死んでいく。オモライくんは「自然」で、それを一般化したりワクに押し込んだりしようとすれば、かならず痛い目を見るのである。美しい。





DEVILMAN CHARACTERS NO.007

# 悪魔王ゼノン



### 『バイオレンスジャック』

ここでは、サタンみずから、ゼノンを「私の暗黒面」と語る。ゼノンはサタンの分身であり、悪の部分の権化だ。また、サタンの乗る七つの頭をもつドラゴンは、ゼノンが変形したものであることが明らかになる。



### 『デビルマンレディー』

地獄の最下層コキュートスで氷漬けになっているサタン。それはゼノンの姿をしている。三面ある顔のうち、右側の顔が消えていることにより、「サタン＝了は現世に行っている」と判断された。




### 作品ごとに異なる性格

『デビルマン』の物語は『バイオレンスジャック』や『デビルマンレディー』に引き継がれたが、3作品すべてに登場しながら、ゼノンの性格はそれぞれ違っている。

『デビルマン』におけるゼノンの役割は世界主要都市に現れてデーモンの宣戦布告をする、というものだが、ここには最強の悪魔としての性格だけが付与されている。結末でかわされる了との会話からも、サタン＝了に次ぐ位の悪魔なのだ、ということがわかる。

DEVILMAN CHARACTERS NO.008

# ミーコ




## デビルマンになった少女

それはほんの一瞬だけ、理性を失った瞬間だった。なにかが体に入り込んできたのだ。それ以来、自分の体には、醜い悪魔の顔がついている。誰にも見せられない秘密。いつかできるだろう恋人にも見せられない体。

ミーコは、悪魔と合体した醜い自分を嘆いていた。「悪いヤツラとつきあっていたから、天罰があたった」そう考えていた。ある日、ふとしたはずみで、[illegible]




## きみは悪魔ではない

「実験」という名の人間性の無視に翻弄され、「自分は悪魔だ」と信じこまされていたミーコは、明に救われる。「きみは悪魔ではない」。正義を愛し、善良で純粋な心をもつ者こそデビルマンになれるのだ。





[illegible]

デビルマン

## 永井先生は目を輝かせ構想を語っていました

ぼくが永井豪さんにはじめて会ったのは、石森プロで彼がチーフ・アシスタントとして働いていた頃です。その後、永井さんは、「月刊ぼくら」編集部にいた僕のもとに、デビュー作『目明しポリ吉』を持ち込みに来ました。同年代の気安さもあって、打ち合わせはすごくスムーズにいったと記憶しています。

その後、僕は「週刊少年マガジン」にうつるまで、永井さんの担当にはなりませんでしたが、再び「マガジン」で出会ったときには、永井さんは『ハレンチ学園』で超売れっ子作家になっていたんです。

「マガジン」ではじめに担当したのは、『オモライくん』です。この作品も当時は、ずいぶん話題を呼んで、人気もあったんですね。読者の親御さんから、「息子がこの作品を読んで(食べ物を)もどしてしまった、どうしてくれる」なんて苦情がきたこともあったんですけど(笑)、担当としては、すごく好きな作品でした。よく、原稿もらって編集部に帰ってきては、「きたねえきたねえ、原稿持つと手がよごれそうだあ」なんて大騒ぎしてました(笑)。最終回だけはきれいに終わろう、といって、四色のカラー扉にしたんです。それはよくおぼえています。

で、その次があの傑作『デビルマン』になるわけなんですが、僕は担当らしいことはなにもしてなくて、本当に一番最初に原稿を読ませてもらう、読者代表って感じでした。ストーリーは、ほとんど永井先生のなかでできあがっていたんで

[illegible]するこうすると、壮大な構想を語っていたらしいんです。「でも恵ちゃん、キミはそのときもう寝てたんだよ」って(笑)。本当にそういう意味では、ボンクラの編集者でしたねえ。何もしてないのに、あの『デビルマン』の担当だ、という名誉だけいただいてる(笑)。

『デビルマン』の人気ですか？　はじめは食いつきが悪かったんです。当時「マガジン」は比較的広い読者に読まれていたんですが、やっぱり下は小学一～二年生からいたわけで、すこし話が難しかったんじゃないかと思います。でも、徐々に読者の反応もよくなっていきました。美樹ちゃんが惨殺されるというショッキングなところも含めて、読者をひきつけていったんです。ラストシーンも衝撃的でしたしね。

あのラストシーンに関する問い合わせもありました。「どうなってるの、これ」って(笑)。そういうときは、「見たとおりでご想像におまかせします」って答えていましたね。




『オモライくん』より。これが清水氏。インタビュー当日はシレーヌのジッポライターを使っておられ、『デビルマン』に対する並々ならぬ愛情が感じられた。

DEVILMAN CHARACTERS No.009

# デビルマン軍団




## 明とともに戦った勇者たち

図中1は、ヒンズーの僧侶たちがデビルマンになったもの。修行によって鍛えられた精神力が、世界中のデビルマンと交信するのに役立った。ボンズ・オブ・ヒンズーと呼ばれる。2はデスブロー。KC4巻の187ページにチラッとでてくる。3はプフール、不動明の秘書的な役割で、デビルマン軍団の組織運営を担当する。4はミーコちゃん、悪魔と合体してからはトゥルグという名がついていた。

なお、このイラストはコミックとは別に'86年に描かれたものだ。



## Topic 『デビルマン』キャラクターの変遷

『デビルマンレディー』にデビルマンが復活することによって、それまで『デビルマン』でしか見られなかったキャラクターに、いろいろ変化がでてきた。ジンメンとシレーヌのデーモン両横綱に、デビルマンを加えた変遷履歴を徹底紹介。

### ジンメン編



**1 新幹線の車掌さん**

あのねばっこいカメデーモン、ジンメン先生が、ぼくらの前にはじめて姿をあらわしたときのスタイルがこれ。新幹線の車掌さんに化けてました。まだ人間を食ってないから、甲羅には顔が浮きでてないのだ。



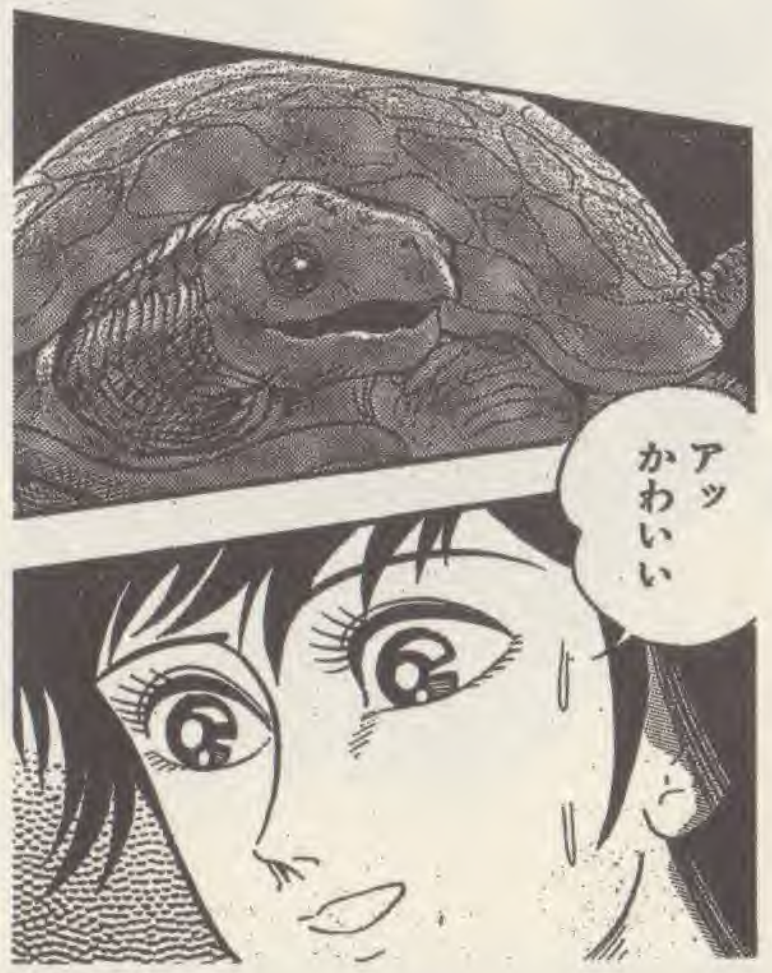

**2 イレズミより数段上だぞ**

……とは本人の弁。すばらしい美術品だろう、ともいっている。ただし、この感覚って、あんがい部屋に鹿の首かざって悦に入るハンターあたりと似ているのかも知れない。



**3 腹に顔が！**

「レディー」のジンメン。高速で回転しながら飛んでくるところや、腹からビームーのところが、リメイク版『ガメラ』の影響を感じさせる。地獄の復活ジンメンは、頭部の顔じゃなくて腹の顔で表情をだしていた。




**4 かわいいカメさん**

ジュンちゃんも思わず「アッかわいい」といってしまったカメさんだけど、これ、デビルマンにやられてパワーを失ったジンメン君なのだ。ジュンはこの後、「地獄にペットなんかいないー」と手厳しかった。



### シレーヌ編



**1 牧村邸屋上のシレーヌ**

「うつくしき月よ、そなたはこれからおこることを見ないほうがよい。みにくい血でそまりたくないならば」シレーヌは初登場のときから、ポエティックな叙情性にあふれていた。



**2 カイムと合体**

すでに死にかかったシレーヌと、彼女を愛するカイムとの合体。このあと、シレーヌはデビルマンにとどめをさすことができずにこときれるが、朝日に照らされたシレーヌは、とても美しかった。



**3 復活シレーヌ**

「レディー」で復活したシレーヌは、カイムとはなれていても、カイムの能力が体にそなわっている。肩や腕、足にまとったヨロイのようなものは、カイムの体の一部なのだ。



**4 巨大化シレーヌ**

地獄におちるシレーヌは怪獣のように巨大化していて、地獄におちた人々を素手でつかまえてはムシャムシャ食う。地獄では強さがそのまま体の大きさに反映するから、強いシレーヌはでかいのだ。



**5 シレーヌ・イン・ザ・ダーク**

ゲシュタポ風のユニフォームに身をつつみ、サディスティックさを表現する人型シレーヌ。ここでは、カイムはシレーヌの乗る装甲車になっていた。『デビルマン・イン・ザ・ダーク』より。

### デビルマン編




**1 はじめてのデビルマン**

『デビルマン』の新連載がはじまったときの、「少年マガジン」の表紙。ご存じのように、『デビルマン』本編で明がデビルマンになるには時間がかかるから、これは相当早い時期のデザインなのだ。

# デビルマン編




**2 デビルマン登場**

アモンと合体し、悪魔の力を手に入れたばかりの明＝デビルマン。あたりにたむろするデーモンどもを次々に倒していくさまは痛快でさえあった。直角に近い目のつりあがりに注目。



**3 恐ろしき獣**

『デビルマン』の物語も後半に近づくと、デビルマンのデザインはしだいにケモノじみてきて、このカットなど[illegible]



**4 新デビルマン**

『デビルマン』連載終了後6年を経て、各誌に断続的に掲載されたのが『新デビルマン』。19世紀アメリカにタイムスリップしたデビルマンは、ついに巨大化した姿を披露。



**5 『バイオレンスジャック』**

3人のジャックが合体、サタンとデビルマンがふたたび戦う。地球の外に飛び出したデビルマンは闇のように見えた、という。話のスケールの大きさから考えると、もはやこれは巨大化とかいうレベルではない。



**6 地獄のデビルマン**

『レディー』より。右下のジュンちゃんの大きさと比べてみましょう。地獄では強いやつほどでかいという法則があり、すなわちジュンと明ではこんなに力の差があるのだ。体のカラーは緑に彩色されることが多くなった。



**7 デビルマンゴースト**

現世のジュンを守るため、霊体の不動明がよみがえった！ その名もデビルマンゴースト。頭部はスカルのフ[illegible]





COLUMN

# 『ネオ・デビルマン』全作品紹介

**今はなきマンガ誌「月刊コミックガンマ」（竹書房）の誌上プロジェクトだった『ネオ・デビルマン』。現在は「モーニング 新マグナム増刊」に引き継がれ、継続している。**

[illegible]キスシーンやゴルゴダの丘を背景に美樹の生首を抱く明のラストカットは印象深い。

**●岩明均**
**「コミックガンマ」'96年5月**

飛鳥了がテレビに出演したあの夜、人々は疑心暗鬼にとらわれる。高校生・マサルの家族も例外ではなかった。ただ一人、ボケていたはずのおじいちゃんを除いて……。

**●石川賢**
**「コミックガンマ」'96年6月**

デビルマンの空飛ぶ台座となったアギラを主人公に、悪魔狩りからハルマゲドンに向かうまでの流れを追う。アギラは親の肉体に始まり、特捜隊の武器、デビルマンの翼、襲い来るデーモンすらその体に吸収し巨大化していく。なお、「コミックガンマ」はこの号で休刊。

[illegible]ている。つづいて明の視線からストーリーを追い、最終戦争に至る。神の軍団があらわれ、光に照らされたミーコのラストカットが美しい。

**●夢野一子**
**「新マグナム増刊」'98年5月**

明の学校で隣の席に座る相沢路子は、心優しい明に憧れを感じていた。ある日、明は豹変し、以前の優しさに力強さを増す。さらに思いを強める路子。しかし、デーモンの無差別合体が始まり、路子はデーモンとなる。牧村邸で美樹の生首を見た路子は、哄笑する。女の恋心と情念を描いた作品。なお、この号には永井豪による『ネオ・デビルマン』も掲載された。

**●寺田克也**
**「新マグナム増刊」'98年8月**

獣と化した明が、愛する女を探してさまよい歩く。当代最高

**●[illegible]**
**「新マグナム増刊」[illegible]**

美樹のもつメダイユに込められた怨念は、第二次世界大戦時ドイツで虐殺されたユダヤ人尼僧アンヌのものだった。虐殺は「人間」のしたこと、「悪魔」のしたことではない。明と了はそれを目撃する。

**●ヒロモト森一**
**「新マグナム増刊」'98年11月**

かつてアモンに敗れ、シレーヌに助けられた悪魔、ダムドが封印を解かれ甦る。アモンへの復讐を誓うダムドだが、復活した体は三つにわかれていた。

**●高寺彰彦**
**「新マグナム増刊」'99年1月**

不動明がアモンと合体した地下室に現場検証に現れた刑事は、その場でデビルマンとなる。刑事は相次ぐ殺人事件は自分の無意識の仕業ではないかと疑うが……。

# 悪魔の事典II

欧米では悪魔学に定説はなく、異説の中にこそ真実があるともいわれている。公平な目で選んだ悪魔の基礎知識から、ノストラダムスの原形　ヨハネの黙示録　の終末予言まで。

## ●悪魔の歴史

光あるところに影があるように、この世に神を称える宗教が誕生したときに、同時に悪魔の概念も登場した。別の言葉でいえば、神と悪魔は表裏一体。

仏教にもイスラム教にも、ギリシャ神話だって悪魔はいる(本来、悪魔はマーラを意味する仏教用語。西洋の場合、デヴィルとかデーモンが正しい)。

だが、我々が悪魔という場合、やはりキリスト教世界の悪魔を意味する。ヨーロッパの悪魔観には、二つの点で大きな特徴がある。一つは異教徒の神を積極的に悪魔とし、教会の改革[illegible]ク教会にとって、都合の悪いものはすべて悪魔なのだ。

もう一つは、聖書や福音書から大きく逸脱しなければ、悪魔をどう論じても、どう解釈してもいいという懐の深さだ。そのため、たくさんの研究者が自由に想像の翼を広げ、独自の悪魔の軍団とか地獄の組織図をつくっていった。

当然、立場の違いによっては異論や反論も多く、次々に修正が加えられていった。そういう意味で、悪魔学は実態があるようでない。だが、系統立っていないからといって、悪魔学がキリスト教の裏の歴史であるというのは否定できない事実だ。

## ●魔女狩り

ヨーロッパでは教会に否定的な改革運動が盛んになった12世紀をきっかけに、ローマ教皇庁はキリスト教の汚点ともいう異端審問を開始した。改革派の弾圧で犠牲になった人は、フランスだけで百万人を数える。

さらに、異端審問で血の味を覚えた判定人たちは、新たな生け贄に魔女を求めた。といっても、本物の魔女はほとんどいなかった。大半は罪もない女子供を無理やり魔女にして処刑したのだ。そのやり方は狡猾である。

例えば、裸にしてホクロがあったら魔女、変わった傷痕があったら魔女、水に放り込んで浮かんだら魔女なのだ。また、キリで刺して血が出ないのは、悪魔と契約した証拠だというのもある。この場合、キリのほうに仕掛けがしてあった。

こうして、何が何でも処刑する魔女裁判のシステムが確立する。たとえ、頑として否定しても、今度は残酷な拷問がまっている。判定人たちは密告を奨励し、自白と称しては、その友人や姉妹も魔女に仕立てた。[illegible]ーなどする必要はない。ひと言、あの女は魔女だといえばよかった。あとは、教会の魔女判定人が自分に代わって復讐してくれる。魔女の処刑は、公開の火あぶりに決まっていた。

百年戦争でフランスを救ったジャンヌ・ダルクも、魔女としての告発を受けて火あぶりになっている。18世紀までに犠牲になった人の数は、明らかなだけでも数百万。一説には、一千万人を超えたともいわれている。



## ●黒ミサ

異端審問の時代、改革派を悪魔崇拝者に仕立てるために、司祭たちが考えた想像上の儀式が黒ミサだった。そのため、すべて教会の儀式の裏返しになって[illegible]

だが、黒ミサはしだいに教会の思惑を離れて一人歩きし、悪魔崇拝に不可欠な儀式として認識されるようになった。黒ミサ＝サバトでも間違いではないが、黒ミサはカソリック出身者による悪魔的儀式という概念だ。

## ●サバト

一般にサバトといえば、満月の夜に魔女や悪魔崇拝者が集まって、サタンに捧げる淫らな儀式を指している。生け贄の血を飲んだり、体に精液を塗りたくったり、実質的な中身では黒ミサとの大差はない。

本来のサバトは、古代ケルト人などキリスト教以前の儀式を伝えたもので、悪魔とは何の関係もなかった。サバトは他の宗教をおとしめることに熱心なキリスト教会によって、意図的につくられたものといっていい。

元はサァオインの祭りだったハロウィンが、悪魔やお化けが[illegible]

## ●サタン＝堕天使

悪魔にはいくつかの階級があって、その最高位に君臨するのがサタンである。神に敵対する者という意味をもつサタンは、ベリアルやベールゼブブ、アザゼル、アドバンなど多くの名前をもっている。というより、はっきりサタンは複数とした考え方のほうが支配的だ。

そのサタンたちの中で、もっとも華麗な存在といえば、ルシファー（ルシフェル）である。『イザヤ書』では「明けの明星」「暁の子」と呼んでいるが、他にも「光を掲げる者」「夜明けのドラゴン」などの別名をもっている。かつては、神の寵愛を一身に集める天使だったが、その傲慢さから反旗をひるがえし、天から追放になった。つまり、ルシファーは堕天使である。

イエスは天からサタンが落ちていくのを見たと語っているが、実際、ルシファーが地上に激突してできた穴の底が地獄になったのだ。そこは、厚い氷に閉じ[illegible]な天使ルシファーが、悪魔の王サタンに変わった瞬間である。

詩人のミルトンは『失楽園』の中で、悪魔の王＝ルシファーの立場を明らかにした。その場合、ベールゼブブはナンバー2になるわけだが、悪魔学の大家たちはルシファーを含め、サタンたちは対等と見ていることが多い。

いずれにしても、サタンクラスの大物悪魔のルーツは、かつて異教の神だったか、高名な堕天使かのどちらかでしかない。

## ●『ヨハネ黙示録』

新約聖書の一番後ろに載っている『ヨハネ黙示録』は、ノストラダムスをはじめ、あらゆる予言の原形として影響を与えてきた。完成したのは、キリスト教徒が迫害を受けていた1世紀の末。著者は12使徒のヨハネとは別人というのが定説になっている。簡単にいえば、神の啓示によって天上界に昇ったヨハネが、世界の終末について見聞したことを記したものだ。



その内容がショッキングなため、ローマのカソリック教会は5世紀くらいまで、偽の預言書あつかいにしていた。今でも存在を無視しているといったほうが正解である。代わって多くの読み物が、『ヨハネの黙示録』をモチーフにしてきたが、都合のいい部分だけをチョイスするので、かえって全体像が見えなくなっている。以下、簡単に中身を紹介しておこう。

まず、ヨハネは天上界で24人の長老を従えた神に会った。神は七つの封印をした巻物をもっていた。その巻物こそ、この世に終末をもたらす巻物だった。巻物は七つの角に七つの目をもったメシアの手で開かれていく。このメシアは神の言葉か


[illegible]資料／『悪魔学大全』青土社　ロッセル・ホープ・ロビンズ　松田和也＝訳　『天使の世界』青土社　マルコム・ゴドウィン　大瀧[illegible]＝訳　『悪魔の履歴書』原書房　ピーター・スタンフォード　大出健＝訳　『悪魔の系譜』青土社　J・B・ラッセル　大瀧啓裕＝訳　[illegible]の歴史』青土社　ホール・ケーラス　船木裕＝訳　『堕天使』新紀元社　真野隆也　『魔術への旅』新紀元社　真野隆也　『魔法事[illegible]』新紀元社　山北篤＝監修　『世紀末　神々の終末文書』新紀元社　草野巧　『黙示録』新紀元社　真野隆也　『聖書人名録』新紀元社　[illegible]　『新約聖書』前田護郎＝訳　中央公論社

# Topic デビルマンの出演広告を発掘!!







上は「週刊少年マガジン」'72年10月29日号。下は同誌12月17・24日合併号。[illegible]写真フイルムの共催で、読者からカラー写真を募集していたのだ。[illegible]編集長と富士写真フイルムの宣伝部長。当選者には、豪華景品をプレゼント、[illegible]のものだった。ちなみに、このころ誌上でデビルマンは何をしていたかという[illegible]はシレーヌと、下の時はジンメンと戦ってた。うーん、あの死闘の間にこんな[illegible]



ら、復活したイエス・キリストその人を暗示している。

一番目から四番目までの封印では、赤や白や黒の馬に乗った異形の者たちが、ヨハネの前に登場しては消えていった。そして、五番目の封印を解くと殉教者たちがよみがえって、地上に裁きを下すよう神に訴えた。

六番目の封印では、ついに人間を滅ぼす天変地異が起こる。太陽が暗くなって天の星が落ち、人々は大地震の中を必死に逃げまどう。メシアが最後の封印を解くと、終末のラッパをもった7人の天使がやってくる。

一人の天使がラッパを吹くごとに、太陽や星はその3分の1が砕け散り、地上には血の混じったヒョウや火が降り注いだ。罪のある者もない者も、あらゆる生き物が死んでいく。チェルノブイリの原発事故を予言した説として有名な毒の彗星落下は、三番目の天使がラッパを吹いたときに起こる。

とにかく、神の許しを得た天使たちは人間を殺しまくる。そ[illegible]中には、「ひとおもいに殺して」と死を願う者もいるが、こういう人は逆に、長く苦しみを味わい続けなければならない。

最後に7人目の天使が神を讃えるラッパを吹くと、今度は鉢をもった7人の天使たちがやってくる。この七つの鉢の中には災いの種が一杯に詰まっていた。同時に、七つの頭と10の角をもったサタンが登場し、キリストの再誕を阻もうとする。

さらに、獣の数字「666」を刻印する偽者のメシアが出現した。このメシアは頭に羊の角をもつ悪魔の化身で、キリスト教の信者を惑わすため、自分に従う者には右手に「666」を刻印して区別する。この数字はコンピュータの暴走を指すとか、独裁者の登場する予言とか、昔から多くの解釈が存在する（少年マガジンの『MMR』シリーズが、この獣の数字について独自の説を打ち出している）。

偽のメシアを打ち倒した天使たちは七つの鉢から災いを降り注ぎ、獣の王国と化した地上を滅ぼす。[illegible]みながら死んでいく。天変地異を強調した七つのラッパと違って、七つの鉢はウィルスや細菌兵器、化学兵器を使ったような破壊である。



そして、獣にしたがう者が一人もいなくなった後、いよいよキリスト率いる天使の軍団とサタンの一族による最終戦争がおこる。ハルマゲドン（メギドの戦い）である。メギドは古代ユダヤ王国の南方にあって、古くから神と悪魔の最終戦争が起こる場所と伝えられていた。

この最終戦争はキリスト側の圧倒的な勝利に終わって、サタンは千年の間、暗くて深い地の底に幽閉の身となる。悪に満ちた地上を大掃除（破壊）したキリストは、再び人間界に降りてきて、千年に亘って平和な王国を築く。俗にいう千年王国である。

ところが、ヨハネの描く世界の終末はまだ終わらないのだ。千年後にサタンが復活し、一部の民をそそのかして悪魔の軍団を結成する。神に対してリベンジを仕掛けるのだが、やはり悪は正に勝てなかった。この結果、天も地もすべてが消えて、墓所から死者たちが復活する。

最後の審判で永遠の命を授かるかどうかは、生前の行いを記した「命の書」によって決まる。審判に合格すれば、新しい天地に再建なったエルサレムで永遠の平穏を手にする。だが、そうでない者は火の海に落ちて苦しみ悶えるのだ。　（石塚勝美）

BREAK TIME

チャート式

# キミはデビルマンになれるか!?

今まさに、悪魔が合体しようときみに近づいている。きみはどうなる? 今のうちにチェックして心の準備だ!

START
← YES
⇐ NO

**Q1**
無免許で父親の自動車を運転したことがある。

**Q2**
シレーヌとジンメンならジンメンのほうがカッコいいと思う。

**Q3**
麻薬入りのウィスキーを飲んだことがある。

**Q4**
不良3人ぐらい片手で十分だ。

**Q5**
ベルトをムチにしてケンカしたことがある。

**Q6**
ダンテ『神曲』を読んだことがある。

**Q7**
ときどき、こんな世界はなくなってしまえばいい、と思う。

**Q8**
緊急事態には、人の乗ってるバイクを奪おうが、構わないと思う。

**Q9**
「裏切り者」と呼ばれたことがある。

**Q10**
サッカーなど球技を見ていると、「ボールがかわいそうだ」と思う。

**Q11**
小さな女の子を、「恋人」にもったことがある。

**Q12**
高校生のころには、ガールフレンドにカバンをもたせていた。

**Q13**
風呂に毎日入るのは、ふやけそうだからイヤだ。

**Q14**
親友とふたりで、山籠りをしたことがある。

**Q15**
スケート場に行くと「氷づけの悪魔」を想像する。

**Q16**
『ハレンチ学園』と『あばしり一家』なら、後者のほうが好き。

**Q17**
『魔王ダンテ』を映画化するなら、アニメより特撮でやってほしい。

**Q18**
小学校のときには、いじめられてよく泣いていた。

**Q19**
映画を見るなら、ラブロマンスよりはホラー映画だ。

**Q20**
ガールフレンドには、いつも「オヌシ」と呼ばれる。

**Q21**
心を鍛えるため、よく座禅を組んだり瞑想したりしている。

**Q22**
麻薬入りタバコをすったことがあり、しかもまたすいたいと思う。

**Q23**
ハタ迷惑なくらい大騒ぎしたり、踊ったりするのが大好き。

**Q24**
とにかく生きものを殺すのが楽しい。できれば人も殺してみたい。

# 鬼の章

## 手天童子




ある日、未来の希望に満ちた若い夫婦のまえに、鬼が赤子をくわえてやってくる。手天童子郎と名づけられた少年をおおう数奇な運命は、その後少年を過去へ、未来へはこび、自身の出生の謎に近づけていく。手天童子とは何者か。鬼とはなにか。少年が戦いののちに見た意外な事実と、鬼の哀しみは、読者をひきつけてやまない。

アモンもこうさん
### キミはデビルマン



恐れ入りました。あなたはデビルマンになれます。しかも、デーモンの中でも最強と恐れられる悪魔、アモンと合体するでしょう。あの、失礼ですがお名前は。ああ、やっぱり不動さんでいらっしゃいますか。そうじゃないかと思いました。う―ん、あなたは今後、悪魔より人間に気をつけたほうがいいですね。たぶん。

たぐいまれな精神力
### ヒンズーの坊さん



まあ坊主でない人に坊主も失礼だが、あなたはたいへん精神力にすぐれ、なおかつデーモンの意識をおさえる強い意思と、善良で純粋な心をもっていらっしゃる。正義を愛する若者でもありますね。デーモンと合体すると戦いがしたくなるから気をつけましょう。それより何より、悪魔特捜隊に気をつけて。

理性がじゃました?
### 合体して死す



あなたはたいへんに理性的でいらっしゃる。だからデーモンが合体すると、体が拒絶反応を起こして死んでしまうでしょう。いや、死ぬなんていうとエンギが悪いが、きわめて人間的で、正義漢でもある、ってことですよ。いいんです、デビルマンなんかになれなくたって。最終戦争の前に、人間の一個人として滅んでいけばいいんです。

キミはキレた男だね
### 悪魔にのっとられる



理性を捨てるのが得意で、我を忘れたりどんちゃん騒ぎしたりするのが好きなきみは、悪魔に合体されれば間違いなくデ―モンになってしまうだろう。デーモンにとって、きみみたいな人間は合体するのに好都合だ。デーモンの世界は闘争の世界だから、弱い者は殺される。今のうちに、体を鍛えておくことも大事だ。武術を習うも吉。

キミはもともと
### デーモンだ!!



この悪魔、デーモンめ！　正体を現したな！　闘争のみを生き甲斐にしているだろう。人間を食ったこともあるだろう（あるんだろう？　吐かないと剣を仕込んだ傘で吐かせるぞー）。自分では悪魔のつもりはないかもしれないが、無意識の悪魔もいる。なにしろ親玉がそうだったからな。いや、間違いない。おまえは悪魔だ。



# 『手天童子』作品解説

## 永井豪と神秘体験

永井豪は、超常現象にとても縁の深いひとである。なにしろお会いした幽霊は二十数人を越えているというし、UFOも目撃しているというし、鬼の夢は毎週見るらしいし、幽体離脱も経験なさっているという。「現代科学で解明できない」といわれる神秘は、たいがい経験しているひとなのである。

『手天童子』の取材のため、飛騨の念興寺に同行された担当編集者、丸茂梓氏は、こう語っていた。「結局、永井先生が、呼んじゃうんですよ。僕は霊感とかないから、幽霊なんか見たことがないけど、永井先生はしょっちゅう見て[illegible]力があるんですよ」

永井豪というマンガ家には、「人知を超えた現象を呼び寄せずにはおかない」力があるのである。

## 鬼に憑かれたマンガ家

永井豪はもともと、なにかに憑依されるようにして描く作家である。マンガを描くときには、ストーリーの展開や伏線などは、ほとんど考えない。頭のなかに映画のように浮かび上がるシーンを、とにかく絵にしていく。ストーリーは、その絵をつむいでいくだけで、できていくという。

『手天童子』を描くときもそうだった。「赤ん坊をくわえた鬼のイメージが、とつぜん空間から見えてきた」ので、「なんだかわからないけどとりあえず絵にしてみた」永井豪はそう語っている。ストーリーではなく、鬼の映像が先にあるのだ。

もともと、『手天童子』は現在見られるような作品になる予定ではなかったらしい。アメリカの『コナン』シリーズのようなヒロイック・ファンタジー、それが『手天童子』を描きはじめる際の、作者の構想だった。

ところが、ストーリーはそのようには展開せず、内へ内へ向かっていく。話は異世界ファンタジーになるどころか、ひとりの人間の精神の内部へ[illegible]





## [illegible]鬼の存在証明

『手天童子』は[illegible]か、という謎[illegible]自分が誰であるかを知らないから、彼は暗黒寺で鬼仏衆と戦い、多くの友をなくし、やがて宇宙を漂う。肉体が未来を漂流することによって、自分がエネルギーのカタマリだということを知るが、もちろんそれで、何がわかったわけでもない。自分が普通の人間とは違うスーパーマンであること。そんなことは、宇宙を漂流することができたとき、すでにわかっていたことだった。むしろ、未来の科学でさえ解き明かせないところに、自分の謎はあるのだ、と知るばかりなのである。

結局、彼は鬼獄界におもむくしかなかった。自分の生まれ故郷であり、鬼が生まれる場所であるそこに行かなければ、彼はすべての謎を、解き明かすことができなかった。

鬼獄界で、彼は知ることになる。自分が、母親の入院する精神病院の壁に描かれた絵＝イメージであること。鬼獄界は、鬼の観念にとらわれた母親のインナースペースが、物象化した世界であること。

読者はここにきて、物語の秘密を知る。それは、自分の尾を噛む蛇・ウロボロスのように、円環をえがいて回帰する物語だ。結果こそが原因であり、原因こそが結果となる物語。それが『手天童子』だ。

[illegible]す鬼を描けば、そういう鬼が鬼獄界に生まれる。童子の筆から、鬼は生まれてくる。逆にいえば、鬼たちは描かれることによって、存在することができるのだ。

たぶん、作品『手天童子』と、永井豪が幻視する鬼の姿も、同じような関係にある。彼が夢に見たり、空間に幻視したりする鬼は、彼の手によって、作品中に埋め込まれていく。

もちろん作者にとっては、夢やイメージが先にあるのだ。しかし、すくなくとも読者であるわれわれにとっては、そうではない。「描かれる」ことによって鬼は存在し、われわれの目の前に姿をあらわすのである。

鬼をはっきりと、ここではないどこかに住む魔物、恐怖の対象として認識し、それを表現にしてみせたのは、永井豪が最初だった。『手天童子』の鬼が、文字どおり鬼気せまるものであるのは、その鬼が、どこかに実在する、本物の鬼であるからである。そして、鬼たちがもつ、どうしようもない哀しみ——彼らは自分の運命を、呪いつづけなければならない——に、読者であるわれわれが同情を禁じ得ないのは、鬼たちがそういうものとして、われわれ日本人の深層に、眠っているものだからだ。

SYUTENDOUJI CHARACTERS NO.001

# 手天童子



## 鬼が連れてきた子供

手天童子郎(ジロー)は、この世に生を受けたときから、数奇な生涯を運命づけられた子供だった。なにしろ、彼は鬼が連れてきた子供なのである。はじめから人間ではなかったのだ。だから彼は、悪魔の体を手に入れた男＝不動明のように、ある日とつぜん豹変したりしない。はじめから異形の者として、ストーリーに登場する。

赤ん坊の姿のまま言葉をしゃべり、影はおそろしい鬼の形をしている。身の回りに怪事件が相次ぐが、決して体に傷を負うことはない。学校では勉強しなくても全科目満点であり、スポーツも万能。そのうえ美少年。彼にほのかな恋心を抱く女の子は多いが、決して近づくことはできない。ニヒリスティックな風貌と性格が、人を近づけないのだ。

いったい、手天童子郎とは何者で、鬼とは何なのか？　鬼はどうして彼をつけねらうのか？　いくつかの謎を主軸に、物語は展開する。

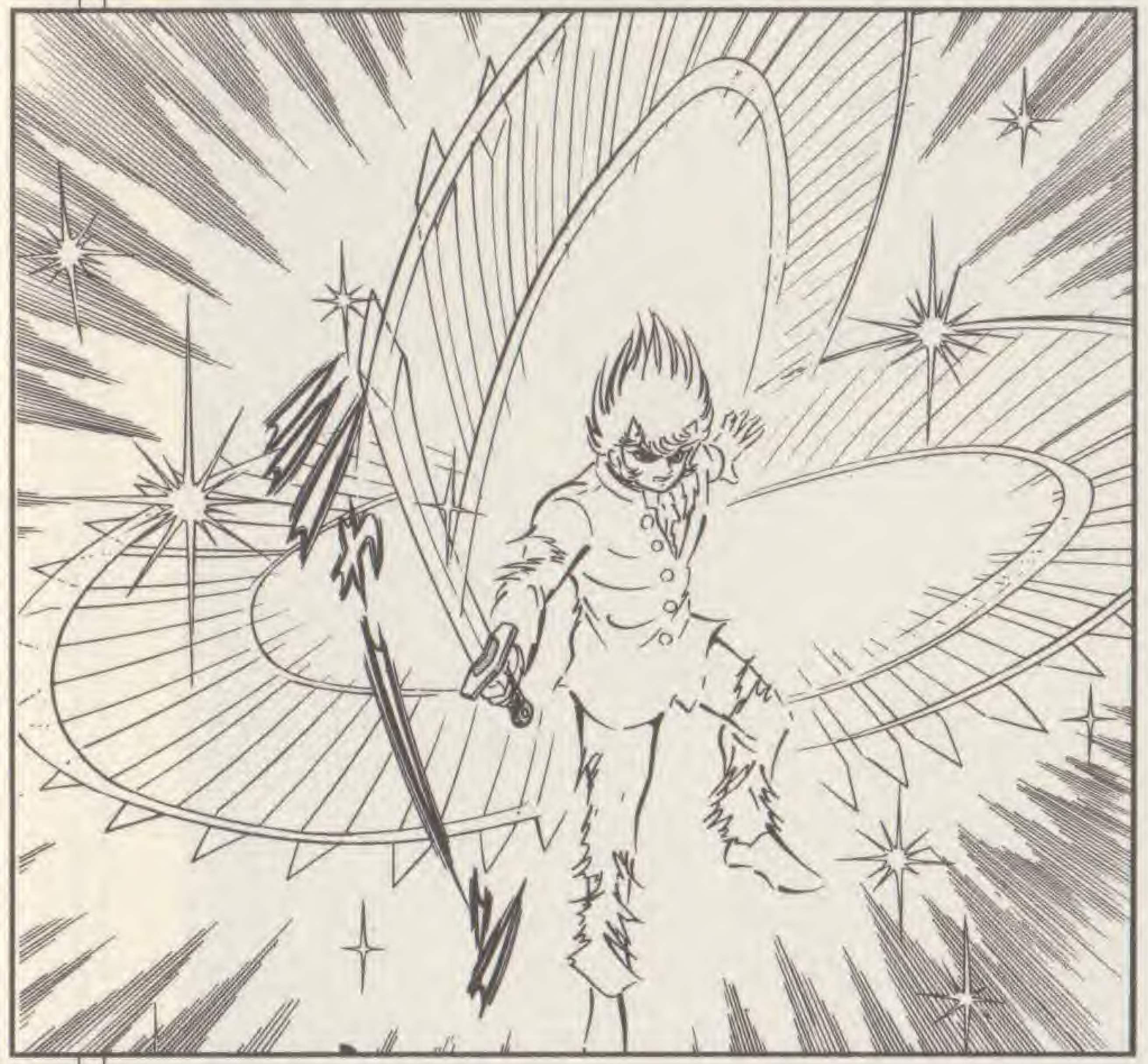




### 子郎と勇介

子郎のはじめての友達、白鳥美雪の兄・勇介。シリアスでペシミスティックなキャラクターの多い『手天童子』の中にあって、ほぼ唯一、笑顔をふりまく男だ。明るく屈託のないこの男も、暗黒寺牙の草原で命を落とす。



### 降魔の利剣

これをふるえば、鬼にたいして無敵。しかし、この剣のでるのが遅かったために、大山直次郎は命を落とした。直次郎死んじゃったじゃねえかよ、だすのがおせえんだよ、というあなたは『あばしり一家』のファンですね。



### 鬼の影

次々と襲う凶事と、それにつき[illegible]を他人から遠ざけていた。トラック[illegible]体を打ちつけても、カスリ傷ひと[illegible]守られている。しかし、それが何[illegible]

### 鬼の角

鬼の世界に帰らねばならない[illegible]れ、子郎は次第に鬼にかわっていく。[illegible]らかになるが、この角は「自分は[illegible]疑惑と不安が生やしたものだった。






## [illegible]金時

[illegible]の世、たまたま熊にでくわし、熊と相撲をとって[illegible]を源頼光に発見された手天童子。武士らしい名[illegible]ということで坂田金時と名付けられ、頼光四天王の[illegible]となる。後の世にいう金太郎とはこの男。

## [illegible]円

[illegible]をこえた長い旅を終え、故郷に帰り父母と再会し[illegible]。もう手天童子郎ではなく、柴子郎なのだ。『手天[illegible]』は奇跡のように美しい終わり方をする。このシー[illegible]を描くとき、永井豪は涙がとまらなかったそうだ。



## 漂流する少年

三次元空間と隣接した空間で、戦鬼・護鬼・美雪とはなればなれになった手天童子は、宇宙空間を漂う。宇宙という、時間も空間も感じられない世界のなかで、手天童子はいつの間にか巨大化していた。





## 意思をもつエネルギー

100年間の漂流の末、調査宇宙船アルファードに出会った手天童子は、22世紀の科学の力によって、はじめて自分の肉体の組成を知る。なんらかの意思によって集合した光エネルギーの集合体。それが手天童子だ。





「手天童子」

## 気味の悪いことが次々に起こるんです

飛騨の念興寺に鬼の首が保存されている話を聞き、永井先生を取材に誘ったのは僕でした。写真を撮って、扉に使えたらいいな、と思っていたんです。ところが、取材の予定日に僕は盲腸になって即日入院、予定を二週間遅らせたんです。そのときから、もうおかしかったんですよね。

寺にあったのは、ガラスケースに入った見事な鬼の頭蓋骨です。頭には、真っ白な角が二本はえていて、とても作り物とは思えない。住職は写真を撮るのを快諾してくれたんですが、以前に写真を撮った鉄道員が家族も巻き込んだ不運に襲われているから、気をつけたほうがいい、といわれました。

で、帰京してから、フィルムを現像にだしたわけなんですが、それがおかしいんです。鬼の写真は全部で十枚ぐらいなんですけれど、その全部に真っ赤な傷が入っている。現像所に問い合わせると、現像済みのフィルムを何百本か一緒につるして運ぶんだけど、そこから一本だけ、外れて落ちたということでした。そういうことはよくあるのかって聞いたら、はじめてだっていう(笑)。しかもね、落ちて傷がついたのは、その念興寺の写真だけなんです。他の何十枚かは無事。

もともと、扉に使うつもりでしたから、トリミングしようとしたんですが、どうやっても、血のような赤いシミがでてしまう。だから、扉に使うのはあきらめました。

永井先生に見せようと思って、ダイナミックプロまで車を走らせたんですが、そしたらあと数百メートルってところで車がエンストしてしまったんです。で、近くのガソリンスタ[illegible]

[illegible]相次いで怪死し、永井先生の家では深夜に位牌が落下し、同行したマネージャー氏の奥さんは階段から落ちて足を捻挫したそうです。ついでにウチの子は高熱だして寝込みました。

もちろん、偶然そういうことが重なった、っていってもおかしくはないんですよ、些細なことばかりで。フィルムはたまたま傷がついたんだし、車はたまたまくたびれていたんだし、犬だってまあ、そのときたまたま死んだともいえる。

で、永井先生がお祓いをしてもらうというので、僕もいっしょに行くことにしました。三十分ぐらいの読経の後、お坊さんがいうには、「普通、このぐらいお経を読むと体が火照って参ります。でも、今日は背筋が寒くなるばかりでした」って。そのフィルムですか？　もちろん、お祓いしてもらった鬼子母神のどこかに、今でもあると思いますよ(笑)。

いやあ、まったく気味の悪い話で。僕、この話をしに、テレビにでたことあるんですよ。この話ばっかりだ、俺は(笑)。



ここで丸茂氏が語られた飛騨の念興寺への取材旅行の顚末は、講談社コミックス『手天童子』の最終巻で作者自身もエッセイにしている。タイトルは『手天童子取材秘話』。

SYUTENDOUJI CHARACTERS NO.002

# 護鬼



## 懐かしい鬼

子郎の身を、あたかも守護霊のようにつかずはなれず守っていたのは護鬼という名の鬼だった。理性的な瞳をもつ護鬼は、なにか懐かしい感じがする。子郎はそう感じた。

本当に危険なときはかならずあらわれて子郎を助ける護鬼だが、逆に本当の危険でなければ、決してあらわれない。「子郎を守る」宿命をもたされた護鬼だが、同時に「子郎を育てる」役割も担っていた。まさに父である。





## 渡辺綱と羅城門の鬼

京の総門・羅城門にて、渡辺綱は女に化けた鬼の腕を斬り落とす。羅城門の鬼・茨木童子の伝説は、護鬼と美雪のコンビネーションによる演出でできたものだった。

平安時代に迷い込んだ護鬼・戦鬼・美雪のトリオは、鬼の伝説を大量に作っている。『手天童子』においては、有名な鬼伝説のほとんどが、手天童子とその眷属が起こした事件とされ、伝説にストーリーがぴたりぴたりと当てはまっていく。



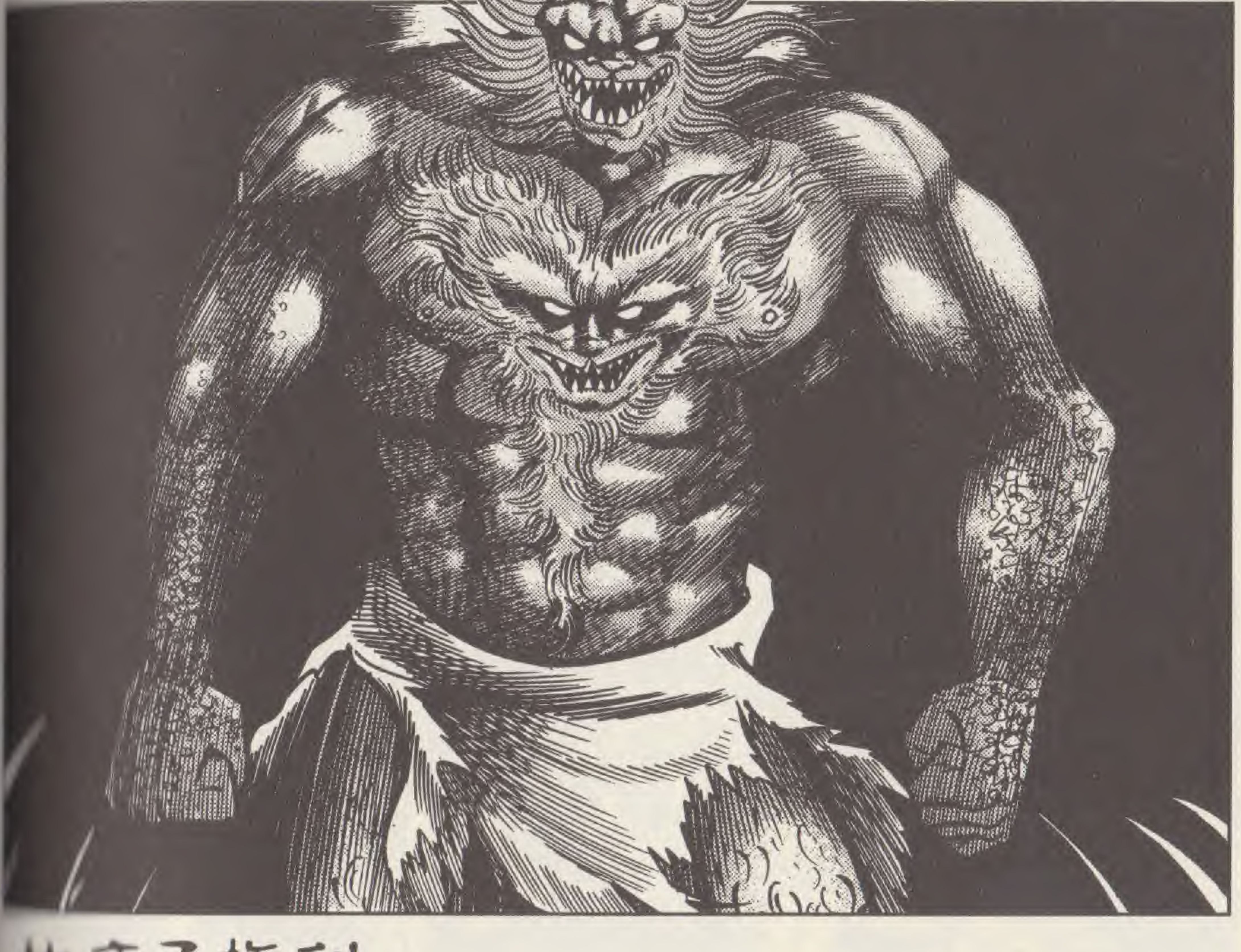
…と戦った少年少女は、みな護鬼の子孫だった。

無双力は『バイオレンスジャック』でもおなじみの怪力娘。ヤクザの息子・大山直次郎は『あばしり一家』出身、相撲部・小谷椰子夫はコヤヤシ少年として、イボ痔小五郎と共に活躍した男だ。梶工作は幻魔衆の能力をもつ。もとは『心霊探偵オカルト団』のキャラだった。



SYUTENDOUJI CHARACTERS NO.003

# 戦鬼



## 生きる権利

護鬼が手天童子を護(まも)る鬼なら、戦鬼はその名のとおり、童子のために戦う鬼である。暗黒寺の決戦では圧倒的強さを発揮し、タイムスリップした平安の世では大江山の酒呑童子(しゅてんどうじ)として、京の町民を震え上がらせた。

戦鬼には印象的なセリフがある。「人のにくしみカラ生まレタ……鬼は……わるい心おそろしい心をモッテいる……シカシ生まれてキタからニハ……生キル権利がアルハズダ……」

たどたどしい言葉で語られるそのセリフは、『デビルマン』のラストにおける飛鳥了のセリフとも通底し、永井豪の思想を物語る。生まれたからには、生きる権利がある。──俺は生まれたくて生まれたんじゃない、だが生きている。自分の意思で自分の心で、必死に生きている──飛鳥了はかつてそういった。恨みの心から生まれた鬼たちも、この後滅亡に向かいつつ、しかし必死に生きていく。

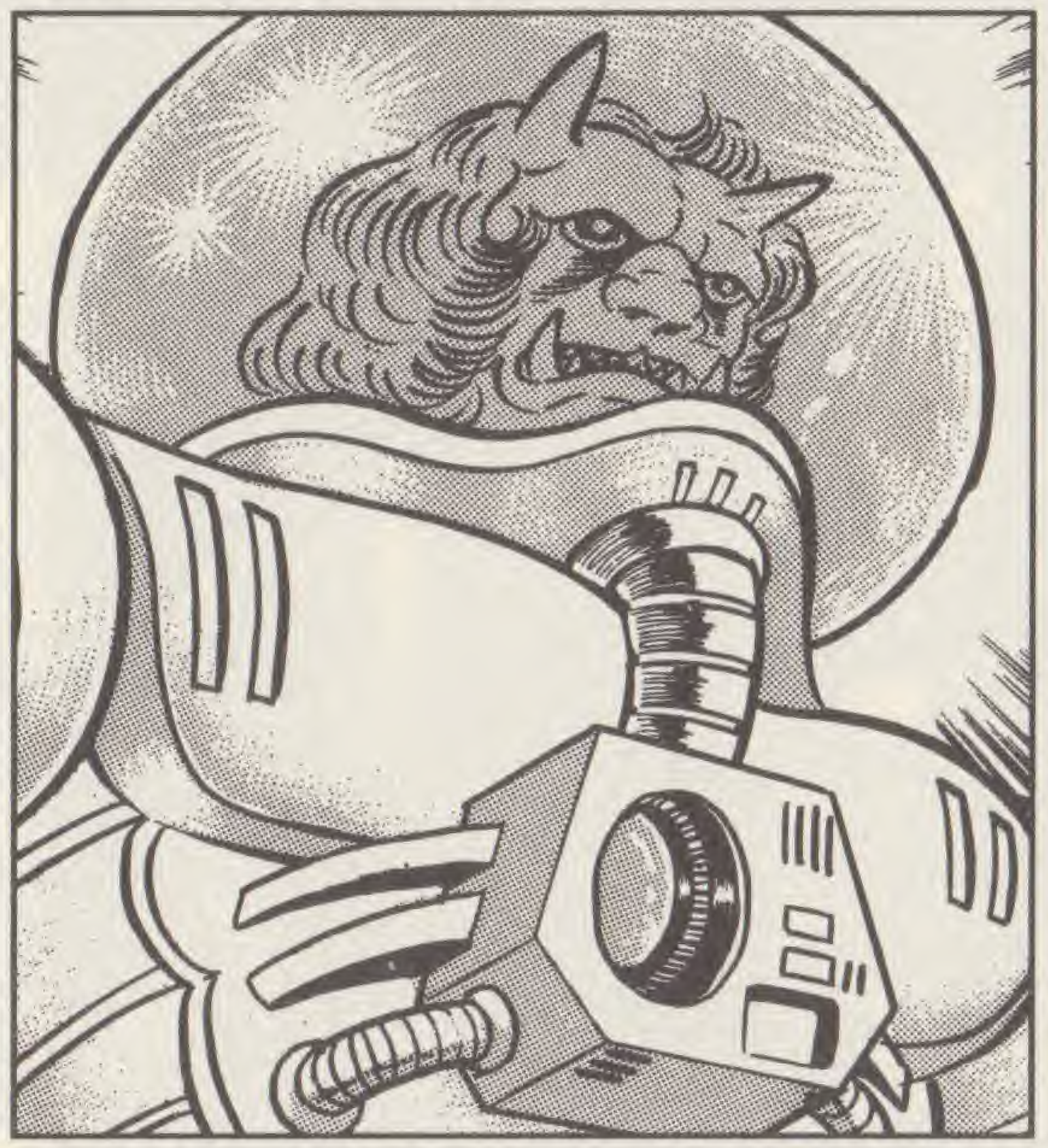




### 戦鬼の子孫

戦鬼が率いた鬼たちの子孫は、やがて文明を築く。しかし、その性質が災いして、結局、彼らは滅ぶのだ。人の恨みの心から生まれた鬼は、ついに最後まで、救われない存在でしかあり得なかった。





### 大江山の酒呑童子

戦鬼の恐ろしい姿は、平安京に[illegible]み込まれた。オオエヤマシュテンドウジ[illegible]の恐ろしい容貌とともに、後世に伝えられ[illegible]日本の伝説に伝わる鬼の原型は、戦鬼[illegible]

COLUMN

### [illegible]愛されない鬼たち

『手天童子』物語の前半において、鬼は明確に人類の敵として姿をあらわす。旧校舎に棲む鬼は手天童子抹殺のため罪なき人を殺す冷酷非情の怪物で、手下の結命党はそこに人間を越えるものの影を見て、畏怖からあがめ、奉っている。

しかし、作品が後半に近づき、手天童子の謎が次第にあきらかになるにつれ、鬼はべつの側面を見せはじめるのだ。鬼獄界において鬼は、お互いに殺し合い、おのれの姿をなげき、おのれの運命を呪う生物として生みだされる。鬼は人間の怨恨が生んだ怪物であり、不幸な存在なのである。

一方、手天童子は当初ペシミスティックなキャラクターとして登場するが、次第にスーパーマンになっていって、最後は無上の幸福を得る。鬼獄界というおなじ環境で生まれながら、手天童子は愛（光と表現される）を、鬼は怨恨（闇と表現される）を体現しているのだ。物語の結末では、手天童子は柴子郎として受け入れられることが語られるけれども、鬼たちはやがて滅び行く存在として描かれる。鬼は結局、所与の運命と性質から逃れられない。また、鬼たちも母親への愛をもっているが、それはいつでも一方通行だ。

柴竜一郎のモノローグ「鬼がかわいそうだ」は、だから、読者の感慨を（たぶん作者の感慨も）代弁している。手天童子は幸福を得ることができるけれども、それは鬼の犠牲の上にあるエゴイスティックな幸福だ。鬼には、ついに救いはもたらされない。鬼が得ることができるのは、シンパシー、ただそれだけなのである。

SYUTENDOUJI CHARACTERS NO.004

# 旧校舎の鬼



## 鬼はコピー能力がある

旧校舎に巣くう不良グループ、結命党。殺人以外の犯罪は何でもやる彼らの、義兄弟的結束の中心にいたのは、鬼だった。鬼は、あらゆる時代、あらゆる場所にもぐりこみ、手天童子を探していたのである。

鬼には、あらゆる生物の姿態を、コピーする能力がある。手天童子郎のクラスメイト・白鳥美雪の姿をコピーした鬼は、子郎を呼びだし、子郎を抹殺しようとした。





### 鬼の手下・2

かつては鬼とよばれし魔物の、時の経過とともに退化した姿。それが妖怪だ。子郎の母に化けた妖怪は、子郎の家庭をそっくりそのまま演出。開かずの冷蔵庫に閉じ込められた恋人、のイメージは鮮烈。





### 鬼の能力

この両生類ふうの動物は、[illegible]これを人間の体に埋め込み、[illegible]きる。種村先生の肉体にこれを[illegible]人質にとり、子郎をおびきよせる。

### 鬼の手下・1

鬼の想念がつくりあげた[illegible]効かないそこで、手天童子は[illegible]じめの敵は擬似タイムスリップを[illegible]B29に化ける妖怪だった。






### 鬼の手下・3

亜空間にあらわれた3番目の妖怪は、1、2番目のそれと違い、トリックでなく力で押すタイプ。知性はないが性質は鬼と同じ。ここではじめて護鬼が登場し、子郎を守る。旧校舎の鬼もまた、護鬼によって成敗された。

SYUTENDOUJI CHARACTERS NO.005

# 魔導師・鬼谷妖次郎



## 魔導四天王の一

邪教・暗黒邪神教において、魔邪利に次ぐ地位にあたる魔導師は、全部で4人いる。鬼聞天・鬼目天・鬼長天・鬼国天、4人合わせて魔導四天王だ（知ってる人には蛇足になるかもしれないが、このネーミングはそれぞれ仏教の四天王、多聞天、広目天、増長天、持国天からきている。像を見ると、みな鬼を踏んづけている）。

鬼谷はこのうち鬼聞天にあたり、争魔衆と幻魔衆を統括する立場にある。





### 魔動鬼

鬼谷がペットのごとく手なずける鬼、魔動鬼。若い人間の肉を好んで食う。くわえているのは大山直次郎の手。手天童子の降魔の利剣によって斬り捨てられた。直次郎はサイボーグじゃねえのかよ、ってそれは別の作品です。





### 鬼の影をもつ教師

鬼谷がふともらす「この影をかくすためにずいぶんつらい思いをした」というあたりに、[illegible]りきれないところがでている。[illegible]人間として生活してきた人たちなのだ。

## 『あばしり一家』

『手天童子』における鬼獄界とは、ひとりの少年のインナースペースだった。では、永井豪のインナースペースとは？

絶頂期の永井豪が、みずからの内面世界を惜しげもなく開示してる作品、それが『あばしり一家』だ。なにしろ、この作品では、なにをやってもよかった。まず、キャラクターが立ちまくっている。あばしり一家には、超能力者もサイボーグも、チカンも爆弾小僧もいるのだ。そして、紅一点の菊ちゃんは毎回、脱ぐ。ね、何がでるかわからないでしょ？

ヤクザ風の出入りにはじまり、マカロニ・ウェスタン、ホラー、ターザンごっこ、半魚人と格闘。果ては精神世界探訪まで。あばしり一家は、なんでもやった。まるでオモチャ箱をひっくりかえしたときのように、ゴチャゴチャいろいろ入っていた。光る物もあれば、そうでない物もある。しかし、それらぜんぶひっくるめて、猥雑混沌とした、永井豪の無意識の沃野なんだ、ってことはビシビシ伝わってくる。



数ある作品の中でも、永井豪の奔放なイマジネーションがいちばんヴィヴィッドに伝わってくるのが『あばしり一家』。一家のフォーマットがそれを可能にしたのだ。

SYUTENDOUJI CHARACTERS NO.006

# 鬼仏衆





[illegible]坊苦海

[illegible]もって生まれてきた男。争魔衆のなかでもリ[illegible]にあり、牙の草原では手天童子と死闘を[illegible]。この戦いを岩陰で見ていた邪腕坊の息子[illegible]アイアンカイザーとなる。



[illegible]の森

[illegible]による精神攻撃を得意とする。森にかく[illegible]幻魔衆は、まるでだまし絵のような攻撃を[illegible]。ほかに、相手の弱点を見抜きそれを見せる(リ[illegible]蛇攻撃) などがある。

争魔衆と幻魔衆

争魔衆は鬼の肉体を受け継いで生まれた者であり、その闘争力は人類史上に現れた豪傑をはるかにしのぐ。鬼の腕をもって生まれた者、鬼の足をもって生まれた者、様々いる。あるロボットマニアの男は争魔衆がそれぞれ体の一部を肥大化させているので、「合体して鬼になるんじゃないか」と期待したそうだがそんなことはない。

幻魔衆は鬼の精神力を受け継いで生まれた者、いわゆる超能力者である。





SYUTENDOUJI CHARACTERS NO.007

# 魔邪利妖念



火竜

妖念が戦鬼と戦うため、異世界から呼び寄せた魔の獣。しかし、こいつも戦鬼の敵ではなかった。その名のとおりからだ全体を炎につつまれた竜。『新デビルマン』にもこんなのいたなあ、と気づくあなたはマニアです。



最期に知る真実

大暗黒死夜邪来の像と、手天童子郎の母親・柴京子がまったくウリふたつであることに、妖念は気づいた。最期のセリフは「なぜだ……わからぬ」。このとき、妖念は真実にいちばん近いところにいた。



邪神教宗主

暗黒邪神教の宗主であり、[illegible]邪利(仏教の阿闍梨(あじゃり)のもじり)[illegible]それだけの妖能力をもつ者である。[illegible]暗黒邪神教そのものが超能力者の[illegible]れども、その中でも最高の力を[illegible]

十字架に白鳥美雪と柴京子を[illegible]っ飛ばすと思えば、鉄球を自在に操[illegible]をする。異世界から戦鬼撃退用に[illegible]寄せる。童子の眷属、最後のひと[illegible]ーはこの妖念との戦いで命を落とした。

SYUTENDOUJI CHARACTERS NO.008

# 暗黒邪神教




## 大暗黒死夜邪来

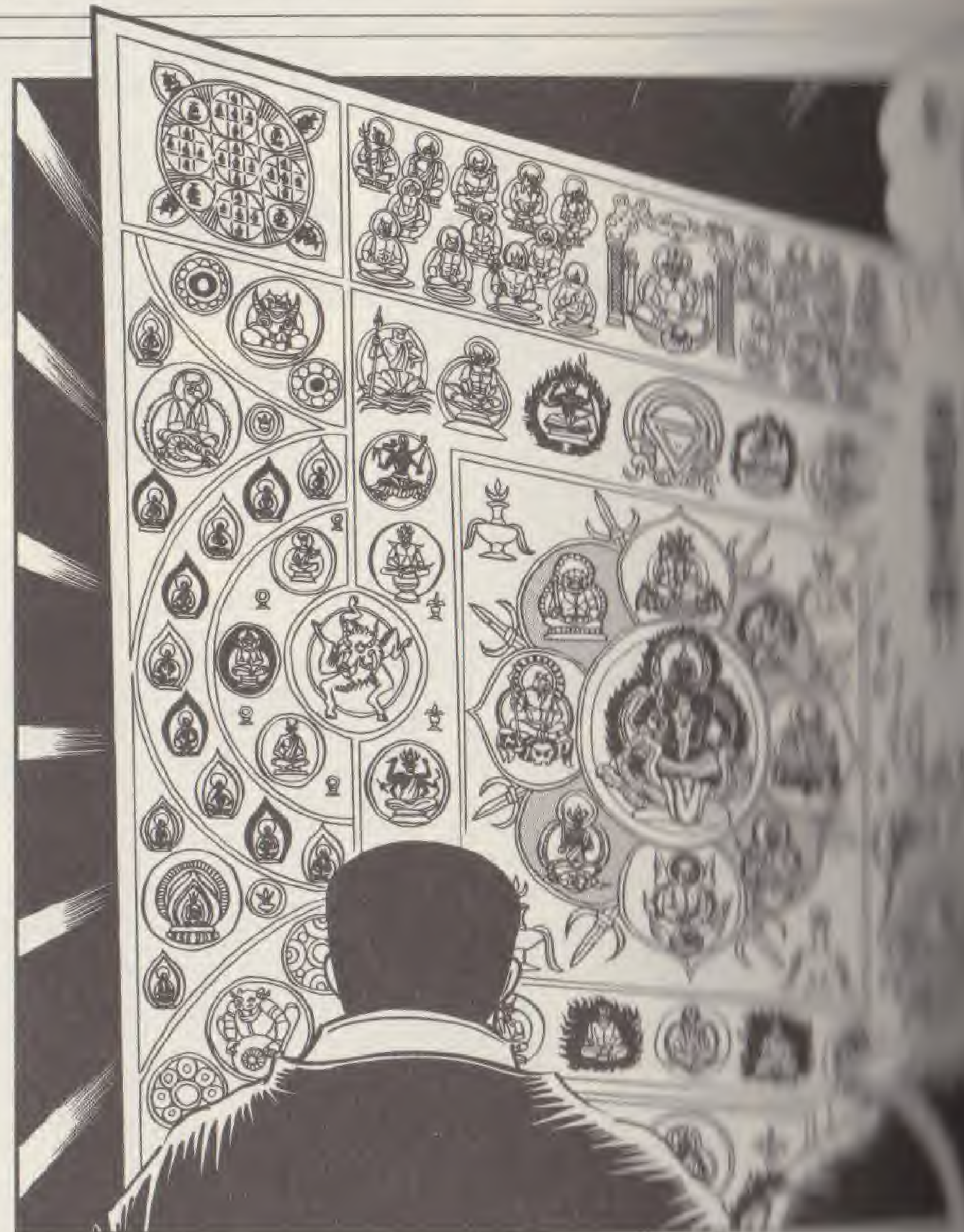
暗黒邪神教本尊。像の頂点には、柴京子の顔が描かれている。作者はこれを連載のかなり早い時期に描いているが、結末はまったく考えていなかったそうだ。

柴竜一郎のセリフ「わからない、なにもわかっていないんだ……正義がなにかも……悪がなにかも……」に見られるとおり、暗黒邪神教は、無条件に悪とはいえないところがある。もちろん、「人々を悪徳に導く教え」と説明はされているが、それが具体的に、人々にどんな悪影響を及ぼすのかはほとんど語られない。彼らはあくまで、子郎だけをにくみ、子郎だけを攻撃目標として襲ってくるのだ。アイアンカイザーの家庭像にしても、それは愛に溢れたものであって、断じて悪徳にまみれてはいない。

暗黒邪神教は鬼の子孫の集まりだとされるが、作品の中で鬼が不幸な存在である以上、彼らもまた、不幸な存在であることから逃れられないのである。





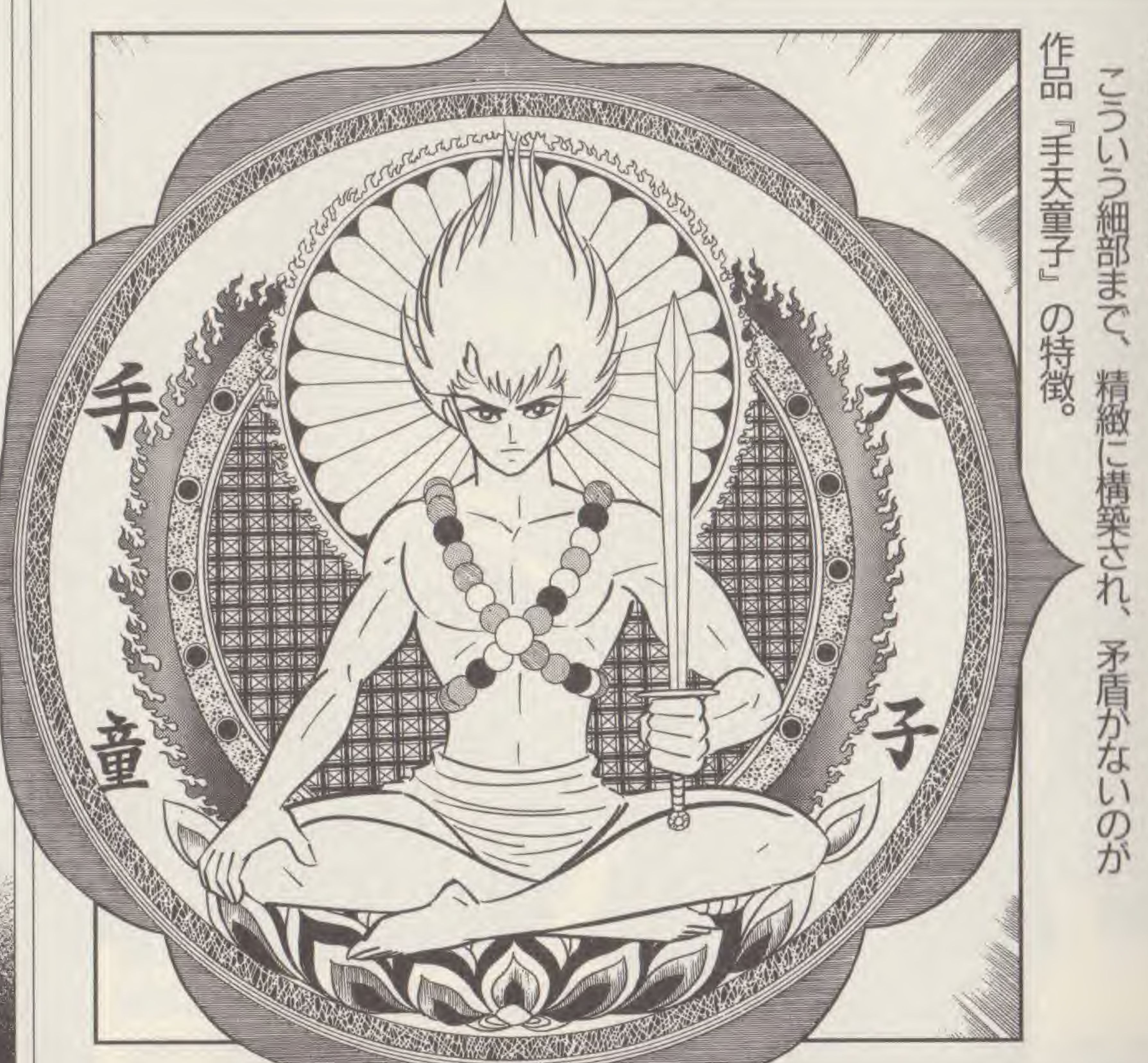


## 鬼獄曼荼羅

暗黒の宇宙・鬼獄界の真理を説く秘図。中央には大暗黒死夜邪来が描かれている。「鬼獄界は邪来さまの作りたもうたもの」として、邪神教の信者はずっと、この曼荼羅を信仰してきた。しかし、その一角にかならず手天童子が現れる。何度消しても、鬼獄界を滅ぼすものとして現れる。だから邪神教の信者は、手天童子を亡きものにしようとする。

[illegible]（＝柴京子のインナースペース）の意思であるから、当然のことなのである。

こういう細部まで、精緻に構築され、矛盾かないのが作品『手天童子』の特徴。



# 手天童子 暗黒寺決戦絵巻

Topic

『手天童子』前半のクライマックス、暗黒寺決戦。童子たちの戦いの全貌を、徹底図解！

画・松本圭司




**1暗黒寺山前の道路**
地面から伸びる争魔衆の腕が、子郎たちの乗る自動車を持ち上げる。戦いのはじまりだ。

**水軍の川**
と思えばそこに突然川が現 水軍が襲いかかる。幻魔衆と プレイ。

**3幻魔の森**
幻魔衆が見せる、森の迷宮。どこに本体があるのかわからない。幻魔の能力をもつ、梶工作が活躍。

**4牙の草原**
100人の争魔衆が手天童子一行を襲う。未来のアイアンカイザーは、ここで父の戦いを見ていた。

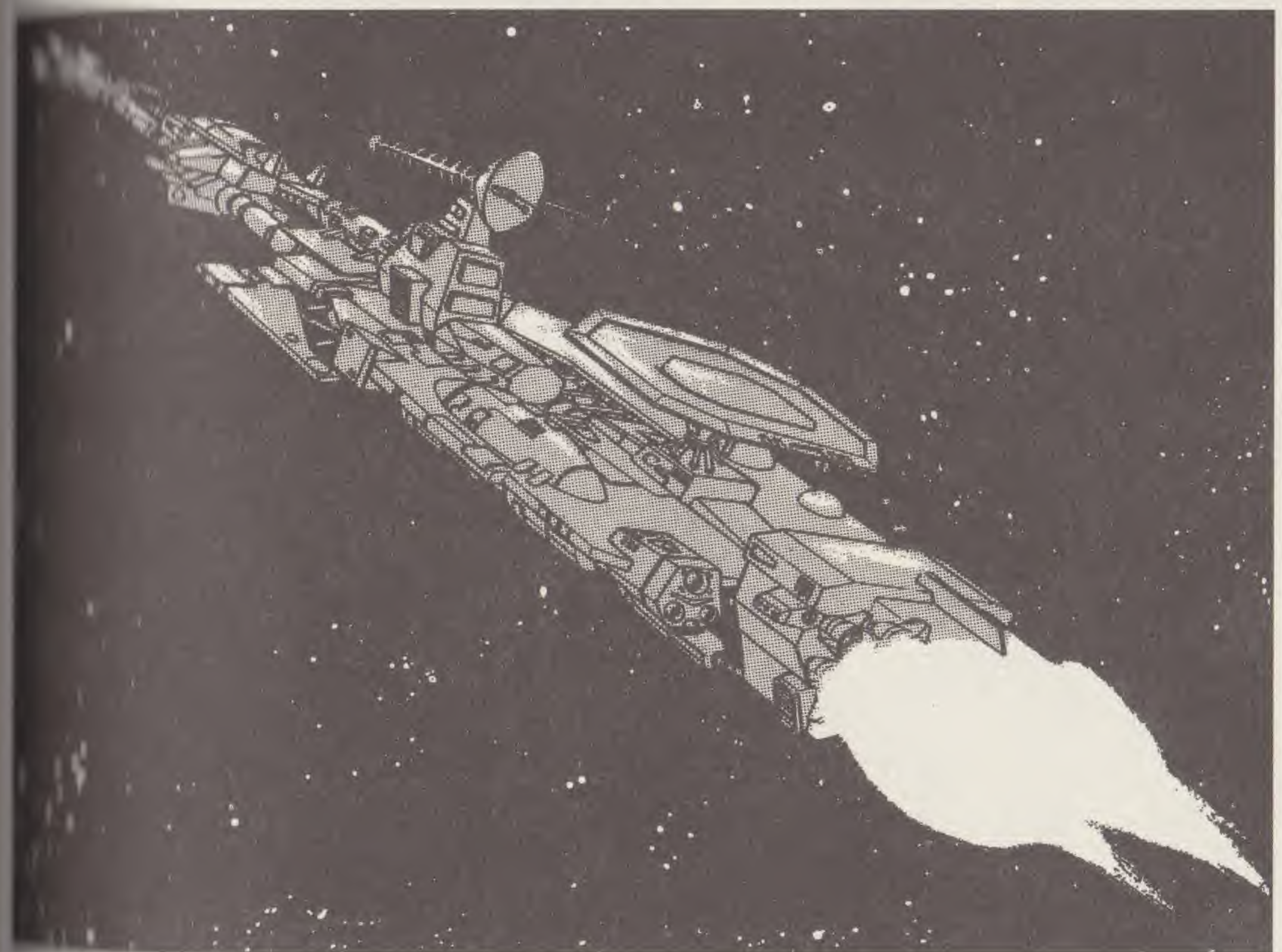
**5仙岩鬼**
岩の洞穴か、と思って入ったそれが鬼の体内。童子たちは一度は溶けるが、カラクリに気づいて脱出。

**6暗黒寺境内**
本堂前の道沿いにならぶ鬼岩が突然浮遊し、魔導四天王が登場。現れた戦鬼が童子を助ける。

**7暗黒寺本堂**
敵は魔邪利妖 火竜が現れ、 鉄球でリッキー

SYUTENDOUJI CHARACTERS NO.009

# 宇宙船アルファード



## 未来のスーパーメカ

『手天童子』未来編において、手天童子が出会う調査宇宙船アルファードおよびその艦載機、乗組員の特殊装備、スペースポートなどは、日本SFビジュアルの草分け、スタジオぬえのデザイン協力によるものである（ぬえはその後、『超時空要塞マクロス』や『聖戦士ダンバイン』でブレイクする）。現在の目で見れば、多少古色蒼然としたところはあるけれども、当時のSFメカニックの平均水準においては、おそらく群を抜いて精緻だったにちがいない。スタジオぬえは、同時期の永井作品『スペオペ宙学』や石川賢『サザンクロスキッド』などにもデザイン協力をしている。

アルファードのもうひとつの楽しみは、『手天童子』連載開始の同年まで「少年サンデー」に掲載されていた『おいら女蛮』の主人公女蛮子（すけばんじ）ほか、多くの永井キャラが搭乗していることだろう。







### ペーター・ペッカー

女蛮子の子分、三下くん。『おいら女蛮』のキャラたちは、みなアイアンカイザーの攻撃で命を落とすことになる。

### トコロフ・ヤッコラスキー

ご存じ、作者の化身・炎天下冷奴。この名前はロシア人だということか？ 「さいでガース」の語り口は本作でも健在。





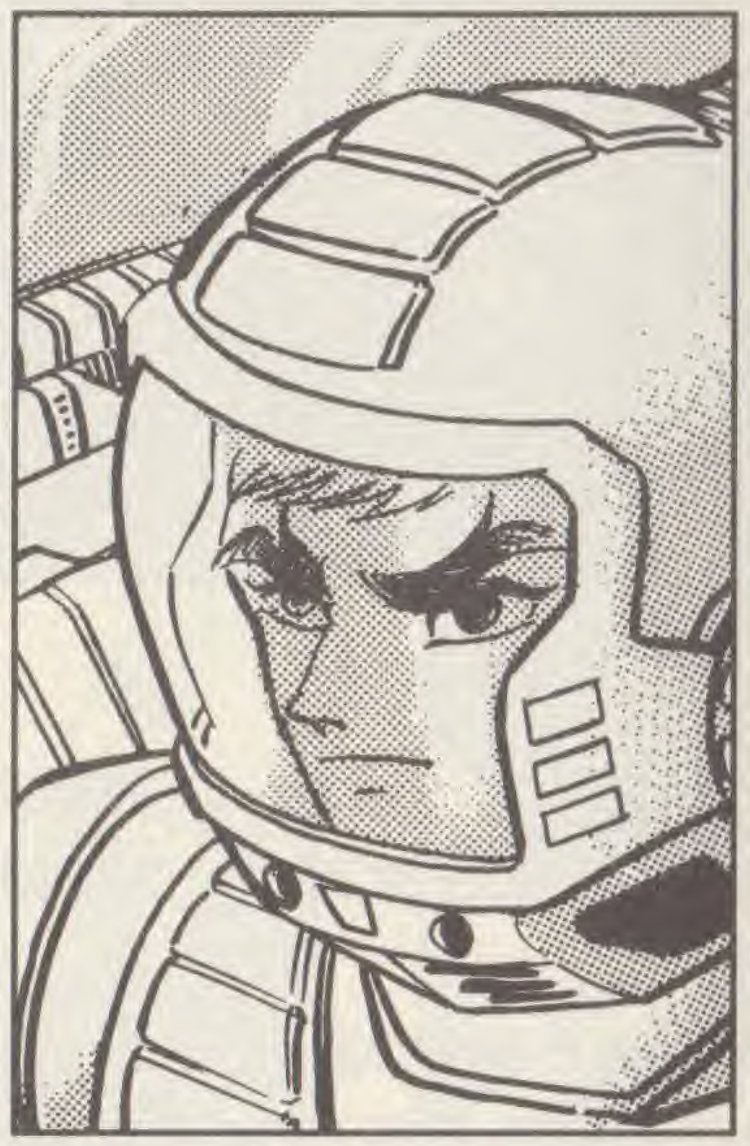
### 女蛮子

『おいら女蛮』の[illegible]ドな主人公は、アル[illegible]理テストの材料[illegible]いる。

### サイボーグ戦士

スペクターザウルス。ここでサイボーグを登場させることが、のちに登場するアイアンカイザーの伏線となっている。





### デューク・フリード

『グレンダイザー』の宇門大介。当時はアニメも記憶に新しかった。『マジンサーガ』での階級は大尉だが、ここでは少尉。

### ラン・オット[illegible]

いうまでもな[illegible]女蛮』のヒロイ[illegible]とこ）。成長した[illegible]『手天童子』の[illegible]



SYUTENDOUJI CHARACTERS NO.010

# アイアンカイザー




## 手天童子を殺せ！

22世紀最強のサイボーグ戦士、アイアンカイザーは、争魔衆・邪腕坊苦海の息子である。争魔衆であった母の予言を信じ、父の仇を討つため、128年のあいだ、手天童子がやってくるのを待っていた。

「命をかけて手天童子を殺せ」という母の遺言をかたくなに思い続けたアイアンカイザーは、体のほとんどを兵器にかえた。彼は異星人による地球侵略をくいとめた英雄であり、富も栄誉も手にしていたが、それは目的ではなく手段にすぎなかった。いつか目の前に姿を現すであろう手天童子を、この世から亡きものにする。そのためだけに、彼は英雄になったのだ。英雄になることで、みずからの肉体を22世紀の科学力のすべてを結集した兵器にかえることが可能になる。手天童子を倒す力をもつことができる。アイアンカイザーにとって、宿敵手天童子とは、生き甲斐そのものでもあったのである。



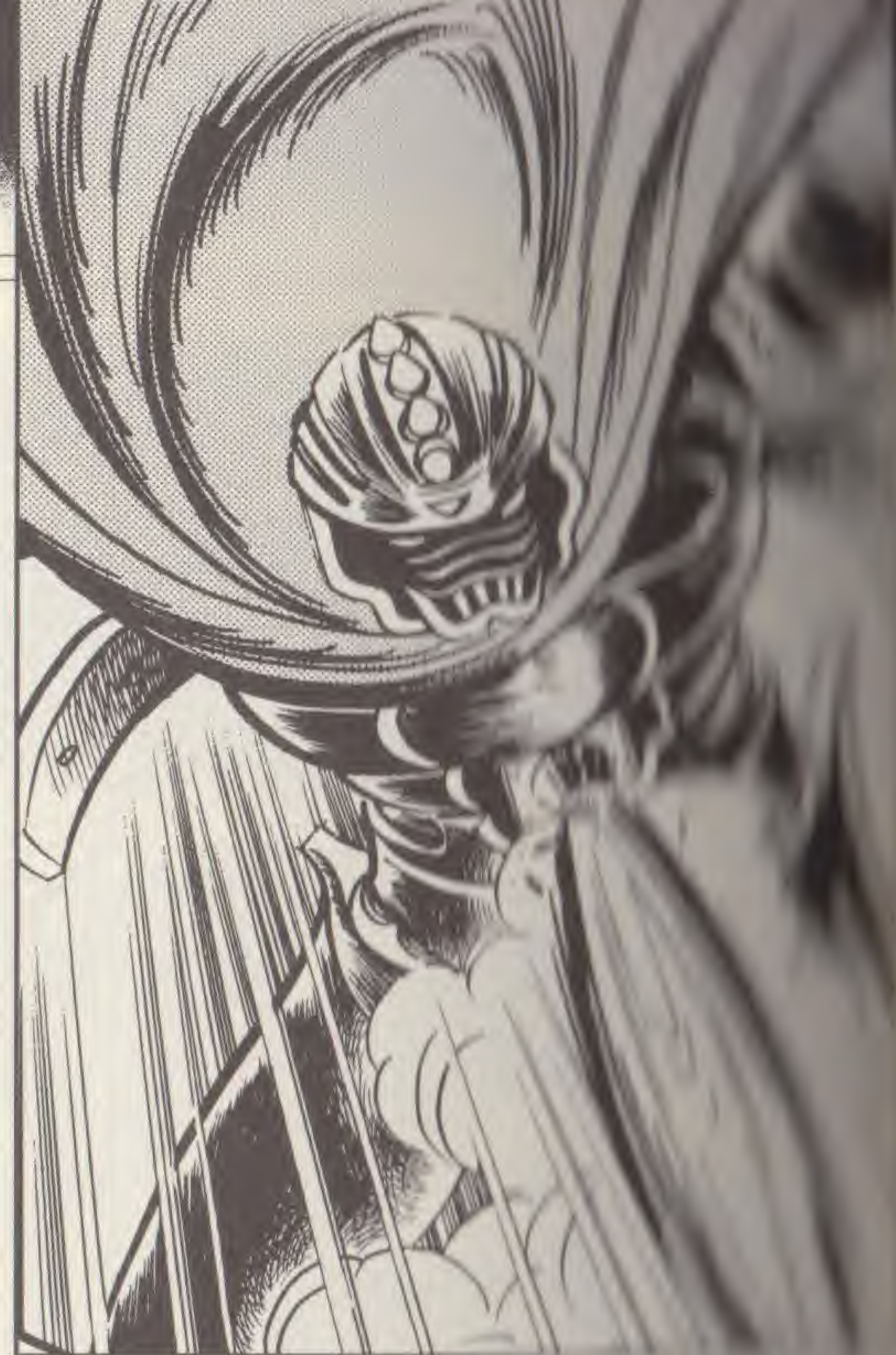


### 大江山の鬼の首

大江山酒呑童子の首を斬り落とすと、首が天空を舞った、というエピソードは、不完全なタイムマシンに乗ることで体組織がかわり、鬼の首の形をあらわしたアイアンカイザーからできたものだった。





### 核爆弾の発射

アイアンカイザーはすべての物質を[illegible]し、体内に取り入れることができる。[illegible]み替えで体内で水爆さえ製造できる（[illegible]置！）。

### 高密度重力球

体内で物質を構成できるアイアンカイザー[illegible]りも密度の高い物質を構成することに[illegible]ものを吸い寄せることができる。[illegible]ールを造っているのだ。




### 父の思い出

宿敵・手天童子についに相まみえた。時空を超えても戦うことができた。その思いが、カイザーに涙を流させる。涙の一粒一粒に、彼の人生が映される。優しかった父との思い出は、ひときわ美しく光る。

SYUTENDOUJI CHARACTERS NO.011

# 鬼獄界



## うらみの心が鬼獄界をつくる

鬼に我が子を奪われた母親の怨嗟の念。それが、鬼獄界をつくりだしていた。そこは、時間もなく因果律もなく、ただ結果のみがある世界である。鬼獄界に生まれる鬼は、自分がどこから来たかを知らず、誰であるかも知らない。ただ、凶暴な性質のみを与えられ、永遠に殺し合う運命を背負い、とつぜん生まれてくる。

『手天童子』において、われわれの世界の常識的な時間概念は、完全に解体されている。未来に起こるできごとが原因となって、現在を決定することもあり得るし、現在起こっていることが、過去を決定することもまた、あり得るのだ。

手天童子はそのようにして鬼獄界に生まれ、この世に運ばれてきた。だから彼は自分自身を知らない。生まれた15年後に、彼は鬼獄界に向けて旅立つが、それは「自分探しの旅」であり、それを経て彼が手にいれるのは両親の子である証だった。








## 邪来の正体

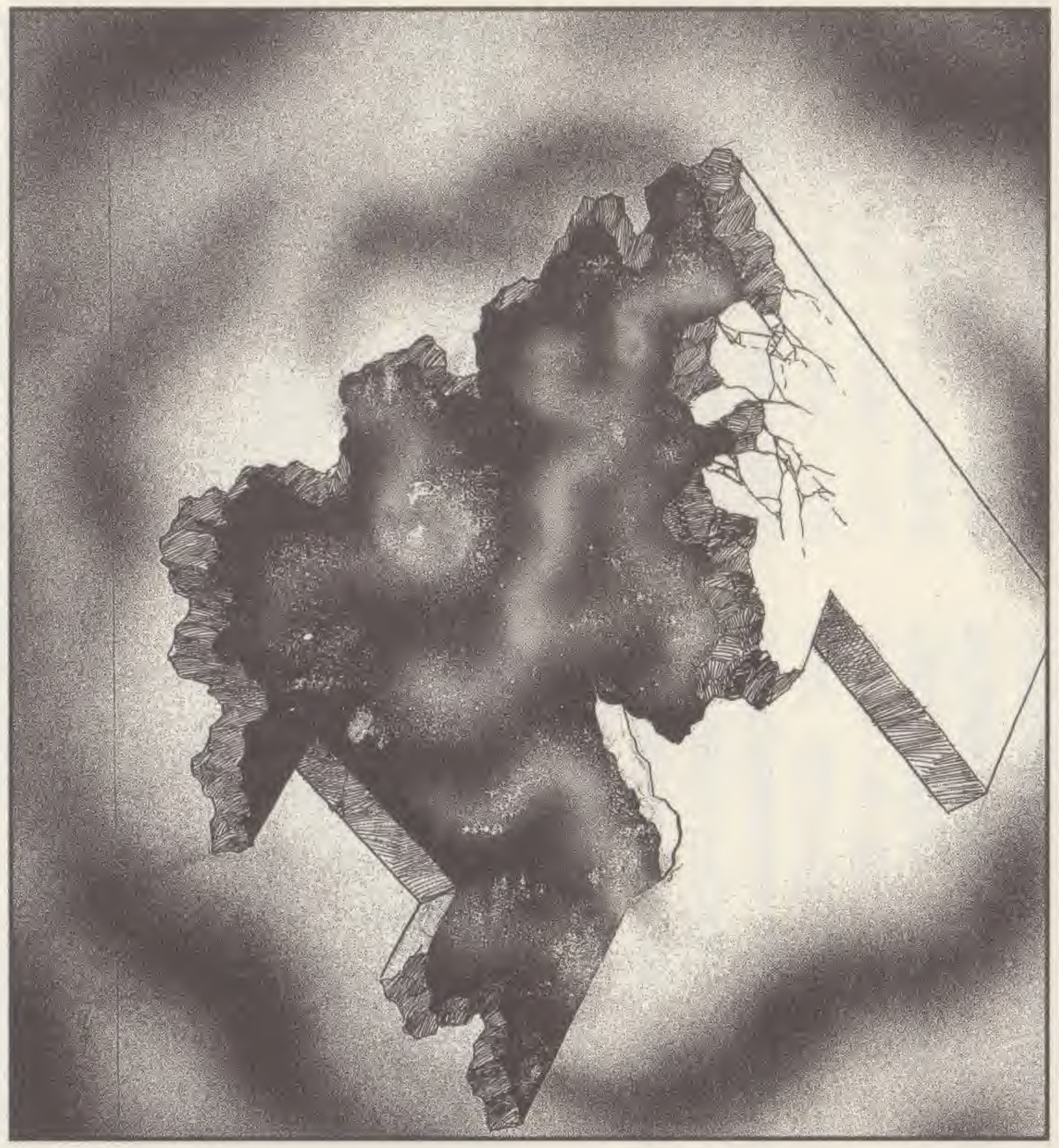
柴京子が病室の壁＝鬼獄界に描きくわえた自画像。これが、大暗黒死夜邪来である。京子はこの像を、「子郎をここで待つ」つもりで描いた。

手天童子郎とは、父・柴竜一郎がやはり病室の壁に描いた絵だが、これが朝日のあたる壁、すなわち鬼や京子の自画像とは反対側の壁に描かれたため、物理的な距離ができてしまい、子郎は直接会いにいかなければ、母親と再会できなかったのだ。

[illegible]

[illegible]片にすぎなかったのだ。手天童子が訪れたとき（すなわち、鬼獄界の最終形態だ）には、このとおり三面の壁ができあがっていた。

壁の外側はまさに壁、何もなく、鬼たちはすべて、内側に生まれ内側に住む。



COLUMN

# 鬼の事典Ⅰ

平安時代の闇の中を闊歩した異形の鬼たち。ある者は娘をさらって肉を食らい、ある者は朝廷の命を受けて鬼退治にきた討伐軍と戦う。桃太郎伝説が語る鬼の真実とは何だったのか。

## ●鬼の民俗学

日本の仏教や修験道において、キリスト教系の悪魔に相当するのが鬼である。広い意味での鬼は、その出身によっていくつかのグループに分類できる。

第一は、『桃太郎』とか『一寸法師』など昔話に登場する鬼で、『瓜子姫』の天邪鬼や『安達ケ原の鬼婆』『鬼無里伝説』『鬼女紅葉』といった鬼女を含む。身近なところでは、行事化したナマハゲや節分の鬼がいる。

第二は、外来の仏教が持ち込んだ鬼で、羅刹、阿修羅、夜叉、般若、護法童子などがある。こ[illegible]たほうがいい。役目は違うが、地獄の獄卒、餓鬼、牛頭・馬頭も同じ系統だ。

第三は、かつて大和民族がこの国を支配する過程で、激しく抵抗した異民族や、その神々を鬼としてあつかったもの。機内の土蜘蛛をはじめ、蝦夷の悪路王、常陸の国の夜刀の神、飛騨地方の両面宿儺、岡山地方の温羅が代表格である。

元々、鬼という字は中国人が魂をもたない死者の意味でつかっていた。その鬼の字を輸入した日本では、邪念を具現化した物の怪を指すようになる。

実は、鬼に関係した一番古い[illegible]よくして衆を惑わしたとある。

鬼を自分の意のままに操ったり、使役したりする能力は卑弥呼の専売特許ではない。後の世には、修験道の役行者や天台宗の相応、円空寺の性空など多くの鬼神使いが登場している。

日本側の資料でもっとも古いのは、8世紀に完成した『日本書紀』で、遠くの山上から斉明天皇（37代）の葬儀の様子を眺める鬼の話が出てくる。斉明天皇は大化の改新の主役である中大兄皇子の母で、35代の皇極天皇でもあった。

同じ8世紀の『出雲風土記』には、目が一つしかない鬼がやってきて、田を耕していた農夫を食った話がある。民俗学の大家である柳田国男は、一つ目の鬼について、祭りのときに神に片目を捧げた生け贄ではないかと論じたという。

また、「今は昔」の書き出しで有名な『今昔物語』には、朝廷の中で大臣を食ったとか、鬼が弟に化けて兄を殺したとか、山[illegible]在の人物が鬼に遭遇した話まで登場する。

在原業平は右近衛中将の肩書をもっていて、歌人としての評価も高いが、美男子で女好きだったことでもよく知られている。この伝説のプレイボーイが宮中からさらってきた女を、魔性の力をもつ鬼が食ってしまったというのである。

基本的に、人に災いをもたらす鬼は身近な人に化けるか、姿を見えなくして(隠形)近づき、相手が油断したところを食うようだ。時代や地方を問わず、このパターンは変わらない。

『日本霊異記』にも婿に迎えた男が鬼で、初夜の晩に大事な娘を食われた老夫婦の話がある。老夫婦は隣の部屋にいながら、[illegible]



## ●桃太郎伝説

日本人なら誰でも知っている桃太郎の鬼退治。腰につけたキビ団子を与えて、猿や犬や雉を家来にした桃太郎は、邪悪な鬼ケ島に乗り込んでいく痛快な勧善懲悪の物語だ。

この鬼ケ島は古来より、岡山(吉備の国)の沖合いに浮かぶ女木島だといわれている。では、悪さをしては人々を困らせていた鬼の正体は……。一説には、吉備津神社に伝わる「釜鳴神事」の由来ともなった温羅だという。

温羅は百済の亡命王子だが、身の丈は4メートルを超え、真っ赤に燃えた髪の中には角があり、目の玉は虎そっくりで牙は狼のようだった。どういうわけか、温羅は日本にきてから凶暴になって、村々を襲っては女をさらったりしていた。

何しろ、この温羅は見かけもごついが、その能力がまたすごい。口から火を吹いて岩を溶かし、必要なら獣や鳥に変身する[illegible]軍を率いて退治してきたのが、桃太郎の原形である吉備津彦だった。

吉備津彦はさっそく温羅の本拠めがけて攻め入った。彼の選んだ作戦は、当時の最先端兵器である弓隊の一斉射撃だ。しかし、吉備津彦の軍が放った矢は、空中でことごとく温羅軍の射た矢が撃ち落としてしまう。

その命中精度は、米軍のパトリオット・ミサイルも驚くほどの高さである。困り果てた吉備津彦の前に登場したのは、住吉大明神の化身だった。

住吉大明神は2本の矢を同時に放てば、1本は撃ち落とされても、もう一本が敵に当たることを教えた。今でいう多弾頭ミサイルである。吉備津彦が教えを守ったところ、みごとに矢は温羅の左目を貫いた。

目の傷から流れた血は、真っ赤な川になったという。吉備津彦は逃げていく温羅を捕らえ[illegible]神社の下に穴を掘って埋めたが、やっぱり地面の中から温羅の恨みの声が聞こえてくる。

そして、吉備津彦が鬼退治をしてから13年目に、温羅の亡霊が夢に出てきて、一つの妥協案を告げた。自分の首の上にある吉備津神社で、妻の阿曾女が釜殿の湯を沸かすなら、今後はおとなしくするというのだ。

このとき、温羅の魂鎮めに使った釜は、今でも吉備津神社の「釜鳴神事」で占いに用いられている。世の中に凶事があると釜は激しく沸騰し、反対によいこ[illegible]の中で、難破した異人こそ鬼であるとしたが、根拠がまったくないわけではない。

まず、鬼の身体的な特徴といえば、体の大きさや角はともかく、赤や青の肌にチリチリの縮れ毛である。昔の日本人が見たら、西洋人は鬼そのものに違いない。

実は、鬼＝異民族説を考える場合、もう一つの着目すべき点がある。それは、鬼が身につけている虎のふんどしだ。

農耕民族である日本人は、毛皮を日常的に着る習慣がない。




[illegible]『鬼の日本史』（上下）彩流社　沢史生　『鬼の伝説』集英社　邦光史郎　『妖怪学新考』小学館　小松和彦　『妖怪の民俗学』
[illegible]『日本妖怪異聞録』小学館　小松和彦　『図説日本の妖怪』河出書房新社　岩井宏實＝監修　近藤雅樹＝編　『超常科
[illegible]小学館　秘教科学研究会　『日本の神々の事典』学研　園田稔　茂木栄　『八百万の神々』新紀元社　戸部民夫　『神々と世
[illegible]東洋編』学研　『修験道の本』学研　『今昔物語』福永武彦＝訳　河出書房新社

しかし、鬼の正体が防寒用の毛皮を必要とするツングース系の異人なら何の無理もない。

津軽半島や北海道の人々が、その昔、ロシアの極東地域との間に、交易ルートをもっていたのは常識である。

おそらく当時は日本全国に鬼（異民族）の一団がいて、朝廷から討伐を命じられた将軍がたくさんいたのではないか。そういう意味で、桃太郎は一人ではなかったのである。

## ●酒呑童子

平安時代、大江山を根城にした酒呑童子が、京の都をさんざん騒がしたことは、『宇治拾遺』『今昔物語』『大江山酒呑童子絵巻』『古今著聞集』など多くの資料に出てくる。

『前太平記』によれば、酒呑童子は越後の出身で、母の胎内に16か月もいたという異形の子だった。その並はずれた容姿や能力のため、両親に捨てられた酒呑童子は比叡山で出家するが、最澄によって追放処分を受ける。

別の資料では、最澄ではなく真言宗の空海が追放したことになっている。どちらにしても、大した違いはない。とにかく酒呑童子は子分の鬼を集め、大江山（場所は二説あり）に籠もって悪事を働くことになった。この場合は鬼といっても、一種の盗賊団と考えたほうがいい。

我々にとって馴染み深いのは、室町時代から江戸時代にかけて、四百もの話を集めた『お伽草子』の中にある源頼光と四天王の鬼退治だろう。

源頼光はギリシャ神話の英雄にも匹敵する化け物退治の第一人者である。その頼光の元に、天皇から酒呑童子を討伐するよう勅命が下った。さっそく頼光は家来の四天王に、豪力の藤原保昌を加えた6人で、酒呑童子のいる大江山に向かった。

四天王とは渡辺綱を筆頭に、坂田金時、碓井貞光、卜部季武といった面々で、頼光や保昌には劣るものの、いずれも一騎当千の武人たちだった。

途中、一行は3人の老人に出会って、敵の目をあざむくため、山伏に変装するよう助言を受けた。さらに、人が飲んでも何ともないが、鬼が飲んだら苦しくて、のたうつ神便鬼毒酒を授かる。

この3人の老人こそ、熊野大社、住吉大社、石清水八幡の化身だった。無事に敵の本拠である鉄の御所に着いた一行は、酒呑童子から酒宴のもてなしを受けた。

頼光たちは鬼の勧める人肉や血を食らって、敵の警戒心がゆるむのを待った。酒呑童子や鬼たちの大好物は、さらってきた貴族の娘の肉を削いでつくった鮨である。

御所の中には肉を食った後の死骸や古い骨が散乱し、捕らえられていた中納言の娘は、今朝、鬼に血をしぼり取られて死んだという姫君の着物を洗わされていた。

酒呑童子は気分がよくなって、自分の生い立ちを語った。やがて、酒呑童子の話は京で評判の源頼光のうわさに移っていく。そのとき、酒呑童子はハッとした。目の前にいる山伏たちが、天敵である頼光や綱によく似ているのだ。

だが、気づくのが遅かった。すでに神便鬼毒酒が効いて、酒呑童子は腰が立たなくなっていた。それでも、斬り離された酒呑童子の首は、目をカッと見開いて頼光に襲いかかったという。



この功績によって源頼光は東夷大将軍に、副将の藤原保昌は西夷大将軍に任じられた。

## ●渡辺綱と四天王

酒呑童子が酒宴の席で語った話の一つは、配下の茨木童子が四天王の渡辺綱によって腕を斬り落とされた話である。

平安時代の都は、日の落ちる逢魔の時ともなれば、鬼や物の怪が出没する危険地帯だった。特に、羅生門で鬼が出るという話を耳にして、様子を見にいくという渡辺綱に対し、主人の頼光は髭切の太刀を貸し与えた。

この太刀には次のような逸話があった。ある日、原因不明の病で寝ていた源頼光は、奇妙な気配で目を開けると、一人の法師が盛んに糸を吹きかけていた。



とっさに、頼光は枕元の刀を抜いて、怪しい法師に向かって斬りつける。確かに手ごたえがあった。翌朝、頼光と家来の四天王は、法師の残した血痕をたどっていき、その正体が土蜘蛛という葛城山の年老いた妖魔であることを知った。

土蜘蛛は神武天皇が東征の際に滅ぼした先住民族の総称ともいう。頼光がこの土蜘蛛を斬った名刀こそ髭切である。

渡辺綱は借り受けた髭切の太刀を腰に差し、羅生門へ向けて馬を走らせた。ここから先は、芥川龍之介の小説や謡曲でよく知られた話なので、ごく簡単に説明しよう。羅生門に着いた渡辺綱は、若い女に化けた鬼の腕を斬り落とした。

陰陽師に後の始末を相談したら、鬼の腕は7日間に亘って結界に封じなければならないという。綱が家に籠っていると、老いた乳母が訪ねてきて、今生の名残に鬼の腕を見たいと懇願する。

乳母の願いをかなえようと綱が腕を渡したとたん、乳母は鬼に変じて空に消えていった。そのときに名乗ったのが茨木童子である。四天王にはもう一人、忘れてはならない人物がいる。怪力の持ち主という坂田金時だ。民間伝承では、足柄山で熊を相手に相撲をとった金太郎の成人した姿といわれている。

酒呑童子も6歳にして大人並みの力や智恵をもっていたというが、逆にいえば、子供の頃から普通人と違う異能ぶりを発揮してこその英雄なのだ。もっとも、頼光の家来になってからの金時は、四天王の一員として活動はしても、個人的にはさしたる逸話を残していない。

## ●役行者（前鬼と後鬼）

一般に、役行者として知られているが、本名は役小角(えんのおづぬ)であって修験道の開祖とされている。この名前の由来は、役行者の頭に小さな角が生えていたからともいう。もっとも、スーパーマン並みの飛行術で日本を駆けめぐる役行者に、角の1本や2本あっても驚くには値しない。

役行者の伝説は虚実含めて数多く、『役行者本記』『役公徴業録』『役君形生記』『役行者顛末秘蔵記』をはじめ、『続日本紀』『日本霊異記』『今昔物語集』『三宝絵詞』から、果ては滝沢馬琴の『南総里見八犬傳』まで枚挙にいとまがない。

その中には、役行者が鬼神を召喚して使役したという話がいくつも記されている。葛城山に住んでいた一言主神は、鬼神と一緒に金峯山の石橋工事に参加したが、昼の仕事を嫌がったため、役行者に藤づるで巻かれた上、谷底に投げ捨てられた。

もう一つというかもう一組、役行者には影のようにつき従う2匹の鬼がいた。その名は前鬼・後鬼といって、『西遊記』における三蔵法師と孫悟空のような関係だ。2匹の鬼は役行者の前後を守る。

ただ、この2匹の護鬼は夫婦というのが定説だ。斧をもった前鬼が夫で、水瓶をもった後鬼が妻である。役行者に従う2匹の護鬼は、修験道と山人の深い関係を象徴しているのだ。

（石塚勝美）



COLUMN

# 永井豪　鬼マンガコレクション




**鬼に惹かれ、鬼を描き続けるマンガ家・永井豪。豪ちゃんの描く鬼には、魂がこもっている。豪ちゃんが「鬼」を描いた作品のいくつかを、みなさんに紹介しましょう！**

### ●『鬼』

永井豪のストーリーマンガ第一作にして、鬼マンガ第一作。「週刊少年マガジン」に読み切りで掲載されたものだ。

人間が娯楽のためにつくりだした生命は、「鬼」と呼ばれ、普通の人間と区別するため頭部に角をつけられた。鬼は人間の慰み物として狩りの対象とされ、見せ物として格闘をさせられる。たとえ作られたにせよ、同じ生命であり、心をもつ鬼が、なぜ虐げられねばならないのか？　鬼たちの反乱がはじまる。

作者いわく、「体力には自信があったのに、この『鬼』を描くときには高熱を発してしまった」作者と鬼の数奇なかかわりも、この作品からはじまっている。

### ●『邪神戦記』

少女マンガ雑誌「プリンセス」に読み切りで掲載されたもの。掲載時のタイトルは『手天童子』、本書で扱っている『手天童子』の一年前に執筆されたものだ。ここで手天童子郎というキャラクターが作られることになる。物語は役小角とのかかわりが描かれ、手天童子郎の正体は、役小角を守る鬼、前鬼とされている。

### ●『鬼ごっこ』

かくれんぼ、それも全員が鬼で主人公ケン太だけが隠れるかくれんぼをやろう。見つかったら全員でリンチだ。ケン太は隠れるが、少年たちは本物の鬼に変容していく。やがて父親が迎えにくるが……。少年の恐怖心と子供の残虐を描いた掌編。

### ●『鬼婚式』

山間の過疎の村に嫁にきた紀子。村人たちは優しく迎えてくれて、幸福をかみしめる紀子だが、結婚式のお色直しが済むと、人々がいなくなっている。とつぜん鬼の面をかぶった全裸の男たちに囲まれる紀子。かわるがわる犯される。嫁の来手がない村に残る風習であった。ホントにありそうだから怖い。

### ●『闇の宴～酒天童子異聞』

『手天童子』以来、作者の想像力を刺激し続けた、大江山の酒呑童子とは何者なのか。作者みずから様々な文献資料にあたり、イマジネーションの助けを借りつつ「酒呑童子」の謎にせまる。「小説中公」に発表された、とても勉強になるマンガ。

### ●『ドロロンえん魔くん』～すってん童子の巻

あの『邪神戦記』より早く、永井豪は手天童子を描いていた！　その名も、すってん童子。人々をすってんと転ばせる短足の鬼で、えん魔くんの親友でもある。ちなみに、『ドロロンえん魔くん』には他にもしようもない鬼がたくさんでていて、いちばんのケッサクは妖怪けっとばし。ツノが人間の足の形をしてるんだけど、三本ヅノの鬼なのね。まん中の足もついているのである。

### ●その他の作品

『夜に来た鬼』『ONI』ほか、まだまだあります。読者のみなさん、探してみてください！



# OVAレビュー

本書でとりあげた作品のOVA版をご紹介いたします。どれもハイクオリティーの動画化ですぞ！

## 『デビルマン』誕生編




発売／キングレコード
監督／飯田つとむ
1987（絶版）

総制作費1億円という巨額の予算を投じて作られた『デビルマン』の原作に忠実な映像化。

となりのトトロのモデルになったと伝えられる飯田つとむ（現・馬之介）氏の監督作品で、豪ちゃんも絶賛してる。現在は絶版だが、'98年発売のデビルマンBOX「Ark」に入っていた。続編「妖鳥シレーヌ編」も'90年にリリースされたが、以降は制作費がかかりすぎるとかで作られていない。3巻めのリリースが待たれる。

## 『手天童子』（1）漂鬼の章



発売／日本コロムビア
監督／西村純二
1989（絶版）

マンガ原作の作品をアニメ化するのは難しくて、大好きな作品がアニメ化した、と喜んで見てみれば、ガッカリなんてことがよくある。それが原作にそっていればいるほど、逆に幻滅の度合いが高いこともあるのだ。その点、この作品は、原作の雰囲気をそこなわず、じつに美しく映像化し得ている。鬼のもつ神秘性や哀しみを表現した音楽もとてもいいし、子郎の髪の毛がしだいに金色に変わる映像美も見事。全4巻で完結しています。

## 『バイオレンスジャック』地獄街

©1988ダイナミック企画・創映新社・ジャパンホームビデオ




発売／創映新社・JHV
監督／板野一郎
1988

『手天童子』はできるかぎり原作に忠実に映像化したものだが、こちらはかなり解釈が加えてある。その解釈は成功してると思う。人間が地下に生き埋めにされた際の「闇」が原作以上にクローズアップされ、子供がゴキブリの食い方について能書きをたれるところなんか、妙にリアルで感心する。マッドザウルスがカニバリズムするところも○（まる）。『ジャック』に関してはほかに「ヘルスウィンド編」「番外編ハーレムボンバー」がリリースされている。

## CBキャラ 永井豪ワールド




発売／バンダイビジュアル
監督／飯田つとむ
1997

以前は3巻にわかれてリリースされていたのを、まとめて1本にしたお徳用。ふだんはカッコいいヒーローたちが、とつぜん二頭身のギャグキャラになっちまった！　謎を探るヒーローたち。結末は『ジャック』を引用しつつ永井豪創作の秘密に迫るもの。シレーヌがアモンに惚れてた、という挿話は『レディー』より こっちのほうが先だった（OVAデビルマンにちらりとその片鱗はうかがえる）。あしゅら男爵がズーズー弁なのは笑えます。

Topic

# 連載雑誌
# 表紙コレクション

**掲載誌を飾った豪マンガのイラストレーションの数々。**
**デザインや同時掲載のマンガにも時代性がうかがえる。**




**週刊ぼくらマガジン'71年1月1日号**

ダンテの連載開始号。28年前のお正月、悪魔は日本に舞い降りたのだ。涙のユダのイラストは秀逸。




**週刊ぼくらマガジン'71年4月19日号**

下半身の剛毛と背中の翼は、のちの明くんをほうふつさせる。（表紙になったデビルマンはP53を参照）。




**週刊ぼくらマガジン'71年5月17日号**

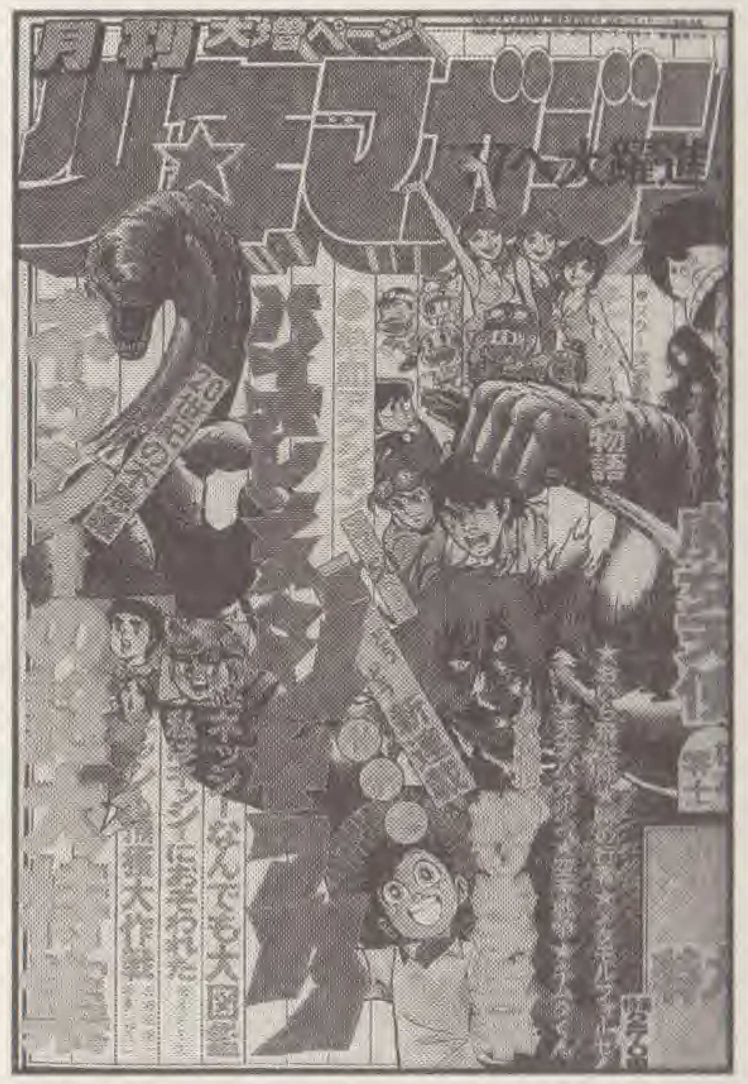
表紙イラストはのちにサンコミックスのカバーに転用された。必殺の大特集「史上最強のひみつ」はこの号。




**週刊少年マガジン'73年7月21日号**

『ジャック』が「週刊少年マガジン」の表紙にでたのは新連載のときのみ。写真は堺正章と浅田美代子。






**月刊少年マガジン'77年1月号**

『ジャック』月刊誌に新連載。この雑誌、掲載作品をイラストつきで表紙に載せていた。ジャックは毎号登場。




**月刊少年マガジン'77年2月号**

読み切りギャグ「シャーヤッコ・ホームズ」を併載。ギャグとSF、永井豪の世界が一度に堪能できるのが本号。




**週刊少年マガジン'76年9月5日号**

『手天童子』新連載。子郎の頭に角がはえるのはしばらく先だが、すでにここでは角がはえている。




**週刊少年マガジン'76年12月5日号**

雑誌の表紙だって裸の美雪ちゃんをだしちゃうのだ。この号で子郎は鬼が化けた美雪にいいよられている。




**週刊少年マガジン'80年7月20日号**

講談社漫画賞受賞時の『凄ノ王』。この頃朱紗は、黒ずくめの衣装を着て不死団と戦っていた。




**週刊モーニング'98年10月8日号**

少年マガジンの表紙を飾って以来25年、ふたたびデビルマンが雑誌の表紙を飾った、記念すべき号。

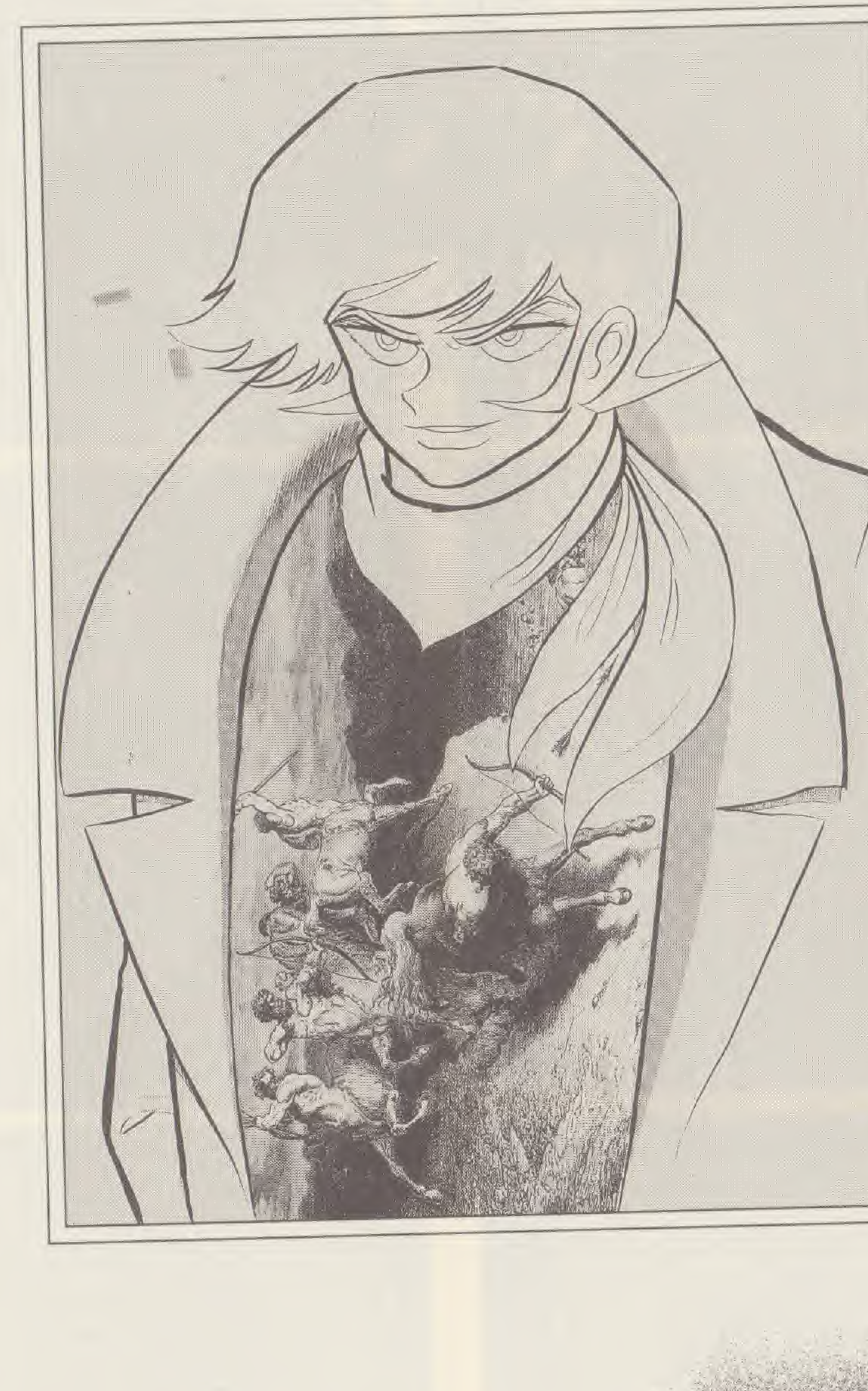
# 荒神の章

## 凄ノ王



暴力に恋人を蹂躙され、うらみとかなしみといかりに満たされた少年の心は、肉体を変貌させ、やがて邪神＝凄ノ王をうむ。

ミュータント高校＝耳宇高校を舞台に、少年は変身をくりかえす。しかしそれは、やがてくる神話の、序曲にすぎなかった。朱紗真悟のたどった変貌を縦軸に、未完の神話『凄ノ王』を読む。



# 『凄ノ王』作品解説

## 自覚できない主人公

人はよく、文章を書いたり人前で話したりするときに、「自分の考えがうまく表現できた」といういいかたをする。

これは、とても奇妙ないいかただ。自分の考えは自分がいちばんよくわかっているはずで、もしわかっているならば、表現に苦労したり、そこに巧拙が介在したりするはずはない。考えたままをありのままに述べればいい。

ところが、そうはいかないのは、自分というのもある種の他人だからだ。自分が今なにを考えているか、自分がなにをしたいのか、あらかじめ探ってやらなければ、ぼくらは満足に意見も述べられない。テメエのことはテメエがいちばんよくわかってる、といういい方は、じつは現実的ではないのである。

『凄ノ王』の主人公・朱紗真悟は、「自分」にひきずられている。自分の底に眠っている感情やら情念やら能力やら、そんなものにひきずられている。朱紗はころころと性格が変わり、毎日別の人間のようにふるまうが、彼本人はそのことを自覚できない。自分より他人の方が（たとえば瓜生麗や美剣千草のほうが）朱紗のことをよく知っているのである。

## 『凄ノ王』の肉体性

『凄ノ王』は、サイキックSFであると同時に、学園青春ドラマでもある。世に学園青春ものは数あれど、ムンムンする高校生の肉体性が、ここまで如実に表現されているものはすくない。その意味で、希有の作品である。

学校の帰り道、主人公・朱紗真悟は雪代小百合に告白される。告白、これだけで青春の香りがぷんぷんしてくるけれど、『凄ノ王』はそれだけでは終わらない。この告白につづくキスシーンには、相手のからだのぬくもりや、激情とリビドーがまぜこぜになった様子まで、織り込んである。

ガキの頃から本ばっかり読んでいた三島由紀夫は、「キスするとき、男が勃起(エレクト)するもんだっていうことは、実際にしてみてはじめて知った」と語っていたが、『凄ノ王』はキッチリそこまで描いてある。効果音なしネームなし、まったくの絵のみで、高校生の脈うつ肉体の鼓動を、はっきり表現している。

ストーリーばかりじゃない。『凄ノ王』が表現していたのは、いつだって肉体性だった。朱紗は恋人をレイプされた怒りと怨恨から、無意識のまま巨人になって街を破壊するが、そこにあるのは怒りの感情にヴィヴィッドに反応する、少年の肉体のふるえだった。感情を押し殺すことに長け、肉体の衰えた大人にはない、手足がちぎれるほどにはげしいふるえだった。

## 「神話」という世界

『凄ノ王』はそのように、連載開始時から高校生のリアルな肉体を描きつづけていた。だが、ドラマはやがて、ふっつりと終わってしまう。

後半、ストーリーは拡大し、学園ドラマから、壮大な神話への序曲に変わりはじめる。あたかも、劇中の美剣千草のモノローグ「凄ノ王は変身をくりかえす」に呼応するように、作品自体も変身をはじめるのだ。

異次元のエネルギー「魔」が、朱紗真悟の肉体を通じてこの世界に運ばれてくる。邪神・凄ノ王が誕生する。朱紗は神としてよみがえり、英雄王真神(スサノ・オウ・ノ・ミコト)となる。最大の敵・八岐大蛇(ヤマタノオロチ)が地球にせまりつつある。物語はそこで、消えるように終わっていく。

神話の序曲、といったが、これはまさに序曲でしかない。スサノオノミコトが泣き叫び、世界が破壊され邪神が世をおおうのは、『古事記』においてはほんのサワリの部分にすぎないのだ。

超能力を材としているとはいえ、『凄ノ王』は当初、近代的な人間ドラマであった。だが、神話の世界、神々の世界はそうではない。そこに表現されるアレゴリーは、一意的な解読や意味づけを拒むものだ。それゆえ、『凄ノ王』は近代的「完結」を拒否し、拡散していかなければならなかった。「物語を未完に終わらせたい」という作者の意図は、「現代に神話をよみがえらせたい」という意図に忠実であるかぎり、必然だったのである。

朱紗真悟は、スサノオノミコトとなること――凄ノ王と英雄王真神に分裂すること――を運命づけられた人物だった。だが、朱紗本人は、ついにそのことに自覚的ではありえなかった。『凄ノ王』の後半における物語の拡散は、「神話」の広がりであると同時に、朱紗真悟という少年の自己の広がりをもあらわしている。異次元からの「魔」の侵入、ために荒野となった世界、よみがえる英雄神とは、ひとりの人間の内面劇でもあるのだ。

解読をこばみ全体像を把握させないという点では、「自分」もまた神話と同じである。自分とはひとつの世界であり、そのほとんどは闇におおわれている。見つめても見つめても見えてこないそれと対話をつづけなければ、ひとは話すことさえできないのだ。

SUSANOOH CHARACTERS NO.001

# 凄ノ王



## 神と悪魔の物語

『マジンガーZ』の冒頭、兜甲児は「神にも悪魔にもなれる」という啓示を受ける。この、「神にも悪魔にもなれる人間」というテーマは、永井豪のSF作品のほとんどに通底して流れる基調低音だ。

『凄ノ王』もまた、そのような物語の系譜に属する。ただし、いくら「神にも悪魔にもなれる」からといって、ひとりで同時にふたつの役をやったのは、朱紗真悟のほかにない。凄ノ王と英雄王真神（スサノ・オウノ・ミコト）、この作品に登場する巨大な悪魔と神は、直接、朱紗真悟の肉体を媒体として生成されるのである。

凄ノ王という名の悪魔と、英雄王真神という名の神になって以後、朱紗真悟の意識は、ほとんど描かれなかった。





## 無意識の超能力者

レイプが原因で恋人は消えた。自己の無力を悔いた少年は、無意識のまま変貌し、怨恨から街を破壊する。これを機会に、善良な少年・朱紗真悟は変容をはじめ、行く先々で暴力の嵐を巻き起こしていく。





## 超能力がほしい！

目の前での恋人の強姦。ひとりの人間の能力ではどうしようもない事態に、朱紗真悟ははじめて、心の底から超能力を欲する。しかし、彼は瓜生麗の超能力ペンダントを受け取らなかった。

COLUMN

## 「週刊少年マガジン」最終ページ

現在講談社から出版されている『凄ノ王　超完全完結版』第6巻は、『凄ノ王伝説』を再構成し、加筆をくわえたものである。マガジン連載時には、左のページで連載が終了した。

邪神・凄ノ王をうみだし、抜け殻となったはずの朱紗真悟はよみがえり、「魔」を取り入れ獣人となった青沼と対峙する。英雄王真神という名はでていない。

なお、連載時『凄ノ王』は第1部・第2部にわかれて二部構成になっており、朱紗に透視能力がついて人々がハダカに見えるところから第2部がはじまっていた（'80年10月）。'79年7月に連載開始した『凄ノ王』は、'81年4月にいったん終幕を迎えたのである。





## 超能力の巨人

『凄ノ王』の前半は、サイキックな学園ドラマである。しかし、ここで起こる事件のほとんどは、もうひとりの超能力者・瓜生麗の仕組んだものだった。朱紗は瓜生に対する怒りと憎悪の感情から、超能力の巨人に変貌を遂げる。

宇宙を破壊にみちびく負のエネルギー、「魔」。朱紗の憎悪が、異次元のエネルギー「魔」をとりこむたび、巨人は醜悪な姿に変貌していく。

## 邪神・凄ノ王の誕生

「魔」をとりこみ、肉体の巨大化が臨界点に達したとき、邪神・凄ノ王が誕生する。凄ノ王のはなつ強烈な超能力エネルギーは、日本列島全土に強烈な地震をひきおこし、国土を破壊においやった。

凄ノ王は、異次元の暗黒宇宙とつながるトンネルのようなものだ。日本神話における、天照大神が天の岩戸に隠れてもたらした闇とは、ほかでもない凄ノ王自身がもたらしたものだったのである。



### 朱紗真弓との合体

「魔」を吸収して肥大化する凄ノ王に対し、英雄王真神は、朱紗一族との合体を経て大きく成長する。いささか唐突な登場をする朱紗真弓だが、じつは『バイオレンスジャック』で紹介済みだった。





### 英雄王真神（スサノ・オウノ・ミコト）

凄ノ王を生みだす媒体となった朱紗真悟の肉体は、凄ノ王が誕生し、抜けでてしまってからは、魂なき肉体にすぎないはずであった。しかし朱紗は、光明神・英雄王真神として復活する。

### よみがえる英雄神

日本神話において、荒神と英雄、ふたつの性格をもたされたスサノオノミコト。その実際は、闇と光ふたつのエネルギーを吸収して分裂した一人の人間だった。新たな神話のはじまりとともに、物語は終焉をむかえる。



## 大松しげるは誰だ？




### 正体はあの大作家？

SFに関するウンチクをとうとうと語る朱紗の先輩・大松しげる。その膨大な知識量、大阪弁、そしてこの顔から判断して、モデルは小松左京氏だろう。あの大作家を、ビルの下敷きにして殺してもいいんだろうか？

SUSANOOH CHARACTERS NO.002

# 瓜生麗

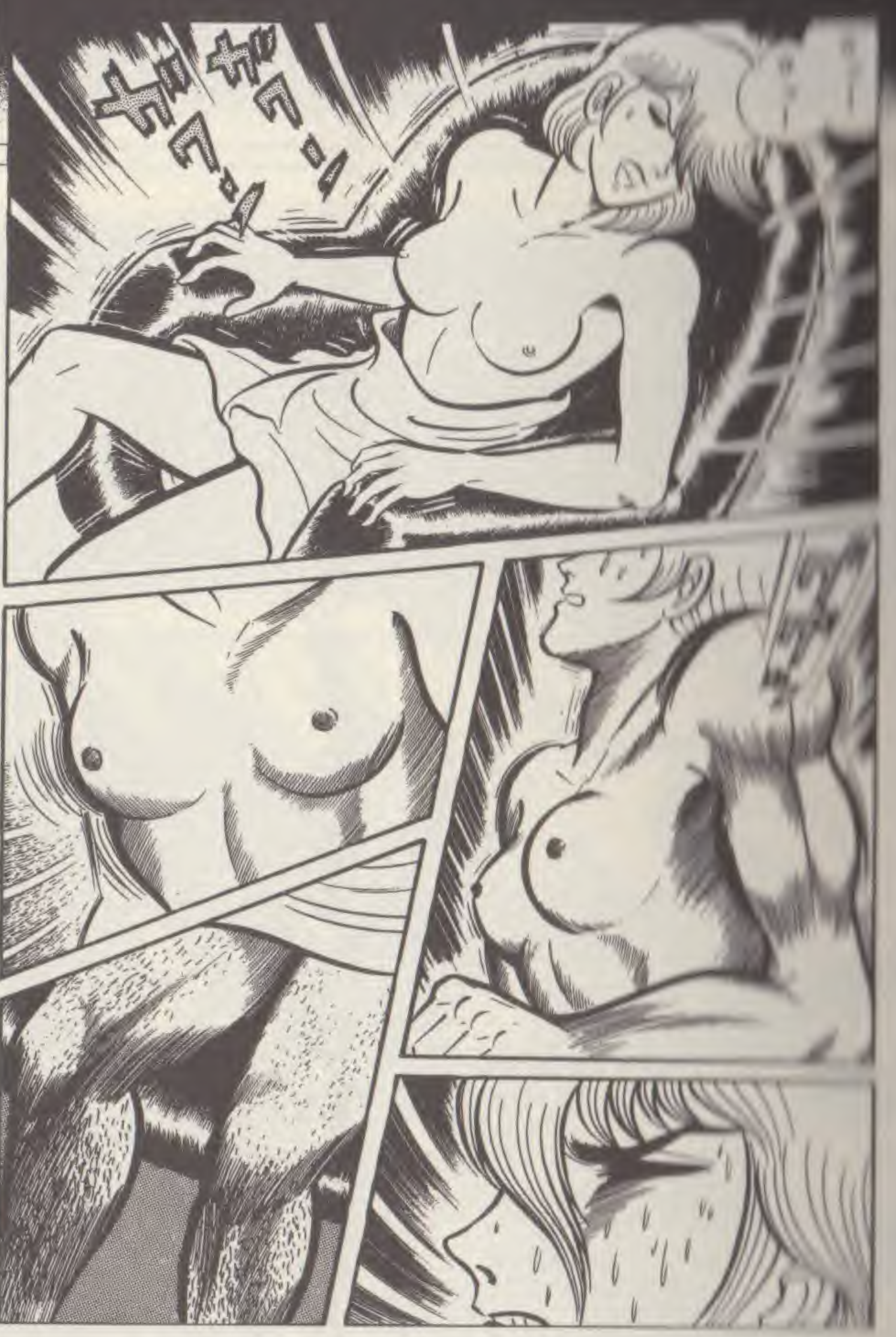



## すべてを仕掛けた男

一見、正義に思える上のセリフも、じつはこの男の野望の一部なのである。不死団（ノスフエラトウ）を指揮する女王（クイーン）カーミラも、部団連合会長・九頭木剛（くずきごう）も、みなこの男がなりかわり、指揮し、暴力をひきおこしていた。果たして連載開始時から、物語のほとんどがこの男によって仕組まれていた、というカラクリを、作者が考えていたかどうかはわからない。ただ、破壊王というニックネームは、すでにこの男の目的を示唆している。







## 両性具有の青年

永井豪の作品において、両性具有は重要なイメージのひとつだ。サタン＝飛鳥了をはじめとして、男女がモロに半分ずつ分け合うあしゅら男爵、女の分身をもつバイオレンスジャック。そして、この瓜生麗もまた、不死団首領・女王カーミラの顔をもっている。

美しい女の憂悶の表情から、スネ毛のはえた男に変貌するこのシーンは秀逸だ。白い髪の美青年がすべてを動かしていた、という点は『デビルマン』と共通する。



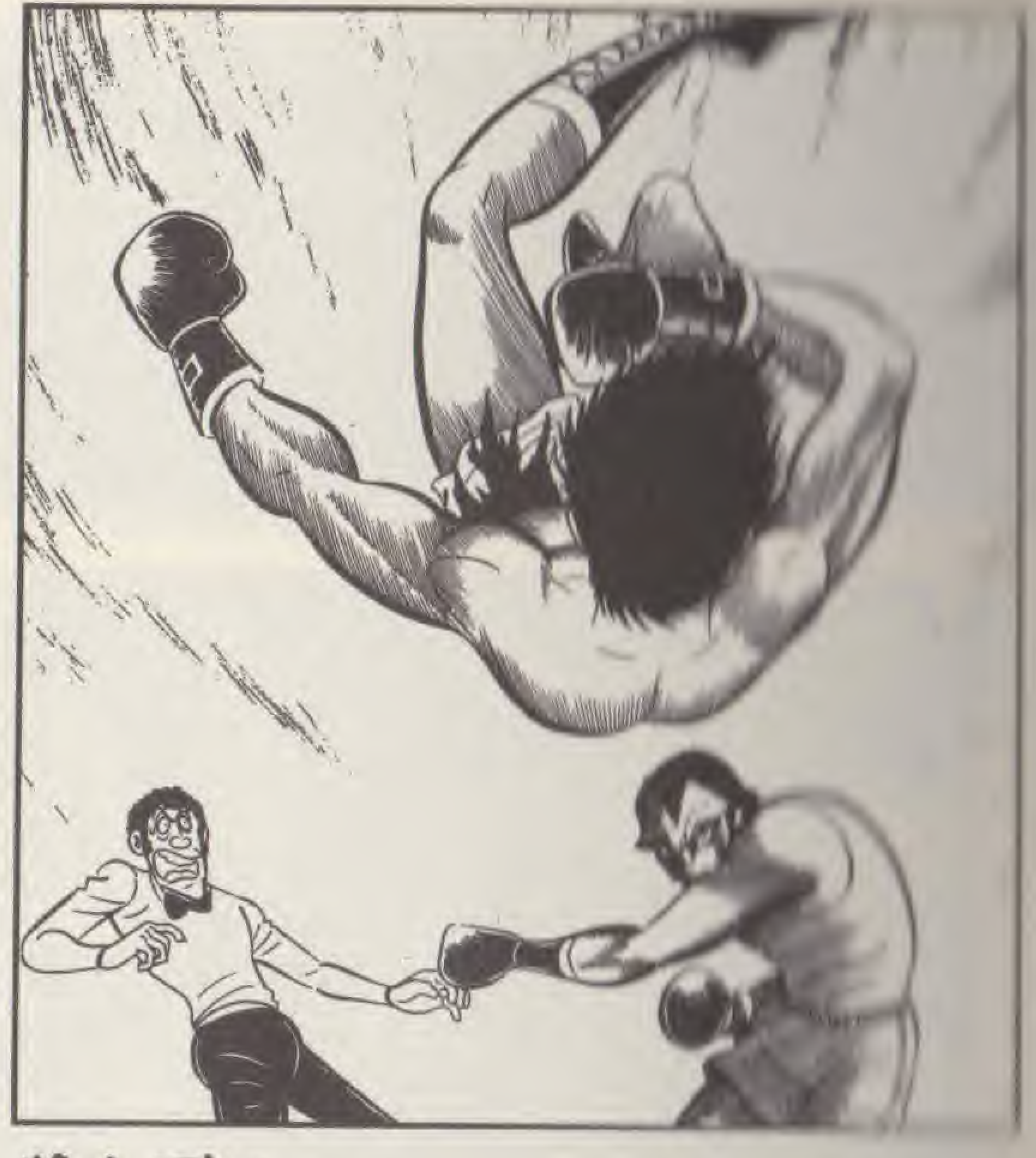
## 手力雄神（タヂカラオノミコト）

『凄ノ王』には、講談社版の超完全版『凄ノ王』と、角川書店版の『凄ノ王伝説』、二つのバージョンが存在する（詳細は本書P126）。二作品の相違はそれほど多くないが、おそらくもっとも違うのが、この瓜生麗の扱いだろう。『凄ノ王伝説』では、瓜生は魔王となるが、『凄ノ王』では自ら破壊した世界を悔い、英雄王真神の目撃者となる。手力雄神（タヂカラオノミコト）として、天の岩戸を開くのはこの男だ、と思わせるシーン。

### 男の熱き友情

合田には、スポーツマンらしい勇気がある。試合後は朱紗との友情を深め、美剣や剣道部副主将・身堂竜馬とともに、部団連合に反旗をひるがえした。『凄ノ王』は男と男の熱き心の交流まで読めるのである。





### 殺人ブロー

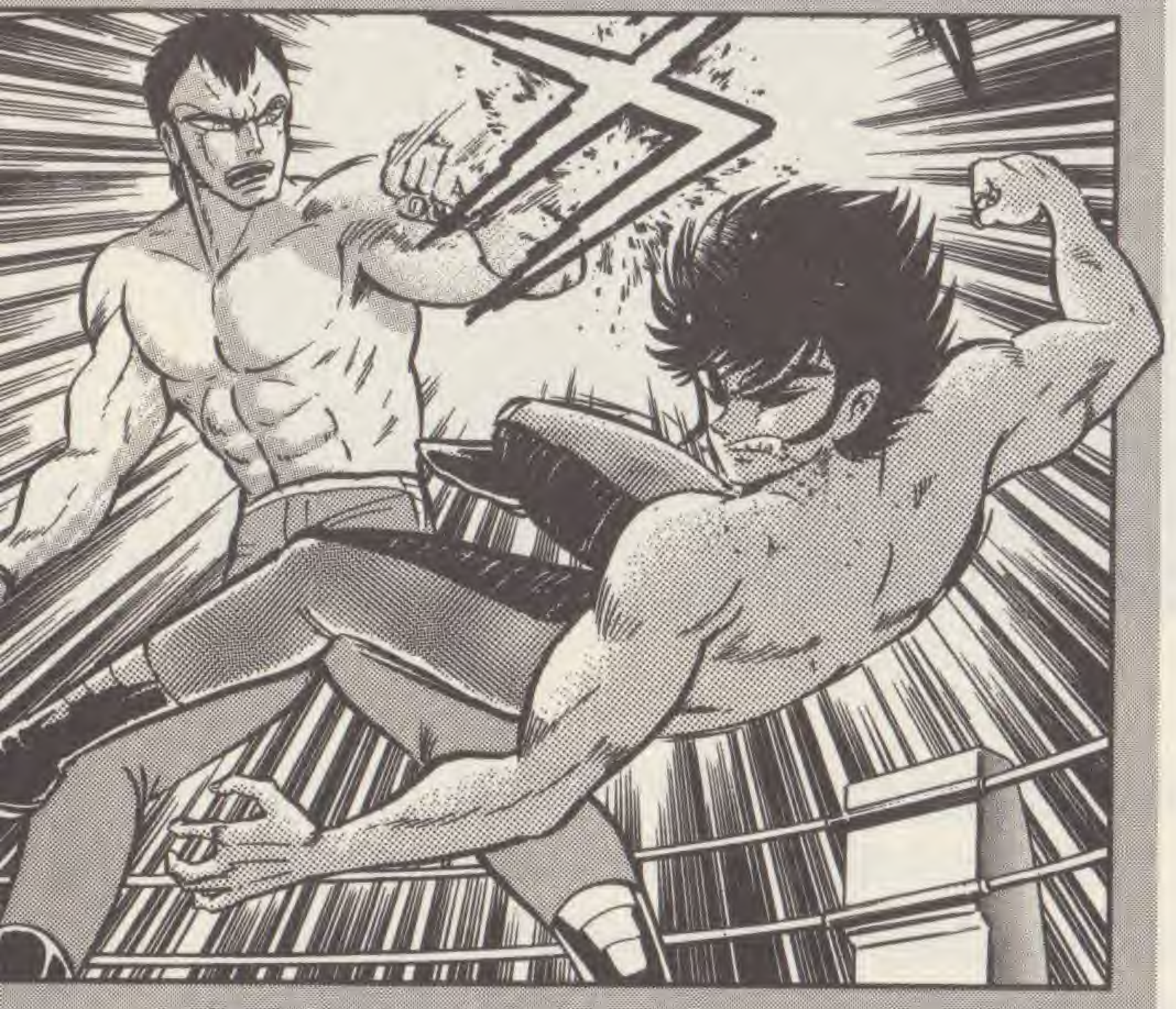
『凄ノ王』の物語を学園ドラマとしてみたとき、クライマックスに位置するのは朱紗と合田の試合だろう。合田は殺人ボクサーとして朱紗の前に立ちはだかる。一方、朱紗は合田との試合を経て、超能力に目覚めていく。

### 身堂竜馬

紹介しておかねばならない。『凄ノ王』には、身堂竜馬が出演してるのだ。『ガクエン退屈男』でデビューし、『ジャック』で大活躍した竜馬クンは、ここでは仮面の美少年剣士として、剣の腕前を披露する。



## 『マジンサーガ』の合田



### 兜甲児と戦う合田

合田は『マジン・サーガ』にもゲスト出演し、兜甲児とリング上で拳をまじえている。結局、兜が勝つのだが、その勝ち方といい合田の位置づけといい、まるで『凄ノ王』。豪ちゃんの見事な自己模倣、しかも確信犯。

SUSANOOH CHARACTERS NO.003

# 合田



### 獣人となったボクサー

凄ノ王を介した「魔」の侵入によって、日本は荒野となる。それは新たな神話時代の幕開けでもあった。耳宇高校ボクシング部主将・合田もまた、「魔」の力を取り入れ、獣人へと変貌する。だが彼は、青沼のように、いたずらに「魔」の力を使おうとはしていない。むしろ積極的に、ケモノとなった人間たちを、退治する役目を担っている。彼が神話の中で、どんな役割を果たすのかは、ついに語られなかった。

SUSANOOH CHARACTERS NO.004

# 青沼



## 輪廻を経る者

朱紗による無意識の復讐によって、恐怖を体験した青沼は、精神病棟へ収容されていた。そこに「魔」がとりつき、彼は獣人となる。青沼は甦った朱紗に襲いかかるが、朱紗はすでに、獣人一匹をいかようにもできる神の力を備えていた。朱紗によってネズミに姿を変えられた青沼は、ひとつ善行を積むごとにひとつ位のあがる苦行を強いられる。神話とは重層的なもので、青沼のこのエピソードもまた、小さな神話なのである。





SUSANOOH CHARACTERS NO.005

# 雪代小百合



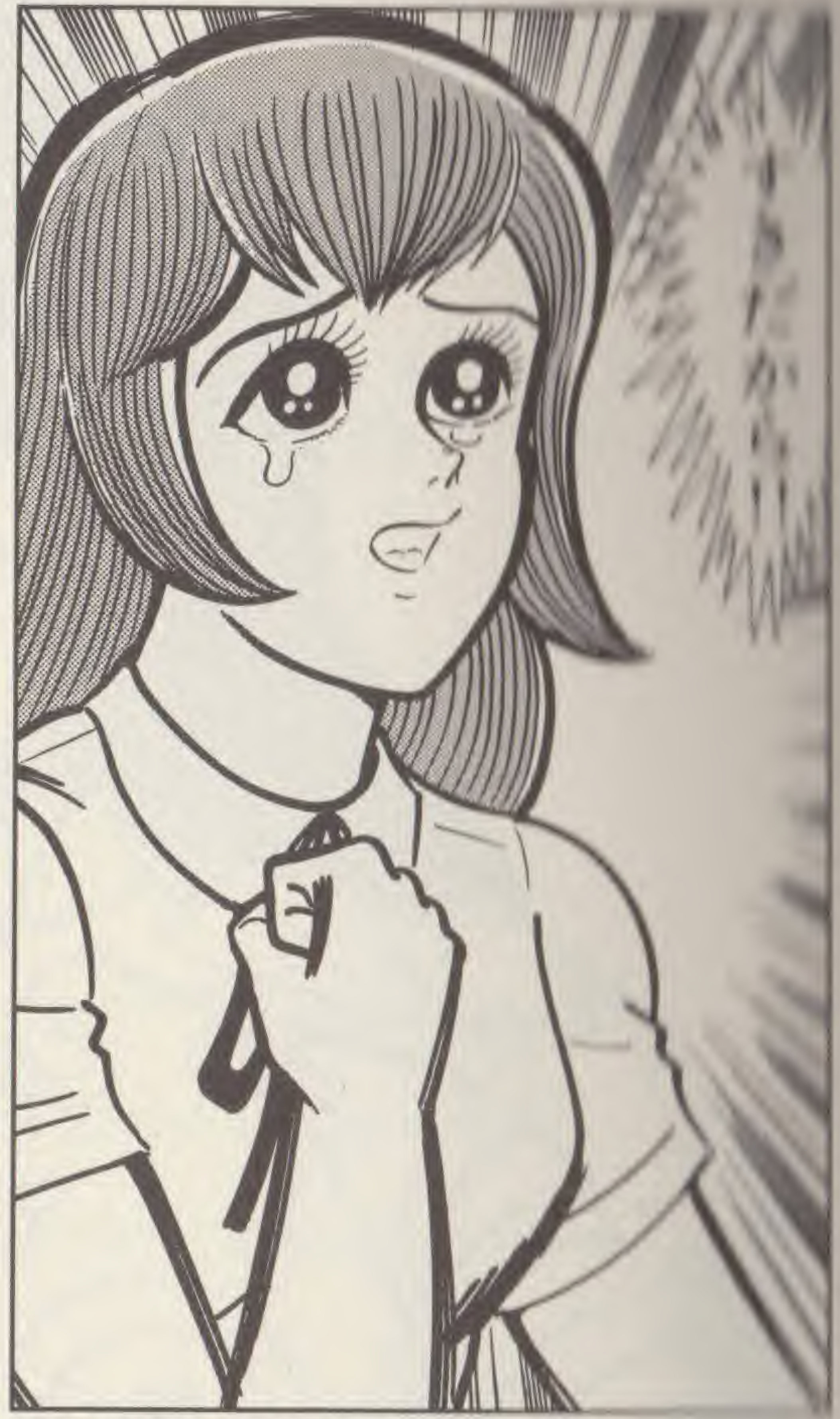

## 偽りの恋人

レイプシーンは物議をかもしたらしいが、それ以上にファンを驚愕させたのは、そのレイプの理由だった。雪代は瓜生の奴隷だったのだ。この事実を知ることがきっかけとなって、朱紗は超能力の巨人となる。




## アメノウズメ

「少年マガジン」の連載は、雪代小百合に奴隷という悲劇的な役割を与えたまま終了した。『凄ノ王伝説』ではじめて、彼女はアメノウズメとして開眼する。描かれない神話の中で、雪代は重要な役割を果たすのだ。

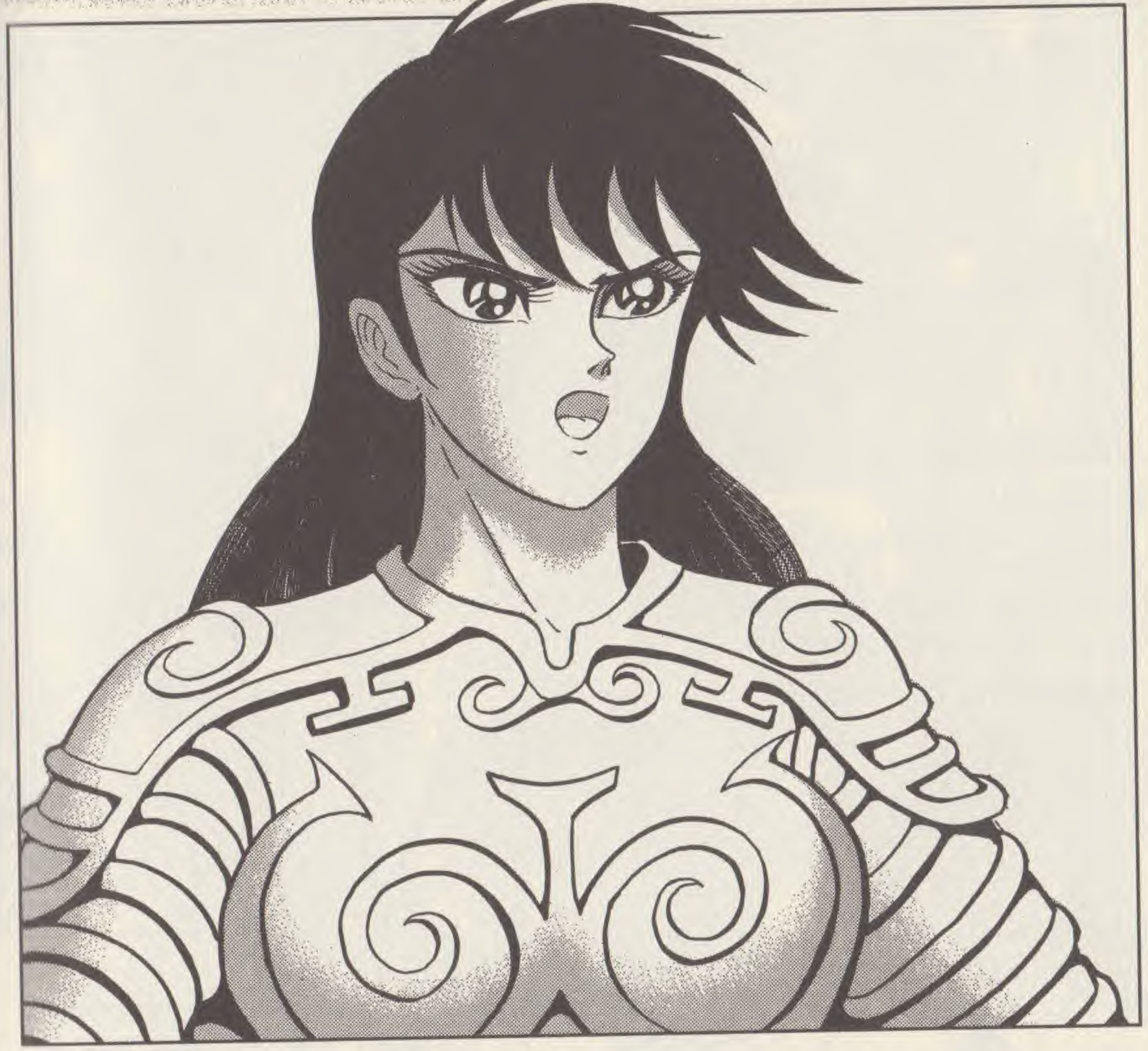


## 魅惑のヒロイン

『凄ノ王』は栄誉ある講談社漫画賞を受賞した、永井豪初の「勲章つき」作品である。選者がかかげた選考理由は様々あったが、本当の理由は違うんじゃないか？　みんなこの、雪代小百合にやられたんじゃないのか？——そんな邪推をしたくなってしまうほどに、雪代小百合は、魅力的なヒロインである。「朱紗くんと結婚しようって！」このひとことに男はやられる。これに対する朱紗のリアクションもいい。

## SUSANOOH CHARACTERS NO.006

# 美剣千草＝摩利支天



### 高天原と摩利支天

かつて、高天原（アトランテス）と呼ばれる先史文明があった。高天原の科学は、人間の精神の秘密をも解き明かし、ついに精神を肉体から離脱させる者まで現れはじめた。これが高天原八百万（やおよろず）の神々である。神々は善神と邪神に分かれて争い、邪神たちが異次元から「魔」のエネルギーを呼び起こしたため、高天原は滅びた。美剣千草は、善神・摩利支天の生まれ変わりであり、高天原の記憶を現代に伝える者である。





### 深夜のテレポート

なにもこんな格好で男の子の部屋に来なくたっていいじゃないの、と茶々を入れたくなるが、むしろこういう些細なエロティシズムを忘れないから、『凄ノ王』は学園ドラマとして楽しめちゃうのだ。






### ＥＳＰ研究会・会長

美剣千草は、ESP研究会の会長として、集まった超能力マニアたちに超能力の実在を説く。瓜生こそ凄ノ王と信じていた美剣は、瓜生への対抗勢力としてESP研究会を発足させたのだ。

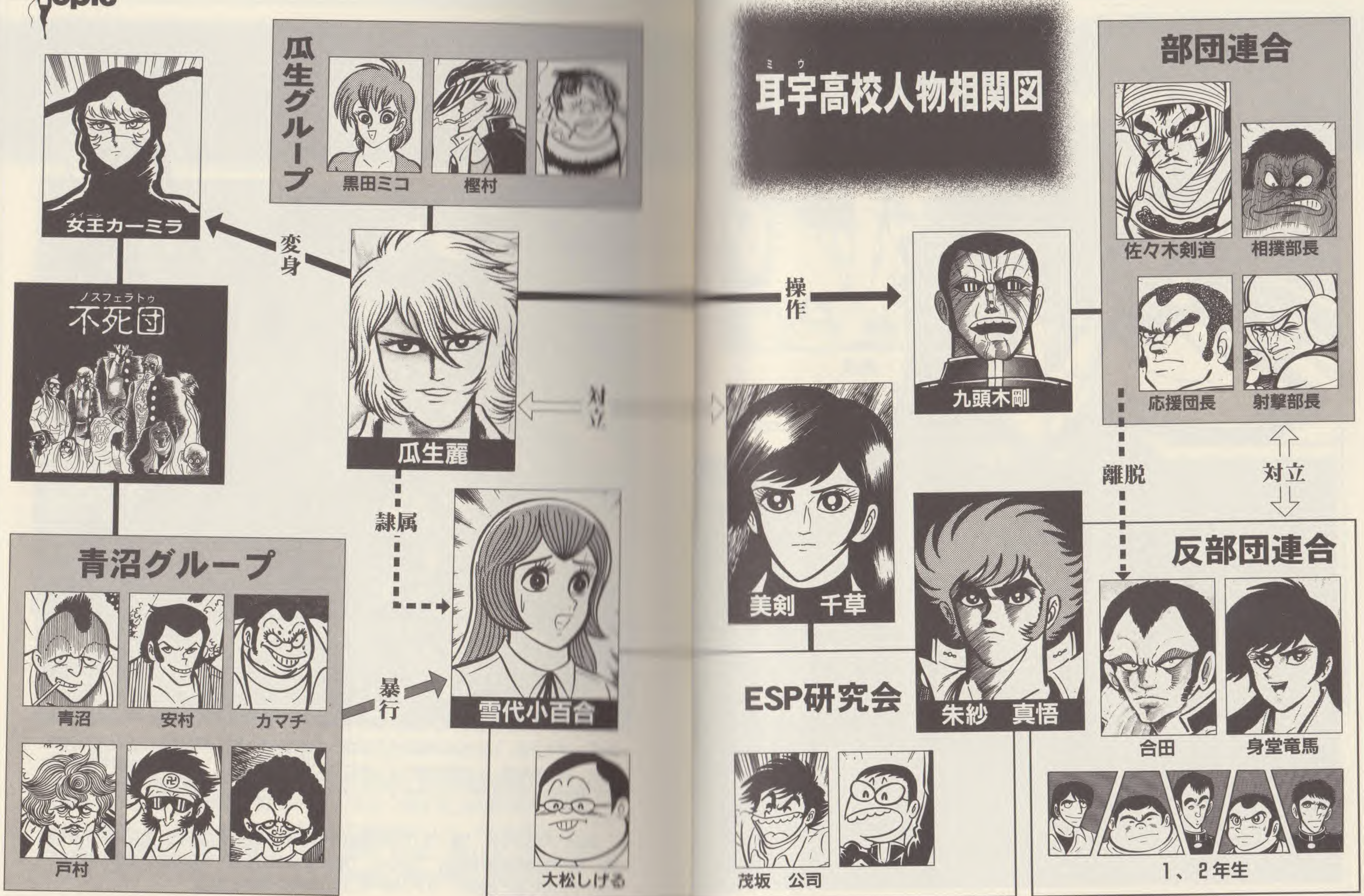
### 担当編集者に聞く 『凄ノ王』

## 永井先生は吹き出しもエネルギーなんです

僕は今でも、永井先生に会うと、抱き合うんです。もちろん、ヘンな関係というわけではありませんよ（笑）。『凄ノ王』を担当していた頃、僕は入社して2年ぐらいで、まだ新人だったから、すごくかわいがっていただいたんだと思います。お兄さん（永井泰宇氏）なんか、今でも会うと「大きくなったね」っていうんですよ（笑）。

『凄ノ王』の担当をしていて、いちばん思い出ぶかいことですか？　とにかく、永井先生の原稿は、吹き出しに文字を入れるのがたいへんだった。ふつう、マンガの吹き出しって、丸くて字がきれいにおさまってればいい、みたいなところがあるけれど、永井先生のは、吹き出しもエネルギーなんです。あの吹き出しにふつうに文字を入れようとすると、文字が小さくなってしまう。でも、あれだけ激しい吹き出しで、小さな文字にするわけにはいかないじゃないですか（笑）。そこが、すごく苦労したところでもあったし、永井先生のエネルギーを強烈に感じられる瞬間でもありましたね。

先生は今まで、西洋の悪魔や、日本の伝説・神話をもとに作品を描いていらっしゃいますよね？　こんどは、中国をふくめた東洋全体を舞台にしてやって欲しいなあ。風水師かなんかがでてきて、相手に手をふれずに敵を倒しちゃう。中国とかインドの伝説の世界では、それこそ3メートルの巨人とか、妖怪とか、何がでてきてもおかしくないから、ピッタリだと思うんだけど。そういうの、描いて欲しいなあ。ファンのひとりとして、とても読みたいですね（笑）。


耳宇高校人物相関図
ミウ
瓜生グループ
黒田ミコ
樫村
女王カーミラ
クイーン
変身
ノスフェラトゥ
不死団
瓜生麗
対立
操作
九頭木剛
部団連合
佐々木剣道
相撲部長
応援団長
射撃部長
離脱
対立
隷属
青沼グループ
青沼
安村
カマチ
戸村
暴行
雪代小百合
大松しげる
美剣　千草
ESP研究会
茂坂　公司
朱紗　真悟
反部団連合
合田
身堂竜馬
1、2年生

SUSANOOH CHARACTERS NO.007

# 美剣十人衆



## 美剣イヤハヤ十人衆

美剣千草の10人のクローンとして紹介される美剣十人衆、緊迫のシーンだが、知ってる者はどうしても微笑んでしまう。美剣十人衆とは、『イヤハヤ南友』でヒロインの家早（いやはや）さよこを護衛する10人のスケバンたち、家早十人衆そのまんまなのだ。『イヤハヤ南友』といえばギャグマンガ、しかも永井豪のそれだから、女といえば脱ぐに決まっている。この十人衆も、はじめはヌードの数を増やすためにでてきた感があった（そういや美剣十人衆も裸だ)。なにかってーとウフフンとかアハハンとかいってお色気をふりまく人たちだったのである。

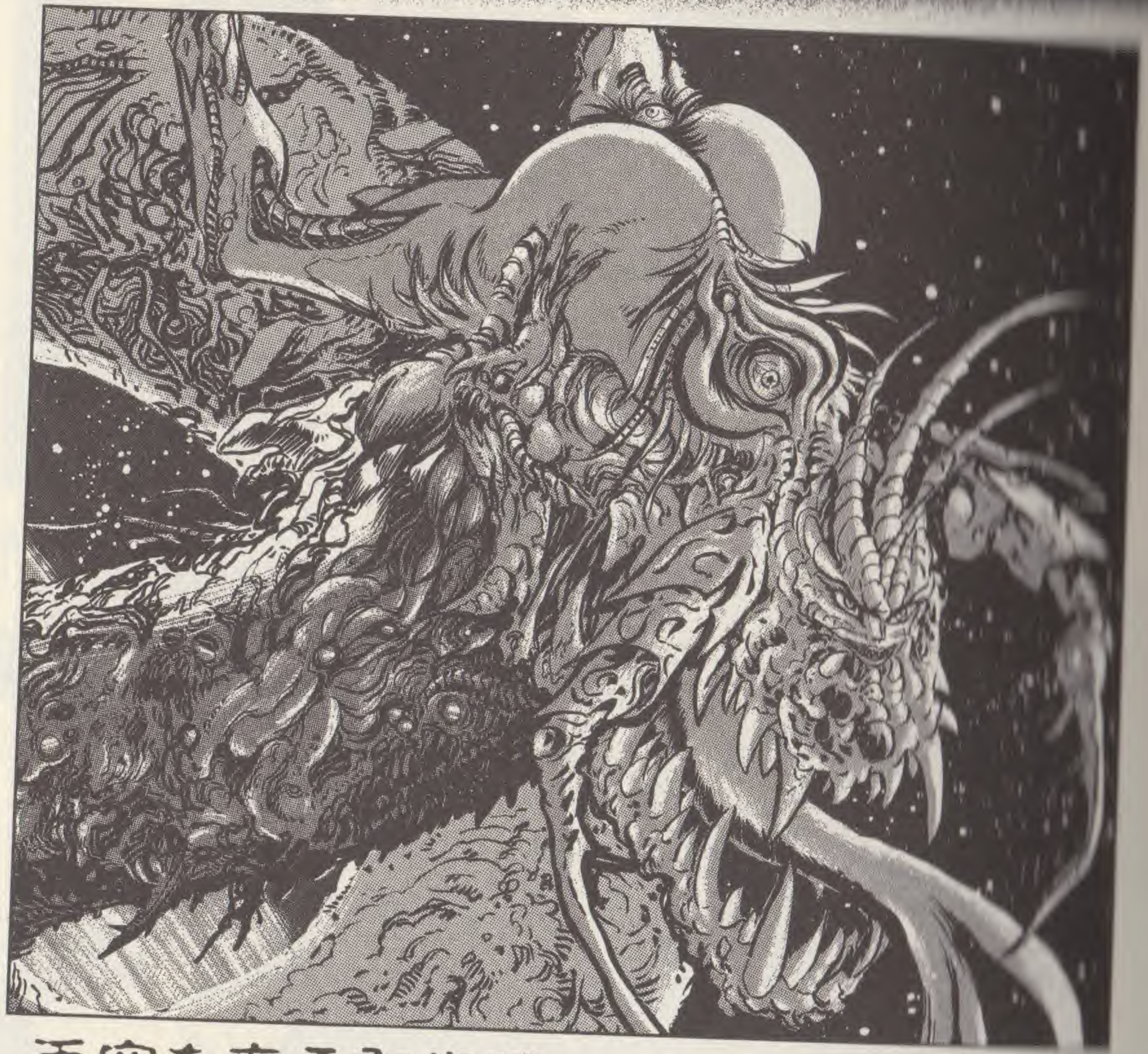
美剣十人衆のうち、『凄ノ王』で名があがるのは神薔薇あけみのみだ。彼女は天浮舟（ラン・グーン）で戦死、悲壮な最期を遂げるが、このひと、『南友』劇中では全裸・大股開きの姿勢のままプールサイドをくるくる回り、ファンサービスにつとめた女性である。





SUSANOOH CHARACTERS NO.008

# 女媧



## 天空を舞う有歯膣

天地を消滅させる「魔」、女媧。質量をもたないがゆえに重力の支配を受けない、異次元の怪物。しかし、そんなお題目どうだっていいじゃん、と思えてしまうのがこのデザイン。セックスの際には、誰もが無意識に「ヴァギナに歯が生えていて、食いちぎられるんじゃないか」（有歯膣）という恐怖を抱いているというが、たぶん、そのイメージをそのまま描けば、こんなふうになるんじゃなかろうか。永井豪の才能の片鱗がうかがえる。

SUSANOOH CHARACTERS NO.009

# 天浮舟



## 凄ノ王迎撃用超戦艦

高天原に発達した先史文明は、精神科学を過剰に発展させたがゆえに、異次元のエネルギー「魔」を呼び込んで滅んだ。邪神・凄ノ王は、「魔」が現世に現れるためのトンネルの役割を果たす。超戦艦・天浮舟は、凄ノ王の迎撃を地上で行うことによって、高天原の二の舞を避けるため、凄ノ王を宇宙に連れだして迎撃することを任務として建造された。高天原善神・美剣一族が乗組員として搭乗する。





### 浄化する魂

時の棺の内部では、何百年が一瞬のうちに過ぎる。凄ノ王を形作っていた憎悪と怨恨の魂は、時間の経過によって、浄化され、光の粒子となって宇宙へ散らばっていく。邪神・凄ノ王は消えたのだ。






### 時の棺

火星表面に建造された、美剣千草の顔を模した巨大な建造物（おそらく、火星表面の人面岩が、アイデアの源となったのだろう）。天浮舟は凄ノ王をともなったまま火星へと引き寄せられていく。

### Link 「ハレンチ大戦争」

「ハレンチ大戦争」は『ハレンチ学園』第一部の最終章にあたるもので、ストーリーは単純、ハレンチ学園の実態をケシカランと考えた大日本教育センター（要するにPTAね）が、学園をとつぜん戦車やマシンガンで攻撃してくるというもの。まあ、設定的には普通のナンセンスギャグだ。

だが、これを読む者は、かならず戦慄におそわれる。戦争の爆風が、こちらに向かってきていることを感じずにはいられないからだ。女の子は「永井豪のマンガなら爆弾で攻撃されても裸になるだけだもんね」と安心して爆風に包まれるが、そのまま生首にかわる。イキドマリ君は「俺たち主人公だから戦争になっても死なないし」と安心していたところを銃撃され、死ぬ。戦争で攻撃目標とされているのは、こちらの「常識」や「固定観念」だ。だからこれを読む者は、ある種の痛みを感じながら物語に向き合わねばならない。『魔王ダンテ』と同時期、豪ちゃんの猛毒血清です。




自分が殺されると知ったイキドマリ君は作者を告発するが、読者は「自分も共犯なのだ」と悟らずにはいられない。キャラのほとんどは死に、最後にうつむいた冷奴先生がでてきて了。

SUSANOOH CHARACTERS NO.010

# 八岐大蛇（ヤマタノオロチ）




## 最大の敵の襲来

おそらく——アマテラスの復活後、英雄王真神にとっての最大の敵が、この八岐大蛇となるはずだ。あくまで、『凄ノ王』の物語が、『古事記』に見られる日本神話どおりに進むとしたら、の話ではあるけれども。

「少年マガジン」の連載は、この八岐大蛇の登場とともに幕を閉じた。ギリシャ・インド神話、聖書——日本神話にとらわれない、恐怖の怪物として、八岐大蛇は登場する。





SUSANOOH CHARACTERS NO.011

# 「魔」



## 人間は強くならなければならない

暗黒の異次元より侵入する「魔」は、邪悪な心を持つ人間にとりつく。とりつかれた者は怪物と化し、まっとうな人間よりはるかに強い。凄ノ王の復活によって、地上は「魔」の闊歩する世界となった。弱い人間はたちまち、「魔」の餌食となる。

雪代レイプ事件のあと、朱紗はひとり、つぶやいた。「人間は強くならなければならない……ひとりひとりが自分の武器を見つけねばならない……」

作品序盤において朱紗が受ける暴力は、後半においてあらゆる人間がこうむる「魔」からの暴力と同じだ。人間は、そんな暴力に対して、抵抗する手段を見つけなくてはならない。

後半、宇宙サイズに拡大した物語は朱紗真悟ではなく、「人間」そのものを主人公にしはじめた、ともいえるのである。「人間」にはもちろん、あなたや私も含まれる。

# Topic 朱紗真悟の変容

「凄ノ王は変身をくりかえす」という美剣千草のモノローグどおり、朱紗真悟は、変身をくりかえした。変身の軌跡をたどる。





### 1 おマヌケ高校生

どこにでもいる普通の高校生・朱紗真悟。「超能力はやがけ〜」のおマヌケさに、後の変身の面影はない。

### 2 超能力の巨人

レイプが原因で雪代小百合が転校した。無意識のうちに巨人に変身し街を破壊した朱紗。






### 3 粗暴な少年

巨人から元に戻ったとき、忌まわしい記憶はすべて忘れ、性格も荒っぽい暴れん坊になっていた。

### 4 2度目の変身

ディスコで青沼を見た朱紗は、忌まわしい記憶を思いだし、ふたたび巨人となって青沼を攻撃した。






### 5 復讐に燃える

ディスコですべてを思いだした朱紗は記憶を復活するが、粗暴な性格はそのまま。復讐を誓う。

### 6 解放された心

朱紗の内面に入り込んだ超能力者たちが、執拗にくりかえされるトラウマをとりのぞいたため、優しい笑顔に。





### 7 元の木阿弥

合田との試合前。自分で戦ってやるぜ、といきまいたくせに、試合前になってまた弱虫に戻る。

### 8 超能力に開眼

合田との死闘によって、次第に自分の能力を意識して使いはじめた朱紗。目にも自信がみなぎる。






### 9 超能力で暴力

超能力にめざめて天狗になった朱紗、美剣の忠告を聞かず、彼女を裸にひんむく。

### 10 透視能力

朝めざめるとそれまでつちかった超能力は消えていて、透視の力がついていた。





### 11 超能力の巨人・1

雪代は瓜生に操られていた! 過酷な真実をつきつけられた朱紗はついに変身、街を破壊する。

### 12 超能力の巨人・2

異次元エネルギー「魔」をとりいれ、次第に巨大化する朱紗。だんだん怪物になっていく。





### 13 超能力の巨人・3

顔の両横にふたつの顔をつけ、いよいよ魔王ゼノンに似てきた。腹部には新たな「魔」がうごめいている。

### 14 超能力の巨人・4

異次元からくる「魔」に肉体が耐えられなくなり、成長も限界に達した。



### 15 邪神「凄ノ王」の誕生

朱紗の肉体を媒介とし、ついに凄ノ王が誕生した。肉体はもう脱け殻だと思われていたが……。



### 16 生きていた朱紗

しかし、朱紗はよみがえった。その瞳には怨恨はなく、なにか強い意志を秘めていることがわかる。





### 17 朱紗真弓を吸収

朱紗一族は英雄王真神に合体し、その血となり肉となる運命をもつ。真弓をとりいれ、神はさらに大きくなる。

### 18 英雄王真神

一歩あるくたびにすこしずつ大きくなる。英雄王真神を、合田が、瓜生が、雪代が見た。

# 荒神伝説

ある時は荒ぶる神として天界を騒がし、ある時は英雄として怪物を退治し、ある時は黄泉の国の王として振る舞い、ある時は疫神として祀られる。スサノオの多重人格性をみる。

## ●日本神話～古事記と日本書紀

両方で記紀ともいう『古事記』と『日本書紀』は、天皇の強い意向で作成を進めた日本初の公式史書である。

まず、全3巻から成る『古事記』は、第40代の天武天皇からの宿願だった日本独自の正史づくりを、第43代の元明天皇が命じて作業がスタートした。上巻は天地創造から日本の国生み、天孫降臨などの伝説や神話（本辞）で、中巻から下巻は神武天皇の東征にはじまって、第33代の推古天皇の世までを記している（帝紀）。

基本的に、『古事記』は語り部の稗田阿礼がそらんじていた歴史を、[illegible]き写した和文体の物語で、712年に完成した。

人の記憶に頼った史書である以上、欠落を無理に埋めた箇所もあるだろうし、朝廷の意志を強く反映した箇所もあるはずだ。だが、国策の天皇＝神の子孫という立場から、戦前までの『古事記』は完全な史実あつかいで、その内容を疑うことは許されなかった。

戦後は第15代の応神天皇までは、すべて架空であるという説が有力になって、神典や歴史書としてよりも文学性に価値を求めるようになった。ちなみに、1798年に完成した本居宣長の注釈本『古事記伝』（全44巻）は、日本の国学において多大な[illegible]

一方の『日本書紀』も天武天皇の命を受けて編纂が始まったが、天皇の死によって長く中断していた。作業が再開したのは、第41代の持統天皇の意向による。

中国の例にならって官製の正史をつくるという立場から、『古事記』の和文体と違って、こちらは漢文の編年体を採用した。完成を見たのは720年で、全30巻（別に帝王の系図1巻）の中は、神代の昔から書き起こし、第41代の持統天皇の世まで記している。

『日本書紀』は天武天皇の子である舎人親王をリーダーに、川島皇子や忍壁皇子などの皇族に加え、紀清人や三宅藤麻呂といった一級品の文章家が脇を固めていた。

『古事記』が語り部の一族によって受け継がれてきた物語系なのに対し、『日本書紀』は個人的な記録や寺院の縁起物、朝鮮および中国の資料まで幅広く併記している。江戸時代以後、何度か注釈本が出版された。

## ●アマテラスとスサノオ

[illegible]



アマテラスオオミカミ（天照大神）は、黄泉の国から戻ったイザナギがみそぎ中に生んだ三貴神の一人である。

すなわち、左目を洗ったときにアマテラスが、右目を洗ったときにツクヨミ（月読命、月読尊、月弓尊、月夜見尊）が、鼻の穴を洗ったときにスサノオノミコト（須佐之男命、素戔嗚尊）が誕生した。

イザナギは三姉弟に対し、アマテラスは高天が原を支配し、ツクヨミは夜の世界を治め、スサノオは海原の王となるよう定めた。しかし、スサノオは母のいる根の堅州国（黄泉の国）に行くといって乱暴したため、とうとう怒ったイザナギに追放されてしまう。

行く当てのないスサノオは、姉のアマテラスが暮らしている[illegible]アマテラスの髪飾りなどを借りて、5人の男神を生んだ。

反対に、スサノオの持ち物からは3人の女神が誕生する。これをもってスサノオは心が澄んでいるから女神ができたのであって、自分は姉上に勝ったと宣言した。一応、アマテラスもその言い分を飲んで警戒心を解くのだが、後で考えたらとんでもないミステークだった。

勝者気分のスサノオは神々が大事にしている田をつき崩し、神殿の上でウンコをし、機織り場に皮をはいだ馬を投げ込んだ。そのショックで、天衣織女という女神が死んでしまう。

怒ったアマテラスは天の岩戸（天石屋戸）の中に身を隠した。途端に、高天が原はもちろんのこと、下界の葦原中つ国（日本）が真っ暗になった。アマテラスは太陽を司る女神なのだ。

この後、困り果てた神々が相談して一計を案じる。天の岩戸の前で、アマノウズメノミコト[illegible]力ずくで引きずり出した。

これにて、高天が原のほうは一件落着。片や、天界も追放になったスサノオは、罰として髪や爪を抜かれて放浪の旅に出る。どの土地の神も暴れん坊のスサノオを相手に毛嫌いし、一夜の宿さえ満足に与えてもらえず、出雲にたどり着くまで苦労を重ねるのだ。

## ●黄泉の国伝説

父のイザナギに逆らってからのスサノオにはいくつかの異説があって、その一つは本人の希望通り、母のいる根の堅州国を支配するというもの。やがて、地獄の王になったスサノオの元に、6代後の子孫であるオオクニヌシノミコト（大国主神）がやってくる。

オオクニヌシの目的は、葦原中つ国の支配権を得るための試験を受けることだった。スサノオの与えた試験というのは、蛇のいる部屋で寝るとか、ムカデ[illegible]になったスサノオの娘スセリヒメ（須世理毘売）の協力で、何とか難問をクリアしていく。最後の試験は、ムカデが巣くっているスサノオの頭からシラミを取ることだった。オオクニヌシは恋人にもらった粘土に、赤い木の実を加えて、よく噛んでから吐き出した。

スサノオは赤く染まった粘土を見て、満足したのか深い眠りについた。その隙に、オオクニヌシとスセリヒメの二人は、手を取り合って黄泉の国から逃げ出していく。すぐに気づいたス[illegible]ように逃げ帰っていく。

6代後の子孫オオクニヌシと娘スセリヒメの結婚は、一見、世代を無視したメチャクチャな近親相姦である。だが、神話とは常に不条理な世界なのだ。

## ●疫神伝説

京都の祇園として有名な八坂神社の祭神は、荒ぶる神のスサノオその人である。元はインドから渡来した牛頭天王を祀っていたが、二つの神は古くから同一のものと考えられていたのだ。

その理由は、『備後国風土記』にあった。昔、ある村に巨旦将



参考資料／「新　竜の柩」祥伝社　高橋克彦　『仏教日常辞典』太陽出版　増谷文雄　金岡秀友　『超常科学謎学事典』小学館　秘教科学研究会『地獄』新紀元社　草野巧　『日本の神々の事典』学研　園田稔　茂木栄　『八百万の神々』新紀元社　戸部民夫　『幻想世界の住人たちⅢ〈中国編〉』新紀元社　篠田耕一　『神々と世界の神話の謎　東洋編』学研　『インド神話の謎』学研　佐藤和彦／文　丸山勇／写真　『古事記・日本書紀』福永武彦＝訳　河出書房新社

来・蘇民将来という兄弟がいた。どちらが兄かは異説あるが、とにかく巨旦は金持ちで、蘇民は貧しい生活をしていた。そこに一人の老いた乞食がやってきて一夜の宿を頼んだ。

猜疑心の強い巨旦は拒否したが、心のやさしい蘇民は何の礼も取らずに泊めてやった。すると、この乞食が自分こそは武塔の神でスサノオなり、「悪しき者を疫病で滅ぼすから、おまえは家の戸口に茅の輪を飾っておけ」といって去っていく。

後に、祇園精舎を守った武塔の神（牛頭天王）が疫神だったことから、スサノオも同じものとして八坂神社の祭神に迎えたという。水戸黄門や遠山の金さんではないが、日本人は昔から身分を隠して近づく英雄が好きなのだ。

ちなみに、将来兄弟の姓名が上下逆になっていることに違和感を覚える人も多いハズ。西欧人ならともかく、姓が後にくる形は、中国にも朝鮮にもない。

高橋克彦の小説『新竜の柩』では、スサノオの真の[illegible]た。この作品はスサノオ＝武塔神の謎にもページを割いていて、家の戸口に印をおくことで災厄が通り過ぎていく伝説は、ユダヤの神がエジプトでやった長子の殺戮にそっくりだという。

## ●ヤマタノオロチ

『古事記』に載っているスサノオのヤマタノオロチ（八岐大蛇）退治は、出雲に天下ったスサノオが、川の辺でアシナヅチ（足名椎）にテナヅチ（手名椎）という国津神の老夫婦に出会うところからはじまる。

二人が涙ながらに語ったのは、毎年、越後の国から生け贄の娘を食いにやってくるヤマタノオロチがいて、今年は自分たちの娘であるクシナダヒメノミコト（櫛名田比売命）を差し出さなければならないという。

ヤマタノオロチは八つの山と八つの谷を覆うくらい巨大で、背中には大木が生い茂り、口からは火炎のような毒気を吐き、腹の下は真っ赤な血がにじんでいる。

クシナダヒメを妻にもらうことを条件に、ヤマタノオロチ退治を引き受けたスサノオは、八つの門をつくって、その前に八つの瓶を置いた。瓶の中には濃い酒が満たしてある。

スサノオの考えた通り、ヤマタノオロチは瓶に首をつっこんで酒をガブ飲みした。スサノオは酔いつぶしたヤマタノオロチを殺し、その尾を引き裂いたときに出てきたのが、後に天皇家の三種の神器の一つとなった天叢雲剣（草那芸剣、草薙剣）である。

クシナダヒメは約束を守って、二人は出雲の国に宮殿を建てて暮らすことになった。このときにスサノオが詠んだ歌が、「八雲立つ　出雲八重垣　妻ごみに～」である。ちなみに、クシナダヒメは『古事記』の名前であって、『日本書紀』ではクシイナダヒメ（奇稲田姫）だ。

## ●女媧

中国の創世神話では、まず、混沌の中に誕生した大巨人・盤古が1万8000年の時をかけて天地を二つに分けた。さらに1万8000年後、盤古は寿命が尽きて死んだが、その体が分解して太陽や月、星、雲、風、雨など、あらゆる自然を生み出した。



そして、ようやく天地の理が定まった頃、この世に出現したのが、首から上は人間で体は大蛇という女媧である。

女媧はユダヤの造物神がそうしたように、黄色い土をこねて泥人形をつくった。ここに命を吹き込んだものが、世界で最初の人間になった。だが、何人もつくっていくうちに疲労を覚えた女媧は、紐からしたたり落ちる泥でつくる方法をとった。人間に出来の善し悪しがあるのは、実はこういう訳なのだ。

女媧のつくった人間はあらゆる場所に満ち満ちたが、寿命というものがあって、いつかは滅



[illegible]いて、体の一部が欠損したものだという。

もう一つ、女媧にまつわるエピソードで欠かせないのは、崩壊した天を修理した話だ。同じ蛇身の共洪が反乱を起こしたとき、帝に敗れたくやしさから天を支える柱を折ってしまった。おかげで天は破れて傾き、あらゆる災害や天変地異が襲ってきた。人間をはじめとする地上の生き物たちは、逃げ場を求めて右往左往する。

人間たちの危機を知った女媧は、五色の石を火で煎ったもので天の破れをふさぎ、大亀の足を切って天を支える柱にした。10日後には、以前と同じ平和が戻ったという。西欧人の考える造物神がエホバなら、中国人にとって人類の祖神は、この女媧なのである。

## ●国生み

[illegible]が出現する。

さらに、国之常立神から7代にわたって天津神たちが誕生した。これは神世七代といって、最後に登場したのが、イザナギノミコト（伊邪那岐命、伊弉諾尊）とイザナミノミコト（伊邪那美命、伊弉冉尊）の夫婦神である。

二人は天津神たちの「国をつくり固めよ」という命を受け、高天が原から淤能碁呂島（オノゴロジマ）に天下っていく。そして、イザナミの体の足りない部分とイザナギの余分な部分を確認。二人の陰陽を一つにすることで、水蛭子と淡島を生んだが、できそこないだったので海に流した。

国生みが失敗したのは、女神のイザナミから声をかけたのが悪いということになり、次はイザナギから声をかけたところうまくいった。二人は淡道之穂之狭別島や伊予之二名島、隠岐三子島、津島、佐渡島などを次々



## ●摩利支天

陽炎や威光という意味のマリーチ（マルト神群の首長）に漢字を当てた摩利支天は、三面六臂とか三面八臂の女神で、その像は神猪か蓮華に乗っている。元はインドの土着の神で、仏教では梵天に従う眷属だ。

姿を隠して災難を除くことから、越後の上杉謙信を筆頭に、多くの武将が守り本尊とした。護身・勝利・富裕を願う呪術を摩利支天法という。

## ●十二神将

薬師如来を護る眷属で、甲冑を身につけた十二人の大将。お[illegible]宮毘羅は弥勒で十二支は子、伐折羅は勢至で十二支は丑、迷企羅は阿弥陀で十二支は寅、安底羅は観音で十二支は卯、頞儞羅は如意輪で十二支は辰、珊底羅は虚空で十二支は巳、因陀羅は地蔵で十二支は午、波夷羅は文殊で十二支は未、摩虎羅は大威徳で十二支は申、真達羅は普賢で十二支は酉、招杜羅は大日で十二支は戌、毘羯羅は釈迦で十二支は亥——だ。各大将は武器として、宝剣、宝杵、宝槌、宝棒、宝棍、宝斧、宝叉、宝輪などをもっている。

（石塚勝美）

## ストーリーダイジェスト

# Topic 『凄ノ王伝説』

「凄ノ王」には、ふたつのバージョンが存在する。ひとつは、「少年マガジン」での連載を完結させた『超完全完結版　凄ノ王』であり、本書ではこちらを底本とした。もうひとつは、角川書店から出版され全7巻を数える『凄ノ王伝説』である（現在は絶版）。

1




2







3

『凄ノ王伝説』は、「少年マガジン」での連載をもとにした5巻まで（大胆な加筆がほどこされている）と、角川書店の各雑誌に断続的に掲載された6、7巻とにわけることができる。

講談社版と大きな異同があるのは終わりの2巻ぶんであるので、ここではこの6、7巻を取り上げることにする。

まずは上カットの1、雑誌「バラエティ」に掲載された『凄ノ王伝説　火神子（ひみこ）』だ。舞台は耳宇高校とは別の学校、主人公は葛城ゆかという女の子だ。しかしこれは朱紗真悟の内面世界であって、邪神・凄ノ王を生みだした朱紗が自らの内部に閉じこもって幻想した世界だった。瓜生麗は雪代の頼みもあって、火神子という女性の姿をとって、朱紗を目覚めさせる。

それ以降の展開は講談社版と近いが、もっとも異なっているのが瓜生麗。彼は雪代の「(凄ノ王は）あなたの姿よ！」という叫びに呼応し、体内に「魔」を取り込んで魔王となる（2）。

[illegible]

5〜7は朱紗真悟の母・姉・叔母がたどる運命。3人は世界を造ったもの――国生みの神・伊邪那美（いざなみ）（5）に出会い、宇宙創造の秘密を知るが、「魔」にとりつかれて怪物となる(6)。地上で「魔」を成敗していた朱紗はこの怪物を斬ったのち(7)、母と知って涙を流すが、母は朱紗に「この世界は造られた世界だ」と伝えてこときれる。「強い意志をもってこの世界に立ち向かって下さい」という母の最後の言葉と、荒野に向かって歩む朱紗の後ろ姿が印象的である。

朱紗によってネズミにかえられた青沼は猫のあと犬を経て、ついに人に戻る(8)。再生した彼に毒気はまったくなく、柔和な男にかわっていた。

掲載誌が青年誌であるため、エロティシズムがふんだんに盛り込まれているのも『凄ノ王伝説』の特徴だ（4）。

4



5



6



7



8



# 悪魔の章II

## デビルマンレディー



デビルマンとなる人物が不動明でなく、女だったなら、滅亡へ向かう人類の光明となるのではないか――そんな作者の願いから生まれた本作は、地獄によみがえったデビルマン＝不動明をくわえ、さらに多くの謎をはらみながら進行している。哀しみのヒロイン・不動ジュンに笑顔が戻る日はくるのか？

# 永井豪
# 「凄ノ王」講談社漫画賞受賞コメント

**「凄ノ王」が第４回講談社漫画賞を受賞。コメントは、昭和55年７月６日発売「週刊少年マガジン」に掲載された。**

## いただきます

マンガとの初めての出会いは、忘れもしない三歳の年、父が土産に買って来てくれた手塚先生の「ロストワールド」でした。以来、マンガ世界にドップリとつかりっぱなしの私の人生が始まるのです。

私には幼いころの日常生活の記憶はありません。なのに、当時見たマンガだけは一ページごとに思い出せるのです。マンガの中だけに私の思い出があるのです。きらめくようなマンガの世界に比べたとき、日常生活のなんと色あせていたことか!? そんな私がプロの漫画の世界へふみこんでいったのは、当然のなりゆきだったのでしょう。

プロになってから十三年……。それは何と面白く楽しい年月だったことでしょう。六歳のころ、たくさんのマンガ本を抱え、輝く夜空の星を見上げながら、〝ぼく、マンガ家になろう〟と誓ったあの決心は、間違いではなかったのです！

社会の敵、公害漫画家とののしられ、かと思えば多くの子供たちから「好きヨ」と熱い眼ざしを送りつけられ、こんな素晴らしい仕事が他に考えられるでしょうか。そんな楽しい毎日を送る私に、[illegible]もたらされたのです。

今、私の頭の中を、子供のころ夢中になって読んだ多くのマンガ作品が、走馬灯のようにかけめぐります。いろいろなアドバイスをくださった編集の方々の顔がよぎります。力を貸してくれたダイナミックのスタッフ達が、そして、私が生み出してきたキャラクターの顔々が……。

## 第四回講談社漫画賞

永井　豪「凄ノ王」（週刊少年マガジン所載）
吉田まゆみ「れもん白書」（月刊Mｉ－Mｉ所載）

■賞　正賞／賞状および置時計　副賞／金五十万円

【第四回講談社漫画賞候補作品一覧】

| | |
|---|---|
| 凄ノ王 | 永井　豪 |
| 1・2の三四郎 | 小林まこと |
| ガッツ乱平 | 百里あきら |
| おやこ刑事 | 林　律雄 |
| | 大島やすいち |
| れもん白書 | 吉田まゆみ |
| 放課後の時間割 | 美村あきの |
| 伊賀野カバ丸 | 亜月　裕 |
| エロイカより愛をこめて | 青池保子 |

★選考委員（五十音順）
赤塚不二夫氏　阿部進氏　石森章太郎氏
[illegible]

# 『デビルマンレディー』作品解説

## 世紀末に描かれるデビルマンの物語

『デビルマン』におけるデーモン族は、地球の先住人類であった。しかし、『デビルマンレディー』におけるデビルビーストは、そうではない。あくまで人間自身が、「力の進化」をした形態として、獣人化するのである。つまり、デーモンは明確に人間の外にいる存在だったが、デビルビーストは人間の内部に住みついているのだ。

現代の人間がかかえるフラストレーションやストレス、闘争心、欲望。そんなものが鬱積したところに、ビースト化した人間はあらわれる。不動ジュンの父・不動博士は、わが娘にビースト化の兆候があることを早いうちに発見し、それを抑制する酵素(ビーストバスター酵素［B・B］)を、長期にわたって投与しつづけた。ビーストの能力をもちながら、人間の理性を保持する存在として、デビルマンレディーは誕生するのだ。

アスカ蘭の所属する人類同盟［H・A］は、ビースト化した人間を衆人の目から隠し、暗黙裏に処理する機関として、世界規模で発足した。ビーストの存在を衆目にさらさないために、人類同盟はあらゆることをする。報道統制やマインドコントロール、さまざまな手段を利用して、ビーストの存在は人々の目から隠されている。

ここにはもちろん、「人々を混乱させるのを防ぐ」という大義名分がある。知らぬが仏というやつだ。しかし、報道を規制し、人間の精神をコントロールできる人類同盟は、そのままファシズムでもある。不動ジュンもそのことに、うすうす感づいている。あるいは、人類をカタストロフに導くのは、ビーストではなく「人類」同盟なのかもしれない。『デビルマン』とおなじ結末が、『デビルマンレディー』にも用意されているのかもしれない。

そして――物語にはやがて、デビルマン＝不動明が登場する。ヴラヴァによって「地獄」(異次元)に落ちた不動ジュンは、地獄で不動明に出会うのだ。ヴィルギリウスに伴われて地獄巡りをするダンテのように、ジュンは明に導かれ、地獄を巡る。そこは、『デビルマン』の世界が引き続く世界でもあった。このことが、『レディー』の物語を、いまだ継続する『デビルマン』の一部として、位置づけた。その行く末はいまだ、明らかになってはいない。





DEVILMANLADY CHARACTERS NO.001

## デビルマンレディー




### 哀しみの女戦士

人はだれでも、「ブッ壊したい！」という気持ち＝破壊衝動・暴力衝動を、心のどこかにかかえている。それはそのまま、殺戮衝動でもあるだろう。デビルマンというのは、そんな衝動のハイパーなやつが、体の内部に標準装備されている。それでいて、なおかつ自分を抑えねばならない。理性をもって行動しなければならない。つまり、飛鳥了のいうとおり、「善良で純粋な心をもち、正義を愛する」気持ちがどこかになければならないのだ。

レディーに変身したジュンは、殺戮を求め、殺戮を愉しむ。しかし、その一方で、ジュンは悲しんでいる。ビーストとなった人間を殺す自分を悲しむとともに、悪鬼のようになった自分、殺戮衝動の虜になってしまった自分を悲しんでいる。女性である、ということは、自分が変わるということにたいしても、敏感であるということなのだ。だからジュンの目には、いつも涙が光っている。




## デビルマンとはなにか(B・B酵素)

デビルビーストとは、人間が「力の進化」を遂げた姿だ。はげしい闘争心も、人間を食うことも犯すことも、人類にかわる「地球の覇者」になろうとする種の欲求である。それが人間にとって脅威であるのは、人間がビーストより「弱い種」であるからだ。人間が、科学の力でこの脅威に抗おうとしたとき、デビルマンが生まれた。B・B酵素、それは、「人間にとって都合のいい倫理や常識」をもった獣人を、作りだす酵素なのである。



## デビルマンとビーストとはなにか(その本能)

デビルマンとビーストの間には実質的な差異はない。その行動原理が、本能――種の保存の欲求に基づいているという点ではまったくかわらないのだ。B・B酵素によって人間の知性こそそもち続けるが、知性はやがて、本能の欲求に勝る――ジュンの父・不動博士はそう語る。

しかし、変身はコントロールできる、という謎の男もジュンの前にあらわれる。霊体の不動明が、ジュンをそうさとしたのだ。





## 翼がはえる

地獄はイマジネーションが現実化する世界だ。ここでジュンは、翼をはやして空を飛ぶ方法を知った。作者によれば、「後から飛ぶ」というこのパターンは「マジンガーZ」のとき使った手だ、とか。






## 地獄に落ちるジュン

ヴラヴァ神の復活によって、次元の扉が開き、ジュンは十字架につけられたまま、地獄へ落ちていく。そこで彼女は、デーモンとデビルマンの激しい戦争を目撃した。彼女は地獄で不動明と出会う。

担当編集者に聞く

『デビルマンレディー』

## 『レディー』は先生のライフワークになると思います

永井先生が以前おっしゃっていたのですが、「昔だったらこういう話は、少年誌でしかできなかったんじゃないか」ということでした。それが、どうして一般誌でできるかというと、今の社会状況が、不安が蔓延していたり、暴力や性的なものがはびこっていたり、みな、「異常な感じ」というものに現実感をもっているからだというのです。『デビルマンレディー』はだから、「今の時代というものに連続した形で話を進めたい」ということでした。

僕は、担当として二人目で、雪山のエピソード(KC6巻「白銀の戦い」)から担当になったのですが、デビルビーストとレディーとの格闘の形で、すでに何シリーズか続いていたんです。で、「そろそろ作品の世界をもう少し広げたいですね」というような話が永井先生からありまして、不動明の登場となったんですが、わりに唐突な印象を、読者の方はもたれたかもしれません。

でも、ストーリーのいちばんはじめ、アスカ蘭がはじめて登場する、あのシーンに、デビルマンはいるんです。不動ジュンがレディーになるところを、不動明は見ているんですね(本書P135)。

もちろん、連載のはじめから、永井先生が現在の展開まで考えられていたわけではないと思うんですが、無意識のうちに描かれていたことが、あとで重要な伏線となって生きてくる。『デビルマンレディー』は『デビルマン』の世界をも取り込んで、永井先生のライフワークになると思っています。

DEVILMANLADY CHARACTERS NO.002

# アスカ蘭




## 謎につつまれた女性

アスカ蘭は、H・A（人類同盟）のサーチャーである。超能力者であり、ビーストの居所を感じ取ることができるばかりでなく、空中に浮かぶことさえできる。

彼女は、未だ多くの謎に包まれている。まず、彼女が所属するH・Aという組織が、すでに謎だ。各国の首脳が共謀して作った防衛組織、ということだが、世人はその存在を知らず、情報公開もされていない。その真の目的も知れない。アスカ蘭という名前は偽名だというし、それ以外の情報は、すべてトップシークレットになっている。彼女の国籍がどこにあり、どんな生い立ちをたどっているのか。それもすべて謎なのだ。

H・A、すなわち人間としての謎にくわえ、現在、彼女はさらに重層的な謎をまとってきている。いわば形而上的に──彼女は謎めいた人物なのだ。不動明はアスカを「光の蛇」とののしった。それがどういう意味なのか、サタンとどう関わるのか、謎は深まっていく。







## 不動明は見ている

不動ジュンを「獣」として目覚めさせるきっかけを与えたのは、アスカだった。もちろん、「獣」はジュンの内部に眠っていたものだが、アスカは「目覚めよ！」というメッセージを送り続けたのである。巨大な吸血コウモリがジュンを襲ったとき、アスカはコウモリの群れの中にいた。

不動明はそれをじっと見ている。背景のデビルマンの影に注目。

## 光の蛇

八甲田山で集団でビースト化した自衛隊員に、アスカは輪姦されてしまった。彼女は「妊娠したかもしれない」と思い悩む。だが、彼女の前に黒い影があらわれ、いう。「お前が妊娠などするはずがないのだ。なぜなら──光は闇と交わらない！」黒い影の正体は誰か、アスカは知らなかった。

「光の蛇」とはサタンを暗示する。「自分と蛇との関係を考えるため」アスカは日本をはなれる。



DEVILMANLADY CHARACTERS NO.003

# 教師のビースト

## 同僚がビースト

不動ジュンが父親の説明によって、人間のビースト化現象を知ってすぐ、ビーストはジュンの前に姿をあらわした。ジュンと同じ高校に勤める教師・大川がビーストだったのだ。大川は優しげな風貌で生徒にも人気があったが、その風貌を逆に利用して、生徒に売春させていた。

大川をビーストと認識しても、ジュンは殺すのをためらった。たとえビーストであろうと同僚だ、という意識がジュンにはあったのだ。





## 大川死す

ビーストはふつう、包丁で刺されたぐらいじゃ死なない。しかし、B・B弾を数発くらい、レディーとの戦いで傷ついた大川は、これで死んだ。犯人は、大川が売春させ、上前をピンハネしていた生徒、君島だった。





DEVILMANLADY CHARACTERS NO.004

# 鳥のビースト



## ビーストは鳥、人は豚

ママはかつて、小鳥のように美しかった。だが、現在は豚だ。自分を育てるために、ママは豚になったのだ──七美はそう考える。人間のときはまさに豚のようだが、ビーストになると鳥になる母親。




## 人に戻る七美

ビーストに変身したばかりの状態でB・B酵素を注射された七美は、やがて人に戻る。母の死は事故と報道され、七美は事件を覚えてはいなかった。あまりに異常な出来事を「真実」とは認めなかったのだ。



## 『レディー』版シレーヌ

歌手・加山七美のステージママは、ビーストだった。夜な夜な鳥の姿で街の上空を飛び回っては、人々を襲う。

ジュンとアスカはこのビーストを追い、七美のマンションを訪れるが、そのことが七美のビースト因子を刺激し、彼女までビースト化させてしまう。

ストーリーの冒頭、七美とマネージャーの会話の中でシレーヌが引用される。七美が変身した姿は、少し若いシレーヌという印象。

DEVILMANLADY CHARACTERS NO.005

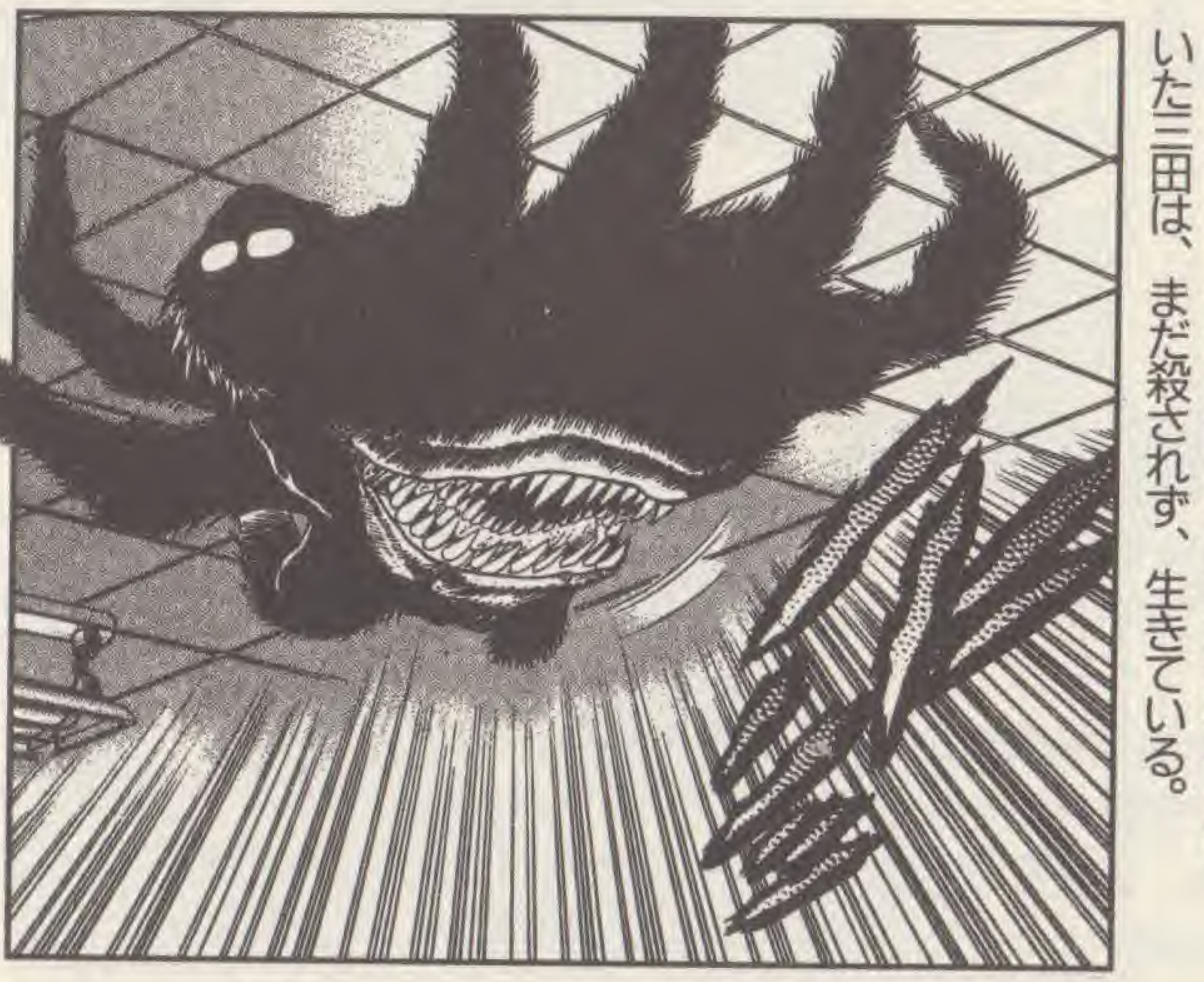
# 真実の口

## ボッカ　デラ　ベリタ

悪党ばかりがビースト化するわけではない。たとえば、いじめれっ子の屈折した感情だって、ビースト化を促進させるのだ。

三田はビーストに変身するとき、ボッカ・デラ・ベリタと唱えた。「真実の口」そういったのだ。ビーストになってからの自分の殺人衝動を、そういうことで正当化していたのである。自分は裁きを下すために変身した、欲望によるものではない、と。



### 断罪する弱者

いじめっ子は社会適合できぬ弱者だ。それを隠すために、さらに弱い者をいじめ、強がろうとする。三田はそう断罪した。ビーストになってからもかすかに人間の意識をもっていた三田は、まだ殺されず、生きている。





DEVILMANLADY CHARACTERS NO.006

# 二重人格のビースト




### ジュンのライバル

ジュンは、黒崎あおいに敵愾心（てきがいしん）をもつことで、ビースト因子を促進させ、デビルマンレディーとなった。しかしその黒崎の強靭な肉体もまた、ビーストによるものだったのだ。



### 分裂するビースト

人間としての黒崎は不動ジュンを愛し、殺したくないと考えていた。その感情がビーストと衝突し、彼女はビーストと分裂する。あとには、水泳選手とは思えない、きゃしゃな肉体が残った。




### ふたつの人格

中学時代、養父に辱め（はずかし）を受けていた黒崎あおいは、その経験から逃れるため、人格を分裂させた。作り出した別人格がビースト化することによって、黒崎は養父を殺し、復讐を果たす。しかし、その後は体内にビーストを飼う苦しみと、常に戦わねばならなかった。

ビースト人格は黒崎の深層の欲望をあばきたて、黒崎をなじる。栄光あるオリンピック出場選手の内面は、つねにふたつの人格が葛藤していたのだ。

DEVILMANLADY CHARACTERS NO.007

# 吸血鬼




## 吸血の里のデビルマン

デビルビーストは、人間の遺伝子が原因となって出現するものである。したがって、人類の長い歴史のなかには、当然のように存在してきた。鬼と呼ばれ妖怪と呼ばれたものは、ビーストだったかもしれない。

吸血鬼伝説のある九ヶ都(くがつ)の里には、デビルマンがいた。人としての理性と吸血鬼としての能力をもつ伝説の女性おみつは、デビルマンであるがゆえに、安土桃山時代から生きながらえていたのだ。

おみつはいう、「人間は自分たちより強いものが存在することを許さない」

長い年月、ビーストにならずデビルマンたれと民に教え、みずからもそうあろうとしてきたおみつは、「やっと死ねる」と喜びつつ死んでいく。

なお、「九ヶ都」という地名は、短編『吸血温泉へようこそ』でも使われている。





DEVILMANLADY CHARACTERS NO.008

# 早見青二



## 早見家の謎

早見青二は、あの『キューティーハニー』でハニーとコンビを組んでいた新聞記者、早見青児の息子である。『レディー』の世界においては、この早見青児は死んだことになっているようで、息子青二は写真を拝んでいる。ただし、近年執筆されたハニーの続編『Cutie HONEY』においては、この青児さんが年取ったおじいさんの姿ででてきたりしているからややこしい。とにかく、この青二君、アスカなきあとのジュンのパートナーです。



### 地獄をでたジュンが見たもの

『神曲』のダンテは、地獄の最下層コキュートスを抜けでたところで、すでに亡き最愛の恋人ベアトリーチェに会う。同じくコキュートスを抜けた不動ジュンが見たのは、死んだはずの早見青二だった。

DEVILMANLADY CHARACTERS NO.009

# コギャル・ビースト



## ジャンキーの少女

デビルビーストは、人間社会がかかえた問題が鬱積するところにあらわれる。

すでに覚醒剤中毒になっていたコギャル・晴美は、シャブを打つとビーストに変身する。暴力団はそれを利用して、宝石店を襲い晴美に強奪させていた。しかし、その暴力団とのイザコザが、晴美を暴走させ、彼女は凶暴な獣となっていく。あるいは覚醒剤のせいかもしれない、晴美はジュンも手を焼くほどの怪物に変身するのだ。







## 女子高生・晴美

父親なきあと、バーのマダムをしはじめた晴美の母親は、晴美をまったく鍵っ子にしてしまったばかりでなく、相手にもしなくなっていた。孤独な晴美はやがてシャブ漬けにされ、獣の肉体をもちいた犯罪に手を染める。

## さらなる変身

再度変身し、パワーアップした晴美の姿。すでに二足歩行をやめ、四つ足で立ち、2本だったツノが4本になっている。突如あらわれたデビルマンライガーによってとどめを刺された。




## イン・ザ・ダーク

'98年8月に描かれたデビルマン外伝『デビルマン・イン・ザ・ダーク』において、晴美は地獄に落ち、不動明と出会う。ネコの耳がついていることから、晴美はネコ型ビーストだ、ってことがわかった。







## 救われた晴美

地獄でデビルマンとシレーヌの激闘を目撃した晴美は現世に戻るが、ドラッグには手をださなかった。デビルマンの歴史が存在しない世界があるように、晴美がビーストにならない世界もまた、あるのだ。

DEVILMANLADY CHARACTERS NO.010

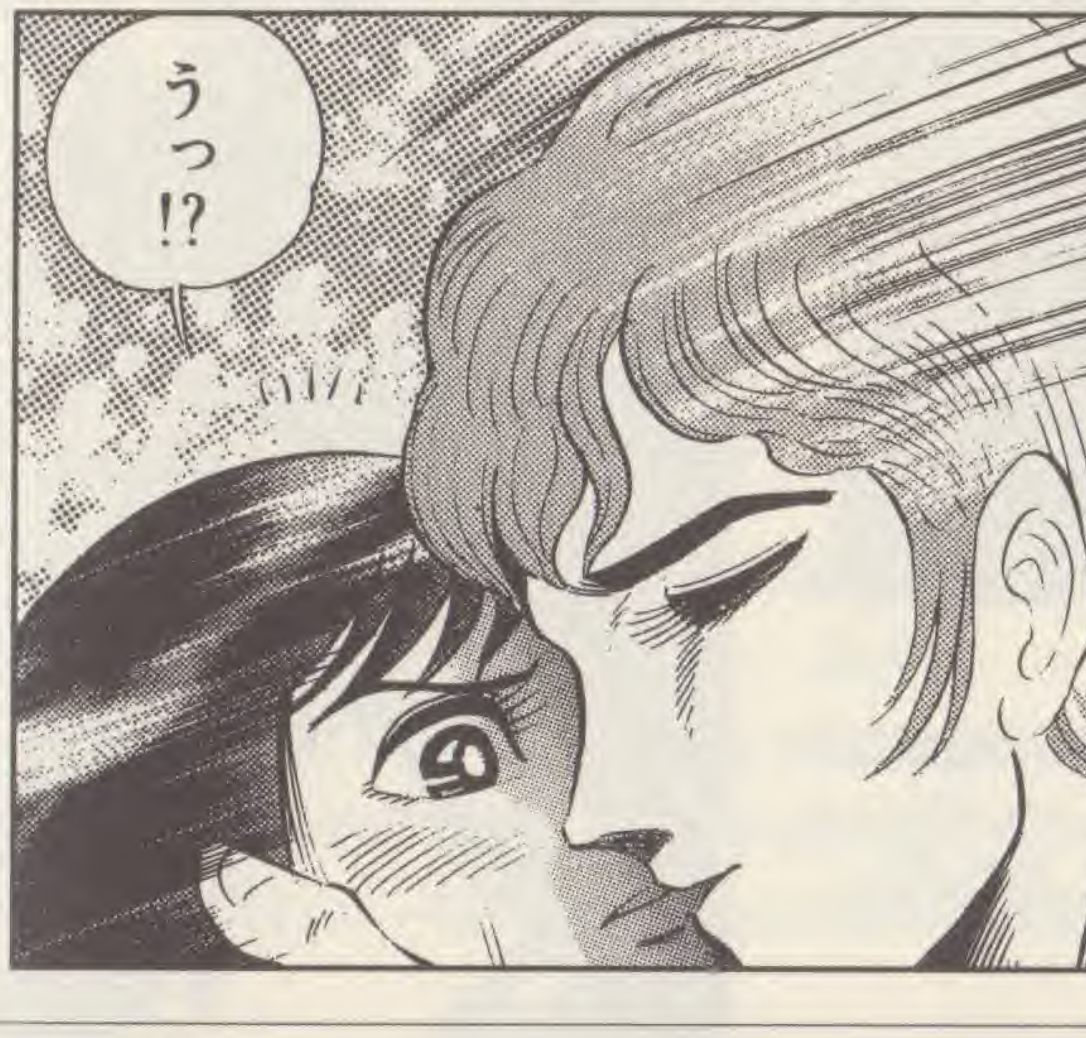
# デビルマンライガー



## デビルマンは正義か

ライオンとタイガーの力を備え、人間の頭脳とバッファローの角をもつデビルマン、ライガー。その素顔は、ライガーとは対照的な優男(やさおとこ)ジム・ランガーである。

ライガーが何者なのかはまだ明らかにされてはいないし、H・Aの真の目的も明白ではない。ただひとつわかることは、デビルマン＝善という等式は、必ずしも成り立たないということである。ジム・ランガーの不敵な表情が、それを物語っている。




### ジム・ランガー

デビルマンのときの自分と、人間のときの自分をハッキリ分けて考える男、ジム・ランガー。その正体はいまだ謎につつまれている。瞬時に女性の唇をうばうプレイボーイだ。





DEVILMANLADY CHARACTERS NO.011

# 痴漢のビースト



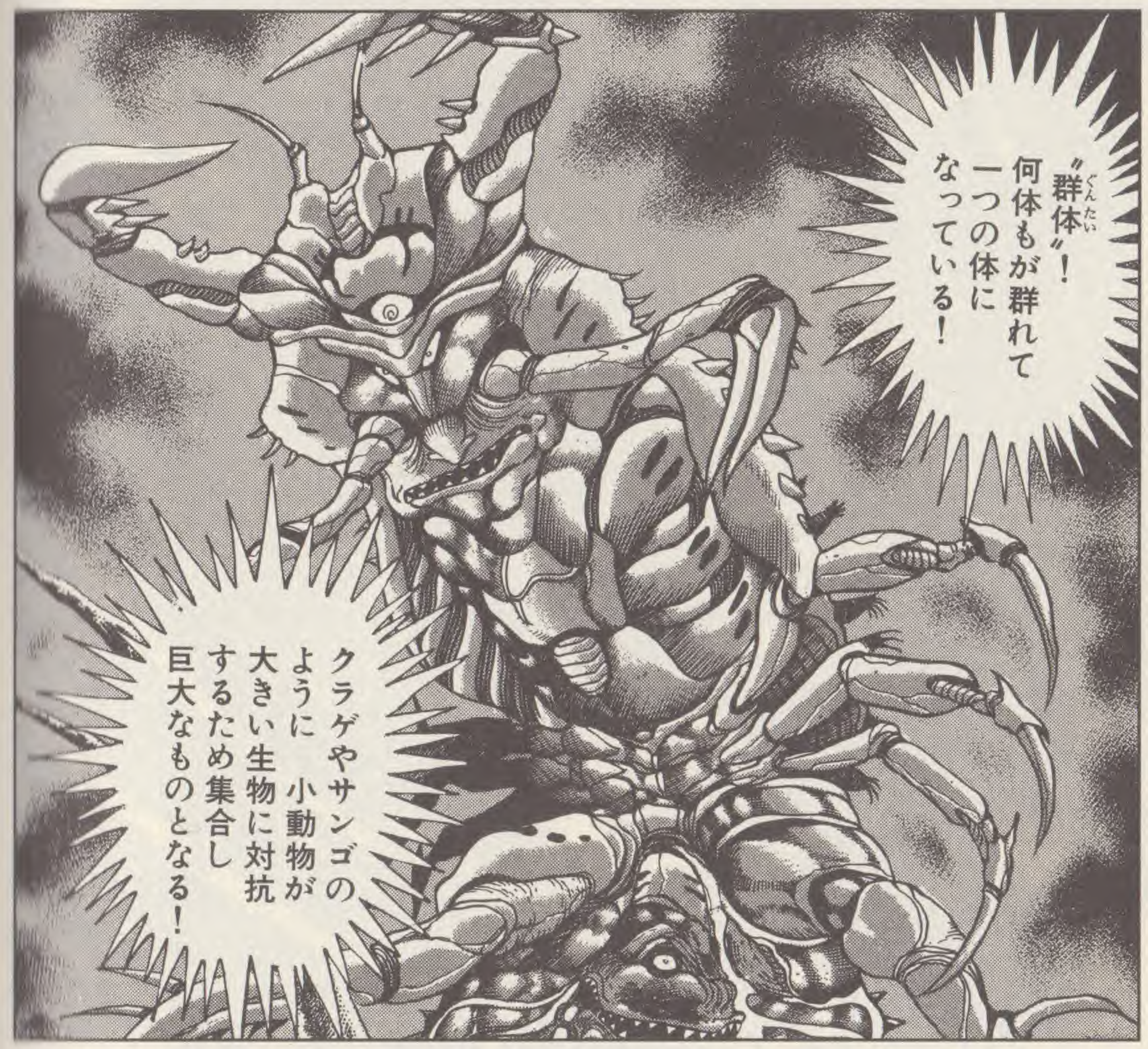
## ビースト化した痴漢

ビーストは人間が「進化」した姿だ。だから、獣人化した人間はたいがい、自分は超人類になったのだ、すごい能力をもったのだ、といってほくそ笑む。

この痴漢も、指から女をシビレさせる体液を分泌し、なおかつ体を自在に変形できる能力をもった、といって喜んだ。顔が変形できれば、いくら痴漢をやってもつかまらないわけだ。この男は結局、B・Bによって人間に戻された。

DEVILMANLADY CHARACTERS NO.012

# 群体のビースト




## ビーストになる者

軍人とは、武力をもって人を殺すことを任務とする者である。すでに、目的からビーストと同じなのだ。そんな軍人たちが、極限状況のなかで激しい訓練を行えば、ビーストになれといっているようなものだ——アスカはそういう。そして事実、青森県八甲田山で訓練をする自衛隊員は、大量にビースト化したのである。彼らは合体して群体をつくり、巨大獣となった。統率のとれた軍隊のシステムが影響したのかもしれない。

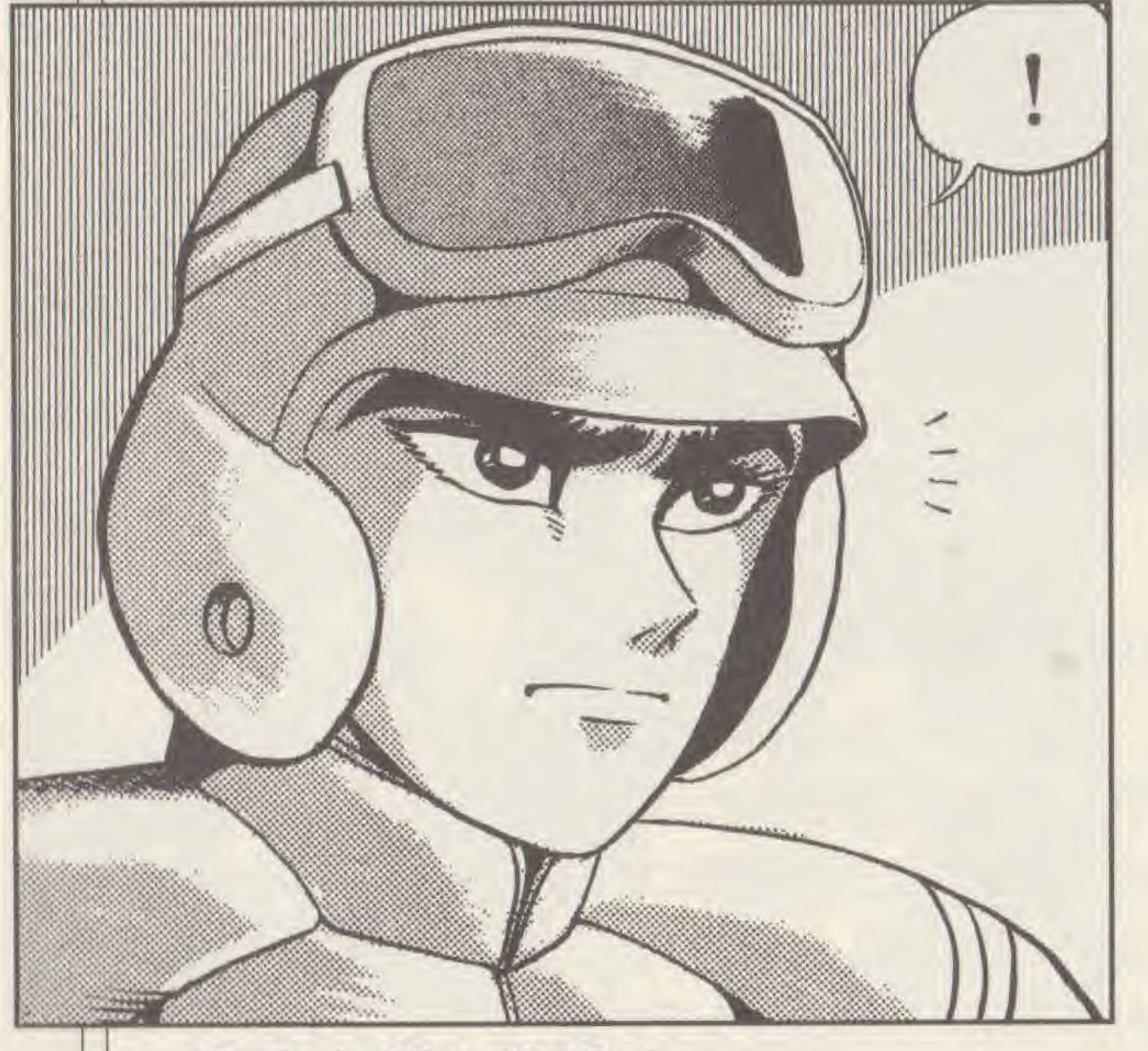




## SSOC

SSOC（ゾック）とは、H・Aの要請によって作られた対ビースト戦闘部隊である。そのメンバーには、元自衛隊員や警察官で、B・B酵素を受け入れることのできる者が選出された。




## 早乙女門土登場！

ファン待望、早乙女門土がついに登場！　ビーストとの戦闘で額から血を流したが、トレードマークの傷はこれからできるのか？　われわれは門土がデビルマンになる姿を見られるのか？　今後の展開が期待される。




## 大日本帝国の復活

ビーストとなった自分は、超人である。[illegible]ビーストになった者たちは、もってしまう[illegible]ビースト化した自衛隊員が標榜したのは、[illegible]活と、日本「軍」の復活だった。

## SSOCのデビルマン

獣人化しデビルマンとなったSSOC隊[illegible]し、彼はジュンのように、人間の姿に戻[illegible]かった。いったい、彼はその後どうなったの[illegible]中の戦士』をほうふつさせるスタイル[illegible]



DEVILMANLADY CHARACTERS NO.013

# ヴラヴァ



## よみがえる古代神

グルメク共和国には、キリスト教以前の古代神の伝説が残っている。ヴラヴァ（初出時にはヴァラヴァと表記）という名のその神は、獣頭人身であることから、ギリシャ神話のミノタウロスの血族と考えられた。戦神であり、予知能力をもつという。早見青二は、この神を小松左京の小説『くだんのはは』にあらわれた件（くだん）という怪物になぞらえた。

グルメク共和国大使館で若い女性の失踪が相次いでいることを知ったジュンは、事務員として大使館に潜入する。だが、人の心を読む件の能力ももつヴラヴァは、すでにジュンが警察の回し者であることを感じ取っていた。

やがて、儀式がはじまる。ジュンは毒薬によって意識不明となり、十字架に磔（はりつけ）にされ、大使館の人々に次々に犯された。それこそが、ヴラヴァ再臨の儀式なのだ。ヴラヴァはこれによって再臨したが、同時に、地獄の扉が開いていた。





## ヴラヴァの計画

ヴラヴァは、最終戦争でデビルマン軍団と戦ったデーモンのひとりである。デーモンが現世に復帰する計画を進行させていた。グルメク共和国大使の肉体を使って現世に出現したのも、その計画の一環だった。






## デビルマンＶＳヴラヴァ

ヴラヴァは千のデーモンを従え、デーモンの王とさえいわれるツワモノ。ジンメン・シレーヌにつづき、ヴラヴァまででてきてどうなるかと思ったが、とにかくデビルマンは強くて、ヴラヴァは話になんないのでした。

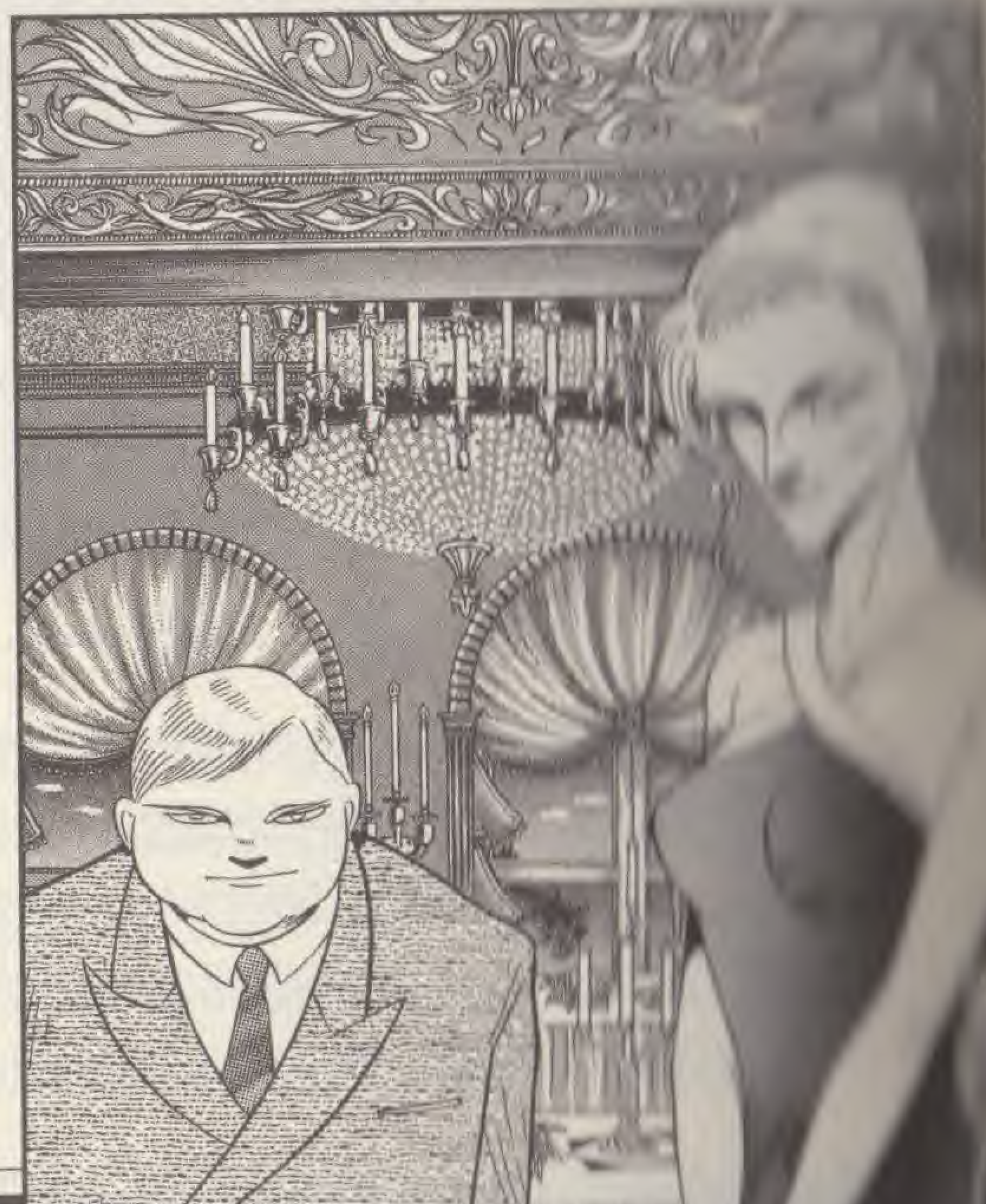



## ヴラヴァになった男

誰よりもヴラヴァの再臨をおそれ、「あれは
悪魔だ」とさえいい、ジュンに大使館から
すすめていた男・グルメク共和国大使。
とこそ、儀式の際ヴラヴァに変身する人間

## ヴラヴァ直系の一族

グルメク共和国大使の妻と息子。
デールの一族はヴラヴァ神の血を引く
はいわゆる知恵おくれの子であるが、
も、地獄の扉が開くのも予知した。



DEVILMANLADY CHARACTERS NO.014

# ラグウドラ




## ヴラヴァ軍、第一の戦士

ヴラヴァは、千のデーモンを率いて、かつて王と呼ばれた悪魔であった。そのヴラヴァの眷族のひとりであり、第一の戦士に当たるのが、ラグウドラである。ヴラヴァの副将的役割ももっているようだ。デビルマンとヴラヴァが格闘する際、戦いを有利に運ぶ人質にと、腹の口にレディーをつかまえていたが、レディーはからくも脱出する。ラグウドラはこれを逃さなかったが、やってきたデビルマンに八つ裂きにされた。





DEVILMANLADY CHARACTERS NO.015

# 蛇のビースト




## 蛇か人間か

もともとサディストだった商社マンが、みずからの嗜好を満足させるため、ビースト化したもの。このビーストが特殊なのは、ビースト化以前と以後とで、一対一対応がされていないことだ。このビーストは、無数の蛇の集合体なのである。

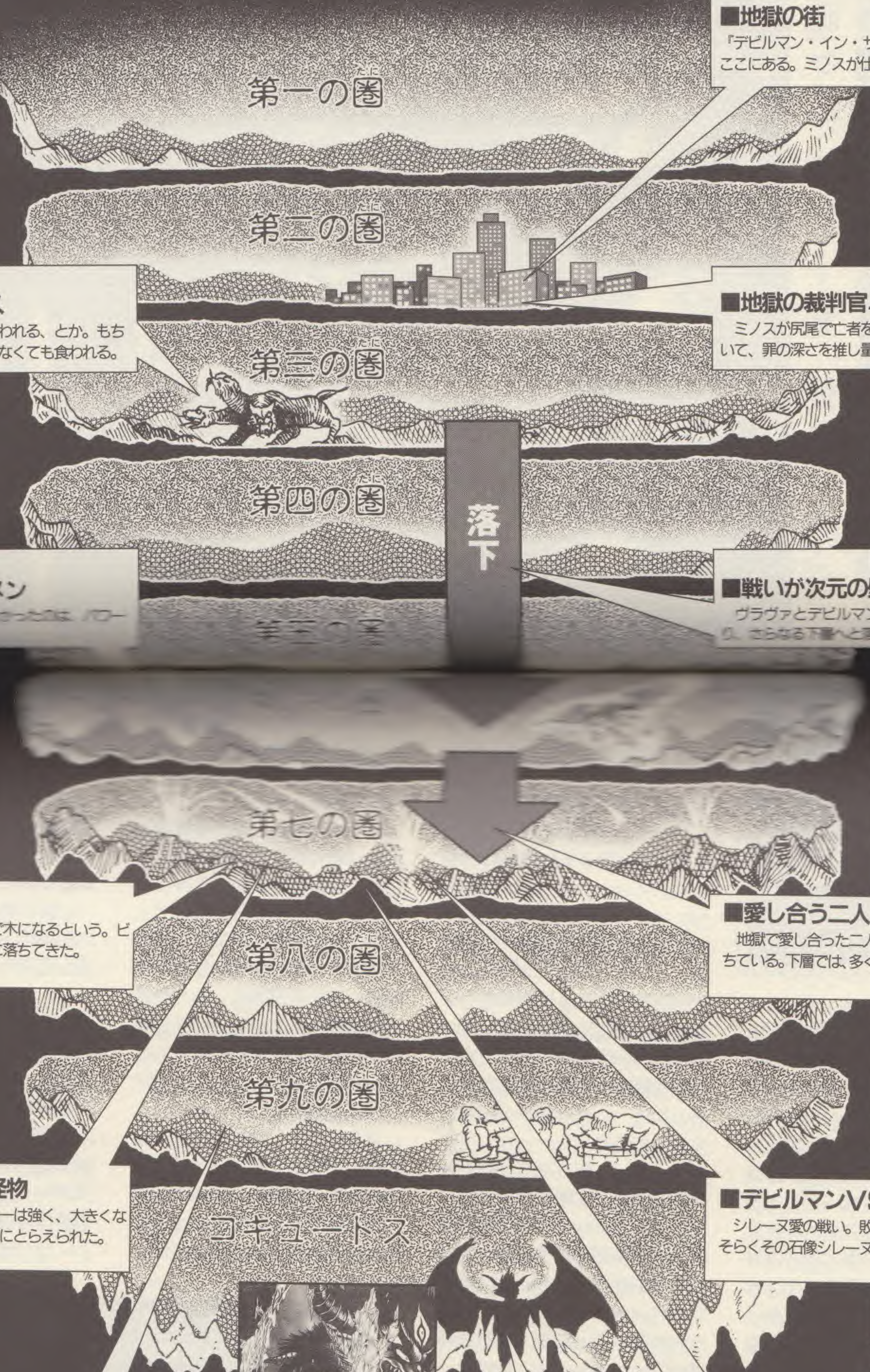
なお、この短編「スネーク」は、コミックス収録のため描き下ろされたもので、雑誌掲載とコミックス収録が同時だった。「蛇」という言葉に反応するアスカが印象的。

# Topic 図解!『デビルマンレディー』地獄の構造

ダンテ『神曲』における地獄の構造を参考に、『デビルマンレディー』の地獄のエピソードを図解してみた。



画・松本圭司




**■地獄の街**
『デビルマン・イン・ザ・ダーク』における地獄の街はここにある。ミノスが仕切る街だ。



**■地獄の番犬ケルベロス**
食欲な者はここでケルベロスに食われる、とか。もちろん『レディー』においてはそうでなくても食われる。



**■地獄の裁判官ミノス**
ミノスが尻尾で亡者をたたけば、尻尾が亡者に巻きついて、罪の深さを推し量る。巻き数が多い人ほど重罪。



**■デビルマンVSジンメン**
落ちてきた二人にはじめに襲いかかったのは、パワーアップしたジンメンだった。



**■戦いが次元の壁を破る**
ヴラヴァとデビルマンの死闘が、次元の壁を突き破り、さらなる下層へと落ちていく。



**■木になった人々**
『神曲』によれば、自殺者はここで木になるという。ビースト晴美ちゃんははじめ、ここに落ちてきた。



**■愛し合う二人**
地獄で愛し合った二人だが、その間、さらに下層に落ちている。下層では、多くの敵が牙をむいて待っていた！



**■レディーVS地獄の怪物**
地獄の怪物と戦いながら、レディーは強く、大きくなっていく。この後、ヴラヴァの部下にとらえられた。



**■デビルマンVSシレーヌ**
シレーヌ愛の戦い。敗れたシレーヌは石になるが、おそらくその石像シレーヌが立っているのもここだ。



**■巨人族ティターン**
太古の時代、神と戦い敗れた巨人たちは、大地に足をつけることを許されない。だから井戸につながれている。



**■氷漬けのサタン**
魔王ゼノンの姿。しかし、右側の顔がなくなっている。サタンは現世に行っていたのだ。



**■デビルマンVSヴラヴァ**
火炎地獄におけるヴラヴァとデビルマンの死闘。二人は同時に、「力とはなにか」に関しての口論もしている。

# 悪魔の事典III

キリスト教の唯一神を否定したグノーシス主義は、太陽を回る星々を霊の牢獄と考えていた。その目指すところは人の霊の解放であり、真の神がいるという光ある世界だった。

## ●グノーシス主義

グノーシス主義は1世紀頃の東地中海の地方で興り、3世紀頃に全盛期を迎えた異端のキリスト教である（自然発生したもので、キリスト教とは無関係という説も）。その特徴は、過度の神秘主義と人々の救済は世界の終末によってのみ成るという考え方だ。

ひと口にグノーシスというが、実態は多くのグループがあって、その考え方は大きく食い違っている。ただ、グノーシスが知識を意味する言葉であることからも分かるように、神と宇宙に関する霊智だけは共通している。

グノーシスは旧約聖書の内容を教義に取り込んでいるが、そ[illegible]

く別の神話につくり変えているといってもいい。例は悪いが、中国の古典『水滸伝』から枝分かれして、ポルノ小説の『金瓶梅』が派生したようなものだ。

だから、エデンの園に出てくる蛇は、グノーシス主義にとって、人類に智恵を授けてくれた恩人になる。反対に、造物主であるエホバは無知ゆえに、自分を最高神と勘違いしている思い上がった存在と規定している。

グノーシスの考える真の神ソフィアは、想像もつかない遠くの光ある世界にいて、地上の人人に救済の知識を送ってくる。なぜなら、人のもつ霊性こそ、神と同じ高みにあるものだから。

グノーシス主義において、人[illegible]

肉と魂はエホバによってつくられたが、霊だけは真の神のいる光の世界で誕生した。そして、地球を中心に太陽などの星々が回る宇宙は、霊の牢獄としての役割をもっている。

つまり、グノーシス主義の最終目的は、造物主の支配する七つの天（宗派やグループによって数は異なる）を打ち破り、人の肉と魂の中に封印されている霊を解放することだ。

解放された霊は本来の故郷である光の世界に還っていく。それが、グノーシスの信じる唯一の救済である。

独自の終末論や宇宙観をもったグノーシス主義の人々は、キリスト教会が唯一の神とするエホバを悪魔あつかいしたことが祟って激しい迫害を受け、4世紀の末には歴史の闇の中に消えていった。

## ●幻獣／ミノタウロス、セイレーン、ケルベロス

首から上は雄牛というミノタウロスが誕生した背景には、一人の女の[illegible]

は、海を支配するポセイドン神から生け贄の雄牛をもらった。

ところが、ミノスの妻はこの雄牛を生け贄ではなく、異性として愛してしまったのだ。妻は考えた末に、木で雌牛のかぶりものをつくって中に入り、雄牛を相手に交わったのである。

そして、妊娠した妻が産んだ子こそ、半牛半人のミノタウロスだった。妻の不倫に気づかないミノス王は、化け物の息子を恥じて、ラビリンスという迷宮に閉じ込めてしまった。

以後、ミノタウロスは植民地のアテナイから届く子供たちを食って生きながらえた。しかし、ラビリンスをつくったダイダロスが裏切ったこともあって、とうとうアテナイの英雄テ



[illegible]

体が鳥のタイプと人魚のタイプと2種類あって、どちらも美しい歌声で旅人を惑わしては、海中に引きずり込んでしまう。

魔の歌声から身を守るには、耳の穴をロウでしっかりふさぎ、体をマストにくくりつけるしかない。

冥府の番犬というケルベロスは、一つの胴体に三つの頭をもっているギリシャ神話の魔獣である。ケルベロスは大巨人テュフォンと半人半蛇エキドナの子供で、声は青銅のように響き渡り、尾は竜のように動く。

冥界王ハデスの命令で、許可なく地獄に侵入する者に吠えかかるのが仕事だ。といっても、ケルベロスは大して有能な番犬ではない。

ヘラクレスに力ずくで拉致されたこともあったし、死んだ恋人を探しにきたオルペウスの竪琴に聞き惚れて、うっかり通してしまう失態も犯している。

ちなみに、ダンテの『神曲』では3番目の大食漢地獄にい[illegible]

## ●吸血鬼

インドのラクシャーサや中国のキョンシー、中東のグールなど、吸血鬼の伝説をもっている民族は多い。その理由は、人の生き血が生命力の源だからだ。

特に、赤ん坊や若い女性の血を万病の薬と考えるのは、世界のオカルティズムに共通している。

日本人に吸血の習慣はない？とんでもない。明治以前はハンセン病の特効薬に、生き血以上のものはないと信じられていた。現代でも、スッポンやマムシの生き血を平気で飲んでいる。

もちろん、吸血鬼の本場であるヨーロッパには、フランスをのぞくほとんどの国で、何らかのバンパイヤ伝説が残っている。

吸血鬼で東欧のイメージが強いのは、イギリスのブラム・ストーカーが書いた小説『吸血鬼ドラキュラ』の影響が大きい。この小説はトランシルバニアの古城を舞台に、ドラキュラ伯爵と人間たちの死闘を描いた古典

[illegible]的に不老不死で、どんな小さな隙間でも霧になって侵入できる。ドラキュラの牙で血をすすられた者は、吸血鬼の仲間になってしまうのだ。

ただ、ドラキュラも万能ではない。むしろ、妖魔や悪鬼の類いとしては、異常なくらい多くの弱点をもっている。太陽光線、ニンニク、銀の弾丸、聖人を描いたイコン、十字架、塩、聖水などに弱い。

以上は、ドラキュラが嫌がって逃げるくらいで、決定的に滅ぼすには昼間のうちに墓を暴いて、その心臓に木の杭を打ち込むか、首を斬り落とすしかない。火葬にしてしまうのも効果的だ。

先んずれば人を制すというが、吸血鬼の正体を見破る方法もある。魂のないドラキュラは鏡に写らないし、その獣くささで犬が吠えかかっていく。

これらは、ストーカーが勝手にデッチあげたものではない。

ヨーロッパの吸血鬼伝説を丹念に調べて、十分な根拠のもとに書き上げたものなのだ。

実は、ドラキュラには実在のモデルがいる。15世紀にルーマニアの一部を支配していたヴラド(4世)・ツェペシュである。当時のルーマニアは3か国に分かれていて、その一つがドラキュラの城があったトランシルバニア。ツェペシュが領有していたワラキアはもっとも南にあった小国である。

ちなみに、ツェペシュとはルーマニア語の「串刺し」という意味の言葉で、配下の貴族たちを粛清したとき、肛門から太い杭を突き刺してノドまで通したことに由来する。

その後、ツェペシュは強大な


[illegible]「悪魔学大全」青土社　ロッセル・ホープ・ロビンズ　松田和也＝訳　『天使の世界』青土社　マルコム・ゴドウィン　大瀧
[illegible]『悪魔の履歴書』原書房　ピーター・スタンフォード　大出健＝訳　『悪魔の系譜』青土社　J・B・ラッセル　大瀧啓裕＝訳
[illegible]』青土社　ホール・ケーラス　船木裕＝訳　『堕天使』新紀元社　真野隆也　『魔術への旅』新紀元社　真野隆也　『超常科
[illegible]』小学館　秘教科学研究会　『魔法事典』新紀元社　山北篤＝監修　『世紀末　神々の終末文書』新紀元社　草野巧　『黙示
[illegible]新紀元社　真野隆也　『天使』新紀元社　真野隆也　『地獄』新紀元社　草野巧

オスマン・トルコの挑戦を受け、激烈な戦いの末に勝利を飾った。ここまでなら、戦争上手として歴史に名を残したはず。ツェペシュは2万人の捕虜をすべて串刺しにして、数キロの長さにわたって延々とさらしたという。串刺しになったトルコ兵の中には、年端のいかない少年もいた。

いくら異教徒とはいえ、あまりの残虐さに民は震え上がった。中国にも風化の刑というのがある。埋葬することを許さずに、さらし者にするのだが、よほどのことがない限りは行わない。

確かにツェペシュは、吸血鬼と呼ぶにふさわしい男だった。

**●ベールゼブブ**

悪魔の解説書で、「蠅の王」の冠がつくベールゼブブは、今のイスラエルに住んでいたカナン人の崇拝する神バアルゼブルだった。ユダヤ人はその神の名をヘブライ語のベールゼブブ（蠅の王）に変えて、悪魔の列に加えたのだ。

もっとも、現代人にとっては[illegible]しかない蠅も、[illegible]運んでいく聖なる生き物だったという説もある。

ベールゼブブは悪魔の中でも、サタンという最上級のポジションに位置する地獄の支配者だ。実際、宗派や研究者によっては、混沌の王でデーモンの首領と呼んでいる。

16世紀のヨーロッパで盛んだった悪魔の階級論では、ベールゼブブこそ地獄の帝王で、その下にサタンやルシファーが控えている。宗教学者セバスチャン・ミカエリスが17世紀に発表した堕天使（悪魔）軍団の組織図でも、ベールゼブブは九つある階級のトップに立っていた。

人々がベールゼブブを地獄の支配者と考えたのは、イエスが十字架の処刑後、冥府をめぐり歩いたという伝説に由来する。

イエスは旧約聖書に出てくるアダムやアブラハムといった面々を地獄から救いだし、自ら天国に導くのだが、このときにサタンたちの目を盗んで、イエスたちに協力したのが穏健派のベールゼブブだった。

ただ、この伝説には異論（新[illegible]など）もあって、イエスがとっちめたのは地獄の王ベールゼブブだというパターンだ。

**●聖書の蛇**

最古のギルガメッシュ叙事詩をはじめ、世界中の神話で蛇は悪魔として登場する。その中でもっとも有名なのが、旧約聖書の『創世記』に登場するサタンの化身だ。エデンの園でイブを誘惑し、人類が原罪を受け継ぐきっかけになった蛇である。

神が最初につくった人類、アダムのあばら骨から誕生したイブは、裸でいても恥ずかしいということを知らなかった。そんなイブに智恵の木の実を食べることで、神と同じように善悪がわかるようになるとそそのかしたのが、堕天使サタンの化けた蛇だった。

神が食べることを禁じていた智恵の実を口に運んだとたん、イブは羞恥の心を知って、股間をイチジクの葉でおおった。そして、アダムにも実を食べるよう勧めたのである。

神は二人が約束を破ったことを知って激怒し、アダムたちをエデンの園から追放した。イブを誘惑した蛇からは足を奪い、「永遠に地を這って生きよ」といった。そして、愚かなイブには死に匹敵する出産の苦しみと共に、男に従って生きる運命を与えた。聖書の中で、サタンのことをしばしば「太古の蛇」と呼ぶのはそういう理由なのである。



# ダンテ『神曲』を読む

**ミルトンの『失楽園』と並んで、文学作品としては悪魔学に大きな影響を与えたダンテの『神曲』。地獄の底につながれた悪魔王は、不遇の中で世を呪ったダンテそのものだった。**

政変によってすべてを失ったイタリアの詩人ダンテ・アリギエーリ（1265〜1321）は、20年近い不遇の中で長編叙事詩『神曲』を書き上げた。

簡単にいえば、ダンテ自身が1300年の復活祭の夜に、古代の詩人ウェリギリウスの霊に導かれて、地獄・煉獄・天国の三界をめぐっていく物語だ。特に地獄篇は当時の人々の考えが反映していて、『神曲』の真骨頂といわれている。

ダンテの考える地獄はエルサレムの真下にあって、地球の中心に向かい、巨大な漏斗状にえぐりこんでいる。地獄の門から三途の川を渡ったダンテの前に、辺獄という第一の地獄が広がっていた。ここは善良ではあるが、生前にキリスト教の洗礼を受けなかった人が落ちていた。

さらに、第二の邪淫地獄、第三の大食漢地獄……と続いている。途中、千人以上の悪魔がいるデュースの街を経て、いよいよダンテは下部にあたる第六の異端地獄に進んでいった。

地獄の所々には、哲学者のアリストテレスや詩人のホメロス、神馬のケンタウロスなどがうろついている。みんな洗礼を受けていないので天国に上ることができないのだ。ダンテはどんどん下に降りていき、第八の悪濠地獄にたどり着いた。そこは、犯した罪の種類によって10個の悪濠があり、亡者たちは罪にふさわしい責め苦を受けていた。

10種類の罪とは——、「女を売[illegible]及んだ罪」「分裂・分派を謀った罪」「虚偽や偽造の罪」——である。

そして、第九地獄の下の最深部（ほぼ地球の真ん中）には、三つの顔に6枚の翼をもった大魔王が、氷の中に閉じ込められていた。大魔王の三つの口は、ユダやブルータスといった三大裏切り者をかみ砕いている。

ダンテは悪魔大王をルシファー、ベールゼブブと呼んだ。このことは、後の悪魔学に大きな影響を与えた。すなわち、悪魔大王は二人（複数）という解釈のグループと、一人の悪魔大王が二つの名前をもつという解釈のグループに分かれたのだ。

広大な地獄を一日で通り抜けたダンテは、反対側の南半球にある煉獄に向かう。地獄が漏斗状だったのに対し、煉獄は山のように突き出ていて、先端の地上楽園から天国に上っていくことができた。

地獄に落ちた者は、最後の審[illegible]ていけるのだ。[illegible]ら、ダンテの[illegible]10年前に25歳で死んだ恋人のベアトリーチェに交替する。

最後にダンテは、天国でキリストの母であるマリアに出会い、宇宙さえ支配する神の愛を知って、空想に終止符をうった。

（石塚勝美）



参考資料／『魔術への旅』新紀元社　真野隆也　『魔法事典』新紀元社　山北篤＝監修　『地獄』新紀元社　草野巧　[illegible]談社　平川祐弘＝訳

COLUMN

# 『デビルマン』世界を分析する!



デーモンとは、ビーストとは、デビルマンとは何か。『デビルマンレディー』において、それは次第に明らかになりつつある。これまでの情報をまとめて紹介しよう。

### ●改変された歴史

この世で死んだ者は、地獄に落ちる、ないしは天国に召される。最終戦争で死んだ不動明も、地獄に落ちた。最終戦争で世界は終わったのだから、もう地獄の住人は増えるはずはない。ところが、死者の数は、増加し続けていたのである。

これを不思議に思った不動明は、霊界から次元を越えて現世にでる。そこで彼は、復活した世界を見た。不動明が生きたはずの歴史はなくなっていて、デーモンがあらわれなかったこととして歴史は進んでいたのだった。

世界の歴史は、何者かによって改変されていたのだ。何者かの意志が、盆栽に形のよい枝を接ぎ木するように、新しい歴史を継ぎ足していた。

唯一、誰かの描いたコミックだけが、幻視したように真実の歴史を語っていた。

### ●デビルビーストとデビルマンの関係

[illegible]世)では、獣人化現象が起こっている。ビースト因子による遺伝情報の急激な変化で、それまで普通の人間だった者が、殺戮と性行動しかない本能の獣に変貌するのだ。これら獣人は、デビルビーストと呼ばれた。

ビースト因子をもつ人間と、もたない人間がいる。不動ジュンの父親、不動真人博士は娘にビースト因子があることを早いうちに発見し、食事の中にB・B酵素を投与しつづけた。

B・B酵素、すなわちビーストバスター酵素は、ビースト因子の完全な発動を抑え、人間としての知性を失わない状態にする。こうして作られたデビルマンが、デビルマンレディーやデビルマンライガーだ。

ただし、不動真人博士の発言によれば、ビーストとデビルマンは本質的差異はない。デビルマンにしても、やがては本能の欲求が支配する、という。

### ●デーモンとデビルマン

[illegible]能力をもつ者だ。しかし、デーモンといえども、もとは普通の人間だった。ビーストと同じように、「力の進化」を経て、今のような姿を見せているのである。ビーストとデーモンをわかつ最大の特徴は、合体能力の有無である。デーモン神ヴラヴァは、この合体能力を手に入れたデーモンこそ、力の進化の最高形態であり、ビーストもデビルマンも、その進化過程に属するものといいきった。

### ●神の目的と意思

不動明が体験した歴史の改変、および人間のビースト化、デーモンへの進化を織りなしている者は、神である。

サタンはかつて神と戦ったという。地獄につながれる巨人族(ギガンテス)もまた、神と戦ったという。神とは誰で、神は何を考えるのか。それは、今後の展開であきらかになっていくだろう。また、闇の牢獄である地獄にたいする光[illegible]



Topic

# ギュスターヴ・ドレ「氷漬けの魔王ルキフェル」

幼少の永井豪先生が震撼したというギュスターヴ・ドレによる『神曲』の挿絵。この絵がなければ、『魔王ダンテ』も『デビルマン』も生まれなかった。地獄の最下層コキュートスに凍りついたルキフェルである。

©『神曲』(アルケミア刊)・[illegible]



## 『神曲』地獄篇第34歌

胸から上を氷の外にだした、地獄の大帝ルキフェル――神にそむいた美貌の堕天使のなれの果てである。首に三つの顔を持ち、それぞれが一対の巨大な翼をもつ。翼から起こる三つの風は、地獄のすべての亡者を[illegible]せている。六つの目から流れる[illegible]だれと混じり合い、ひげをした[illegible]いる。三つの口は、それぞれ亡者を[illegible]す。中央の口で噛みくだかれ、[illegible]苦を受けているのは、イスカリオテの[illegible]

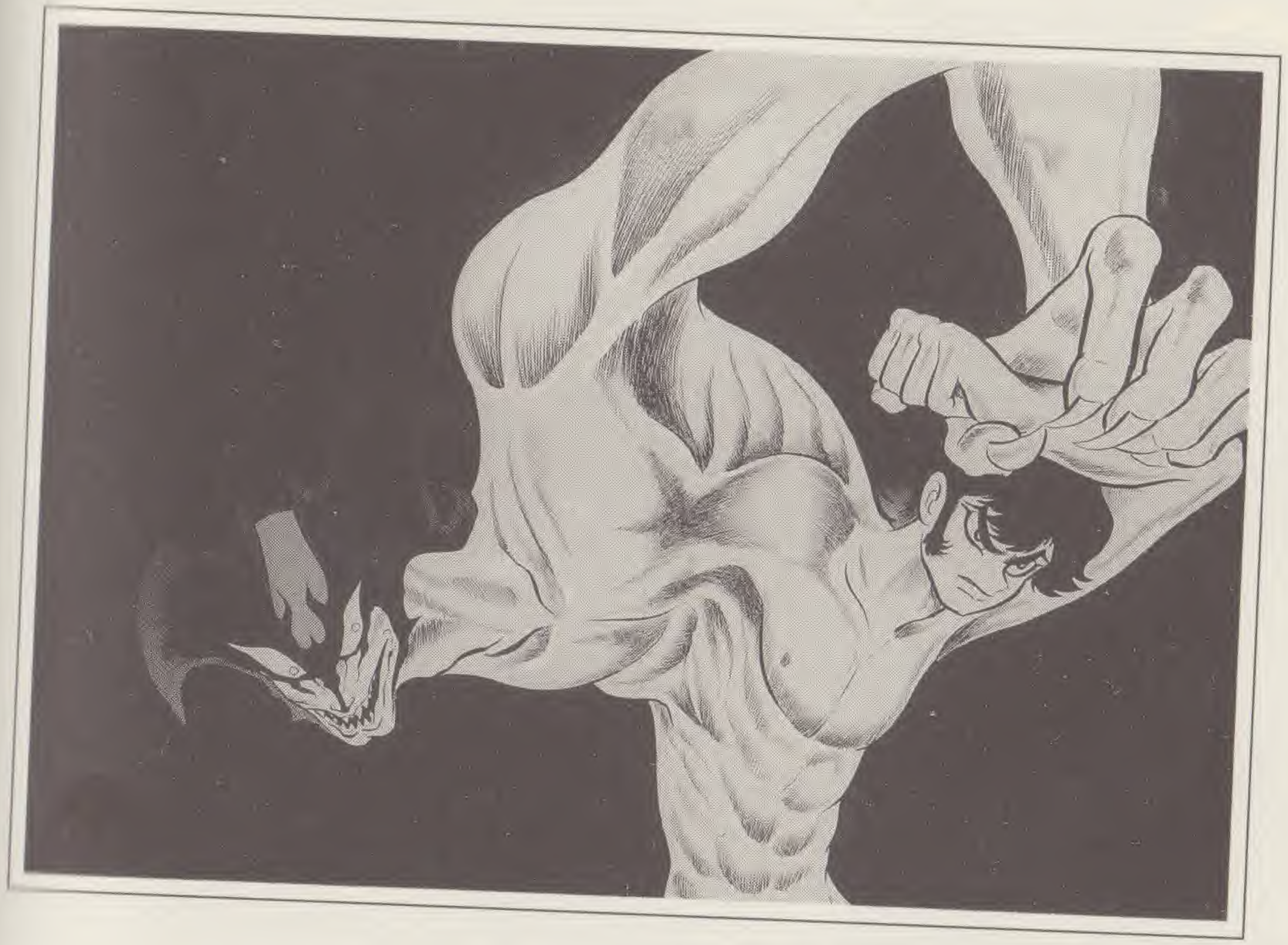
# 地獄の章

## バイオレンスジャック



筋肉はゴリラ、牙は狼、燃える瞳は原始の炎。２メートル20の全身に、闘争エネルギーが満たされていた。謎の巨人バイオレンスジャックのあとには、ただるいるいと死体の山だけが残る。

足かけ17年にわたる大作のエピソードを追い、『バイオレンスジャック』の全貌にせまる。



## VIOLENCE JACK CHARACTERS NO.001

# バイオレンスジャック



### 広大なる巨人の全体像

作者・永井豪がジャックを「大自然、あるいは時代を動かすエネルギー」の象徴といい、同時にジャックを「巨象」にたとえたのは興味深い。いまだ、自然科学は自然を「群盲、象を撫でる」ようにしか把握できず、かりにあらゆる学を集めたとしても、それは自然を解読することにはならないからだ。その意味で、ジャックはたしかに「あらゆる解読を拒み、決して全体像を把握させようとはしない」自然そのものなのである。

「骨法編」でジャックは夢彦に、「私が見える者はこの世界を動かす者だ」といい、「奴隷農場編」で菊之助に「私は鏡だ」という。自然とはまた、そういうものであるはずだ。

『バイオレンスジャック』のすべてのエピソードすべてのコマに、ジャックはいて、関東の趨勢を見ている。中には、ジャックがほとんどでてこないエピソードもあるけれど、そこにもたしかに、ジャックはいるのである。

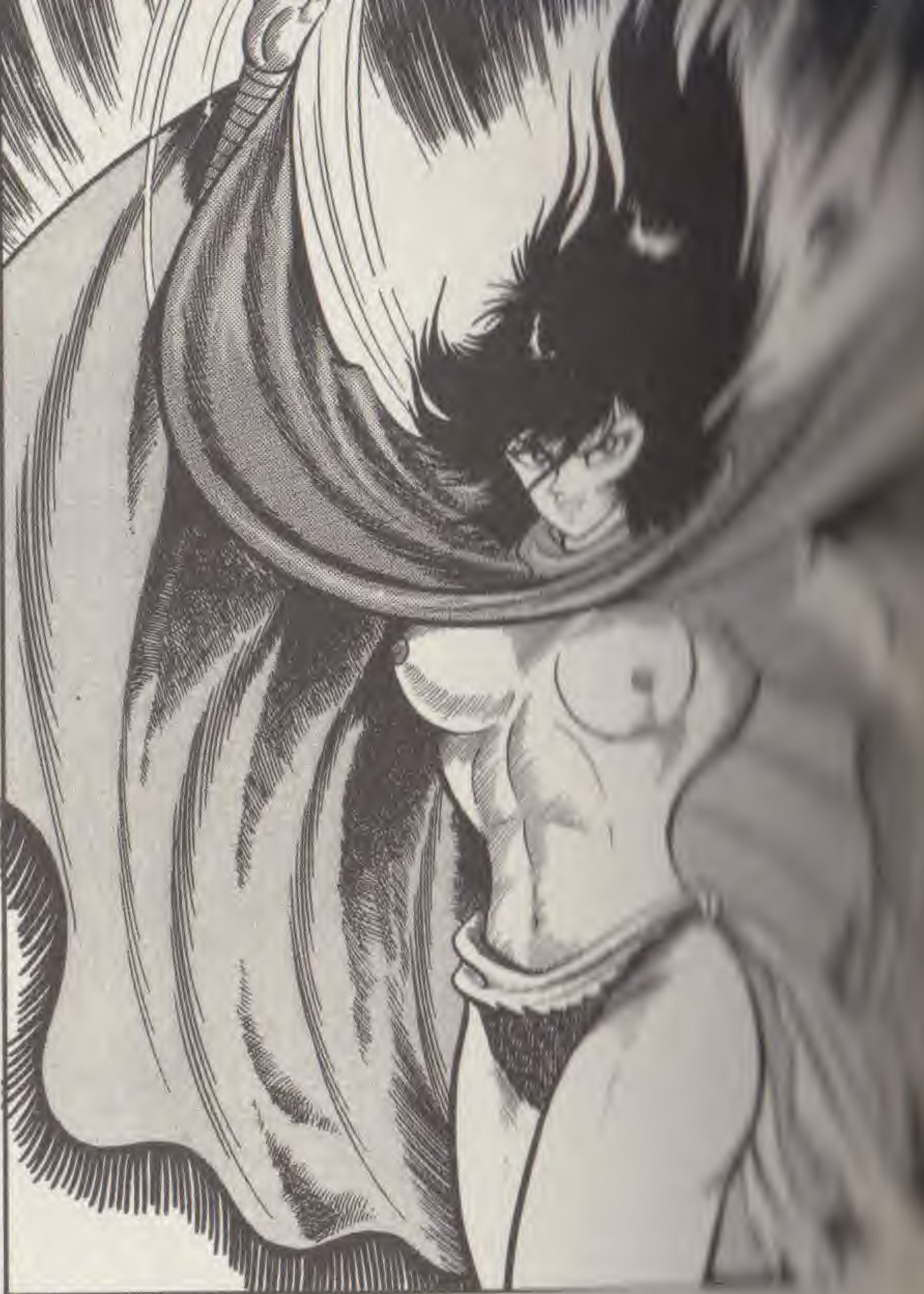




### 子ジャック

ジャックの正体は不動明、であるのだが、おそらく『デビルマン』における少年・不動くんの性格をいちばんついでいるのはこの子ジャックじゃないだろうか。なにしろエッチなのである。しかも明るい。弓も得意。





### 光る鷲

あるときはジャックの伝令・偵察役として働き、またあるときはジャックの分身となる鳥。このほかにも、蛇や小動物の姿があり、「ジャックは大自然の象徴」ということを裏づける。

### 女ジャック

バイオレンスジャックとは「暴力を呼ぶ [illegible]フ」からのネーミングだけれど、この女版は、[illegible]う(そっちの方が圧倒的に似合う)。ほかに、「[illegible]せて締め付けて倒す」という強烈な技ももつ。

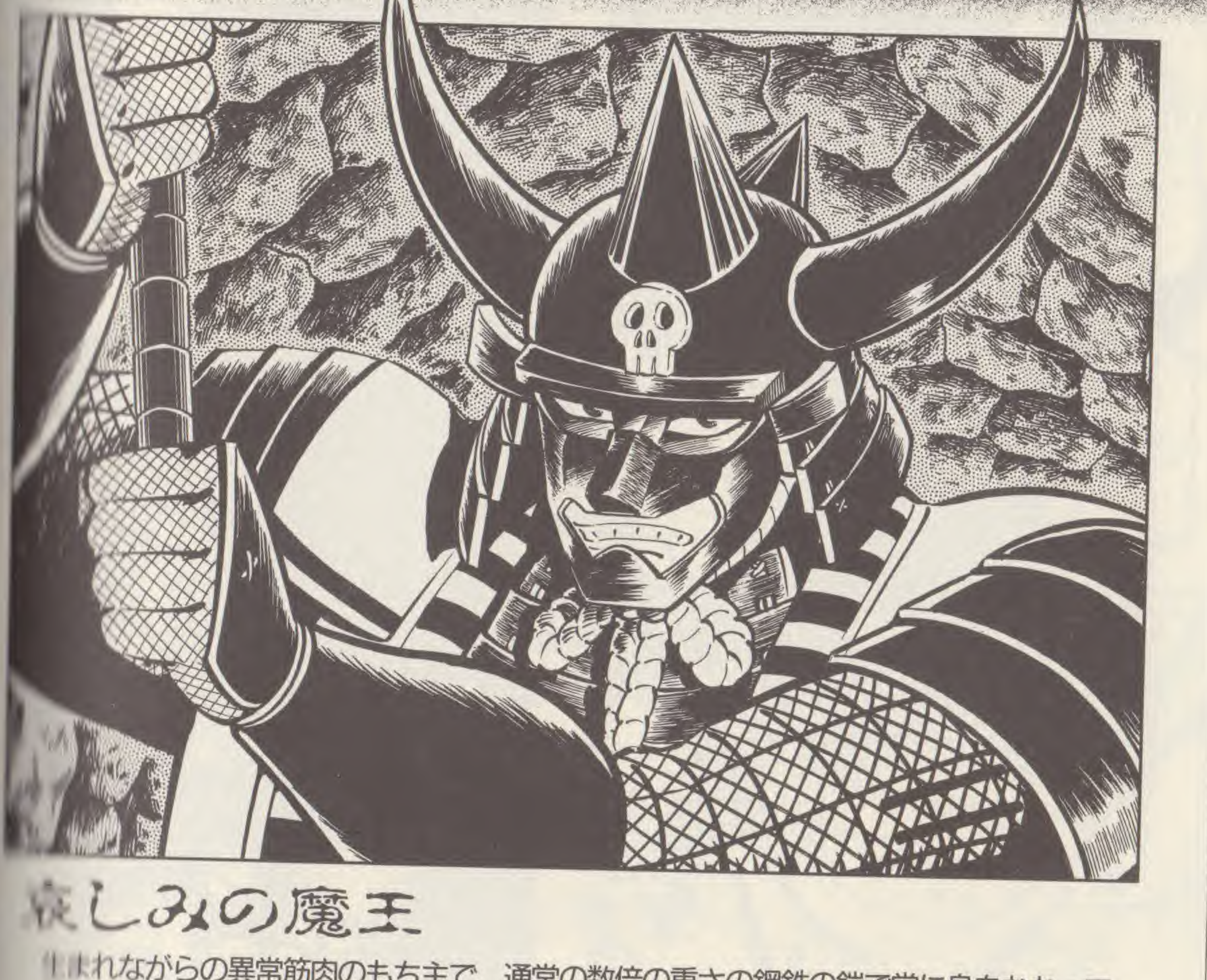
### 青年ジャック

ちょうど背丈はふつうの人間と同じくらいで、[illegible]ックより大きく、巨人ジャックより少し小さい。[illegible]編」だけに出演。子ジャックの成長した[illegible]ともまったく別人（結局、同一人物だけど）[illegible]



VIOLENCE JACK CHARACTERS No.002

# スラムキング



## 哀しみの魔王

生まれながらの異常筋肉のもち主で、通常の数倍の重さの鋼鉄の鎧で常に身をおおっていなければ、逆に自分の骨や内臓をいためつけてしまう。その強靭な筋肉のため、体面の表皮は顔もふくめ、すべて消失しており、面や兜が割れれば剥き出しの筋肉がのぞく。母親の腹を自らの力で裂いて生まれ、誕生したときから二足歩行を知っていた。

その前半生は鎖につながれた旧家の土蔵の中にしかなく、一時的に家庭教師の力によって外にでることを知ったが、その教師も殺してしまった。フランス人の女優を(だまして)妻としているが、やはり同じように、殺してしまっている。

魔王スラムキングは、心の底では、愛に飢えていた。しかし、その正体にもかかわる悪魔的資質が、彼を決して幸福にはしない。彼は結局、女にも家族にも、誰にも愛されず死んだ。ただ一人、宿命のライバルだけが、彼を愛していた。








## 愛の喪失

スラムキングは、生涯に2度、「愛されていると思っていた」という言葉を吐いている。はじめは高虎少年に人間らしい感情と力の加減を教え、土蔵から救い出してくれた秋葉優子先生にたいして。2度目は、スラムクイーン日野火美子にたいして。

キングは愛を求めていたのだ。だが、それは無惨に裏切られていく。結局、キングはどちらの女性も、殺さなければならなかった。

[illegible]

[illegible]ある日、火事が起こり、その人形は燃えた。「燃えるフランス人形」は、彼の心の深層に刻まれることになる。

彼はフランス人女優(=歌うフランス人形)を妻とする。あらゆるはずかしめを受ける妻。それは、娘ジャンヌの成長を止め、息子ズバ蛮の心に深い傷を残した。やがて、妻は人形のように、炎に包まれて死ぬ。





# 東京滅亡編

## 孤絶した関東——地獄のはじまり

197X年、関東をマグニチュード8・9の大地震が襲った。震源は東京のほぼ中心、地下20キロ。この地震により関東一帯は外界から遮断され、完全に孤立することになる。人々はこの地震を、「関東地獄地震」と呼んだ。

参考のために申し上げておくと、あの兵庫県南部地震＝阪神大震災がマグニチュード7・2だ。震源は明石海峡とされ、観測史上初の激震、震度7が記録されている。『バイオレンスジャック』で描かれる関東地獄地震に「震度」の記述がないのは、震源のエネルギーが巨大で、なおかつ東京の真下であることが、計測不能の震度をたたきだしているためである。

上で連載がはじまり、のちに「月刊少年マガジン」を経て、青年誌「週刊漫画ゴラク」で完結する。「東京滅亡編」は完結までに17年の月日を要した本作のプロローグにあたり、ちょうどコミックス一巻ぶんを使って描かれた。

作品のスタートが少年誌であったことと、ここでの主人公が小学5年生の逞馬竜であることは、無関係ではない。読者が少年だからこそ、地震の目撃者は少年でなければならなかったのだ。

甘ったれの少年は、地震によって、多くの破壊を見る。街や建築物の破壊ばかりではない。秩序の崩壊も同時に目撃する。教師くとみは丹沢山からの火山弾で命を落とすが、姉ユリは「あれは先生じゃない、死体だ」といいはなった。さっきまでそこにいたのはたしかに先生だったが、今そこにあるのはたんなる死体なのだ。

死んだ人間を云々しても仕方がない。重要なのは、生きている者と、「生きること」それのみである。地震の経験を通して、逞馬竜はそれを学んだ。

読者はここで、この作品の登場人物たちは、みな地獄を見ているのだ、ということを知らされる。地獄とは、人間の甘えを許さない世界のことだ。人の死にたいする感傷も、残された者の自己満足的な儀礼＝葬儀も、まったくムダなもの、意味のないものとして扱われる世界、それが地獄なのである。





# 逞馬竜

## 物語の報告者

『ジャック』の物語は、逞馬ではじまり逞馬に終わる。逞馬は地震の報告者であり、地震後の復興の報告者でもあったのだ。その意味で逞馬は主人公、すくなくとも主人公のひとりだ。「黄金都市（エルドラド）編」以降、逞馬は「ズバ蛮編」までストーリーに姿をあらわさないけれど、まったく別の人物のエピソードが語られているときにも、「この関東のどこかに、逞馬竜がいる」という意識を、読者のだれもが、もっているにちがいない。



### ユリねえと逞馬

弟を守って死ぬユリねえは、逞馬のその後を決定づけた。逞馬は「絶対に死なない」というかたい意思をもつ。



### 関東復興後の逞馬

メガロポリス・カントウ行政長官。復興後の姿が描かれたのは、逞馬竜だけだ。ジャックの記録を残す。



### 少年逞馬

外道会との死闘、ドラゴンの撃退によって、少年逞馬は孤児千人のリーダーとなった。やがて、逞馬グループには大人も参加しはじめる。黄金都市ではジャックに協力し、黄金を埋蔵するのに力を貸した。



### 青年逞馬

逞馬は成長し、魔王城攻略の際には、スラムクイーンにも似た「天の様相を読む能力」さえついていた。創造主が「魔」であることさえ、彼は気づいていたのである。もはや、完成された将器であった。

# 関東スラム街編

## 秩序の崩壊 裸になった人間

「関東スラム街編」を迎えてはじめて、物語は本格的に幕をあける。地震後の関東がその姿をむきだしにし、役者もここで、ひととおり揃う。関東を恐怖支配するスラムキング、その配下ドラゴン軍団、側近のスラムクイーン。人犬にされた飛鳥了と牧村美樹。そして、謎の人物バイオレンスジャック。

ストーリーの冒頭、逞馬竜はこう語る。「ここで生き抜くためには文明社会の常識などは通用しないのさ。弱肉強食のケモノの知恵だけがまかりとおるのさ」

ちょうどその言葉と呼応するように、関東スラム街は、B級ウェスタンムービーのセットのようなたたずまいを見[illegible]

無法であることの確認、そのためだけに、無法の街のイメージが、建築や人々の服装にまで投影されている。

そんな街の外、少年たちは震えながら暮らしている。関東ではマトモなものなんか食えない、食えるのは悪党だけだ、そんなことをつぶやきながら。だが、バイオレンスジャックはそれを否定してみせる。悪党だから食えるんじゃない、強いから食えるんだ、と。

関東は文明社会の常識が通用しない世界だ、と逞馬はいったが、そこには子供らしい甘さがまだあった。ジャックはそこをついてみせる。常識が通用しない世界には、善悪だってありやしない。善玉も悪玉もいやしない。あるのは、強いか弱いか、それだけなのだ。だから、ジャックは外道会の首といっしょに、子供の首まで切り落としてみせた。生きる力が弱い者は、死んでいくしかないのである。

作品『バイオレンスジャック』は、そんなところから、われわれの現実に、揺さぶりをかけてくる。人々が声高に語る善悪や正義は、何に保証されているものでもない。システムが壊れれば、いっしょに壊れていくものなのだ。善悪の概念ばかりではない。経済、もっといえばカネだって同じことだ。所詮、誰かが決めた約束事であって、本質的なものではない。最後に残るのは力——生きる力——ただそれだけなのである。ジャックははっきりとそういう。

人間が秩序のために作り出したあらゆるものの崩壊、[illegible]





### 担当編集者に聞く 『バイオレンスジャック』 [illegible]

### ジャックの心臓の音が絵から聞こえてきました

実は僕、『バイオレンスジャック』にでてるんですよ。ホラ、くとみ先生。あれは僕です（笑）。もちろん名前を使った、っていうだけですが、（連載の）10回ぐらいはでてるんじゃないかな。主人公の逞馬くんのお姉さんは、くとみ先生にちょっと憧れというか、恋心を抱いている。なかなかいい役ですね。最後は火山弾に当たって死んじゃうんですけれど（笑）。

僕が『ジャック』の担当をしていたのは、新人社員、まだ編集者として、なんの経験もない頃です。当時、永井先生は、週刊連載3本、月刊連載1本をもってる超売れっ子作家でしたが、本来なら意見がいえる立場ではない僕の意見にも耳を傾けてくれました。

——『バイオレンスジャック』に関して、特に印象深いこと、ですか？

外道会が、子供を人質にとるシーンがありますね。「それ以上やると子供を殺すぞ」みたいなことをいう。当然、それまでのマンガのヒーローなら、子供をなんとかして助けだして、悪玉だけやっつけるでしょう。ところがジャックは、何の躊躇もなく、悪玉の首といっしょに、子供の首もはねてしまうんです。

当時の編集長にそれを見せたときに、「これはまずい」ってことになりました。今でこそマンガは大人のもので、「文学に匹敵する」とまでいわれているけれども、やっぱり当時は子供のものだったんです。ようは、マンガの主人公たる者が、悪いヤツの首を切るんならいい。でも、子供の首まで切って[illegible]なんです。ところが、この件に関しては、[illegible]んでした。「これがジャックの姿で、ここで子供だけを生かして、悪いヤツだけを切るとか、そういうことをしたら、ジャックではなくなる」といって。永井先生は「ダメなら落として下さい」っていうんです。

で、編集部にそれをもち帰って、今度は編集長と一緒に行ったんですが、結局そのままでいくことになったんです。永井先生は、決して譲ろうとはしなかったんですよ。

僕は永井先生のマンガが好きでしたから、担当になれて本当にラッキーだったと思っています。絵から音が聞こえてくるっていうのかな、ガーンと、圧力みたいなものが絵から伝わってくる、って経験も、永井先生ではじめて経験しました。それは、ジャックの大ゴマだったんですけど、ジャックの心臓の鼓動が伝わってくるような気がしたんです。そのとき、ああ、この人は天才だ、と思いましたね。



これが問題のシーン。なお、工富氏は『ジャック』ばかりでなく『イヤハヤ南友』にも出演されており、冷奴先生の首をしめたり、「好き者だ」といわれたり、大活躍をしておられる。

# 地獄の風（ヘルス・ウインド）編

## 少年の眼にうつる大人の欺瞞

本書は現在中央公論社から出版されている『完全版バイオレンスジャック』を底本としているので、「関東スラム街編」につづいてこの「地獄の風編」を紹介することになるが、このエピソードの初出誌は「月刊少年マガジン」である（'77年5月）。したがって、雑誌掲載は「週刊少年マガジン」に発表された「黄金都市（エルドラド）編」や、「月刊～」で連載がはじまった際のファースト・エピソードだった「関東鬼相撲編」のほうが先になる（詳細はP172）。

ここでの主人公は炎ジュンだが、同時に、天馬三郎の少年時代も描かれる。少年天馬は、[illegible]に、[illegible]活気を取り戻している。街にはバラックの商店が建ち並び、女子高生のけいこ先生による青空学校も開かれている（学校には、冷奴＝永井豪や、五右衛門＝石川賢の顔も見える）。そんな中、天馬の一家も、酒屋を営んでいる。人々の顔には健康な笑顔が浮かんでいる。

『バイオレンスジャック』の物語において、地獄地震後の人々の笑顔が描かれたのは、この「地獄の風編」が最初だった。しかし、こうした笑顔もまた、いやおうなく暴力の嵐の中に巻き込まれていかねばならない。

暴走族「地獄の風」が、街を襲撃する。強奪と殺人が行われる。天馬の憧れの先生、けいこは地獄の風に連れ去られ、炎ジュンが後を追う。しかし、大人たちはいった。「わしらはあたりまえの人間なんだ、けだものじゃない」だからけだものとは戦えないし、助けにもいけないのだ、と。

天馬三郎はそんな大人たちを告発する。「そんな人間ならなりたくねーや！」

『バイオレンスジャック』において、平和はかならず突き崩される。そして、必ず見えてくるものは、平和な生活の中にある欺瞞やごまかしだ。人々はかならず極限状態に立たされ、本性を見せねばならない。そして、時として大人ぶった大人よりも、子供のほうがずっと人間として偉大であることを、[illegible]





# 炎ジュン

## 『グレート』のヒロイン

炎ジュンはいうまでもなく『グレートマジンガー』のヒロインだった女性である。原作ではビューナスAのパイロットとして活躍した。どちらかというと日本的でかよわい感じの『マジンガーZ』の弓さやかに比べ、彼女はずっと成熟したセクシーさを醸しだしていたが、悪くいえば大味でバタ臭かった（ハーフという設定）。だからこそ、復讐に燃えてバイクにまたがり関東の荒野を滑走する、戦う女性の役にピタリとはまるのである。



**剣鉄也死す**

ジュンの彼氏の設定で登場、ハクいスケを連れてランボルギーニを乗り回すハマリ役を演じた鉄也だが、暴走族「地獄の風」が原因で車が大破、命を落とす。ジュンは以降、地震を乗り越え復讐に燃える。




**戦う女**

復讐に燃えたジュンは、体全体を武器にくるみ、関東の荒野を「地獄の風」を求めて走り回っていた。



**歓喜の嗚咽**

「疾風ドラゴン編」でジャックを助けたジュンは、戦いで重傷を負うが、ジャックの力によってすべての傷をいやし、関東の外にでる。えもいわれぬ快感が体をつつみ、歓喜のあえぎ声がもれる。



**不死身のダンテ**

ヘルメットに描かれたデザインは、あきらかに魔王ダンテ。暴走族「地獄の風」のリーダーだ。

「疾風ドラゴン編」'78年5月号～12月号
（以上「月刊少年マガジン」）

これを見ていただければわかるように、現在、中央公論社の「完全版」で「黄金都市編」の序章となっている「激闘！門土編」は、「黄金都市編」掲載ののち、3年たってから描かれたものだ。

# 激闘！門土編

## 早乙女門土と学生運動

「激闘！門土編」が描かれた年——すなわち1977年には、学生運動という全世界的なムーブメントは、下火になっていた。街頭で学生と機動隊がぶつかる、という風景は、もうすっかり見られなくなっていたのだ。いや、『バイオレンスジャック』がはじまった'73年でさえ、それは同じだった。『ジャック』連載期間中に、学生が大きな反逆の運動を起こしたことなどないのである。だから、門土と竜馬がズバリ時代とリンクしていたのは、『ガクエン退屈男』においてのことである。

門土と竜馬のコンビは、つづく「黄金都市編」でピックアップされることになるが、その後もラスト近くまで、ストーリー[illegible]

## 『バイオレンスジャック』講談社版掲載データ

『バイオレンスジャック』が「週刊少年マガジン」にはじまり、「月刊少年マガジン」を経て「週刊漫画ゴラク」で完結したことは、すでに述べた。「週刊」および「月刊」マガジンの掲載データは、左のようになる。

「東京滅亡編」'73年7月21日号～'73年10月7日号
「関東スラム街編」'73年10月14日号～'74年3月31日号
「黄金都市編（エルドラド）」'74年4月7日号～'74年9月29日号
（以上「週刊少年マガジン」）
「関東鬼相撲編」'77年1月号～[illegible]
[illegible]





# 早乙女門土

## 騒動を好む男

『ガクエン退屈男』において「殺したいから殺す」という名言を吐いたこの男は、『バイオレンスジャック』においてリアルな反体制の闘士となってからも、政治的イズムに基づいて行動しているようには見えない。彼が指揮する「神の牙」は一応、新国家樹立＝革命を目標として活動しているようだけれど、自衛隊の戦車をぶんどって笑う門土は、むしろ事件を起こすことを、お祭り騒ぎとして楽しんでいるのだ。



**望みのでっけえ男**

「早乙女門土のケンカは、望みがでっけえーんだー！」野望と希望を満身に背負い、早乙女門土は関東にあらわれた。この姿には、竜馬もクロスも惚れ込んだ。欲望にとらわれなければ、彼は英雄になれただろう。



**錦織つばさ**

『ガクエン退屈男』のヒロインはヤクザの女親分として登場。江戸っ子で花のお江戸の復活をのぞむ。



**門土と竜馬**

無意識の錬金術師・竜馬はイミテーションの門土をつくった。一人で二人の彼らは関東の観察者となる。



**悪魔になった男**

黄金を手に入れる。ただそれだけのことが、早乙女門土を悪魔に変えた。欲望にとらわれ、親友・身堂竜馬にも語れないことができたとき、彼は「関東に生きる」資格をなくしたのだ。

# ドラゴンの砦編

## 超能力のめざめ 関東の謎

中央公論社の完全版が出版されてから『バイオレンスジャック』に接した、という比較的新しい読者でも、「東京滅亡編」とこの「ドラゴンの砦編」には、明確なタッチの相違があることに気づかれるだろう。

「ドラゴンの砦編」は『バイオレンスジャック』が掲載誌を「週刊漫画ゴラク」に移してから最初のエピソードであり、初出は'83年、したがって「東京滅亡編」から10年の月日が経過している。その間、永井豪は「少年マガジン」誌上に『手天童子』『黒の獅士』『凄ノ王』と怒濤のSFラッシュをくりだしていて、同じ『バイオレンスジャック』とはいえ、「東京滅亡編」時代とはそのキャラが大きな

にエロティシズムの表現において、より直截的な手法がとられるようになっている。舞台を青年誌にうつしたことによって、作品表現の自由度がいちじるしく大きくなったのだ。

だが、「ゴラク」版『ジャック』が「マガジン」版と大きく変わった点は、そのことばかりではない。

「ドラゴンの砦編」の主人公は、関東をスラムキングと二分する凄ノ王の娘、朱紗真弓である（朱紗真弓は本編『凄ノ王』にももちろん登場するが、『バイオレンスジャック』への登場が先行しており、永井キャラ総出演の『ジャック』のなかでは、いささか異質なキャラクターだ）。

真弓は、ここで超能力に覚醒し、徹底的な破壊を行う。朱紗一族が超能力の一族であることは、すでに関東全土に広まっていた。地上を支配するのは、たとえばスラムキングのような、現実的な暴力ばかりでなく、精神を起因とした超能力であってもいいのだ。それが「力」である点ではまったく同じだからである。

「超能力」というファクターの導入。それが、関東という土地の性質を、より異質なものにしていく。もうここでは、なにが起こってもおかしくないんだ、という感覚を、読者の誰もが味わうことになる。

それにしても、ドラゴンの砦ではりつけにされる女性・





# 凄ノ王

## 錬金術師の少年

凄ノ王は錬金術師で、無から有を作ることができる。東京湾に浮かぶアクアポリス未来市を作りあげ、一時期、関東の魔王スラムキングと勢力を二分するまでに大きくなった。「ドラゴンの砦編」では朱紗一族は超能力者集団（まるで不死団だ）と紹介されるが、真弓もふくめ、朱紗の一族とよばれる者はみな凄ノ王が錬金術で作りだしたものだ。凄ノ王の正体は非力で孤独な青年・朱紗真悟である。

**創設者・朱紗真悟**
アクアポリス未来市の創設者としての姿。いかにも若きやり手の実業家を装う。執事・合田をつれている。



**凄ノ王**
ジャックと戦う際の怪物の姿。攻撃時には、口はさらに裂け、爪はさらに伸びる。



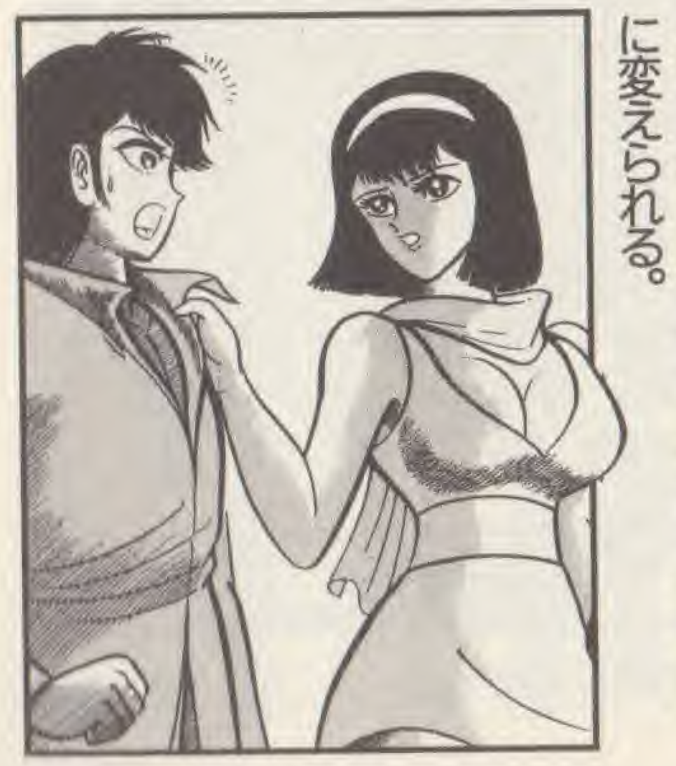



**朱紗真悟・真の姿**
地獄地震で絶望し、現実逃避の気持ちから目前の現実を真でないと信じ込んだ男。魔界のエネルギーを取り入れ、自分の王国アクアポリス未来市を作るが、ジャックに敗れてすべてを失う。

**朱紗真弓・1**
「ドラゴンの砦編」で超能力に開眼……しかし、それはジャックの見せたひとつの可能性だった。




**朱紗真弓・2**
門土と竜馬もびっくり、いきなりセクシーな大人になった真弓。姿を自在に変えられる。



# 黄金都市編（エルドラド）

## 「信頼」が織りなす運命の物語

信頼——われわれが暮らすこの現実世界で軽々しく吐かれ、消費されながら、なお重要な意味をもち、無視できない言葉。この言葉が、「黄金都市編」の重要なキータームとなっている。

バラックの食堂で、黄金の話を聞き、とつぜん黄金の軍隊に襲われた早乙女門土は、身堂竜馬——「信頼」することのできるただひとりの人間——に野望を語る。「このケモノの世界の関東に世界史上類のねえユートピアを建設してみせる！」門土はそういいはなつ。犯罪少年のもった巨大な夢に、身堂は「命をかけてつきあう」と誓う。このとき、ふたりの間にはたしかに「信頼」が存在していた。

[illegible]

で身堂には決して見せることのなかった「影の部分」を露わにしていく。「おれをつまはじきにしてきた世間のやつらに思い知らせてやる。おれをケダモノを見るような目で見たやつらによ」——門土がそんな怨恨をもっていたことを、身堂は知らなかった。ただし、門土のあやまちは、怨恨をもっていたことにあるのではない。そんな怨恨のあることを、竜馬に知らせることができなかったことにある。つまり、竜馬を心底から「信頼」することができなかったことにある。

そして門土は、竜馬に秘密をつくる。竜馬にさえうち明けられないことができたとき、門土は完全に孤立し、同時に滅んでいく。

一方、いまや千人の孤児をしたがえるリーダーとなった逞馬竜は、黄金をはこばせたバイオレンスジャックを「信じる」といった。「地獄地震後の関東の人間がわすれてしまったもの、それは人を信じる心だ」逞馬はそういいきっている。

すなわち、「信頼」に対する態度の相違が、二者の明暗をわけているわけだが、べつにこの物語が「門土は人を信じられないから死んじゃって、逞馬は信じる心をもっていたから長生きしたのよ」みたいな説教くさい勧善懲悪はなしだといいたいわけではない。むしろ、[illegible]



# Topic「黄金都市編（エルドラド）」on「週刊少年マガジン」

**「黄金都市編」は、雑誌掲載時とコミックスとでは、多くの異同がある。その一部を紹介しよう。**

『週刊少年マガジン』における『バイオレンスジャック』の連載は「黄金都市編」で最終回を迎えることになる。ここでの「黄金都市編」は、現在「激闘！　門土編」に入れられている門土と竜馬の脱獄シーンからはじまり、地震で終わるが、地震で生き残ったのは、逞馬竜と子供たちのみだった。ジャックをふくめ、ほとんどの人物が死んだように見える。

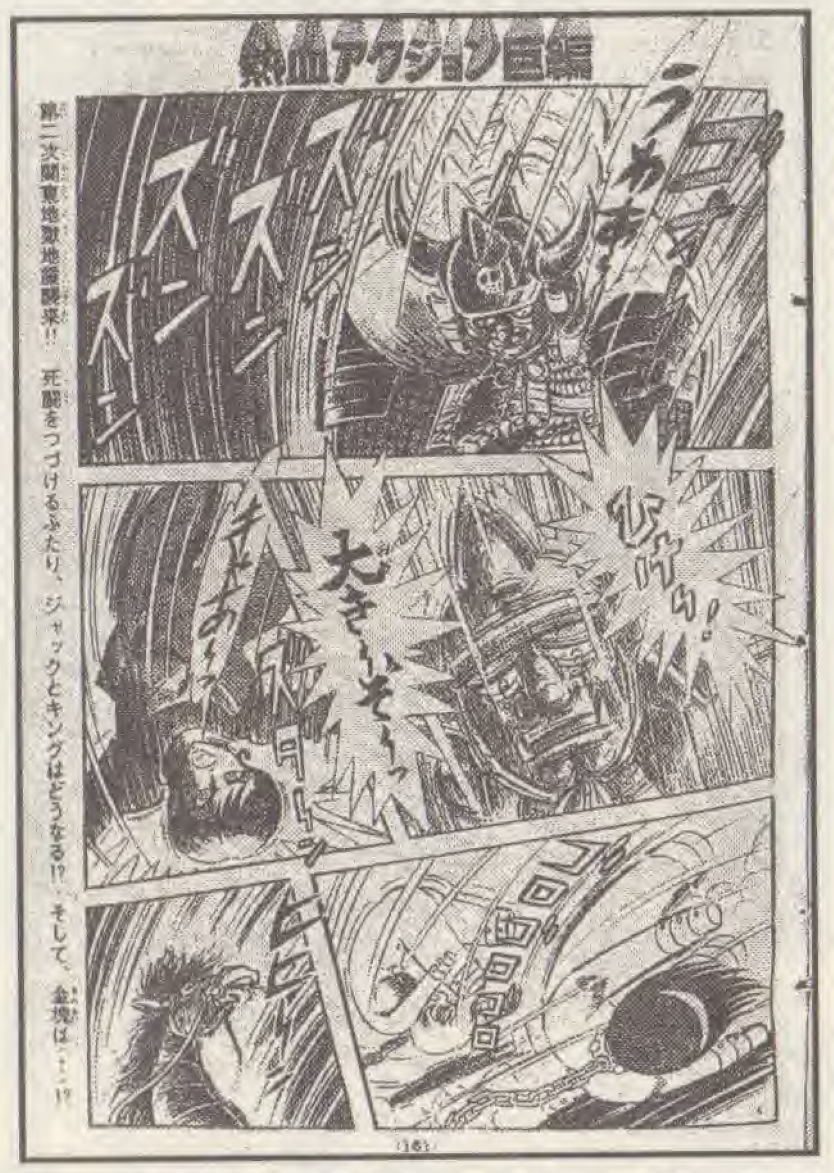
なお、雑誌掲載時には、「黄金都市」には「エルドラド」ではなく「おうごんとし」とルビがふられていた。

## 関東にやってきた二人




コミックで「激闘！　門土編」に入る際、カットされたシーン。差別語使用のためこの後数ページが削除される。

## 最終回




キングとクイーンは、地震で地下に沈む。現在の腕をくわえたジャックのラストはコミック化の際の加筆だ。

## おそろしいジャックの顔



現在は「激闘～」に入れられているジャックの顔だが、繋ぎをよくするため穏やかな表情に改められている。

# 関東地獄街編

閉鎖空間である。つねに暗闇に支配され、外界と隔絶されたそこは、まさに「地獄」を展開するにふさわしい舞台だった。

外界から孤絶した地下街は、つねに闇に包まれている。同時に、ふだん善良で常識的な市民たちの心にもまた、闇が入り込んでいくのだ。

生き埋めになった、と知った市民たちは、女たちを犯して殺した。自分はもう死ぬんだから、好き勝手やってやれ――そういうことだった。

『バイオレンスジャック』には、無法者が数多く登場する。ヤクザにはじまって、荒くれ者の暴走族や、力にモノをいわせた相撲部屋、権力を逆手にとった警察。だが、法的規制がなくなって我が物顔に振る舞うのは、そうした「力ある者」ばかりではない。何食わぬ顔で日常生活を送る善良ヅラの市民たちも、契機さえあれば、さらに力の弱い者にたいして、暴力を行使するのだ。それはちょうど、条件が揃えば動きだすようにプログラムされたウィルスみたいなもので、ふだん善良そうに見える人間だって、条件が揃えばケダモノに豹変し得る。

そんな中、ジャックは、弱肉強食の頂点に立つ者より、さらに一段強い者としてあらわれる。要するに、彼こそ弱肉強食ヒエラルキーの頂点に立つ者なのだが、彼が哄うの

## 弱肉強食を哄(わら)うもの

たぶん宮沢賢治だったと思うのだが、こんな寓話があった。カエルは虫を喰い、蛇がカエルを喰う。蛇を喰う熊を、猟師がズドンと鉄砲で撃つ。熊を撃った猟師がふと振り返ると、黒い影が猟師を哄笑(こうしょう)している――。

「関東地獄街編」にかぎらず、『バイオレンスジャック』では弱肉強食が展開される。強い者は弱い者から食物を強奪し、あざ笑いながら殺し、女たちは犯される。法規がない以上、強い者を罰することは誰にもできない。

## 人の心に浸透する闇



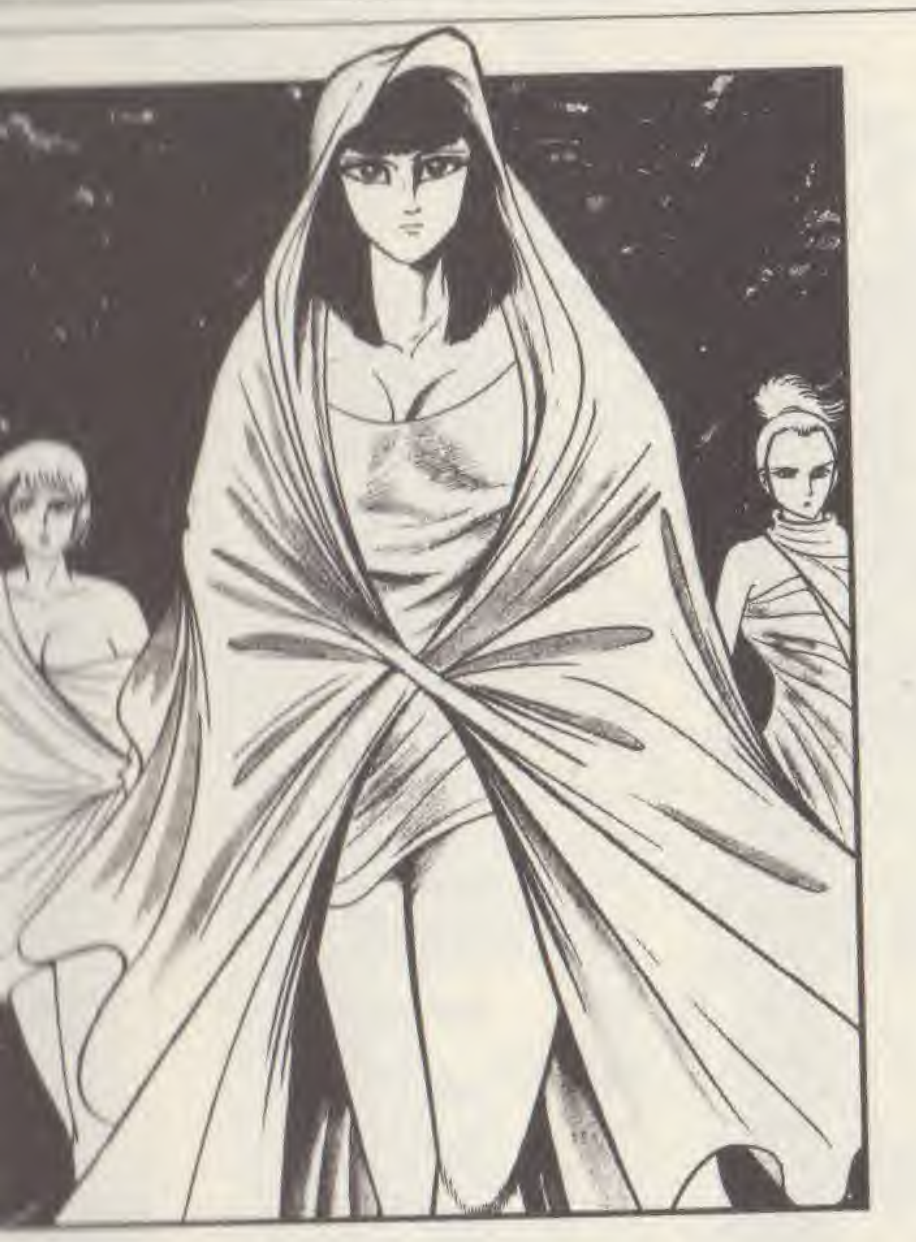


# アイラ武藤

## ムーの女王

アイラ・ムーは、2万年前のムー大陸の女王として『ゴッドマジンガー』に登場する。

『ゴッドマジンガー』は1984年、マジンガーシリーズの第4弾としてアニメ企画先行で制作された。原作は同年に小学館から書き下ろしコミックの形で出版されている。したがって、彼女の『ジャック』登場は『ゴッドマジンガー』への登場とほぼ同時といっていいほど近かったのである。



**地獄街の美女**

地震前はティーンエイジのファッションデザイナー兼ファッションモデルとして世界的に有名だったアイラ武藤は、多くのモデルたちといっしょに八重洲地下街に閉じこめられる。そこは「地獄街」と呼ばれた。



**リッキー**

地獄街C地区の女はみなアイラのデザイン会社の専属モデルだ。「手天童子」のリッキーはここでも怪力を披露。



**ムーの村の女王**

地獄街を脱出したアイラ武藤は専属モデルと子供たちを集めてムーの村をつくる。




**囚われのアイラ**

キバラによる襲撃により、囚われたアイラ。これだけひどいスタイルをとらされても、アイラは敢然とキバラに意見する。「恥ずかしくはありません、モデルは見られるのに慣れています」には脱帽だ。

# 疾風ドラゴン編

## ドラゴンとジャックの死闘

「疾風ドラゴン編」は『バイオレンスジャック』が「月刊少年マガジン」に掲載された際のラストエピソードである。こののち、『ジャック』は4年間の休載期間を経て、「週刊漫画ゴラク」誌上に「ドラゴンの砦編」で再登場する。

『ジャック』のどのエピソードにおいても、バイオレンスジャックはふらりと現れ、暴力の嵐を起こして去っていくのだが、そこにはかならず目的があった。スラムクイーンの言葉にあるように「目的のためにすべてをかけて生きぬく男」であるジャックは、かならず何かの目的のため、関東のあちこちに姿を現す。

ところが、この「疾風ドラゴン編」ではすこし違ってい [illegible]



いていたら、ドラゴン二天疾風隊とでくわすのである。こんなことは、後にも先にもこれ一回きりだ。

さらに、ピンチにおちいったジャックを助けるために第三者が現れる、というのも、ここだけのことである。炎ジュン、彼女は「恩がえししようと思って」ジャックのあとを追うともなく追っていた。

瀕死のジュンがまったくの無傷となって、関東の外にでる際の描写はとても美しい。これは読み過ぎかもしれないが、アップになった銃創がジュンの快感とあいまって、何かを象徴しているようにも見える。



# Topic ドラゴン編成図

スラムキングのつくりあげた騎馬武者軍団・ドラゴン。
関東を疾駆する恐怖の部隊の全貌を紹介！

スラムキング

ドラゴン騎馬軍団

| 部隊 | 隊長 | 解説 |
| --- | --- | --- |
| 本隊 | 竜の尾部隊々長 赤竜 | ドラゴンが全軍で行動する [illegible] の頭・胴・尾・腕など体の [illegible] で呼ばれる。 |
| 二天疾風隊 | 隊長 疾風の二天 | ドラゴン騎馬隊中、 [illegible] われる。二天竜火炎の [illegible] 中もっともジャックを苦しめ [illegible] |
| 紅竜隊 | 隊長 紅沙羅 | 12人いるスラムクイー [illegible] 人かが中心となって作られ [illegible] ドラゴン。 |
| 鬼面隊 | 隊長 夜叉 | 元プロ野球選手からなる。 [illegible] は元スター選手。「 [illegible] クと格闘。 |
| 黒風隊 | 隊長 黒風 | 忍者部隊。隊長黒風は [illegible] ジャー部隊の隊長。 [illegible] て活躍。 |
| マッドドラゴン | 隊長 爆雷 | 元暴走族で組織される [illegible] 出自のせいか、ほかの [illegible] 道」と呼ばれ嫌われている。 |
| 魔獣隊 | 隊長 獣人 | 元レスラーや相撲とり [illegible] 集団。隊長獣人は元プロ [illegible] ラゴン中屈指の凶暴 [illegible] |
| 黒雲隊 | 隊長 雲井九郎 | 騎馬武者70騎と近代 [illegible] 馬隊30騎から成る。 [illegible] の一騎打ちに敗れて死んだ。 |
| 赤竜隊 | 隊長 赤竜 | 赤竜砦のドラゴン。 [illegible] 襲撃され、外道会を使って [illegible] おこなった。 |
| 黄竜隊 | 隊長 木戸原 | 黄竜砦のドラゴン。 [illegible] て隊長を殺され、壊滅 [illegible] |
| その他の部隊 | | ドラゴンの総部隊数は50とも100ともいわれ [illegible] げた以外にも多くの部隊が存在している。 |

ドラゴン重騎馬軍団

| 部隊 | 隊長 | 解説 |
| --- | --- | --- |
| ドラゴン重騎馬軍団 | 隊長 鉄騎士 | マシンガン・火炎放射 [illegible] など近代兵器で装備された [illegible] 全ドラゴン中、最強の [illegible] |

ズバ蛮

| 部隊 | 解説 |
| --- | --- |
| 九龍隊 | 9人の外人のならず者 [illegible] ゴンの別動隊。 [illegible] 中5人がジャックに殺された。 |
| 百鬼隊 | ズバ蛮の性格を反映し、 [illegible] い性格をもったドラゴン [illegible] が集められている。外人が [illegible] |

# 関東鬼相撲編

## 心ただしく生きよ、とジャックはいった

格闘家の平直行に会ったとき、彼はこんなことをいっていた。「格闘技でいちばん強いのはなんていったって相撲だよ。相撲の張り手を喰らわされたら、ボクサーなんかすっとんでっちゃうぜ」

だからいうわけではないだろうが、地獄地震後の関東では、力士が幅をきかせている。相撲の稽古メニューにランニングはない。だから彼らはいくら強くとも、自分で食事の材料（犬）をつかまえることはできない。力士はその苛烈な強さを武器にして、人を従わせる。

海堂猛志は、そんな力士たちに仲間を人質にとられ、仕方なく犬をつかまえ[illegible]ジ虫みたいなもん」だという自己卑下する気持ちももっている。どうにかしたい、しかしどうしようもない。そう思っている。そんな中、仲間たちは理不尽に殺され、幼なじみのるみまで、命を落としてしまう。

地獄地震で父親を失った海堂は、ずっと父親の教えを胸に秘めていた。ミエのためのケンカほどくだらんものはない。しかし人間の尊厳を犯すようなものには、戦いを挑まねばならない――だから、海堂は戦おうとする。これ以上不幸な子供を増やさないためにも、戦わねばならない。勝てないことはわかっていても、戦わねばならない。

「関東スラム街編」の逞馬竜にとって、ジャックは父親だった。関東で生き抜く術を教えるため、ジャックは逞馬に試練を与えた。同じく、海堂にとっても、ジャックは父親の役割を果たしている。しかし、ジャックは海堂に試練を与えるわけではない。むしろ、本当の父親の教えを補完する者としてあらわれるのだ（このことは、たぶん海堂の年齢も関係ある。海堂は地獄地震のとき中学生、逞馬より年齢が上なのだ）。

戦うからには勝たねばならない。そうでなければムダに死ぬだけだ。考えろ、勝つための方法を考えろ。ジャックはそういって、海堂をさとすのである。

結果、海堂は自分の命とひきかえにジャックを雇う。海[illegible]



# 海堂猛志

## 逞馬軍一の猛将

海堂は、決して弱くはない。もう14歳であるし、子供たちのリーダーでもあるし、体力も、勇気も度胸もある。無法者の相撲取りがいなくなったとき、なりかわって弱者に乱暴狼藉を働くのは、あるいは彼かもしれないのだ。なにしろ彼は、のちに逞馬軍一の猛将の名をほしいままにする男なのである。

ジャックの言葉「心正しく生きよ」とはそうした「力」の危険性も示唆している。強者にあらがう弱者の力も、ひとたび立場が入れ替われば、暴力となり得るのだ。



**少年海堂**

海堂は、だまって非道な力士どもに、従っているしかなかった。仲間の女の子たちが、人質にとられていたからだ。だから、犬を狩ったことは何度もあるが、犬を食ったことはなかった。




**親父の思い出**

眠るとかならず、父親の夢を見た。男のケンカでなく、人間としてのケンカをしろ、といった父親の夢を。その教えを、海堂は忘れなかった。おそらく、成長して、逞馬軍の猛将になってからも。



**逞馬軍一の猛将**

成長した海堂は逞馬軍の武将となる。海堂ときけばドラゴンも恐れをなした。海堂が抜けた、というだけでドラゴンが逞馬に矛先を向けるほどに、重要な右腕となっていたのである。海堂砦を守護する。

ュレートする。同時に、権力の本質は暴力なのだ、ということも、あざやかに指摘してみせる。

# 死神警察編

## この世ならぬ世界

死神警察の署長はその名も死神、その正体は死人である。この世のものではないから、誰にも殺すことはできない。ドラゴン黒雲隊の隊長でさえ、一騎打ちをして敗れてしまう。このエピソードにスラムキングはでてこないけれど、きっとスラムキングも負けただろうね、死神には。

そしてここには、もうひとり死んだはずの人間が復活している。早乙女門土、彼が大々的によみがえっているのだ。

それまでも、「疾風ドラゴン編」などにチラリと姿をのぞかせていた復活門土は、ここにきてジャック以上の活躍をするようになる。この後、門土は竜馬とともに、ストーリーの傍観者／観察者として、『ジャック』の物語にかかわっていく。

同じくここから大々的にフューチャーされはじめるのは、女のジャックである。それまで巨人ジャックのしもべとして影の存在に徹していた女ジャックは、ここで民衆を扇動して反乱を起こさせる。

## 警察権力と暴力の近似

権力とはなにか？　権力とは、もっとも簡単ないいかたをすれば、「みんなが認める暴力」のことだ。単純な例をあげれば、警察が悪者に暴力をふるっても、みんなは文句をいわない。法律もそうだ。法律は人間を裁き、ときに殺しさえするけれども、みんな文句をいわない。権力と暴力とのあいだに本質的差異はなく、あるのは「みんなが認めているか、いないか」というただ一点のみである。

そして、警察が絶大な権力をもち、みんなが認めていないのに暴力をふるい、その暴力にだれも抗うことができないようなとき――警察が行使する法はあっても警察を裁き

ジャックとは誰か、門土はなぜ生きているのか、死人の





# 大柴壮介

## 『ダンテ』神の集団のひとり

大柴壮介、と聞いてピンと来る人はすくないのではないか。彼はたとえばあばしり菊の助や兜甲児のように、だれもが知ってる主人公キャラではなかったし、顔のデザインも原作から大きくかわっている。

『魔王ダンテ』における大柴壮介は、神の集団のひとりとして、サタニストや悪魔を狩る。学校での悪魔へのリンチは、死神警察をほうふつとさせるものであった。居合い斬りの達人でもある。



**死神警察**

死神＝大柴壮介が署長としておさまる死神警察は、警察権力を行使して、ありもしない罪をでっちあげることができた。取り調べという名のサディスティックな儀式を、人々は恐れた。



**死神**

ドクロの面の下には、本物のドクロがあった。死神とは、ジャックに弟を殺され、みずからも殺されながら復讐の一念でよみがえった大柴壮介だった。死人だから重力の支配を受けず、蝶のように舞う。



**大柴壮介**

顔デザインこそすこし変わったけれども、性格そのものはあまり変わらなかった。残忍で冷酷な男である。超現実の力を使ってよみがえる、というのも、『ダンテ』の大柴ならやりそうな気がする。

# 野獣王編

## キバラの動物園はどこにある？

『バイオレンスジャック』の楽しみ方のひとつは、そこが荒廃した関東である以上、荒廃する前どこかの街であった、という想像をたくましくすることができることだ。

ストーリー中、直接の言及がある場所もある。たとえば、黄金都市（エルドラド）は池袋だ。関東地獄街は八重洲地下街だ。関東スラム街は荻窪だ。

では、「野獣王編」で「地獄地震で陥没し盆地になり、たくさんの温泉が吹きだして天然の温室となった」土地とはどこだろう？　そこはもう植生さえ変わっていて、完全な熱帯のジャングルになっている。元の場所がどこだったか

のいる規模の大きなものであること。それはどこだ？

個人的には、多摩動物公園あたりかな、と見当をつけているのだけれども。

### 「見る」性のめざめ

響真吾は両性的なルックスをもつ美少年である。美少年であるがゆえに、虐げられてきた少年でもある。

学校では教師にいやらしい目で眺められ、生徒たちにも裸にされていじめられてきた。地震後も同じように、性に飢えた男たちの慰みものになってきた。

しかし、熱帯のジャングルに降りたことが、彼の性のめざめをうながす。温泉につかっていた響は、同じく温泉につかりにきたアイラ武藤と、それを食おうとするトラとを「見る」のだ。男性のセックスは、女性よりも視覚に依存するところが大きい（エロ本やエロビデオのたぐいはみな男性用だ）。トラの舌はみるみる伸びてペニスの形になるけれども、それは少年の姿でなければならない。熱帯の熱い蒸気のなかで織りなされるエピソードは幻想じみているけれど、ひとりの少年の性へのめざめもまた、幻想に酷似したものなのである。

少年はやがてトラをしたがえ、自分の居場所を見つける





# 響真吾

## ドラムの響き

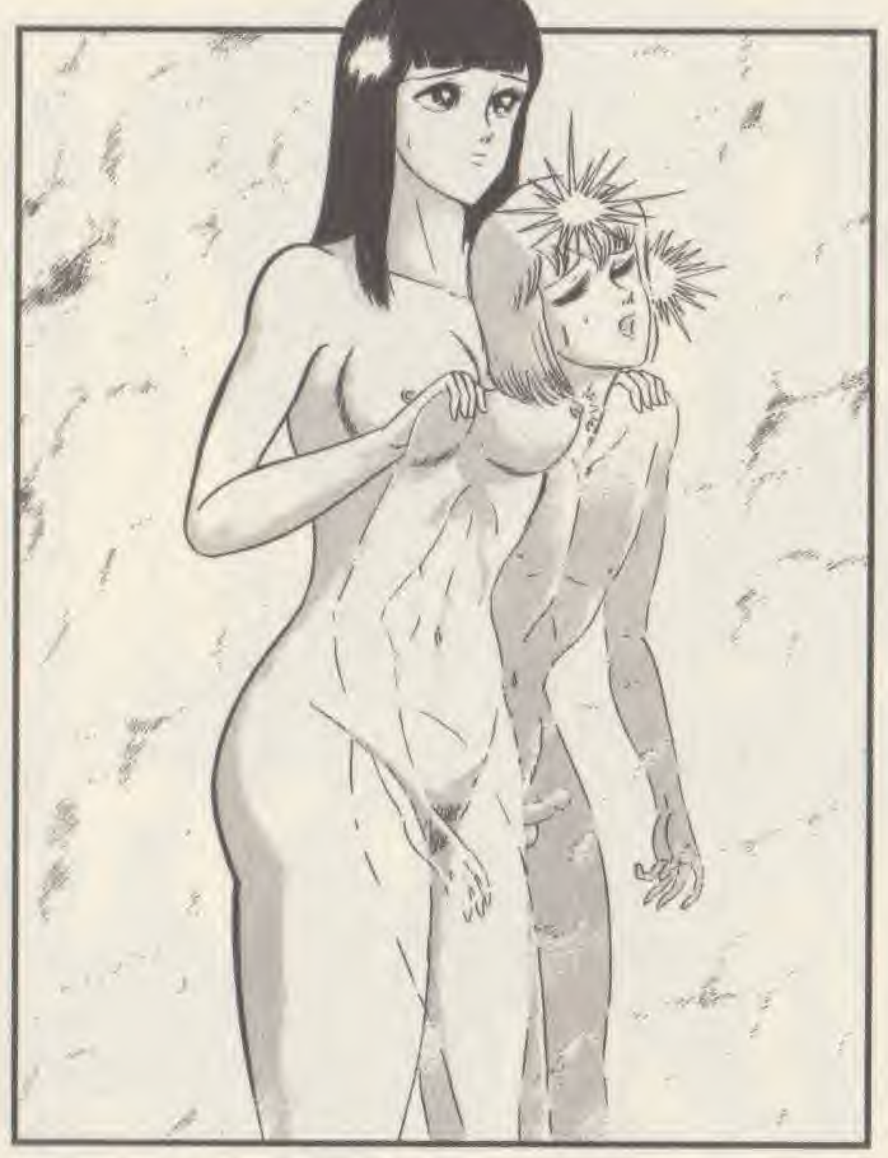
『キングボンバ』は1976年、「てれびくん」誌上に連載された。響真吾はこの作品の主人公で、父の魂が宿った特殊なドラムの響きに感応してキングボンバにのりうつり、キバラ一族と戦う少年だ。

「野獣王編」のストーリーはもちろん、これをふまえて展開されている。響真吾はアイラの作ったキングボンバの彫像にのりうつり、キバラを撃退しようとする。ここでのキングボンバはバイオレンスジャックだ。



**美少年の悲哀**

『キングボンバ』の響真吾は、髪の色も黒いし、明るいし、もちろん美少年であるがゆえの悲哀などもっちゃいなかった（掲載誌が「てれびくん」だもん、なよっちぃ男がヒーローにはなれないよね）。



**性へのめざめ**

アイラにすがりつかれ、男としての欲望にうちふるえる響少年。このすこし前にトラに襲われて射精するシーンがあるが、それと対応して、少年の性へのめざめを熱帯の幻想のなかで織りなしている。



**キングボンバ像**

アイラを地獄街から助けた謎の巨人をイメージして彫った像。ムーの村の守護神。ムーの村がキバラに襲撃されたとき、からくも命を逃れた響は、この像に向かって叫ぶ。響の魂は、ジャックにのりうつった。

の抜本的解決はもたらさない。しかし、朱紗真悟は現実を改変する力をもってしまう。錬金術、無から有をつくりだす能力を、朱紗は手に入れる。

アクアポリス未来市は、朱紗が錬金術によってつくりあげた観念の都市だった。朱紗が望んだとおりにすべてが運行する街。それが未来市だ。

ところが、そこへふたつのエネルギーがあらわれる。ひとつは身堂竜馬、朱紗と同じ能力を有する者。もうひとつはアイアンマッスル、ジャックのエネルギーを取り込んだグラップラー。

# ハイパーグラップル編

## 孤独な観念世界への他者の侵入

今、あなたや私が向きあっているこの世界、この現実が、真に現実であるかどうか、誰も証明することができない。あなたは夢を見ているのかもしれないし、誰かの夢の中にいるのかもしれない。そんなはずがあるか、と誰もが思うが、残念ながらそうでない証拠もない。ぼくらが今向かいあっているこの現実は、その程度のあいまいな存立基盤しかもってはいないのである。

朱紗真悟は、地獄地震で荒野となった世界を「現実でない」と考え続けた。都会育ちの自分は、関東の現実に向かいあうことはできない。だから、ずっと考え続けた。これはウソなんだ、現実ではないのだ、と。

朱紗はこのふたつのエネルギーをきらった。それは、自分がつくりあげた観念を壊すものだからだ。彼はさっそく二人のもとに刺客を送り込む。

しかし、朱紗は結局、この二人の邪魔者を排除することはできなかったのである。なぜか？

この世界を現実でない、と思いこむのは簡単だ。実際、ある種の宗教はそう教えてさえいる。だが、たとえ個人が現実を夢だと思おうと、他者はかならず現れてくる。

他者は必ず、個人の思いあがりや思いこみを壊す。朱紗にとって、身堂とアイアンマッスルこそ他者だった。現実とはいつでも、他者との関係性、コミュニケーションなのである。他者を荒野にいれない[illegible]





# アイアンマッスル

### 鋼鉄の筋肉

原作『アイアンマッスル』でも、グラップラー鋼光一は父親・勇次郎をオーディンに殺されている。しかし、鋼光一はオーディンを恨み復讐を誓いはしなかった。一時的にそういう気持ちになったことはあった、とは語っているが、基本的にスポーツマンらしい挑戦の気持ちから勇者オーディンと戦うことを望んでいる。『ジャック』の光一は、だから『凄ノ王』が入ってるのだ。憎悪の感情で巨大化するところ、モロ『凄ノ王』である。



**アイアンマッスル**

グラップラー鋼光一。父を殺したオーディンへの憎悪の気持ちが高まると、肉体がジャックのエネルギーを取り入れて体重・身長ともに大きくなる。戦いのときはジャックの瞳をもつ。



**ファイアー・ビーナス**

『ジャック』上では明らかにならないが、本名は炎桜子。女性ではあるがかなりの実力者であることは『アイアンマッスル』と同じ。鋼光一との肉弾セックスは「ハイパーグラップル編」の見どころのひとつ。



**サタン・ザ・キッド**

アイアンマッスルに殺された親友ゴーレムの復讐を誓う（原作では逆で、サタンを殺されたゴーレムが復讐する）。オーディンの息子。ちなみに、このサタンをはじめグラップラーのほとんどは原作と同名。

# 鉄(くろがね)の城編

## ジャックだってZには負けるのだ!

この本を読んでる人はもちろんそんなことはないと思うが、世間じゃバイオレンスジャックなんてったって何のことかわからない人はたくさんいるのである。早乙女門土なんてったって何者か知らない人はたくさんいるのである。

しかし、マジンガーZとなればそうではない。田舎のおじちゃんおばちゃんだって知ってる。スーパーロボット大戦のおかげで、小学生のガキだって知ってる。総理大臣の名前はいえなくたって、マジンガーZのパイロットの名前はみんないえる。そのぐらい凄いもんなんだ、マジンガーZってのは。

のだ。ださなきゃ総出演にならないじゃないか。よし、だすぞ、マジンガーをだす。ただし、マジンガーはロボットだ。しかも正義の巨大ロボットだ。アイアンカイザーの役はやらせられないし、そのまんまだしたらさすがのジャックも負けてしまう。うーん困った、どうしよう。

……と、豪ちゃんが考えたかどうかは知らないが、マジンガーZは空手家ジム・マジンガとなって登場することになった。兜甲児が乗らないマジンガーはマジンガーじゃないから、兜甲児は小さくCBキャラみたいになって、盲目の空手家Zの肩に乗ることになった。

さらに、マジンガーZってのは、Zだけで完結する物語じゃない。なにしろ、適役が濃いのである。ドクターヘルにあしゅら男爵、ブロッケン。みんなだしたいじゃないか。アフロダイAやダイアナンAも見たいじゃないか。さやかさんはどうした、ボスはどうした、機械獣たちはどうした。

——見たいじゃないか。

というわけで、「鉄の城編」にはマジンガーキャラがみんな人間の空手家になってでてきた。それが無法地帯関東である必然も、ほとんどつけたしだった。タイトルは『バイオレンスジャック』だけれど、ジャックは3ページしかでてこないし、セリフはないし、一歩も動かなかった。ここでは、さすがのジャックも食われちゃったのだ。





## マジンガーZ

### 濃い敵キャラたち

『マジンガーZ』という作品は、なにがすごいって、やっぱり敵キャラがすごいんじゃないかと思う。なにしろ、濃いんだ。まあ、毎週毎週でてきては「おのれマジンガーZめ」といわなければならない手前上、普通の人じゃあ困るわけだが、よくこういうのを考えついたなあ、という妙な感心をしてしまうのを禁じ得ない。

ぜんぶ紹介したいんだけど、ページの都合でこれが精一杯です。アフロディナとダイアナもいるからね。




**独田地獄斎と阿修羅**
ドクターヘル。本名は独田獄だそうな。下は阿修羅。機械獣どもも原作の名を漢字表記に改め登場。




**剛金(ゴーゴン)**
ゴーゴン大公は、動かなかった。動かないがゆえに、以前のフォルムを保てた。虎の皮をしくヤクザの組長。



**兜剣造**
グレートマジンガーを作った大科学者は、復讐に燃える熱い空手家になった。独田地獄斎の心臓をつかみだす。



**ブロッケン=ピグマン子爵**
ブロッケン伯爵が本当に首をかかえて殺し屋としてでてきた。どう説明すんのと思ってたら正体がこれ。



**ジム・マジンガと兜甲児**
さすがに飛び道具はでなかったが、これはまさしくZ。ジャックと戦ったらどっちが強いのか、見たかった。




**ボス、ヌケ、ムチャ**
おマヌケ三人組ももちろん登場。乞食をやってます。さやかさんもいるけど、ここでは省略。

# 黒の森編

## 哀しき魔王の過去が明かされる

地震にともなう火事で真っ黒に焦げた森。いつしか人はその森を黒の森と呼ぶようになった。黒の森の木々は焦げ、葉をつけていない。だから、死んだ森だ。しかしなぜか、木々は成長を続けている。黒の森は拡大している。それがなぜかは、誰も知らない。

そりゃサタンが作った関東だもん、何が起こったっておかしくないさ。作品の結末を知ってると、ついそういう考え方をしたくなってしまう。だが、ちょっと待て。

作者・永井豪が「あの結末」を考えついたのがいつかはわからないが、[illegible]

ドにあたり、雑誌掲載時期も古い。だいいち、「あの結末」を考えていたら、スラムキングは信州の生まれだ、なんていえるわけがないでしょう。

だから、「黒の森編」は「あの結末」とは別の、独立した物語として読まれねばならない。そして、そう読んでこそ、「黒の森編」は味わい深い物語となる。

結論からいってしまうと、「黒の森編」はフォークロアだ。筋肉の強靭さが骨をしめつけるため、つねに鎧を着ていなければならない異形の男の伝記は、フォークロアにならざるを得ないのである。

スラムキング＝銅磨高虎は信州の名家に生まれる。その出生は異常だった。彼は、母の下腹をみずからの力で裂いて生まれてきたのだ。鬼子である。鬼子は旧家の土蔵に、鎖でつながれて育つ。人とのふれあいはない。唯一、家庭教師の先生・秋葉優子をのぞいては。

先生の愛がある、と思っていたとき、鬼子はまだ決して鬼になってはいなかった。それが裏切られたとき、鬼が生まれたのだ。鬼は哀しみと怒りのあまり、最愛の人である先生を殺してしまう。

だが、鬼は悔いていた。最愛の人を殺したことを悔いていた。もしあのとき先生を殺さなければ、自分の人生はか[illegible]





# 銅磨家の人々

### 銅磨高虎の半生

スラムキング＝銅磨高虎はおのれの強さを呪っている。なぜ、自分は母を殺してしまうほどに屈強だったのか。なぜ、ふつうの人間に生まれてこなかったのか。家族からの人並みの愛は得られず、誰からも人と見られず、高虎少年は成長していく。そして、唯一自分を人として扱ってくれた女性をみずからの手で殺したとき、銅磨高虎は人であることをやめたのだ。高虎はスラムキングとなり、人々を恐怖で支配するようになる。




**秋葉優子**

高虎の家庭教師、女子大の1年生。肉体をもちいての教育は高虎に人の心を宿らせた。高虎に殺されるが、なぜ高次の呼びだしに応じたのか、死の前の微笑はなにを意味するのか、謎の多い女性。



**銅磨陣内**

高虎の祖父。高虎をおそれ、鎖から解き放つのを嫌った。人生の最後に至って鎖の鍵を手渡す。



**銅磨高次**

銅磨家の養子。妾の子で不良。秋葉優子を強姦し処女を奪う。怒り狂った高虎によって殺された。




**高虎少年**

長大な『バイオレンスジャック』の中にあって、スラムキングが唯一、おマヌケな表情をするのがこのとき。信州の自然の中、スラムキングは人生最大の幸福を感じていた。

# 魔王降臨編

## 『ジャック』のラストエピソード

「魔王降臨編」は'93年、「バイオレンスジャック誕生20周年記念作品」として書き下ろし一巻本の形で日本文芸社から出版されたものだ。「週刊漫画ゴラク」の連載は'90年の3月に終了しているから、このエピソードが『バイオレンスジャック』のラストエピソードである。

それまで講談社と日本文芸社から別々に出版されていた『バイオレンスジャック』は、'96年に中央公論社の完全版で一本にまとめられて出版されることになるが、そのとき「魔王降臨編」も完全版に組み入れられた。

### 関東の歴史を

この「完全版」が正しく関東のたどった歴史のとおりに並べられているとすると、ある程度関東の歴史はたどることができる。

まず、第1期。地獄地震のすぐ後ぐらい。スラムキングの権力は絶大だったが、隅々まで行き届いておらず、無法者が各地で荒らし回っている。相撲部屋の鬼川部屋やら、死神警察やらが、小さな街を仕切っていた。暴走族「地獄（ヘルス）の嵐（ウインド）」もまた、どこかの街を根城に近隣の町や村を荒らし回っている。凄ノ王も徐々に勢力を伸ばしつつある。

第2期。小さな勢力はジャックあるいはスラムキングにより殲滅（せんめつ）され、関東は凄ノ王とスラムキングにより二分される。逞馬グループやセイント砦など、小さな自衛コミューンはもちろん各地に散在している。

第3期。凄ノ王が滅んだため、スラムキングの勢力が強まる。

第4期。クラーケン農場を逞馬軍が占領し、ゲリラ天馬軍が領土をもつ。三国時代のはじまり。

……と、だいたい以上のようになると思われるが、「魔王降臨編」のエピソードは、第3期に位置する。ただし、逞馬はここでまだ子供の姿をしているから、第1期～3期まではたいした年数がたっていないのだ。そして、逞馬が成長





## ハレンチ学園

作品『ハレンチ学園』は3部にわかれていて、第1部はかの有名な「ハレンチ大戦争」（→P117）で幕を閉じる。そのとき、山岸と十兵衛とヒゲゴジラをのぞくほとんどのキャラは死に絶え、以降、『ハレンチ学園』には登場しなかった。のちに『平成ハレンチ学園』で大々的に復活することになるが、イキドマリ君やアユちゃん、マカロニ先生はこの「魔王降臨編」まで山岸や十兵衛といっしょにはでてこなかったのである。



**山岸八十八と柳生十兵衛**
『ハレンチ学園』のヒーローとヒロイン。十兵衛はやはり剣の達人としてセイント砦を守る。原作で二人はセックスレスの夫婦だったが、ここでついに結ばれることになる。いやーめでたしめでたし。



**魔王ダンテとデビルマン**
ダンテ教団の首領におさまったヒゲゴジラ吉永団鉄＝魔王ダンテに、悪魔の体をもちながら人間の心を失わないデビルマン・山岸が襲いかかる。ジャックと山岸は協力してダンテを倒した。



**アユちゃんとヒゲゴジラ**
アユちゃんは豪マンガの女性キャラのなかでも元祖の部類に入る脱がされ役のひとり。ヒゲゴジラは脱がせ役。




**ハレンチ学園の先生たち**
ドラキュラ先生・丸ゴシ先生・マカロニ先生。ここにはあげられないが、ほかにパラソル先生がいる。

# 学園番外地編

## 関東にできた新しい学校

地獄地震後の関東には、日付も時刻もない。あるのは春夏秋冬という季節と、朝昼晩というぼんやりした時間だけだ。そんななか、『学園番外地』の番長先生は、学校を開校している。学校には、規則がなかった。だから、生徒は好きなときに来て、好きなときに帰る。一応、小学校のカリキュラムを教えてはいるが、勉強したくないときには、しなくたっていい。

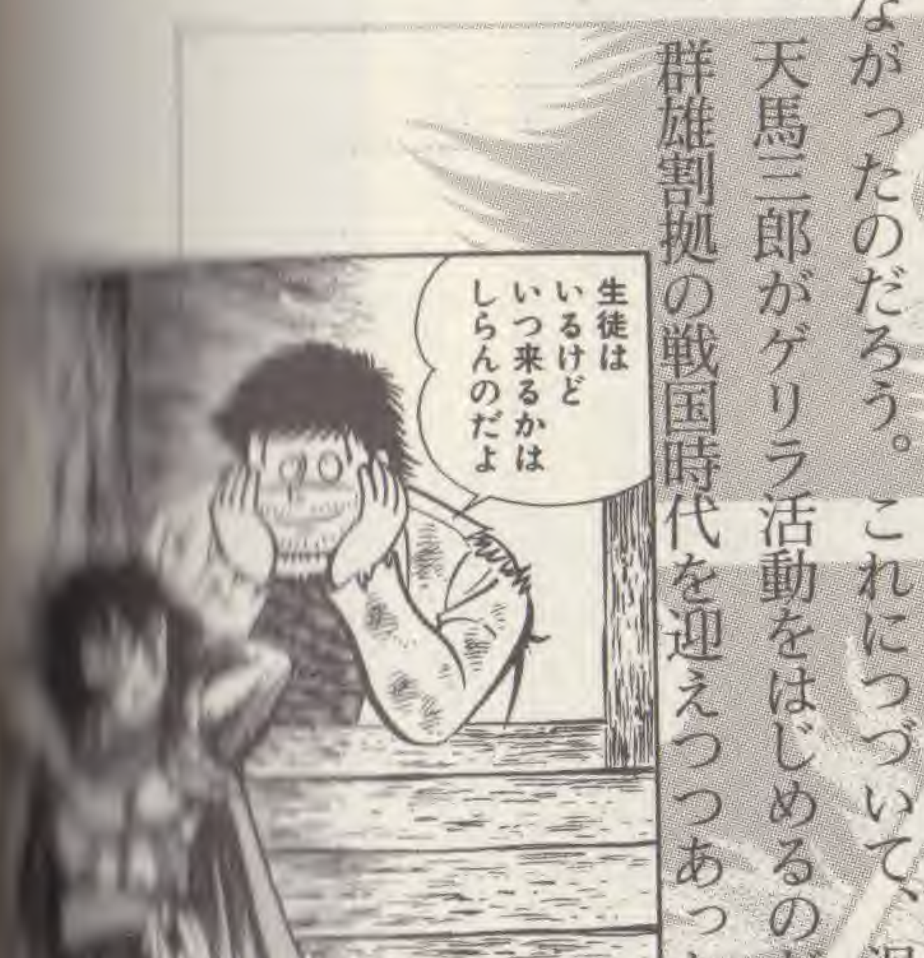
いったい、学校というシステムは何だったのだろう、と番長先生は考える。学校ではたったひとりの先生が、複数、しかも数十名の生徒を、ひとつのカリキュラムに従って教[illegible]

個性があり、得意不得意もあるはずなのに、全員同じものを押しつけて、たまたま押しつけたそれが得意な生徒を優等生とする。そこでは、生徒ひとりひとりの希望や興味が黙殺されている。もういいかげん、学校というしょうもないシステムは何とかすべきだと思うんだが、学校は相変わらずあって、「子供はこうあるべき」みたいなお題目が先走りしている。

番長先生は地震後の関東に、自由な学校を作る。それは、先生が以前働いていた学校より、ずっといい学校だった。

## 関東戦国時代前夜

「学園番外地編」で、3人のジャックはドラゴン軍団を弱体化させる。これがおそらく、スラムキングの権勢を弱めることにつながったのだろう。これにつづいて、逞馬竜が頭角を現し、天馬三郎がゲリラ活動をはじめるのだ。関東はいよいよ、群雄割拠の戦国時代を迎えつつあった。






# Topic スラムキング 面コレクション

毎回さまざまな面であらわれ、読者を恐怖におとしいれたスラムキング。面の遍歴を徹底紹介！

**1 関東スラム街編**




**2 関東スラム街編**



**3 ドラゴンの砦編**



**4 黄金都市編**



**5 黒の森編**



**6 学園番外地編**



**7 アイアンカイザー編**




**8 骨法編**



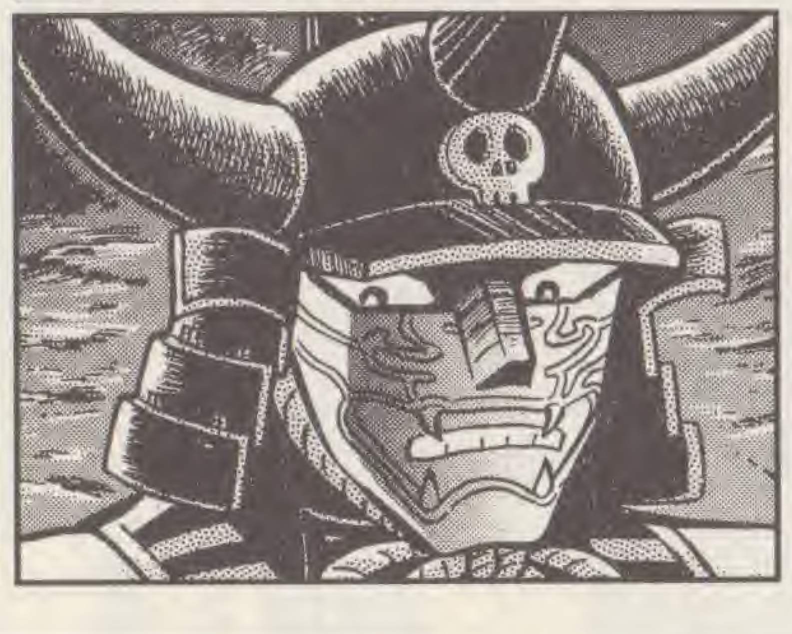
**9 九龍編**



**10 ジャンヌ編**



**11 ジャンヌ編**



**12 逆襲ハニー編**



時間的にいちばん古いのは少年時代の5の面。兜にドクロのマークがない。8と10も過去のものだ。使用頻度でみると3の面がいちばん多い。6は「ドラゴンの面」と名前がついている。ドラゴンを指揮する戦闘スタイル。



# 奴隷農場編

## 逞馬竜とあばしり一家の再登場

「週刊少年マガジン」での連載が、「黄金都市編（エルドラド）」で終了して以来、『バイオレンスジャック』に逞馬竜の姿は描かれなかった。つづく舞台「月刊少年マガジン」には名前さえでなかったし、「週刊漫画ゴラク」においては名前の言及はあっても姿が描かれることはなかった。

「ハイパーグラップル編」には『凄ノ王』と『アイアンマッスル』のキャラクターが登場したが、じつは、彼らは逞馬竜などより、ずっと新しいキャラクターなのである。これは想像にすぎないけれど、「奴隷農場編」で逞馬竜が『あばしり一家』といっしょに [illegible]

[illegible] ヤック』の物語は新しい局面を迎える。関東戦国時代は、逞馬竜の再登場とともにはじまったのだ。

## 盲目の巨人と盲目の兄妹

クラーケン農場は、スラムキングの穀倉であり、関東最大の穀倉地帯である。ここは、地震の際海底から隆起した土地、地震とともにうまれた土地であった。

農場の主クラーケンは、過去を忘れている。自分が何者なのかを知らずにいる。だから彼は、海の怪物の面をかぶり、過去を捨てた男として生きた。自分はクラーケンなのであって、ほかの誰でもない。失われたアイデンティティは、「新しい自分」にしか見出せなかったのだ。

同じように、菊野雪もまた、過去を隠している。女としての人生を捨て、男として生きている。これは身を守るためではあっただろうが、結果としては直次郎と同じだ。自分はあばしり菊之助なのであって、ほかの誰でもない。

兄妹が自分自身を隠し、人々に正体を明らかにしないまま、ストーリーは進んでいく。ジャックはここで、盲目の巨人として登場するが、このことはとても象徴的なことだ。二人の兄妹は、お互いにお互いを認めながら、相手が [illegible] 面なのか、見ることができない。そしてジャックが目を開 [illegible]





# あばしり一家

## 最強ファミリー

あばしり一家は、ここにでてくる菊之助（原作では菊の助）、直次郎、五右衛門、吉三以外に、オヤジの駄エ門で構成される。『ジャック』中でも「しょーもねえオヤジだったぜ」といわれているが、原作でもこれらの兄妹はすべて母親がちがう、という設定だった（母親の登場は一度もなし）。ここで菊野雪の親友となるクラスメイト、白領雪は、原作の「パラダイス中学編」にでてきた白領雪子がモデルだろう。髪型も同じだし。



**直次郎**

記憶をなくし、クラーケンとなっていた男。死の瞬間、記憶がもどり、菊之助が妹だということを思いだす。原作では脳味噌以外は機械のサイボーグという設定で、手からカッターが飛びだしたりしていた。



**五右衛門**

あばしり一家の長男。チカンという設定は『ジャック』でもひきつがれた。石川賢がモデルといわれている。



**吉三**

末弟。原作では爆弾を扱うのが得意な小学生、という設定だった。



**菊之助（菊野雪）**

原作ではとにかく無意味に脱がされていた菊ちゃん。母親との挿話は、あの底抜けに明るいあばしり一家の裏にも、案外こういう話があったかも、という妙な説得力があった。あ、原作の菊ちゃんに入れ墨はないからね。

# アイアンカイザー編

## 描かれなかった「手天童子編」

永井キャラ総出演の作品となった『バイオレンスジャック』だが、『手天童子』のキャラクターはこのアイアンカイザー以外はでてこない。

じつは、「手天童子編」はいちど企画されたのだそうだ。ところが、鬼を描こうとするとき作者を襲う数々の怪異現象が、ふたたび作者を襲いはじめたため、「手天童子編」は急遽(きゅうきょ)「骨法編」に変えられたという。ファンとしては、手天童子郎が、戦鬼が、護鬼が、関東でどう活躍するのか、ジャックとどうかかわるのか、見てみたかった気もするが、それはもはや、望むべくもない。

[illegible]

いく。

## 母の情愛が息子を苦しめる

アイアンカイザーは、関東の外で開発された、局地制圧用の殺人兵器である。ミサイルとレーザーで武装され、「闘争心」をインプットされている。運動中枢を制御するのは、地獄地震で死んだ女の脳だ。女は、殺人標的として自分の息子を選んだ。果たして、そこに選択の意志があったかどうかはわからないが、かりに無意識にしても、息子を選んだのである。

母親は息子を殺そうと、追う。もちろん、わずかに残った母親の意識は、息子を攻撃したがってはいない。だが、遠隔操縦され、標的を追うことをプログラムされた脳は、母親の意志にかかわらず、攻撃を続けなければならないのだ。

あの手天童子郎も、そうだった。彼が命をかけて戦う相手、鬼獄界の鬼とは、母親の妄念が作り上げたものなのである。息子を失いたくないという思いが、息子を苦しめる敵を作りだした。そして、ここでのカイザーも、息子への情愛ゆえに、息子を攻撃してしまう。

「手天童子」のカイザーは[illegible]

[illegible]





# アイアンカイザー

## 小角裕(おづぬ)とは何者か

ここでアイアンカイザーに追われる少年・小角裕は、『バイオレンスジャック』のオリジナルキャラクターではあるけれど、じつは同じ名前の女性が、別の作品にでている。「少年マガジン」に連載された『手天童子』には前身作品があって、そのヒロインが小角ゆう。『プリンセス版 手天童子』と呼ばれたその作品は、のちに『邪神戦記』と改題されている。手天童子郎という名前はこの『邪神戦記』に使われたのが最初だ。



**カイザーの足**

いきなり足でなにかと思われるかもしれないが、足こそ、『手天童子』のカイザーと大きく違う点なのだ。足には爪がつけられた（『手天童子』では靴）。メカニックが精密なのも、『ジャック』版カイザーの特徴。



**小角裕**

頭についた角のようなものは発信機。これをもとにカイザーは少年＝息子を追い回す。



**殺人兵器カイザー**

関東でテストされる殺人兵器、カイザーは海からやってきた。関東で死んだ女の脳をもとに、関東の外で製造され、関東に投入されたのである。カイザーは基本的に、関東の外から電波で遠隔操縦される。



**歩く脳髄**

母親の子を求める気持ちが、動くはずのない脳を動かした。少年は脳を抱いて泣く。

とも多い（一例。ナチス＝ドイツは民主主義の産物だ）。

逞馬竜は、領主として、リーダーとして、偉大な男だった。そして、「陽炎編」は、その偉大な男を親父としてもった少年・高山文太の物語である。

# 陽炎編（かげろう）

## 大人になるブンタと関東の復興

少年ブンタは、大人になりつつあった。大人になるとは、自己を確立することである。それはふつう、両親からの独立という形をとってなされる。反抗期とは、独立したいけど独立できない子供たちの、精一杯の自己主張だ。

あまりに偉大な男・逞馬竜を父としてもったブンタは、父を越えたい、と思っていた。偉大な父を超克するためにいちばん手っ取り早い方法は、父のしないことをすることである。ブンタにとって、法で統制された逞馬領内で強盗や追い剥ぎをはたらくことこそ、父を越えるための唯一の方策だった。しかし、そこで行ういくつかの犯罪が、子供たちを統括して集団で行動する、という、最初期の逞馬グループのそっくりそのままコピーであると気づくほどには、ブンタは大人でない。

大人になりはじめ、性へもめざめはじめたブンタの物語は、同時に、関東の復興を[illegible]

## 逞馬領——法ある世界の出現

無法の世界・関東にも、法のある世界ができはじめていた。逞馬竜が統治する逞馬領では、領主・逞馬竜を中心として、法治国家が形成されていたのである。

陳情＝民衆の話を聞く。仲裁＝民衆間に起こったもめごとを解決する。裁判＝仲裁でおさまりがつかないとき、とりおこなう。それに、領内のパトロール。これらはすべて、若い逞馬が中心になってとりおこなっていた。

海堂、黒部といった副将たちがそれぞれ砦をもち、そこに滞在しているところから見ると、封建制度をとっていたのだろう。封建という悪いイメージをもたれがちな[illegible]





# 逞馬軍の人々

## それぞれの成長

ブンタだけではない。地震ののち、逞馬とともに行動していた子供たちも、逞馬が成長するのと並行して、大きくなった。みな、逞馬軍の猛将として、打倒ドラゴンの軍備をかためる立派なサムライとなっている。ここでは紹介することができないが、逞馬が「関東スラム街編」で子供たちとサカナをとりにいっていたとき、家を守ったり、武器を作ったりしていた順子ちゃんも、とてもきれいなお姉さんに成長している。



**ブンタ**

高山文太。「陽炎編」ではエディプス願望を吐露し、父でもある逞馬竜殺害さえ企てたが、その後は逞馬軍の伝令役として、砦と砦の間をかけまわる姿が描かれた。ブンタもまた、成長しているのだ。



**ゴロ**

野田五郎。地震前は番長の威を借り、逞馬をいじめるいやなヤツだったが、地震後は逞馬のほうが強くて、逞馬の配下になる。「ジャンヌ編」の戦いのとき、敗走する海堂軍をドラゴンから守ろうと、壮絶な死を遂げた。



**黒部**

逞馬とはグループが違っていたが、同じく孤児集団のリーダーとして行動していた。逞馬がドラゴンを破ったとき、作戦に協力、以降、逞馬軍のサブリーダー的な位置につく。黒鷲砦を守護する。

# ハニー編

## 人豚は人犬より奇なり

中国は漢の高祖・劉邦の皇后である呂后は、「史上三代悪女」と呼ばれていて、シレーヌも真っ青の残虐ぶりを発揮している。

劉邦の生前においては、劉邦が天下をとれたのはすべて自分とその一族のおかげと妄信し、一族のためにやりたい放題、功臣を次々と処刑している。劉邦の死後は自分の息子を傀儡（かいらい）の皇帝として立てて実権をにぎり、劉邦の愛妾を惨殺しにするばかりでなく、もっとも劉邦の寵愛を受けたとされる戚夫人を「人豚」に仕立てあげている。[illegible]

[illegible]ャック』における人犬は、この呂后の「人豚」の故事を参考にしたと伝えられるが、事実はマンガより奇なり。人犬には耳も目もある。しかも、人豚は最終的にはどうなったかというと、トイレの汚濁の中に投げ捨てられるのだ。

バイオレンスの巨匠・永井豪もここまではやらなかった。本物の人間は、スラムキングより残虐なのである。

## 人犬の経験する無上の幸福

レストランの従業員、飛鳥了と牧村美樹はいかにして人犬となったか――それが語られるのが「ハニー編」だ。これは想像にすぎないけれど、作者はここで、虐げられた人犬を、救いたかったんじゃないかと思う。

人犬の初登場は「関東スラム街編」、逞馬竜と同じぐらい古い。だが掲載誌が少年誌では、了と美樹のこの幸福は描けない。恋人たちの幸福は、青年誌でなければ描けない。

身動きできず縛りつけられ、裸でつながったまま荷車で引き回されるふたり。あびせられる罵声と嘲笑。だが、ふたりはそんなもの、気にしなかった。荷車が揺れるたび、ふたりのからだに新しい快感が走る。

人間としての最高の幸せを、かつてふたりは[illegible]





# 人犬

## 無意識のサタン

サタンは人犬＝飛鳥了になるとき、自分の記憶も能力も、すっかり消去して人犬になっている。もちろん、「人間以下の犬として生きる」ことはサタンの意志であるから、そういう運命をもって生まれた人物であったことは間違いないが、すくなくとも犬となった少年は自分がサタンであることを知らない。これは、『デビルマン』の飛鳥了が「自分がサタンである」ことを知らないのときれいに対応し、「飛鳥了」という人物を構成する。



**悪魔のいじめ**

スラムキングはクラーケン農場奪還ができず、機嫌が悪かった。機嫌が悪いと人犬にあたる。了に犬をけしかけ、襲わせているその間、美樹を膝に乗せていじくりまわしている。魔王の残虐ないじめ。



**天使の夢**

天使が助けてくれる夢。まあいい夢ね。舌のない人犬は腕で会話する。この夢が、じつは関東の構造にかかわるものだということを、了は知らない。当然、これを見ている読者も知らなかった。



**歓喜**

人間として最悪の状況にあり、これ以降もっとおとしめられる人犬が感じた、宇宙大の快楽。二人の人間が、文字どおりひとつになる瞬間。こういう性行為が、実際にあるかどうかは知らない。あって欲しいとは思う。

Topic

# ジャックvsスラムキング 戦いの軌跡

『バイオレンスジャック』ストーリー中、何度となく刃を戦わせたジャックとスラムキング。二者の全戦歴を徹底検証！　勝つのはジャックか？　キングか？



関東スラム街編

## 1 はじめての戦い

ジャックとキング、はじめての戦い。逞馬竜はスラムキングの圧勝、と予想したが、実際はジャックの鉄拳がキングの面を叩き割り、ジャックの勝ちであった。ジャックはとどめを刺さなかった。




ドラゴンの砦編

## 2 暴れ馬に囲まれての決闘

ドラゴンの[illegible]




黄金都市編

## 3 ジャック、おいつめられる

門土とのパズーカ対決で傷ついたジャックに、キングが挑む。さすがのジャックも弱っていて、腕を切り落とされ腹に刀を受けた。ジャックは歯で斬馬刀を折り、キングをつきとばす。



黒の森編

## 4 幻影の戦い

[illegible]






学園番外地編

## 5 勝負は引き分け

ドラゴンの大軍と戦い、疲労したジャックにキングが襲いかかる。ジャックは脳天に刀を受けて流血、さらに腹部を斬馬刀で貫かれるが、同時にキングの兜を叩き割り、勝負は流れた。




奴隷農場編

## 6 女ジャックとキングの邂逅（かいこう）

巨人のジャックはクラーケン農場の反乱に加わっている。スラムキングを足止めするのは、女ジャックの役目だった。ムチをふるってしばらく戦った後、女ジャックは鷲・蛇・兎に姿をかえ、消えた。



ハニー編

## 7 ジャック、人犬を救う

ハニーによって魔王城を破壊されたキング[illegible]まり人犬を殺そうとする。ジャックはそれを[illegible]た。ジャックもナイフを折られた（すぐに[illegible]）が、キングは兜の角を折られ鎧の胸部に裂傷を負う。



ズバ蛮編

## 8 ジャックが魔物に見えた

ドラゴンと天馬軍がにらみ合う中での一騎打ち。キングの目にはジャックが怪物に見えた。キングは兜の角を折られ、つきとばされている。ズバ蛮の発砲をきっかけに、ドラゴンと天馬の戦いがはじまり、決着はうやむやに。

## 9 [illegible]

[illegible]そのとき、人犬が飛び上がってキングのスキを作った。ジャックはついに、キングの首を斬り落とす。



逆襲ハニー編

## 10 デビルマンVSサタン

もはや、ジャックとスラムキングではない。デビルマンとサタンの戦いだ。「ジャック」をしめくくる戦いだ。不動明は無言で了の目を見た。了もまた明の目を見た。そして――関東は復興する。



魔王編

# 天馬編

## 早い時期に頭角をあらわした逞馬

逞馬竜は、子供のときから有名だった。小学校5年で地獄地震に見舞われ、その1年後に外道会に勝ち、ドラゴンを倒している。弱冠12歳で彼は、震災砦のリーダーだった。

逞馬グループへの大人の参加は、その直後からはじまっている。そして、クラーケン農場の奴隷反乱のときには、弱小とはいえどもすでに砦をきずき、一国一城のあるじとなっていたのである。

クラーケン農場を手に入れたことによって、逞馬軍は関東の4分の1を手中にし、スラムキングと対抗する勢力となる。たとえドラゴン軍団といえども、勢力戦を展開しな

将がいて、逞馬軍を守立てていた。

## ジャックになりきって戦う男

天馬三郎は、逞馬のように子供時代に功あり名をなしたわけではない。彼は「地獄の風（ヘルスウインド）編」で大好きな恵子（当時はけいこ、とひらがな表記）先生を地獄の風に連れ去られ、親をも叱咤する勇気を見せるけれども、直接、暴走族と戦ったわけではない。だから彼は、逞馬のように有名人にはならなかった。逞馬が幼くして覇道を歩みはじめたとするならば、天馬はじっと、その機を持ち続けたのである。

彼はやみくもに体を鍛えた。バイオレンスジャックのように力強く、大きくなるように、あらゆる努力を重ねていった。そして時ここにいたって、彼はゲリラ活動で頭角をあらわしはじめたのだ。

ドラゴンの規律の厳しさを逆手にとり、ドラゴンを投降させて勢力を大きくする機知もさながら、自分をバイオレンスジャックだと思いこみ、暴れ回るそのパワーも相当なものだった。

最愛の人・恵子先生を殺されると、天馬は血の涙を流し、怒りのあまりジャックそのものになって戦った。

ジャックが誰かにのりうつる・のりうつられる、という





# 天馬三郎

## ジャックに憧れた少年

天馬三郎は、逞馬竜とともに、地震後の関東を動かす運命をもった子供だった。ただし、彼は逞馬のように、孤児ではない。両親もいたし、学校にも通っていた。地震後の関東においては、比較的幸福な生活を送ることができた少年である。

幼少にしてジャックを見た天馬は、ジャックを目指し、体を鍛え、ゲリラとなる。しかし、そのことが逆に、最愛の人を失う結果を招いた。



**親をもなじる少年**

天馬は小さな頃から正義漢だった。恵子先生がさらわれ、炎ジュンがそれを追ったというのに、助けにいこうともしない大人たちに「そんな人間ならなりたくねーや」といい放った。



**入れ墨を彫った天馬**

恩師でもあり、最愛の人でもあった恵子先生は、外道会によって体に入れ墨を彫られ、殺された。それ以来、天馬は目の上下に入れ墨を彫っている。下は恵子が死んだ際ながした血の涙、上はそのときの怒りをあらわす。



**ゲリラ活動開始**

ジャックに憧れ、ジャックになりたいと努力をしつづけた天馬は、15歳にして大人を見下ろす体格を得た。このころにはゲリラ活動もはじめ、ドラゴンの砦を壊滅させるなど、はなばなしく活動している。



# ズバ蛮編

## ついにはじまる三国の戦い

スラムキング・ズバ蛮・逞馬それに天馬を加えた大戦争が、ついにはじまる。ここでは、「ズバ蛮編」の戦いを整理してみることにしよう。戦いは、ズバ蛮がスラムキングの輸送トラックを襲ったことを発端にはじまった。

### ①ズバ蛮による黒鷲砦襲撃〜海堂の参戦

輸送トラック襲撃を逞馬軍によるもの、と父親に報告したズバ蛮は、その言い訳のため、黒部が守りをかためる黒鷲砦に攻め入る。ズバ蛮率いるドラゴン百鬼隊は強力で、またたくまに黒鷲砦を落とした。ズバ蛮は黒部を殺さず引き上げる。[illegible]守る外界空港へ向けて進軍する。

### ②ドラゴン侵攻

海堂軍が遠征に出発したため、手薄になった逞馬の本軍をたたこうと、スラムキングはドラゴンを出撃させた。ところが、キングの予想に反して、ズバ蛮は海堂軍を撃つために出兵しない。外界空港を取られちゃ困ると、キングはすでに逞馬軍にせまっていたドラゴンの頭を、海堂軍に向かわせる。

### ③逞馬・海堂によるドラゴンの頭の殲滅

海堂軍に向かっていくドラゴンの頭を、逞馬は背後から攻撃する。海堂・逞馬両軍にはさまれたドラゴンの頭は壊滅。しかし、その後ろからドラゴン本隊（胴）がぞくぞくと逞馬と海堂に迫っていた。

### ④天馬、黒竜砦占領〜終結

ドラゴンの出撃により、守りの手薄になったドラゴン黒竜砦を、天馬率いるゲリラが襲撃、占領した。ドラゴンの尾部にいたスラムキングはここにジャックがいると知り、みずから軍を率いてこれを討伐に赴く。ズバ蛮の参戦により、砦は奪還されたが、ドラゴン[illegible]





# ズバ蛮

## 戦国の寵児

ズバ蛮は本名銅磨蛮、魔王スラムキングの息子である。父親から譲り受けた強靭な筋肉は、父親の斬馬刀と寸分たがわぬ刀を振るうことができた。この刀を、ズバ蛮は戦国刀と名づけた。

戦国。そう、ズバ蛮とは、もともと戦国時代を駆けめぐるキャラクターだったのである。作品『ズバ蛮』において、彼は織田信長のかわりに天下統一をしてしまう人物なのだ！




**少年ズバ蛮**

ズバ蛮もまた、数奇な家庭環境で育ち、ねじ曲がった子供だった。普段は動物の解剖をして遊び、学校では問題児。母親はいつも緊縛されていたが、やがて父親に殺される。それ以来、彼は父を憎んでさえいる。



**戦国刀とズバ蛮**

この戦国刀は、父親の斬馬刀と同じもの。鎧武者を騎馬ごと斬るという例のヤツだ。ズバ蛮は超能力ももっていて、物品ひきよせでこの戦国刀をとる。なにしろ超能力者集団・九龍隊を統括できる男なのである。



**人肉ソーセージ**

ズバ蛮はドラゴン百鬼隊を率い、外界空港の警護を任されているが、その地の利をつかって、金儲けをしていた。ひとつは死体からとる血液と臓器。そしてもうひとつは、人肉のソーセージだ。

# 骨法編

## ジャックとクイーンの邂逅

「関東スラム街編」でスラムクイーンはキングにこう報告している。

「バイオレンスジャックはいままで関東に2度ほどあらわれております」

「わたしはジャックを見たことがあります……その姿！　その顔！　その巨人のすべてが巨大な意志のかたまりだった！」

「関東スラム街編」といえば最初期のエピソードだ。そのときすでに、スラムクイーンは「関東に2度しかあらわれていない」ジャックを見た、と語っているのである。

[illegible]

とは思えないが、いずれにしても、クイーンはジャックに会ったことがある、ということにはなっていたのだ。そして、そのジャックとクイーンとの、はじめての邂逅を描いた章が、この「骨法編」である。

## キング、クイーンを得る

関東地獄地震が起こって1年後には、スラムキングは遅馬竜に外道会をさしむけ、ジャックとはじめての一騎打ちをしている。そのとき、すでにクイーンはキングのもとにいるから、これはまさに地震が起きて数か月のころの物語である。

まだスラムキングはドラゴンを編成中で、強い権力はもっていなかった。火美子と夢彦を中心とした新邪馬台国は、そういう混乱期に創設される。火美子を女王とし、夢彦の骨法指導によって自警団をもった新邪馬台国は、大きさは村だったけれど、たしかにミニ国家の風情があった。

キングにとって、軍事力をもちつつある国家は邪魔なものでしかない。さっそくドラゴンを率いて進撃した。火美子の予知による防備にもかかわらず、国は3日で攻め落とされる。夢彦はキングと戦うが、やはり勝つことはできなかった。

[illegible]





# 日野火美子と結木夢彦

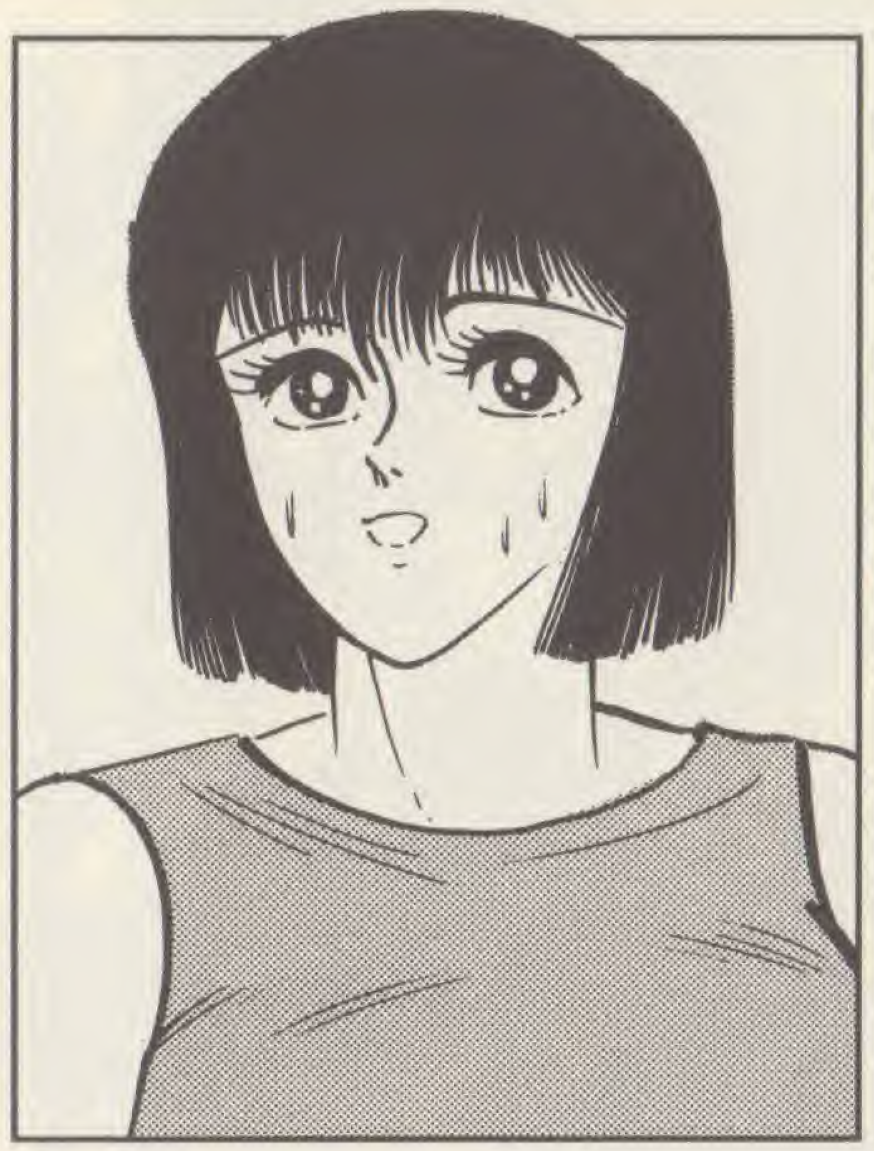
## スラムクイーン

当初、スラムクイーンはキングの愛人集団ということになっていて、全部で12人とされていた。それが物語が進むにしたがって、特定のひとりを指すようになっていく（残りの11人は、ドラゴン紅竜隊を構成している、と「魔王降臨編」で説明されている）。火美子という名前は夢彦とともに、『骨法伝説　夢必殺拳』のヒーローとヒロインである夢比古、火神子からとったものだろう（『凄ノ王伝説』にも同名の女性は登場する）。



**スラムクイーン**

魔王城の奥には地震によって奇怪に変形した山がある。この山に庵をたて、精神集中して未来予知するのが、後期『ジャック』におけるクイーンの日課。予知をするときには全裸で空中浮揚する。



**火美子**

このかわいらしい女性が、のちに念動力でなめし針を自在に動かし、殺戮を愉しむ女性に変わる。ただし、心の底ではスラムキングへの復讐心をもっており、いつか強くなった夢彦と対決させようと決心していた。



**結木夢彦**

魔王に恋人を奪われた骨法の武道家は、10年間、復讐だけを胸に、技を鍛え続けた。10年後、彼はみずからを「決闘者」と呼び、魔王城に姿をあらわす。気のエネルギーだけで鉄のパイプを破る達人に変貌していた。

# 九龍（クーロン）編



## 「ゴラク」で強くなったジャック

掲載誌を「週刊漫画ゴラク」にうつして以来、ジャックはとても強くなった。これは、講談社のKCコミックスと日本文芸社のゴラクコミックスを読み比べるとわかることなのだが、ゴラクのほうでは、ジャックはほとんどピンチに立たされていないのである。

たとえば、「疾風ドラゴン編」（講談社）において、ドラゴン二天疾風隊にあれだけ苦戦していたはずのジャックが、「学園番外地編」（日本文芸社）では3人ではあるけれども、ドラゴンの大軍を相手に圧倒的強さを見せるのだ。

しかし、ズバ蛮ひきいる超能力者集団・九龍隊と戦う「九龍編」では、さすがのジャックも苦戦する。そしてここでは、ジャックが苦戦するからこそ、ジャックの強さが読者の目前に、あますことなく開示される。

まず、3人の念動力者の放つ念動を、いとも簡単にはじき返す。毒爪にやられたら、その毒を球にして肉体から取りだす。腕を切り落とされるが、その腕を遠隔操作して、敵の頭をひねりつぶす。そのうえ、腕はニョキニョキ再生する。高空から墜落するかと思えば、そのまま消えてしまって、火山の噴火を起こす。街の人々にテレパシーで「逃げろ」と呼びかけることも、忘れてはいない。

強いのは腕っぷしばかりではない。バーではウィスキー1本を一息に飲み干す場面なんかもあって、おおジャック、カッコいいぜぇ、と思わずつぶやきたくなってしまう。「九龍編」において、ジャックは久々に、大活躍をしてくれた。








# ドラゴン九龍隊

## 9人の超能力者

「九龍編」の魅力は、なんといっても「うーんジャックはデビルマンより強いかもしれないなあ」などとマヌケな感慨を抱かせてくれるところにある。そして、そんな感慨も、敵役が強いからこそもてるものなのだ。

九龍隊の9人の超能力者には、『デビルマン』からの出張組が3人いる（張火龍は『ズバ蛮』の関張飛がモデルか?）。ここでは、その3人を紹介しましょう。うち、生き残ったのはサイコジェニーだけ。




**サイコジェニー**

『デビルマン』では巨大な顔に直接、手足がついていたわけだが、ここでは胴体に幻覚をおこさせる顔が描かれている。街の人々を魔物に見せることによって、ジャックを街全体の敵にした。



**シレーヌ**

ハンググライダーを使い、超能力の助けを借りて自由に空を飛ぶ鳥人。一瞬見えるイメージ（上）のデザインは、『デビルマン』のシレーヌより、のちの『レディー』の復活シレーヌに近い。



**ジンメン**

ここでのジンメンは、体に浮かんだ人面疽を相手に寄生させることで、遠隔操作する。「一人デ何人分モ楽シマセテモラウゼ」に見られるごとく、ねちっこい性格は健在だ。おでこに描かれたカメのイレズミには涙。




## ドッペルゲンガーに苦しむ男

この世界のどこかに、自分と同じ姿をし、同じ人格をもった人間が、存在しているのではないだろうか——。

そんな空想は、だれでも一度はもつたぐいのものだ。晩年の芥川龍之介などは、ドッペルゲンガー（二重存在）にたいそう苦しめられて、自分は行った覚えのない劇場であなたを見たといわれたり、会った記憶のない人にタバコ屋で会ったじゃありませんかなどといわれたそうである。

芥川の場合は、死の観念においつめられ衰弱した彼が、劇場やらタバコ屋やらに「実際に」行ったにもかかわらず、それを覚えていないというのが真相だろう。ただ、興味深いことは、[illegible]

自分とそっくり同じ姿をし、同じ思想をもち、同じ性格をもつ第二の自分。それにであうことは、やはり不幸でしかない。きゅうに卑近な例になって申し訳ないけれど、たいがい、キライなヤツとか気に入らないヤツというのは、鏡のように自分をうつしたところをもっている。似ていれば似ているほど腹が立つものなのだ。そして、それがまったく自分と同じ人物だとするならば、相手を殺すか、自分が死ぬかしなければいられなくなるのではないだろうか（まあ、殺し合わなくても距離をおけばいいんだけど）。自分のコピーといっしょにいられるほど、ぼくらの神経は太くはないのだ。

身堂竜馬という男は、『ガクエン退屈男』のときから、この「第二の自分」に悩まされてきた。いや、正確にいえば、身堂（『ガクエン』では三泥）虎之助のほうが、竜馬に悩まされてきたのだ。竜馬は完璧な美しさをもつが、虎之助は醜い。自分とまったく同じ人格でありながら、自分より優れている。それゆえ、そっくり同じ人間（『ガクエン』ではクローン、『ジャック』では第二の自分）にみずから近づき、それを亡き者にしなければ気が済まないのである。

虎之助はここで、自分の愛する門土を失いたくはないがゆえに、竜馬から離れる。愛ゆえに愛を捨てたのだ。虎之助にとって、天使＝フラッシュ・ハニーがいるということだけが、[illegible]

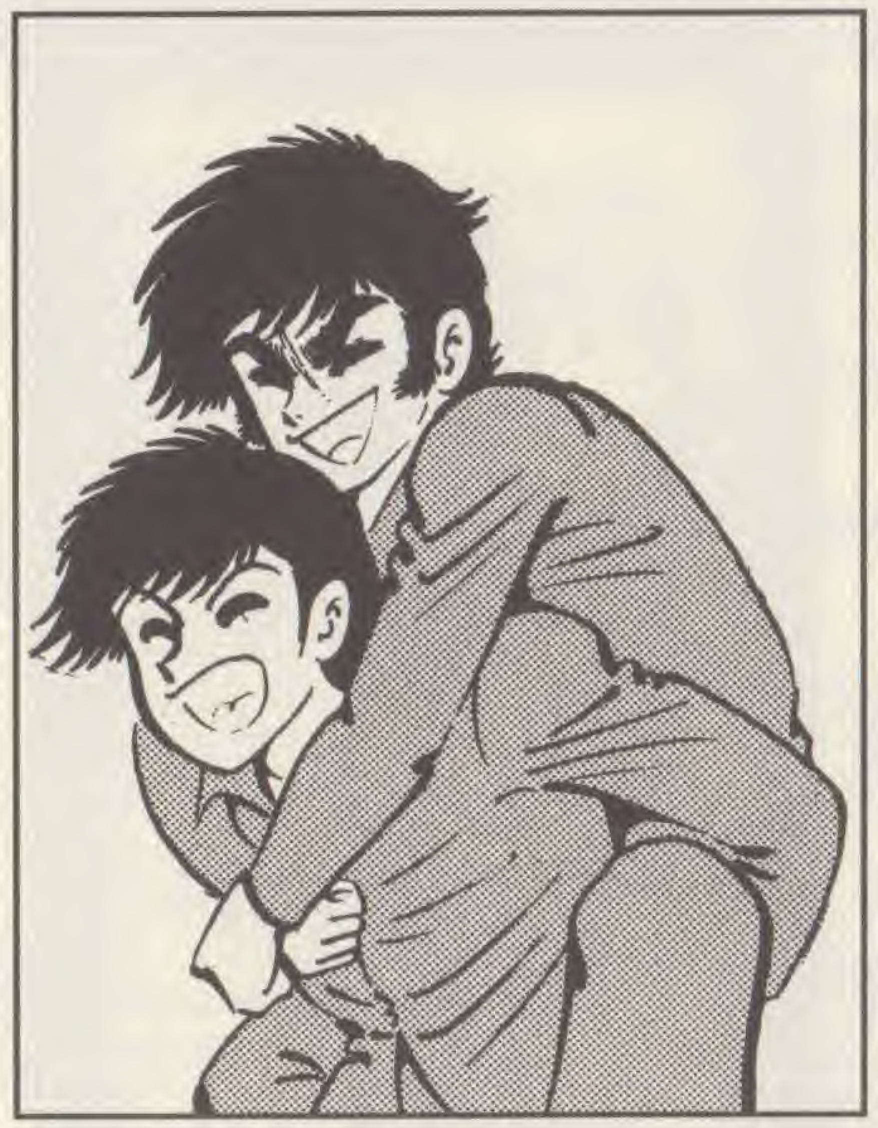




# 身堂竜馬

## 無意識の錬金術師

身堂竜馬が早乙女門土を作ったのは、純粋な友情（愛情？）からだった。自分が錬金術の使い手であることに無自覚な竜馬は、たとえば凄ノ王のように、それを悪用しようとはしなかった。だから、門土はしばらく彼のそばにいたし、二人は理想的な関係をたもちながら関東を歩き回った。一方では身堂虎之助という兄弟＝分身が生まれていたが、虎之助もまた、門土を失うことを望んではいなかったのだ。



**関東のオブザーバー**

エルドラド以降、門土と竜馬の二人は関東のオブザーバーとして、ほうぼうに顔をだす。竜馬はますます門土に惚れ、同時に自分の美しさに惚れていく様子だった。理想的な関係は、すべて竜馬が作ったものである。



**身堂虎之助**

エルドラドの経験は、すべてこの分身が背負った。美貌も門土もとられたと思いこんだ虎之助は、自分自身に復讐するため、竜馬を探し回った。女と見れば犯さずにいられない彼は、フラッシュ・ハニーを犯しまくった。



**怒りの変身**

超高層ビルの山に登り、本物の門土と再会した竜馬は、門土を消す。消した後に残ったのは、一個のガイコツだった。エルドラドで門土を殺されたのを思いだした竜馬は、悲しみと怒りのあまりジャックを襲う。

# 超高層の悪魔編

## 関東の墓場 新宿副都心

新宿副都心・超高層のビル街が、異常隆起によって、天をつくほどに高くなっている。東京にエベレストができているのだ。早乙女門土と身堂竜馬のコンビは、ビルの中に残っているかもしれない「お宝」を求めて山を登る。

ただし、山にはよくない噂があった。ここには、関東各地で無念の死をとげた霊たちが集まってくる。この山に登って、帰ってきた者はいない。ここは墓場であり、あの超高層ビル街こそ墓標なのだ。

だが、そんな噂も、二人を足止めすることはできなかった。むしろ、何かが隠されている証拠だ、といって二人[illegible]

組の錦織つばさやクロス、そして早乙女門土本人――とであう。おもしろいことに、黄金都市と超高層ビル街は地理的にきわめて近い。黄金都市は池袋、副都心はいうまでもなく新宿である。

それほど近い距離にありながら、ふたりはこの高い山を「はじめて見る」のである。すなわち、門土は黄金都市を知らず、竜馬は黄金都市を忘れている。すべては「なかったこと」にされているのだ。

（じつは、「黄金都市編」が執筆された'74年には、新宿副都心はやっと竣工したばかりで、あの高いビルはなかった、という事情もあったりする、のだが）。

死霊がよみがえり、門土は生き返った。竜馬は思念でつくりあげた門土の体を消し、すべてはジャックのせいだ、として戦いに臨む。山のふもとで、竜馬はこときれた。

## 「完全版」で死んだ竜馬

「ゴラク」版のコミックスには、章末にある「死んだ竜馬とそれを見おろすジャック」のシーン、合計4ページはなかった。その前の、門土と竜馬が超高層を目前にし、登るのをやめて歩いていく、というところでストーリーは終わっていたのである。つまり、「ゴラク」版では、竜馬は死な[illegible]



# Topic バイオレンスジャック キャラクターコレクション

物語の牽引者にはなれなくても、『ジャック』にはたくさんの永井豪キャラが登場する。これはその一部。




### オモライくん

おこもちゃんやコジじいとそろって登場。地獄地震後の関東ではおめぐみは少ない。（関東スラム街編）



### けっこう仮面

これはフラッシュ・ハニーのストリップ小屋での芸。ミスティは敵役サタンの足の爪になってた。

（逆襲ハニー編）



### ゴロンゴ

『ズバ蛮』に登場するアフリカ人。『ジャック』ではズバ蛮の参謀[illegible]が、逆鱗にふれて殺された。

（ズバ[illegible]）

### 村路さん

逞馬軍の将軍だけど、『ゴッド[illegible]ガー』ではムラジという名でアイ[illegible]ムーの将軍をやっていた。

（[illegible]）




### 女蛮子（すけ・ばんじ）

天馬三郎ゲリラ軍のメンバー。ぼったくりバーを開いて物資の補給を担う。子分の三下くんも健在。

（天馬編）

### アユちゃん

これは「魔王降臨編」ではなく[illegible]神警察編」のアユちゃん。こっ[illegible]うが『ハレンチ学園』に近い[illegible]

（死神[illegible]）

### 合田

『凄ノ王』の天才ボクサーは、『[illegible]ク』では朱紗真悟の執事とな[illegible]る。（ハイパーグラップル[illegible]）



# ジャンヌ編

## 逞馬軍VSドラゴン2度目の大戦争

スラムキングの娘ジャンヌが、はじめて人を愛した。大倉波太、このドラゴンの落ちこぼれが、ジャンヌの世話係に任命されるのは、逞馬軍とドラゴンとの、2度目の大戦争が展開される前夜である。

物語は、激しい戦闘の経過と、ジャンヌと波太の接近を同時進行で描いていく。ここでは、戦闘の経過をたどっていこう。

戦闘は、スラムキングの計略によってはじまる。キングの部下が秘密裏にすすめていたフェリー建造が、ついに完成をみたのだ。これによって、キングはドラゴンに海を渡[illegible]

というのは画期的な作戦でもあったのだ。

夜のうちに房総半島（キングの魔王城は、房総にあった）から出兵したドラゴンは、船で海をわたり、海堂砦（前回「ズバ蛮編」の戦闘のときにはなかった。その後建造されたものと思われる）と逞馬の荒鷲砦の中間地点にでる。ドラゴンは二手にわかれ、一方は逞馬を押さえ、もう一方は海堂砦を襲うのだ（P228〜229、地図参照）。

この攻撃によって海堂砦は落ち、追撃するドラゴンを食い止めるためゴロ（野田五郎）は命を落とした。

海堂はそのままズバ蛮の守護する外界空港に向かって攻めあがるが、ズバ蛮と百鬼隊は海へ逃れている。外界空港の内部から巨大な列車砲を発見した海堂軍はドラゴンの撃退に成功するが、突如自爆した列車砲によって大被害をこうむった。

戦いはさらに続くかに思われたが、突然のドラゴンの撤退で終結した。撤退の理由はスラムキングの身に起こった「異変」だった。







CHARACTERS PICKUP

# ジャンヌと大倉波太

### 大倉波太＝大波倉太

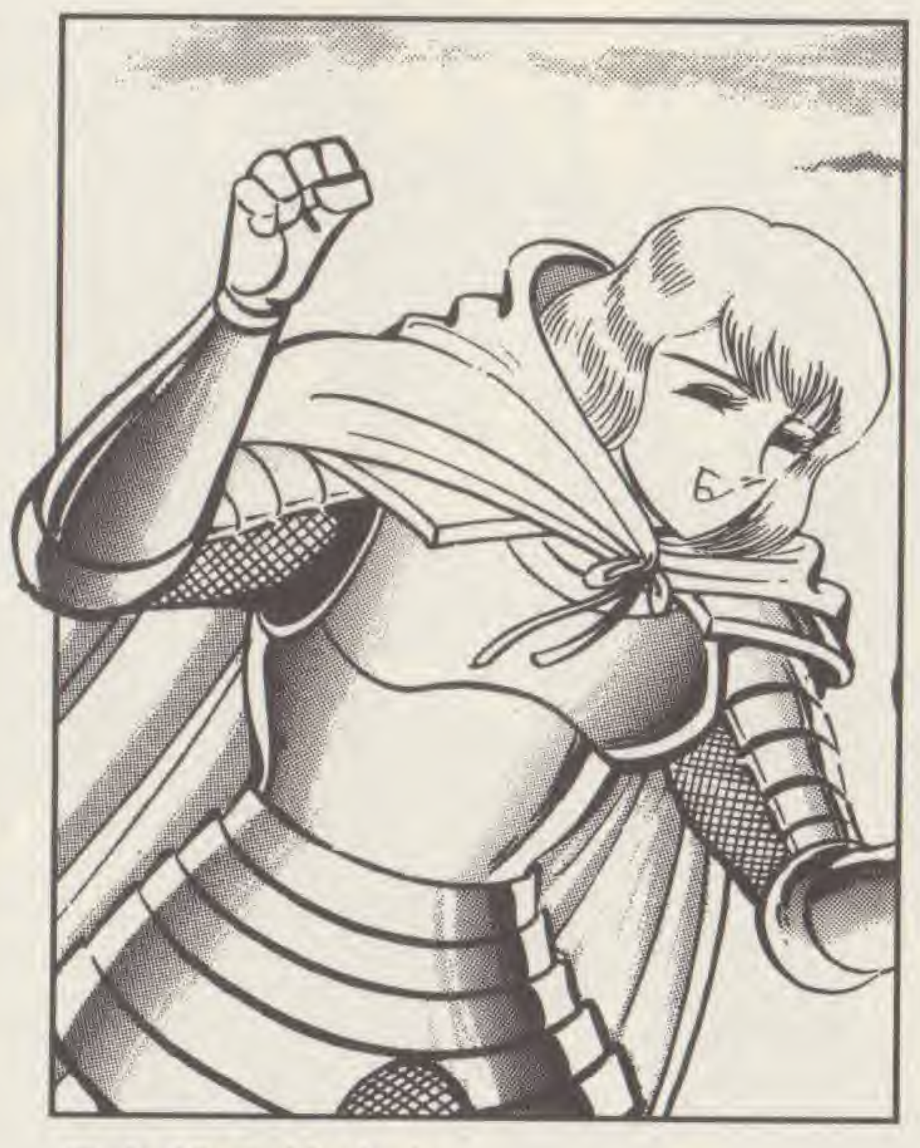
ジャンヌは、スラムキングの娘、ズバ蛮の姉にあたる。ズバ蛮といっしょに登場し、ズバ蛮砦に住んでいるからには、作品『ズバ蛮』のジャンヌだ。

その世話係となる大倉波太は、『鉄の処女JUN』において、主人公ジュンの執事をやっていた大波倉太が直接のモデルだろう。この大波倉太くん、両親が船に乗ってるとき大波に襲われ、そのとき生まれたので大波倉太（大波くらった－）という名なのである。



**少女ジャンヌ**

ズバ蛮以上に父親スラムキングの血を受け継いだジャンヌは、4歳のとき母親に残虐を働く父親を目撃し、それ以来精神の成長をとめている。体は大人になるが、精神はずっと4歳のままなのだ。



**ふたりの旅立ち**

海堂軍との戦いで、ズバ蛮砦は壊滅した。戦闘が続く中、大倉はジャンヌと愛をかわす。戦いが激しくなると、大倉はジャンヌを連れて砦を脱出したが、ズバ蛮はこれを連れ戻さなかった。ジャンヌの笑顔を見たからだ。



**大倉、ジャンヌを説得**

母親の記憶がよみがえると、ジャンヌはみさかいなく暴れだす。世話係はこれで、すでに何人も死んでいる。百鬼隊の落ちこぼれ大倉は、ジャンヌに愛されて世話係になった。暴走するジャンヌをキスで止める。



# 炎の魔人編

## 炎魔、関東に出現

関東に異変が起こっていた。炎をあつかう超能力者の男、氷をあやつる超能力者の女。そんな者たちがあらわれ、妖怪退治と称して自由にふるまっていた。ドラゴンの兵士は突然デーモンに（！）とりつかれたように豹変し、怪物に変わった。もう、関東は以前の関東ではなくなっていた。

同時に、スラムキングにも異常が起きている。「ジャンヌ編」の戦いのとき、「目覚めてしまう」といって軍を撤退して以来、キングはなにか余裕がなくなっているように見えた。やたらと人犬＝飛鳥了をいじめていることも謎だった。以前、飛鳥了が病気になったときには、わざわざ医者にみせて大事にしていた [illegible]

炎の超能力者はスラムキングに面通しを許された。そして、スラムキングは病気なのだ、といいきった。しかも、あの決して物怖じしない男、魔王と呼ばれたスラムキングが、自分は病気だ、とあっさり認めてしまったのだ。

## スラムキングの病気の正体

結論からいってしまうと、スラムキングはサタンの暗黒面、サタンの分身である。関東に妖怪どもが出現しはじめたというのも、悪の心が強化しつつあったからに相違ない。だからジャックたちはあわてている。「悪しき方向」のめざめが近い、といって。

だが、スラムキングがいかにサタンの悪の心のカタマリとはいえ、自我はある。くだいていえば、「オレは銅磨高虎、スラムキングだ」という意識はある。しかし、一度「目覚め」てしまえば、それはなくなってしまうのだ。自分の心はサタンの心の一部となり、とりこまれてしまう。

だから、キングの病気の正体は、「自分が消える」ことへの恐怖にほかならなかった。そう、キングもまた、決して関東を滅亡させたい、などとは思っていないのだ。それは自分で自分の首をしめることになるのだから。しかし、もって生まれた抜きがたい悪の性質か、滅亡へ滅亡へと向か [illegible]





CHARACTERS PICKUP

# ドロロンえん魔くん

## 大人になったえん魔くん

正直、あんまりだ、と思った。あんなに明るくてエッチで元気いっぱいだったえん魔くんが、なんでこんなに陰湿なあんちゃんになってるのだ。かわいくて優しかった雪子姫が、なんでこんなニンフォマニアになってるのだ。カパエルはなんだ、ただのヘンタイじゃないか！

もっとも、同時に納得もした。『ジャック』にえん魔くんをだすには、この役しかあり得ない。やはり彼らも、異世界のキャラクターなのである。



**炎魔**

名前も漢字表記に改め、妖怪退治に現れた男。「閻魔の親戚みたいなもんだ」という自己紹介が泣かしてくれる（原作ではホントに親戚）。ジャックと戦うとき本性をあらわすが、シャッポじいまでいっしょに化けてた。



**カパエル**

彼もまた、名前はでていない。原作ではロクな必殺技ももたず、ただケタケタと笑っているだけのマスコット的存在だったが、ここでは口から毒ガスをだし女ジャックを犯すなど、なかなかの活躍を見せている。



**雪子姫**

『ジャック』上では名乗ってくれなかったけど、これはやはりあの雪ちゃんが成長した姿。原作でもそのケはあったけど、こんなスケベな姉ちゃんになるとは思わなかっただろ、だれも。

# 逆襲ハニー編

## 魔王城の最終決戦はじまる

決戦の時が、ついに訪れた。海堂と黒部を大将とする逞馬軍は魔王城に攻め入り、アメリカからやってきたハニーの傭兵部隊が、空から攻撃をしかけた。逞馬はヘリで天馬領に飛び、天馬に軍をだすよう、協力を要請する。

スラムキングに対抗する三つの勢力が、一気に魔王城に襲いかかったのだ。しかも、魔王城内部ではクーデターが進行している。スラムクィーン・火美子は、あえて侵入者＝ハニーのコントロール・ルーム占領を容易にしたばかりでなく、かつての恋人・結木夢彦を城内に招き入れていた。

「あれから10年」夢彦はいった。そう、10年なのだ。地獄地震後からの、夢彦と火美子の[illegible]から、10年[illegible]は、地獄地震後10年間の物語なのだ。地震のとき小学5年生だった逞馬竜は、このとき21歳であることになる。

地震から10年、ついに魔王は敗退して城を逃れた。「東にあなたを待つ者が、愛する者がいます」スラムクィーンの最後の予知に従って、魔王は東に赴いた。

## サタンの倒錯した愛

東には、バイオレンスジャックが待っている。スラムキングを愛する唯一の人間とは、ジャックだった。

二人の最後の戦いは、人犬の加勢によって、ジャックがキングの首を落とすことで終わった。飛鳥了は体をまっぷたつにされ大地に横たわり（それは奇しくもあの不動明の死にざまと同じだった）、牧村美樹は犬の姿に戻っていく。

美樹が人犬の姿をとっていたのは、あくまでサタンのイメージだったのである。サタンは、人犬の姿をとりながら牧村美樹を愛し、同時に自分と同じ責めを受けることを課した。愛する明の恋人のイメージを、一匹の犬に仮託して、その女（犬）を愛したのである。そこには、飛鳥了という絶大な力をもった男が、いかようにもできない愛の倒錯があった。

ジャックは、犬に変わった美樹を一瞥してその場を去[illegible]も、真の魔王の復活が、近づいていた。





CHARACTERS PICKUP

# 7人のハニー

## 孤児院の姉妹

「元気してる？」というバブリーな挨拶をかわすハニーたちは、全員孤児院でいっしょだった、という設定になっている。育ちも同じなら顔も似ているんで、全員ハニーと名乗ることにした。これは、一度は子を養子にだした父親がふたたび財産家になったため、大量の遺産がころがりこんで裕福になった如月ハニーが、全員に資金援助をしたためでもある。キューティーハニーはこのうちいちばん年下で、フェンシングの選手、という設定だ。



**如月ハニー**

ハニーたちが関東に来るのは、この如月ハニーの兄ジェームス如月が、関東のどこかにいるからである。ハニーは兄を探しに関東へあらわれるのだ。兄のジェームスとは人犬・飛鳥了であることはいうまでもない。



**7人のハニー**

上列左から、キューティー、アイドル、如月ハニー、ハリケーン。下列左から、ミスティ、フラッシュ、ファンシー。ミスティとフラッシュは関東に残り、これは再会シーンのカットだ。




**虎之助とフラッシュ**

関東に残ったフラッシュは、カメラマンとして、モデルに虎之助を選ぶ。それが間違いのもとで、彼女は陵辱されまくることになった。だが、竜馬と会い心の痛手を負った虎之助を、フラッシュは見捨てなかった。

# 魔王編

## 広大無辺のオモチャ箱

かつて、スラムキングはこう語った。「関東はワシの趣味に過ぎない……全世界の経済を影でコントロールするワシにとって、関東はワシの遊び心を満足させるオモチャ箱にすぎない」（「アイアンカイザー編」）

いかにも、関東はオモチャ箱だった。ひっくりがえしたり隅っこをつっついたりすれば、いくらでも興味と関心をひきだしてくれるオモチャ箱。そこには、他作品でぼくらを楽しませてくれたヒーローの復活があり、新しいヒーローたちの、成長と青春があった。悲しむべきドラマもあったし、心胆が寒くなるような物語があったし、つい頬がゆるむようなエピソードもあった。

「魔王編」[illegible]

辺でなにがでるかわからない不思議なオモチャ箱は、その仕組みと構造を、ついに読者の前に開示する。

## 明かされた関東の謎

関東とは、サタンが作ったものだった。彼（彼女）が想像をめぐらせれば、世界はできる。彼のちょっとしたイメージが、世界に影響を与える。サタンが飛鳥了の時代に見た、破壊された関東のイメージ。それが、関東地獄地震をひきおこした。

バイオレンスジャックは、サタンが愛するあまり復活させたデビルマン＝不動明である。彼は、サタンが作った関東を守ろうとして動く。サタンにとってはほんの想像にすぎないものでも、そこに生まれた人々は、心もあるし、必死に生きている。だから、無に帰したりしてはならない。ジャックの意志＝ジャックの行動基準とは、まさにそれだった。デビルマンはサタンとふたたび戦うが、今度の戦いは最終戦争とはちがう。サタンを説得し、サタンを止めるための戦いである。だから彼は、戦いの最後に悪魔の姿でなく、人間の不動明の姿をとったのだ。

ところで、読者諸兄に問う。サタンとは誰か。飛鳥了だ、と答えた人は失格ね。そうじゃなくて、関東を作った人は誰か、ということだよ。

[illegible]





CHARACTERS PICKUP

# デビルマンとサタン

## サタンの思い

『デビルマン』の物語中、サタンが唯一自由にできなかったもの、それは、不動明という人間の心だった。彼の心だけは、サタンはどうしても思いのままにすることができなかったのだ。

『バイオレンスジャック』においては、サタンはスラムキングと人犬の内部に潜伏していたが、最終的に「真の魔王」として目覚めた。だが、彼はまたしても、不動明の心だけは、思いどおりにできなかったのである。




**舌などいくらでも……**

人犬がしゃべりはじめた。スラムキングと同様のショックを、読者も味わう。いや、なまじっか元のストーリーを知ってるだけに、ショックはキングよりも大きかったはずだ。



**ゼノンとサタン**

魔王ゼノンがサタンの分身であること、また、最終戦争時にサタンの乗っているドラゴンがゼノンの変身であることは、『ジャック』でわかった新事実である。ゼノンはスラムキングとズバ蛮の合体。



**不動明の説得**

戦いの終わり、不動明はデビルマンの姿から、人間の姿に戻る。もちろん、この姿こそが、サタンが愛した少年の姿なのである。動揺するサタンの表情は、少年への愛の深さを語る。

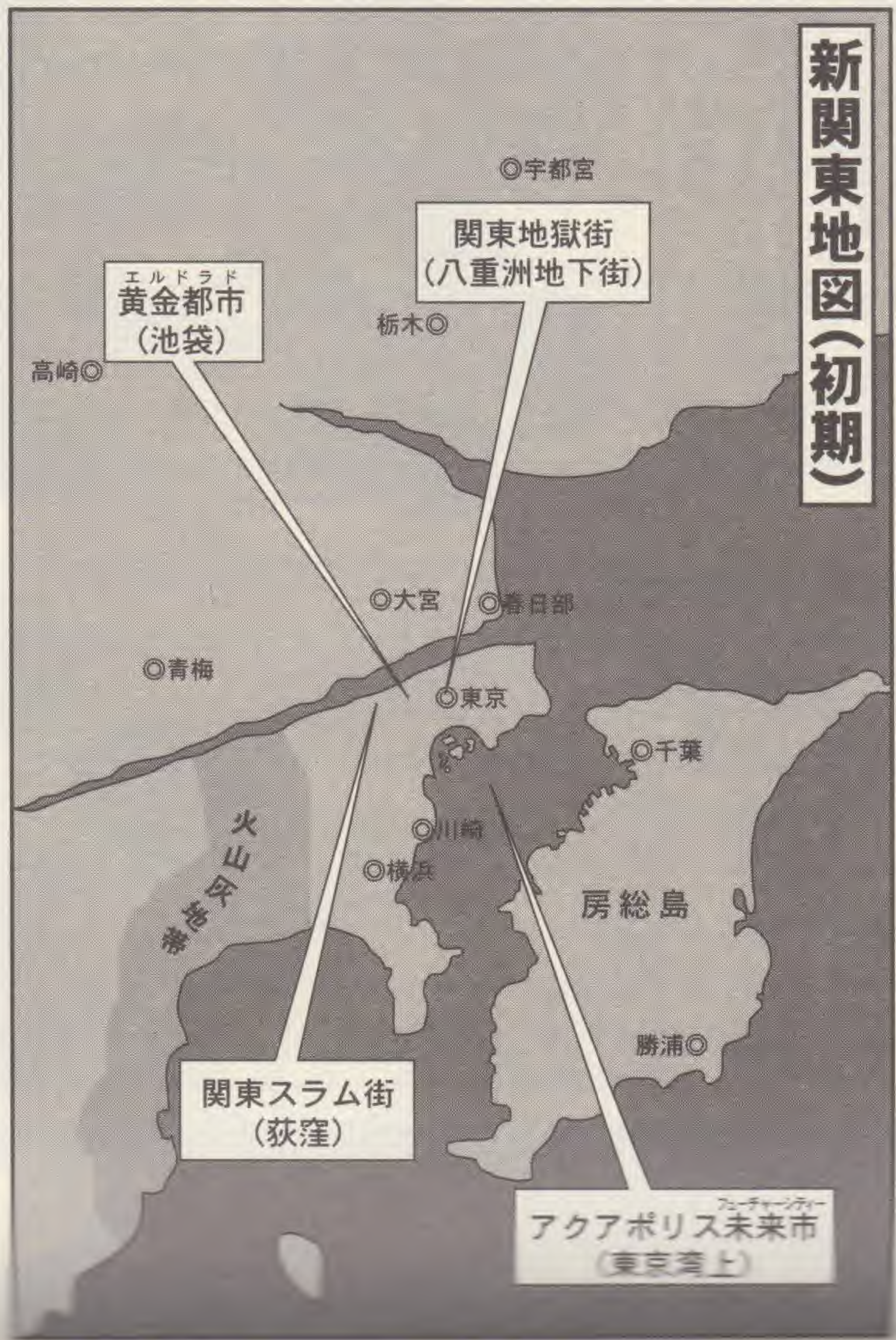
# Topic『バイオレンスジャック』新関東勢力地図

**「ジャンヌ編」の合戦当時の関東勢力図を忠実に復元。地獄地震直後の地図も付した決定版だ！**

地獄地震から真の魔王復活の10年間において、関東は大きくその地形を変えた。右の地図は、地獄地震直後のもの。そして下は、魔王城決戦のひとつ前の大戦、「ジャンヌ編」の戦いを図示したものである（逞馬軍黒鷲砦はこのときすでになくなっているが、参考として記入させていただいた）。たびかさなる隆起と沈降が、地形をこれだけ変えたのだ。

街について簡単に述べると、ミドルタウン（ミッドタウンともいう）は地震の影響がすくなく、再興のもっとも早かった地域である。あらゆる軍に属さない自由な商業都市として栄えた（もっとも、魔王城攻略の際、逞馬はここから兵を募っている）。外道街はその名のとおり外道会の街で、あらゆる悪が栄えている。

天馬領は房総半島の南、ドラゴン黒竜砦を境界として広がっている。それ以外の国境は正確なデータが得られないが、逞馬軍は関東の四分の一を占める、という記述がある（「ズバ蛮編」）。






# 永井豪 Erotic Cuts

Topic

豪ちゃんの描くハダカの歴史探訪。掲載誌や時代の変化に応じた表現の変容にご注目。



1





2







3




4





5

[illegible]ニストの儀式風景。同じ儀式でも、四半世紀以上経過して舞台が青年誌になるとハードネスが違う。『デビルマンレディー』の2をご覧あれ。犯すばかりじゃない、まわしちゃうのだ。これがこのまま、悪魔再臨の儀式なのである。

3は『デビルマン』だが、ゲルマーは美樹ちゃんの背後にあらわれるだけで、なんにもしなかった。それが、『手天童子』になると鬼が美雪の体を舐め回している。掲載誌は同じ「少年マガジン」だからこれは時代の変化というやつですな。ただし、鬼が舐め回すのは美雪の体をコピーするため、という理由つき。これはセックスではないのだ、あくまで。

さらに時代が下って『凄ノ王』(5)になるとついにレイプが描かれるが、薄くなってるカット(『ジャック』より)に比べればかわいいもの。フロイトによれば馬は性欲の象徴、そのへんのイメージをいかした見事な描写だ。あ、このコラムはレイプ礼賛じゃないぜ、念のため。

# エピローグ

## 永井豪の世紀末




凶悪犯罪が増加し、不況の風の吹き荒れる日本。国際間の民族紛争・軍事紛争は後を絶たず、世界大戦の不安も消えない。

世紀末、滅亡へ向かう人間たちをはげしく描きながら、永井豪は決して、希望や再生を謳うことをやめようとはしない。滅亡の足音の聞こえる世紀末、永井豪の訴えかけるものとはなにか？



永井豪 世紀末 悪魔事典

# 永井豪の世紀末
# 人間は「闘争」から逃れられないのか

草野真一

## 殺戮の快楽

1960年代後半、日本全国に広がった学生運動の火は、その副産物として一編のマンガ作品をうみだした。『ガクエン退屈男』と名づけられたその作品は、'70年から「週刊ぼくらマガジン」誌上に掲載されはじめる。

現実世界における学生運動は、'72年の浅間山荘事件を境にして、次第に沈静化しはじめるが、この作品の内部は、そうではない。学生運動は'70年代後半まで激化しつづけ、大学のみならず高校・中学・小学・幼稚園にいたるまで、「教師への反逆」をしはじめることになっている。マルクス主義を基調とする革命思想が、当時街頭で戦っていた学生たちの「正義」であったが、『ガクエン退屈男』においては、そんなものもない。ただ唐突に、意味も目的もなく、小さな子供までが、教師に反抗しはじめるのだ。

事態を重く見た文部省は、教師に「殺しのライセンス」を与える。要するに、いうことをきかない子供は、殺したっていい、という許可を与えるのだ。だから教師の選考基準は、彼らの学歴や教養や人格ではなく、彼らがどれほど強いか、というものに変わっていく。教師＝殺人鬼という等式が成り立つようになっていく。教師たちはやがて、学園を恐怖支配した。



そんな中、学生たちの中から、ひとりの闘士が立ち上がる。早乙女門土と呼ばれるその男は、とにかくめったやたらに強かった。殺し屋の教師どもを次々とやっつけていくのだ。

門土は正義の英雄だった。それはおそらく、当時「ぼくらマガジン」の読者であった小中学生たちに、多大なカタルシスを与えていたにちがいない。悪い先生をぶっ殺す生徒、というのは現実に生徒をやっている者[1]にとっては痛快である。

だが、ストーリーなかばにして、彼は宣言する。学園解放なんてほんのいいわけだ、と。ホントは戦いたいから戦っていたのであり、殺しがしたいから殺していただけなんだ、と。門土の戦いに目的はなく、門土の殺人に意味はなかった。彼を突き動かしていたのは、「殺戮の快楽」ただそれだけだったのである。

殺戮――だれかを殺すこと――には、快楽がたしかに存在している。そのことに、永井豪はかなり早い時期から意識的であった。

## 悪魔は人間の中にいる

エキセントリックな早乙女門土にくらべ、『デビルマン』の不動明は、ずっとおとなしい性格をともなって登場してくる。彼は、ケンカがキライだったし、戦いがキライだった。勝負、と名のつくものは、ことごとくキライだったのである。だから彼は、「運動神経は悪くないけど」スポーツがキライだった[2]。そのせいでガールフレンドにバカにされたりするが、それでもイヤなもんはイヤで、図書館で本を読んでいるほうがずっと好きだった。

ところが、そんな不動明が、ある日を境にして、とつぜん豹変する。ある日、というのはいうまでもなく、悪魔の肉体を手に入れた、まさにその日のことだ。優しく臆病で平和を愛する少年は、戦いをたのしみ、返り血を浴びることに快楽をみいだすようになる。みずから戦いを、血を求めるようになる。

「闘争がすべて」のデーモンと合体したから？　もちろんそうだ。だが、デーモンとはなにか。

●1 「ぼくらマガジン」に寄せられた読者投稿をみると、当時の読者の門土観も微妙な広がりがあったことがわかる。「門土あばれろー！」「門土魅力あるなあ」「先生をやっちまえ」という意見が大半を占めるが、なかには「門土は残酷すぎる、竜馬みたいにフェアーにやるべきだ」という意見があったりする。もちろんこの時点では、竜馬が殺人鬼だなんてことは、明かされてなかったのだ。

●2 '98年に執筆された『ネオデビルマン』において明は、「サッカーは人の世の争いの象徴のようだからイヤだ、ボールが痛そうに見えてかわいそうだ」と発言する。

永井豪はこう語る。

人間が「悪魔に変身する」ということは、「殺人兵器を手に取り戦争を始めること」なのだ。
（『デビルマン黙示録』講談社漫画文庫あとがきより）

銃を持ち、戦いの場におもむくこと。そのことが、人間のうちに眠っていた殺戮への衝動を呼び覚ます。それまで羊のようにおとなしかった人間を、狼のように獰猛にしさえする。きっかけさえあれば、人間は野獣のようにもなるのだ。[3]『デビルマン』における人類は、そうして殺し合い、滅亡していった。「闘争がすべて」なのはデーモンばかりではない。人間もまた、ひと皮むけば、悪魔の姿をあらわすのである。

デーモンとは、人間のカリカチュアだ。最新作『デビルマンレディー』において、悪魔ヴラヴァは、デーモンの成立について語る。醜い姿をしたデーモンとて、はじめから醜かったわけではない。もともとは人とおなじ姿をしていたのだ。だが、「より強く」なるための進化が、デーモンを強く、そして醜くした。

「いかにデーモンが醜き姿であっても、それが力を求め続けた人間の究極の姿なのだ。力とは醜い！　グロテスクなものだ。それこそが力の正体なのだから……」

おたがいに食い、食われ、戦いあうデーモンにとって、力の進化は必然であった。だが、力の進化を遂げ、醜い姿になったのはデーモンばかりではない。人間もまた同じである。ヴラヴァはいう。「人間のなしとげた兵器の発達を見よ！　力の進化はとどまることを知らない」

お前たち人間もまた、食い、食われ、戦いあい、醜い進化をおこなっているではないか。悪魔はべつに、人間の外にいるわけではないのだ。人間の心、人間社会の闇の中にいる——ヴラヴァはそういうのである。

●3 『バイオレンスジャック』関東地獄街編においては、それまで善良な市民だった人間たちが、極限状況においこまれることによって、女を犯し、殺す。



## 闘争としての人間

そこに猛威をふるう巨大な「力」があるとき、それに勝つためには、さらに大きな力をもってこなくてはならない。それは、ぼくらの日常の、ほんの些細なところにまで浸透している事実だ。スポーツで勝つためには、練習するなりして相手より強い力をたくわえなければならないし、受験で（誰かを追い落として）自分がいい学校に入るためには、勉強して強い力をためなければならない。人の世は、たしかにそんなふうにできているのである。

かくして、人は闘争に向かう。相手に勝つため、相手を貶めるため、醜いあらそいを繰り広げつづける。

『イヤハヤ南友』[4]において、正体を明らかにした天使・南友くんはこういう。「人類はどのみちほろびの道をすすんでいくんじゃないでしょうか？　いちばんの問題はかれら人間のもつ幸福感です」

人間の幸福は、他人より優れていることだ。人より金持ちであること、人より強いこと、人よりきれいなこと、人より有名なこと、人より上の立場であること……数え上げたらキリがない。人間たちが健全な娯楽だと称するスポーツも、勝負を競うのも、その最終形が世界大戦なんだ。南友くんはそういう。

優越を感じることに人間の幸福があるかぎり、人間は戦いをやめないだろう。そういう精神構造をとるかぎり、他者はいつでも、「うち負かすべき敵」としてしかあらわれない。

永井豪はここに、異議を差しはさむ。どうもおかしいんじゃないか。なぜそうなるのか。人が殺し合ったり憎み合ったりせずに、手をつなぎ合っていることはできないのか。

なぜ戦う？　なぜ誰かをうち負かそうとする？　なぜ殺し合う？[5]

## 人間は滅びゆく豚か

『ルカによる福音書』[6]には、崖から湖に飛び込んで溺死する豚の群れ、というのがでてくる。豚は悪霊に取り憑かれている。だから溺れ死ぬのだが、ちょうどこれと同じことが、起きようとしているのかもしれない。いや、すでに起きかけているとさえいえるのだ。ぼくらはもう当

●4 '74年、『バイオレンスジャック』の連載終了後に「週刊少年マガジン」に掲載されたギャグマンガ。南友くんの沈んだ感じや、着ているものは、寸前まで描いていた「ジャック」の影響だ、と作者は語る。

●5 これに対するもっとも安直な答えは、「それが人間の本能さ」というもの。そういうことをいう輩には、へー本能って何よ、アンタの体のどこにあんの、どこに入ってるの、と聞き返してあげましょう。本能の存在証明はなく、これをもって問題の解答とするのは、思考停止、サルでもできる考えである。永井豪は初期の短編『ススムちゃん大ショック』において、実体なき本能のあいまいさを描いている。

●6 第8章32節。ドストエフスキーの長編小説『悪霊』のエピグラフとして有名。

たり前のように思って空気のようにさえ感じているが、地球をいくつも破壊するぐらいの兵器が、この地球の上にはのっかっているんだから。そいつが数発も火を吹けば、大都会も田舎も老人も子供も男も女も綺麗さっぱり絶滅だ。いま、この瞬間にもその可能性はあるし、それは明日起こるかも知れない。

人間は完全じゃない。いや、もっといって、人間ってのは神の造った失敗作、できそこないじゃないのか、というのが、永井豪の発想の根底にはある。南友くんも同じことをいって[7]、神様を責める。

この認識は、ペシミスティックなものであるし、ある意味絶望的なものでもあるだろう。だが、永井豪は決して絶望しきっているわけではない。

『デビルマン』では、人間の心の悪魔的な部分が目覚め、人類は滅亡への道をたどっていくのですが、ぼく自身は決して人間を否定的に見ているつもりはありません。人間にはまだまだ可能性がある、と思っています。デビルマンは人間に向かって、こんなことじゃダメだ、人間はこんなものじゃないんだ、と怒り狂っているキャラクターでもあるんです。

（『デビルマンの世紀末』Devilman papercraft book より）

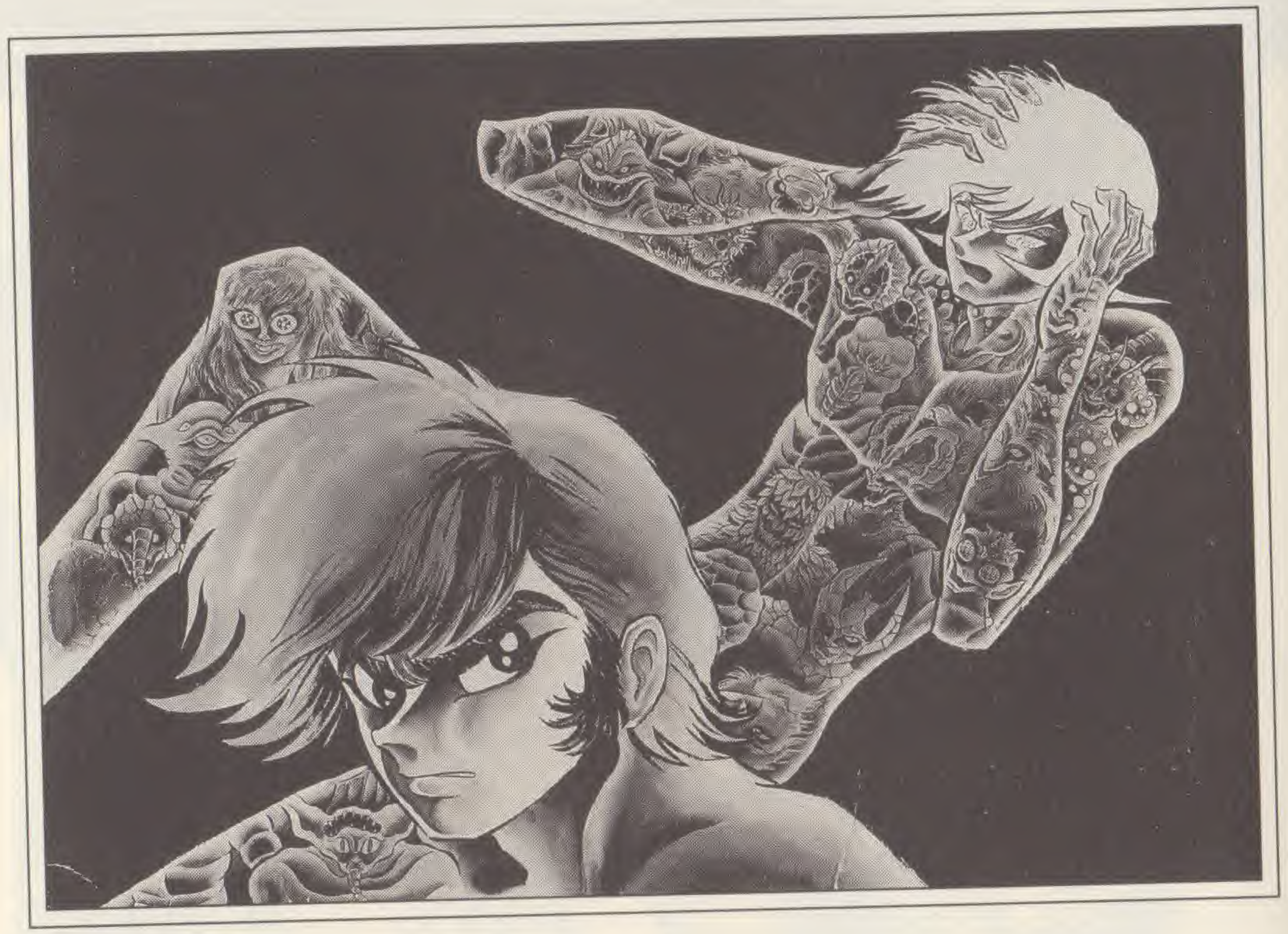
こんなことじゃダメだ、こんなものじゃないんだ――そう考えること。活路は、そこにしかない。今の人間は断じて最上最高じゃないし、利口でも立派でもない。それをはっきり認識することだ。すべては、そこからはじまる。人類は悪霊に取り憑かれた豚の群れじゃない。もっといい方法、もっといい生き方があるはずだ。人間の本性は闘争ばかりではなく、闘争に明け暮れたこれまでの歴史[8]こそ、愚昧（ぐまい）に彩られたものだったのだ――そう考えること。

解決の糸口を見つけるべきなのは、滅亡のボタンを押すことのできる特権階級の誰かではない。ひとりひとり孤独な近代人であるわれわれ――ここにいるあなたや私でなくてはならない。

●7
天使ルキフェルが悪魔の王サタンとなったのは、土くれから造ったできそこないの人間を拝まなかったからだといわれる。実際は天使でありながらそれを忘れていること、みずから気づかずして人類を滅亡させてしまうこと、南友くんはそっくりそのまま飛鳥了だ。ちなみに、『イヤハヤ南友』においては、人間が生きるひとつの理想型として、欲得をはなれ地球そのものを家として暮らす無為自然のオモライくんたちがあげられている（実際のホームレスマンは決して欲得から離れちゃいないけどね）。ここで描かれるホームレスの群れにはジャックやドクターヘルが加わっている。

●8
「戦争」はかつてコミュニケーションの一様態であった。蒙古が中国に攻め入れば、蒙古は中国の文化を吸収し、中国もまた蒙古の文化を吸収したわけである。現代すなわち核時代の戦争に、こうした命がけのコミュニケーションの側面は、ほとんどない。「戦争」は現代にきて、いよいよ終わりの度合いを強めているのだ。





永井豪
世紀末
悪魔事典

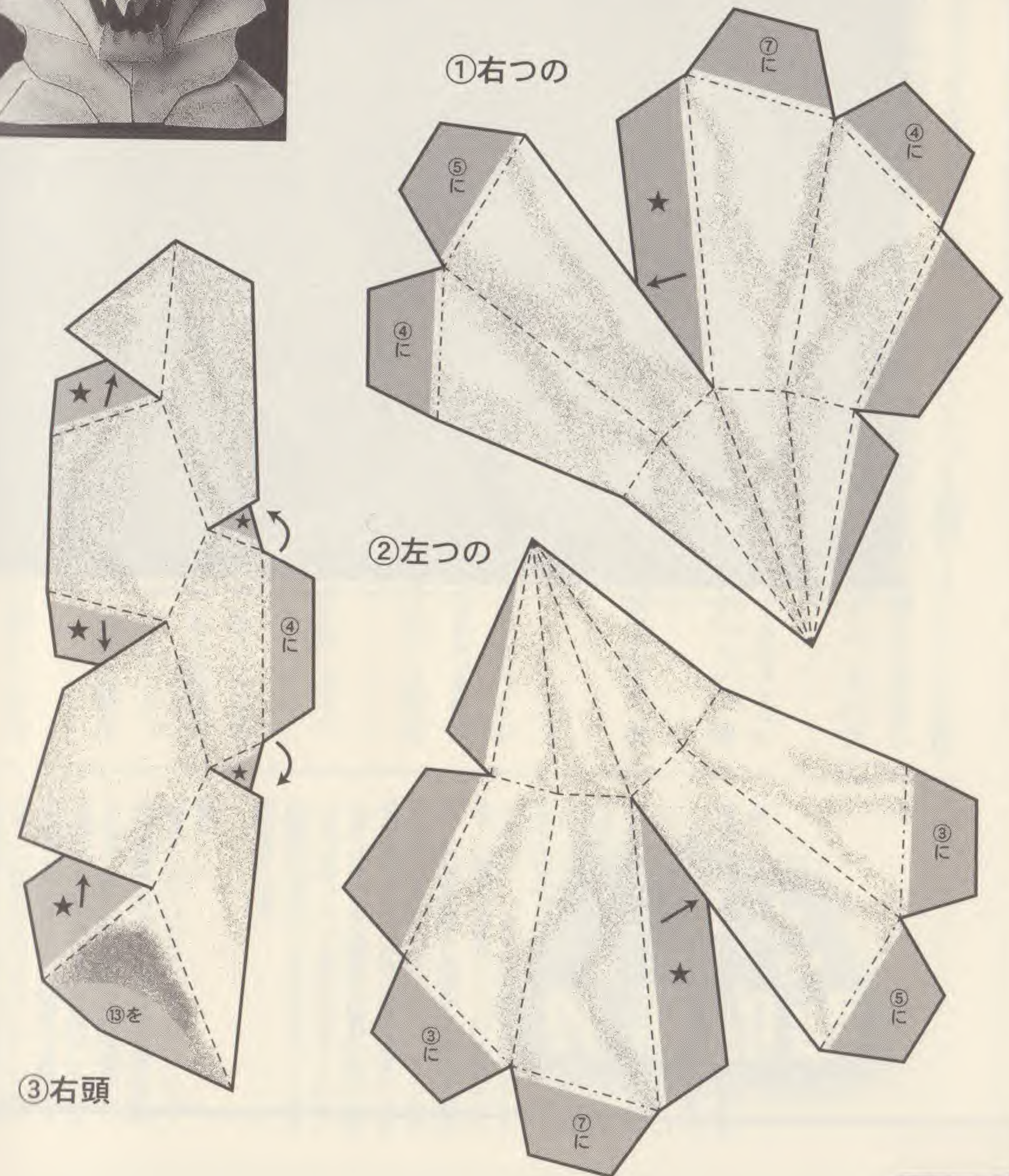
デビルマン

# 悪魔の像 1/10スケール ペーパークラフト

**あの『悪魔の像』がペーパークラフトに！！
キミにもデーモンの世界がのぞけるかも！？**

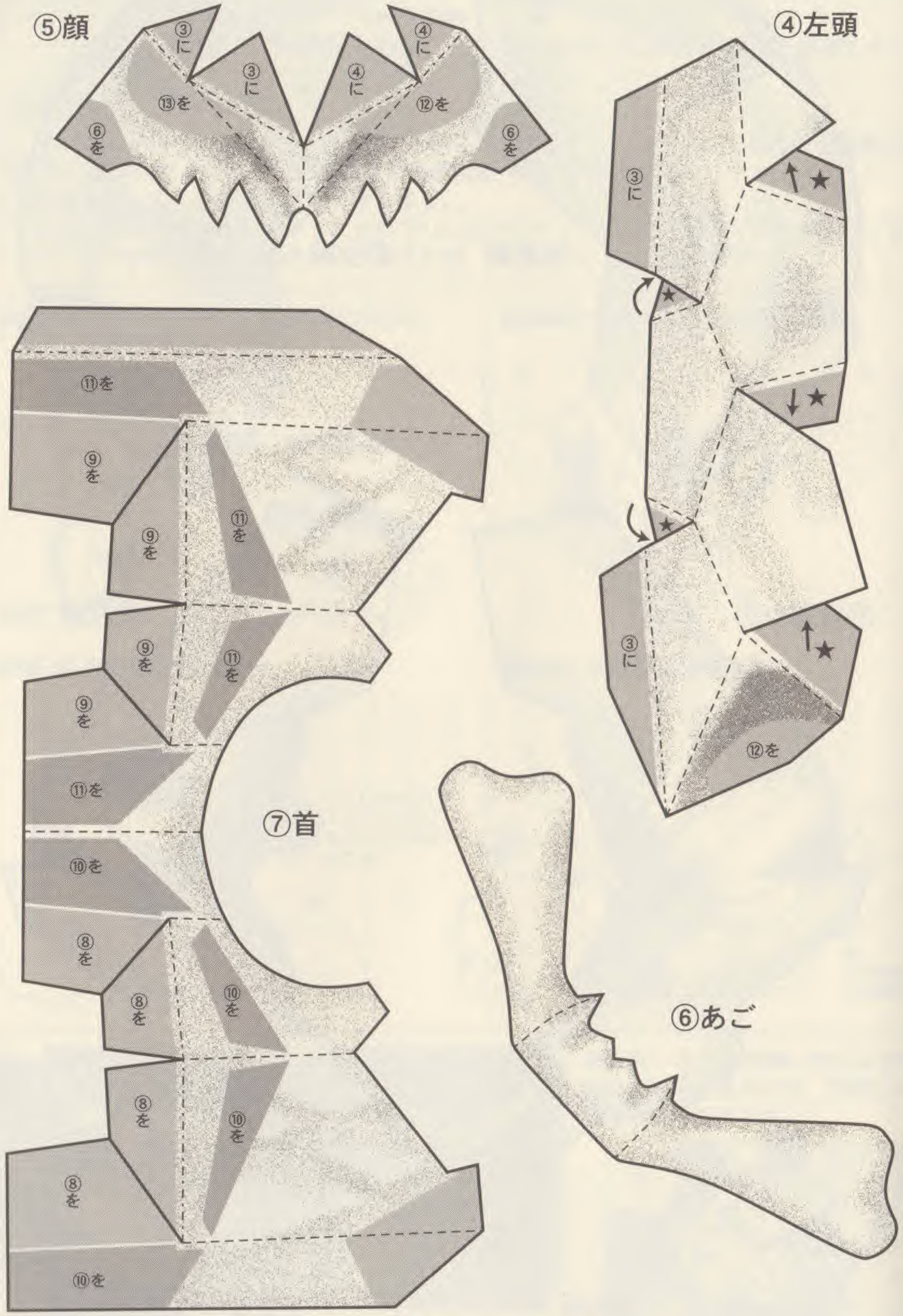
制作/松本圭司

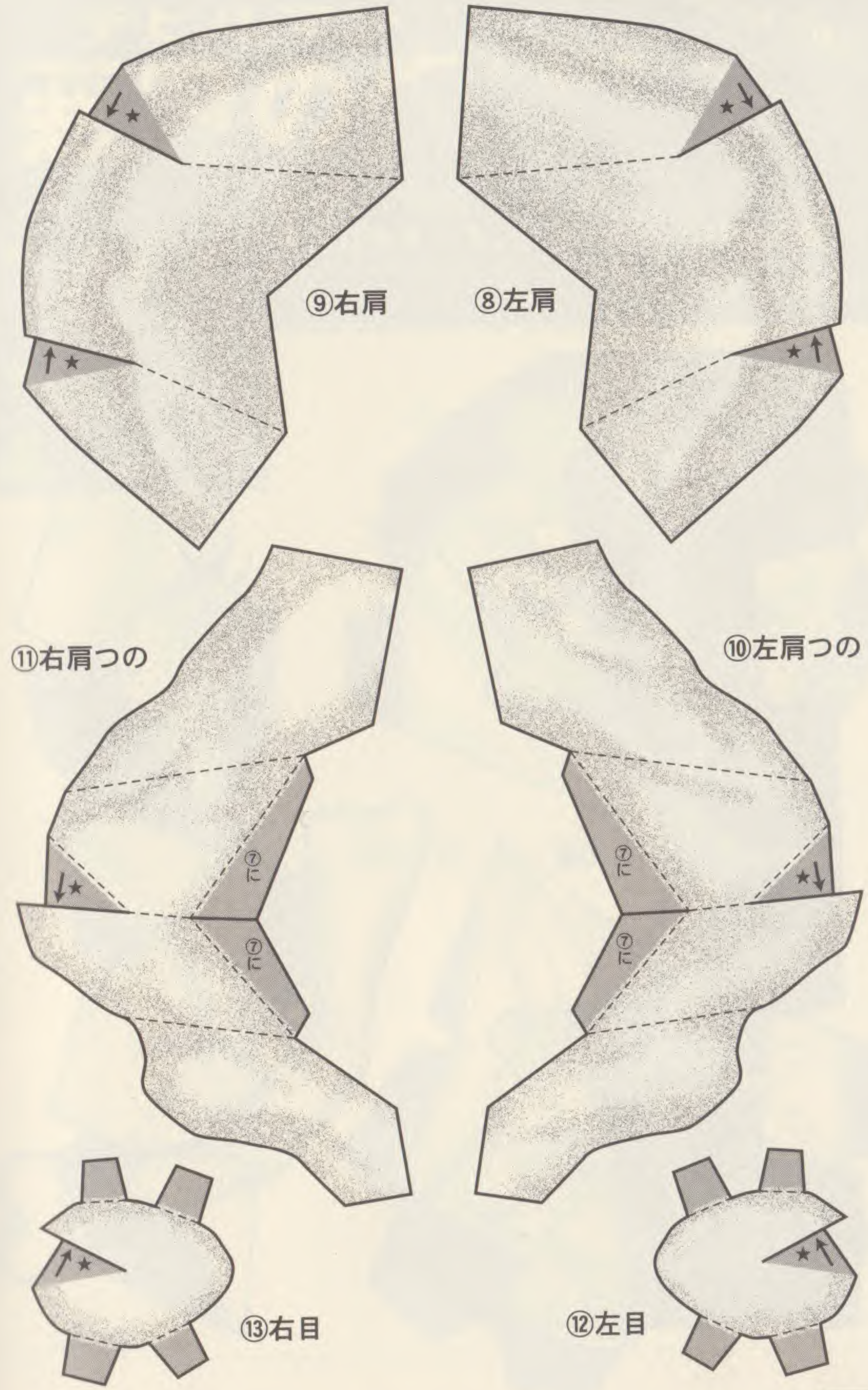












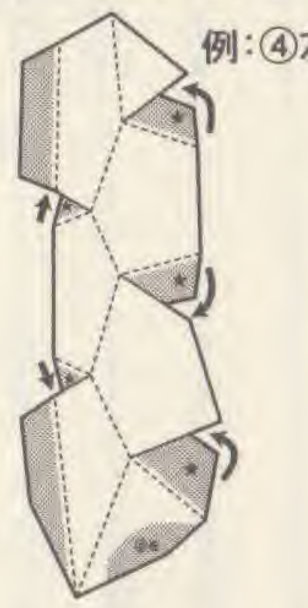

# 組み立てかた

——— ＝切り取り線　-·-·-·- ＝谷折り線　★　＝先に接着するのりしろ
------- ＝山折り線　▒ ＝のりしろ　①に（を）＝①に接着する（①を接着する）

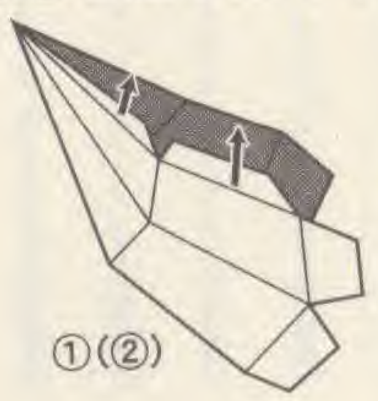
## ★組み立ての手順

1. 240〜242ページを厚紙にコピーしてください。（紙は、この本より少し厚めの上質紙が最適です。画材店などで扱っている漫画用原稿用紙やケント紙が手に入りやすいでしょう）
2. 実線をカッターやハサミで切り取ります。
3. 破線は鉄筆など、先のとがったものでしっかりなぞり、折り目をつけてから折り曲げます。
4. ボンドで接着します。細かいのりしろには、つまようじなどを使用します。

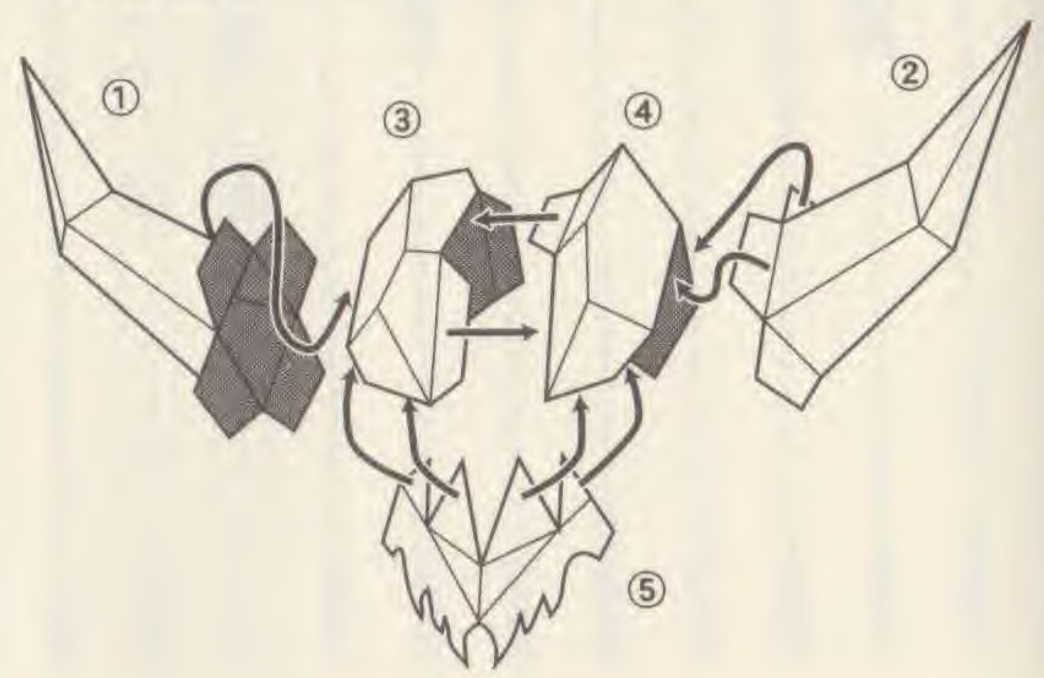
❶各部品の★印ののりしろを表示の矢印にしたがって接着する。



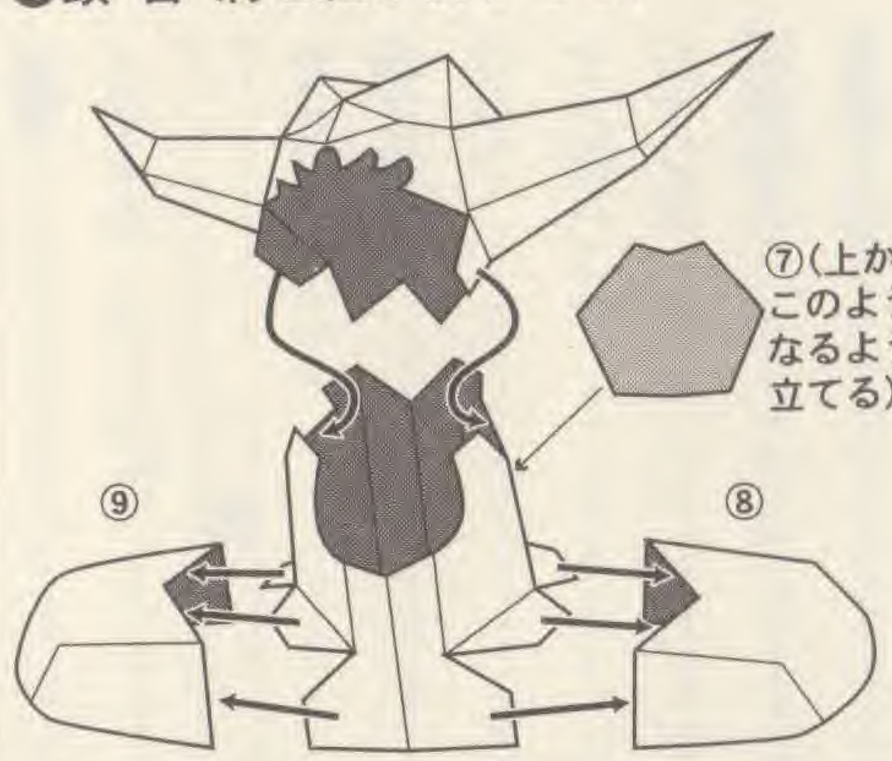

❷部品①②を組み立てる。



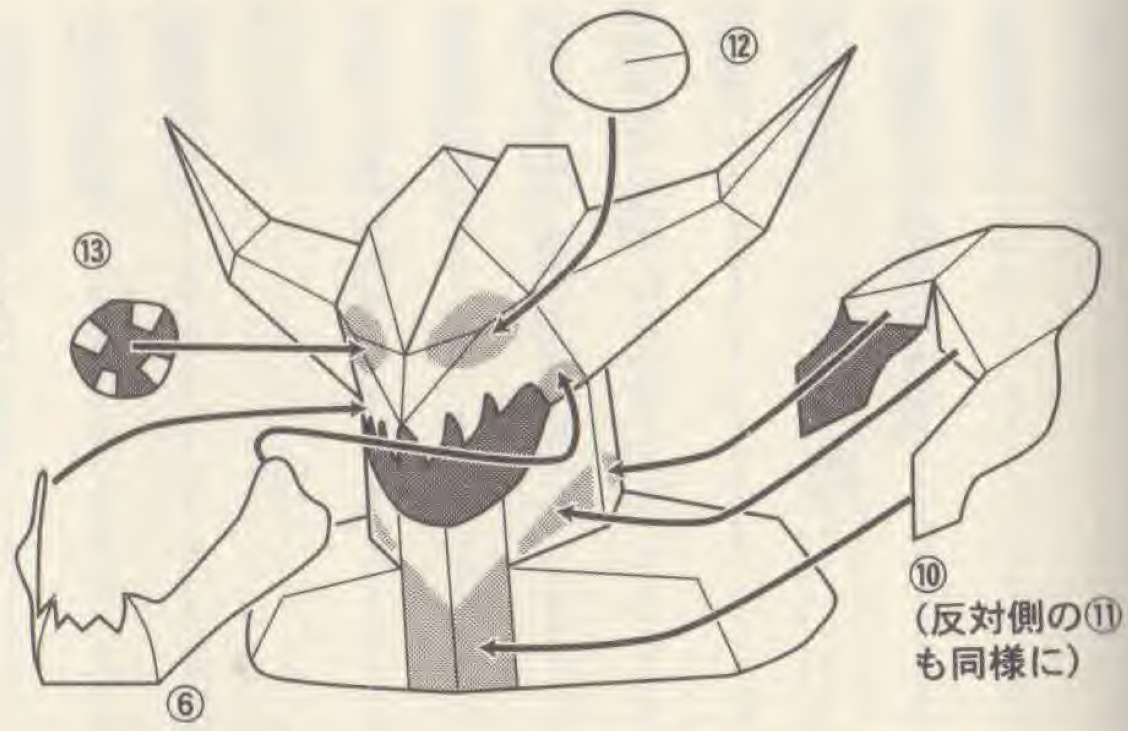

❸部品①〜⑤を組み合わせる。



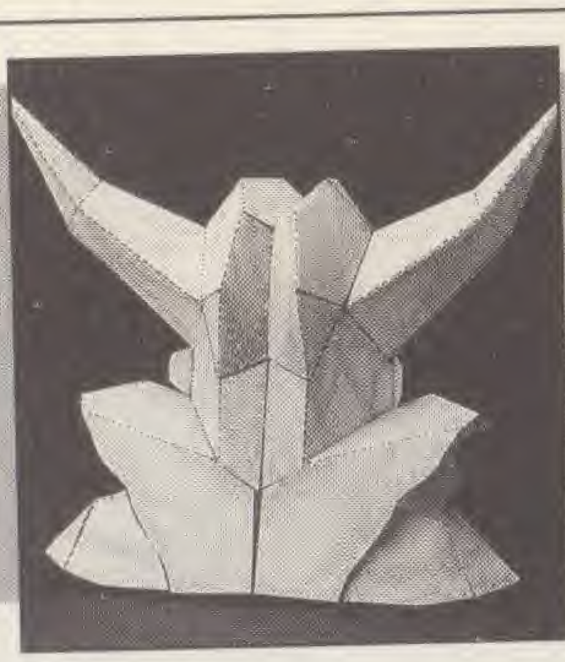

❹頭・首・肩を組み合わせる。

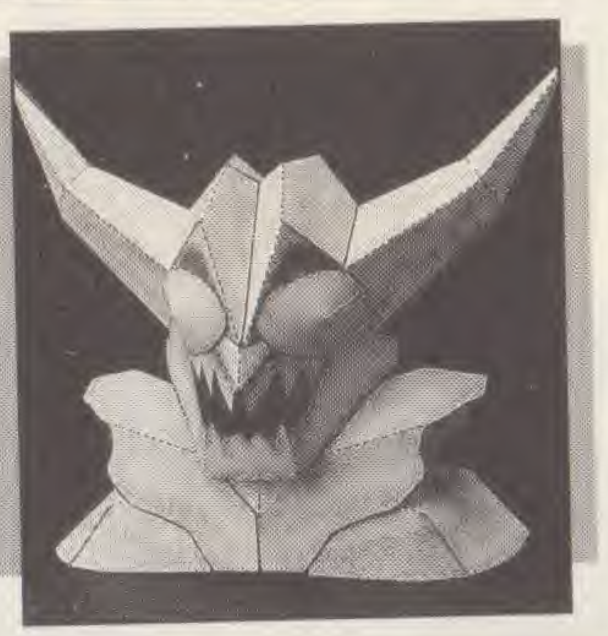



❺本体に各部品を接着する。




**完成!!**





※注意：コピーの際にゆがみが生じることもありますので、調節しながら組み立ててください。

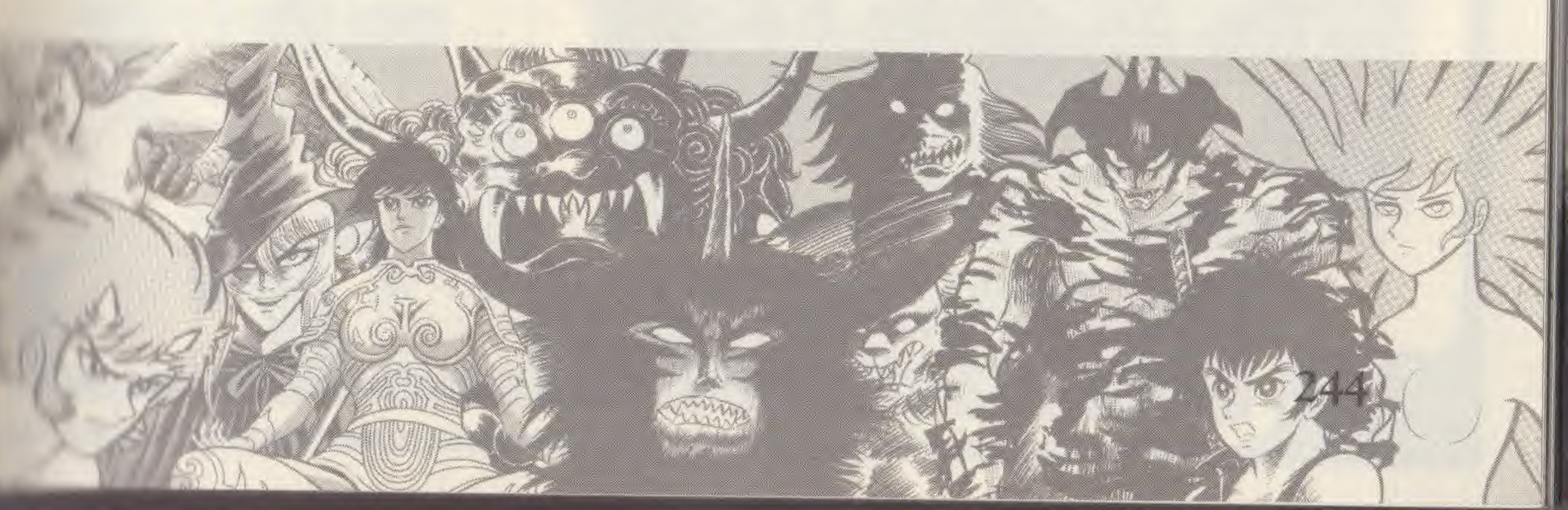



★このペーパークラフトは1/10のスケールです。実物大に拡大コピーして組み立てれば、実際にかぶることもできるでしょう。



# キャラクターINDEX













**草野　真一**（くさの　しんいち）

1970年うまれ。仮面ライダーの変身はムリだがポコイダーのへんちんならできると思ってためしたことがあります。本書には「人間」という言葉が頻出していますが抽象的客観的一般的普遍的人間なんてものはなくそれはいつでもあなたや私です。

E-mail：s-kusa@tb3.so-net.ne.jp

N.D.C.726　246p　21cm

永井豪

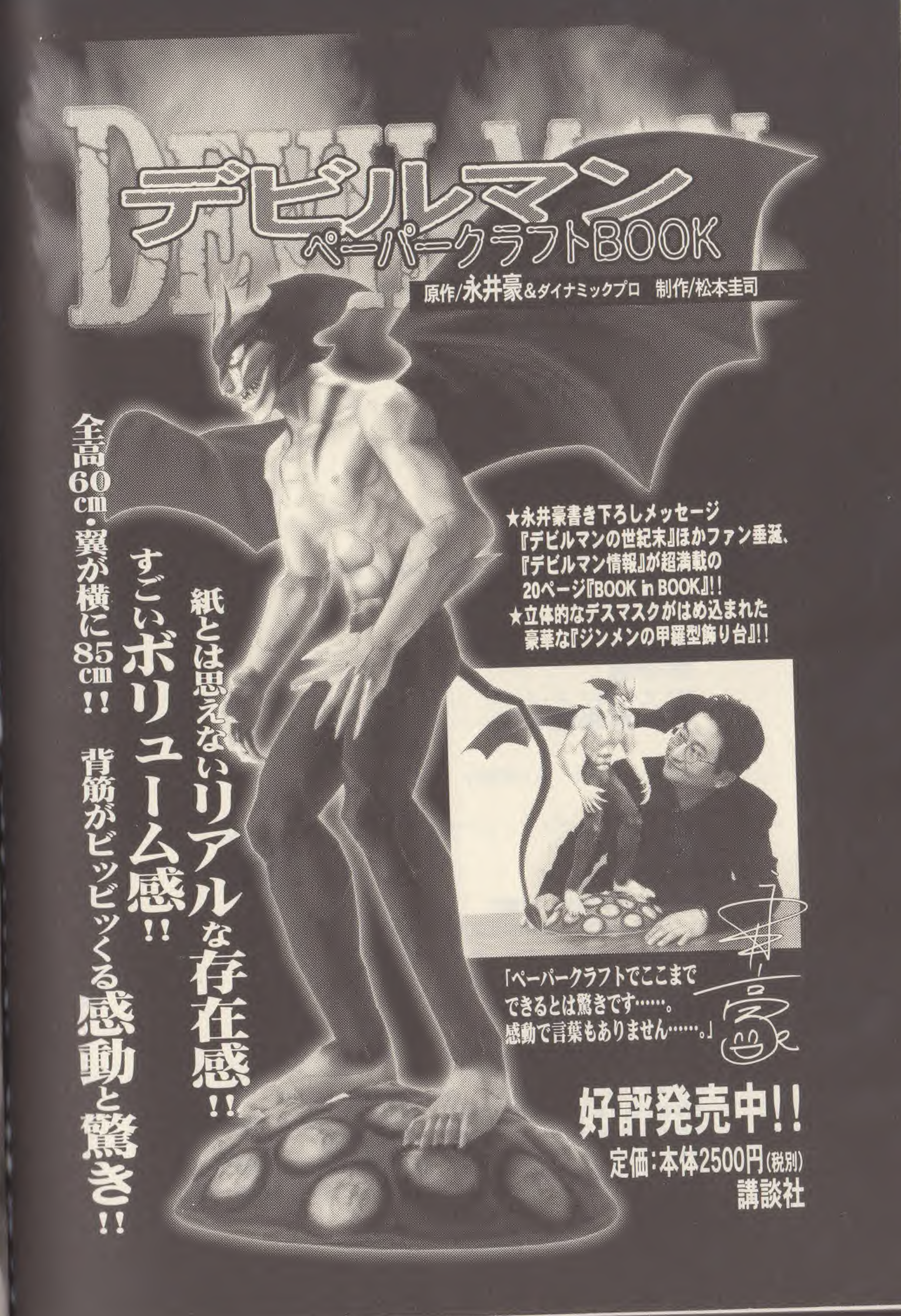
世紀末悪魔事典

1999年2月19日　第1刷発行

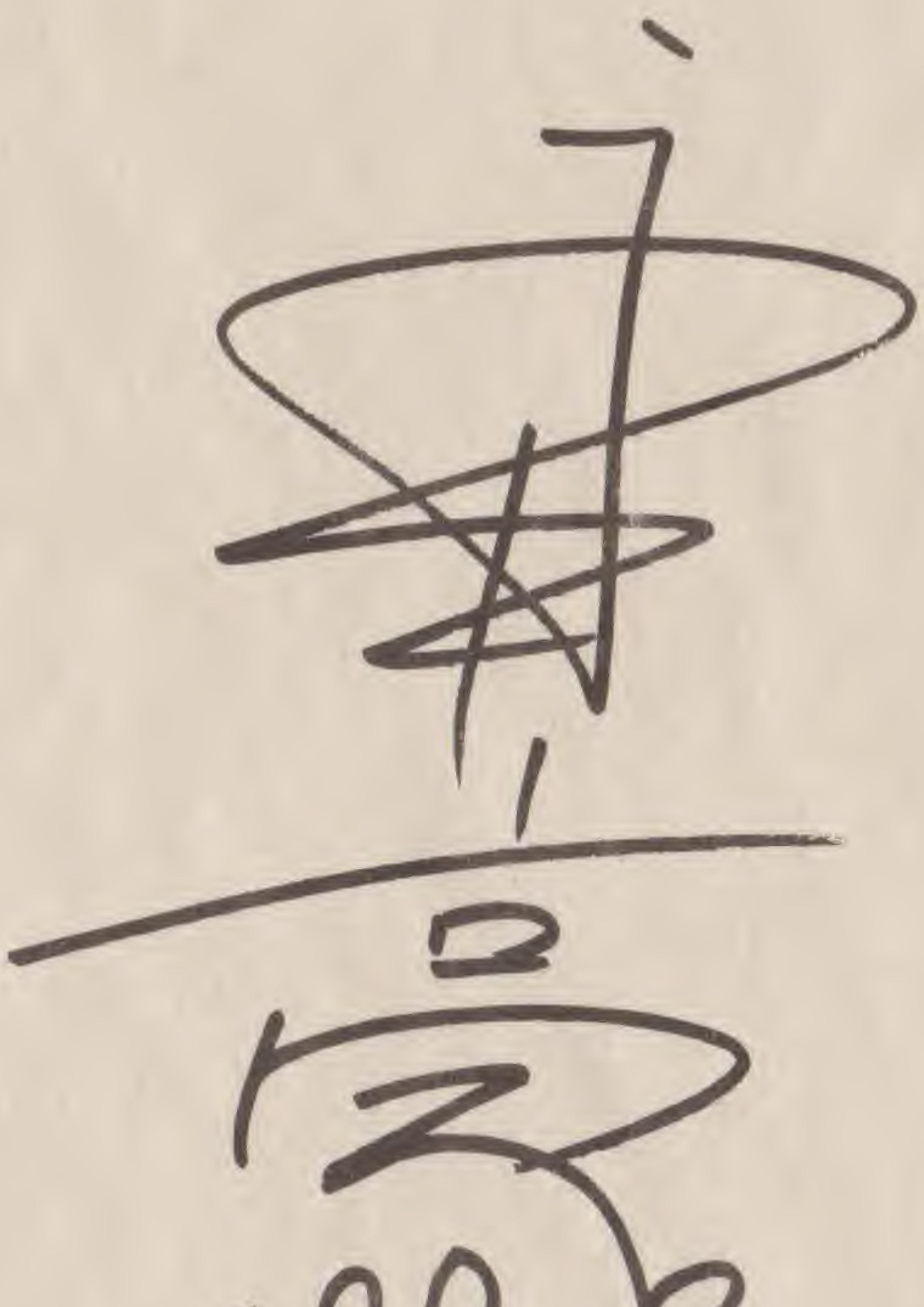
原作／永井豪&ダイナミックプロ
構成／草野真一
発行者　野間佐和子
発行所　株式会社　講談社
〒112-8001　東京都文京区音羽2-12-21
電話　編集部　東京　03-3943-5116
販売部　東京　03-5395-3608
印刷所　共同印刷株式会社
製本所　株式会社国宝社
定価はカバーに表示してあります。



ISBN4-06-330071-4（三編A）



DEVILMAN
デビルマン
ペーパークラフトBOOK
原作/永井豪&ダイナミックプロ　制作/松本圭司
紙とは思えないリアルな存在感!!
すごいボリューム感!!
全高60cm・翼が横に85cm!!　背筋がビッビッくる感動と驚き!!
★永井豪書き下ろしメッセージ
『デビルマンの世紀末』ほかファン垂涎、
『デビルマン情報』が超満載の
20ページ『BOOK in BOOK』!!
★立体的なデスマスクがはめ込まれた
豪華な『ジンメンの甲羅型飾り台』!!
「ペーパークラフトでここまで
できるとは驚きです……。
感動で言葉もありません……。」
好評発売中!!
定価:本体2500円(税別)
講談社



THANKS FOR VIEWING
THE SHEKELS MUST FLOW




IF YOU ENJOYED THESE SCANS, THEN WHY NOT DONATE SO THAT I CAN ACQUIRE MORE BOOKS & MANGA. REMEMBER, THIS IS ALL AT MY OWN EXPENSE.